



第73回 全国高等学校PTA連合会大会



茨城大会

大会会報

「歴史の町で変革を!!」

～新たな時代が目に入らぬか～



水戸城 大手門

令和6年8月22日(木)・23日(金)

主催／一般社団法人 全国高等学校PTA連合会 主管／茨城県高等学校PTA連合会



ADASTRIA MITO

ADASTRIA MITO

ADASTRIA MITO



大会を終了して

第73回全国高等学校PTA連合大会

2024茨城大会実行委員長

板倉 哲男

全国高等学校PTA連合大会2024茨城大会が無事に終了出来ましたことを報告致します。残暑厳しい中、全国より5,000名を超える会員の皆様、オンライン視聴の皆様、本大会にご参加頂き、実行委員会一同心より感謝申し上げます。

冒頭に、大会に際しまして、皆様方には会場の分散化により、交通の不便や食事等で大変ご心配、ご迷惑をお掛けしましたこと、深くお詫び申し上げます。茨城県内には、5,000名以上の収容可能な公共施設が少なく、一つの会場で開催することが厳しく、全大会、分科会共に分散しての会場となり、特に、小美玉市の第5分科会会場では、昼食が取れるお店が無く、大変ご不便をお掛け致しました。キッチンカー等の準備をし、お出迎えを致しましたが、工夫が足りなかったかなと反省しております。又、大会終了後のアンケート結果にも、様々なご意見、ご感想を頂戴致しました。反省するところは、しっかりと反省し改善をし、次回開催に役に立てたいと考えております。しかしながら、お褒めのお言葉も頂戴致しました。「実行委員会の方々が、元気な明るい笑顔で優しく対応してくれてありがとうございました。」など、「また茨城県に来たいです。」といった嬉しいお言葉を頂き、実行委員会一同、感激と達成感に涙が溢れました。

大会テーマでもありました、「歴史の町で変革を」の通り、皆さん歴史の町、茨城県水戸市で開催されました全国大会で、何か新たな灯りを見出すことが出来たことと思います。その灯りを、各県連、単位PTAに持ち帰り、今後のPTA活動の源となりますよう、情報共有をして頂ければ幸いです。

結びに、全国高等学校PTA連合会の方々、茨城大会実行委員会の皆さん、本当にありがとうございました。連合会の今後益々のご発展と、皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、来年、三重県でまたお会い出来ますことを心より楽しみにしております。

目次

巻頭言	1
目次	2
大会ダイジェスト記録写真	3
アトラクション	16
大会概要 大会テーマ・大会趣旨	28
大会概要・大会日程	29
大会役員名簿・実行委員会名簿	31
実行委員会組織図	32
開会式・表彰式、閉会式	33
開会式大会会長式辞	34
祝辞	35
開会の挨拶	38
分科会 第1分科会 講演1	39
講演2	49
第2分科会 講演1	59
講演2	67
第3分科会 講演	80
フリートーク	90
第4分科会 講演	102
グループトーク	114
第5分科会 講演	120
グループトーク	132
閉会式 大会会長挨拶	144
次期開催地挨拶	145
閉会の挨拶	146
大会参加申込数	148
大会参加者数	149
編集後記	150

大会速報

大会ダイジェスト

(記録写真)

第73回 全国高等学校PTA連合会大会

茨城大会

「歴史の町で変革を!!」

～新たな時代が目に入らぬか～

令和6年8月22日(木)・23日(金)

アダストリアみとアリーナ



第73回全国高等学校PTA連合会大会
2024茨城大会 大会ポスター



歴史の町で変革を!!
新たな時代が目に入らぬかゝ

第73回全国高等学校PTA連合会大会
2024茨城大会

 **日程** 2024年8月22日(木)・23日(金)
会場 アダストリアみとアリーナ 他4会場


令和5年12月下旬
公開予定

主催：一般社団法人全国高等学校PTA連合会 主管：茨城県高等学校PTA連合会

分科会
(大会1日目)
8月22日

第1分科会

会場：アダストリアみとアリーナ

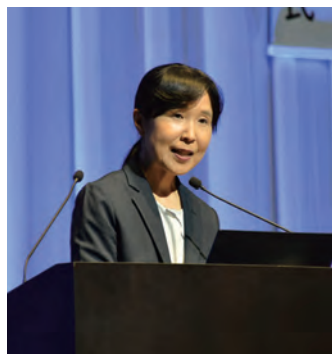
「教育の過去・現在・未来」～故きを温ねて新しきを知る～

講演①『藩校「弘道館」の教育』

茨城県水戸土木事務所偕楽園公園課弘道館事務所 主任研究員 小坪 のり子 氏

講演②『もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する』

茨城大学教育学部教授（教職大学院・学校運営コース 主任） 加藤 崇英 氏



分科会
(大会1日目)
8月22日

第2分科会

会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館

「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」 ～新たな一歩を踏み出すために～

講演①『のび太・ジャイアン症候群』

司馬クリニック院長 医学博士 司馬 理英子 氏

講演②『18歳になったら気をつけること ～18歳になる前に～』

有馬総合法律事務所 弁護士・中小企業診断士 有馬 慧 氏



分科会
(大会1日目)
8月22日

第3分科会

会場：水戸市民会館

「新・生きる力と家族の絆」～子どもの心に風邪を引かせない～

講演①『子育ては気力・体力・経済力』

7男2女の大家族お母ちゃん 石田 千恵子 氏

●フリートーク～石田講師を交えて～

- パネラー 板倉 哲男 氏 (茨城県立水海道第二高等学校PTA顧問)
 吉江 知子 氏 (茨城県立八千代高等学校PTA副会長)
 丹下 基生 氏 (茨城県立竹園高等学校PTA会計)
 司会進行 高野由紀子氏 (茨城県高等学校PTA連合会元副会長)



分科会
(大会1日目)
8月22日

第4分科会

会場：ひたちなか市文化会館

「みんなで考えよう、これからのPTA」 ～あるべき新しい姿とは～

講演『PTAは学校づくりのパートナー』

花園大学社会福祉学部教授 炭谷 将史 氏

●グループトーク



分科会
(大会1日目)
8月22日

第5分科会

会場：小美玉市四季文化館みの〜れ

「これからのコミュニティ・スクール」 ～地域社会との新たな連携・協働～

講演『学校と地域とでつくるこれからの学校ーコミュニティ・スクールとはー』
国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏

●グループトーク



(メモ欄)

だれか一人の判断より、
多様な立場の関係者がともに意見を出し、
話し合った判断の方が、
より適切・より良いものである。
→「協働的な学び」の大原則
→「協働」と「協力」の違い

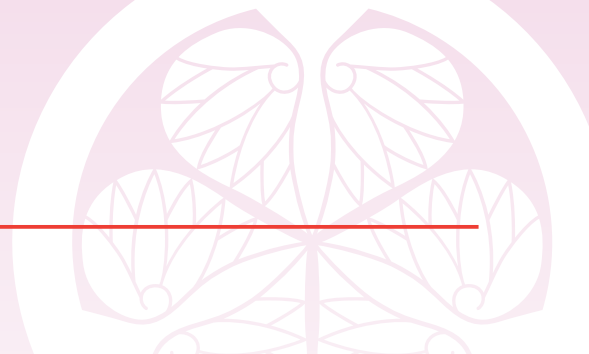
Q 協働できるための環境条件は？
*難しい場合は「協働できない環境条件」でもOK

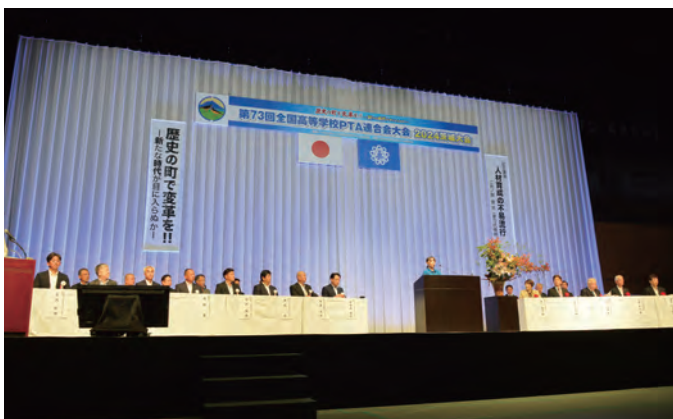
- * 「三人寄れば文殊の知恵」
- * SDG's17番目の目標
パートナーシップで取り組もう
- * 「私たちの事を私たち抜きで決めないで」
(nothing about us without us)
- * 「専門性」の過信・依存からの脱却



全体会
(大会2日目)
8月23日

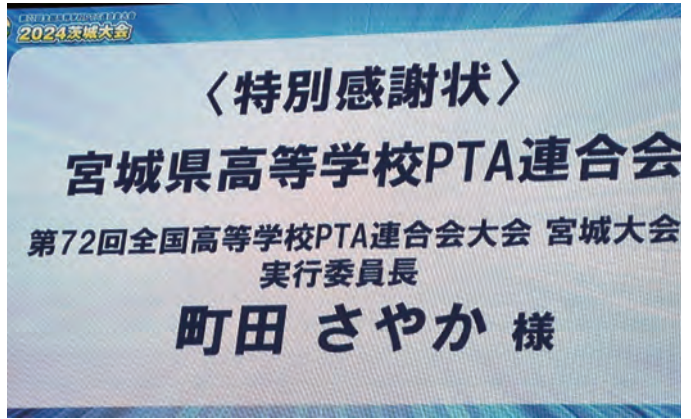
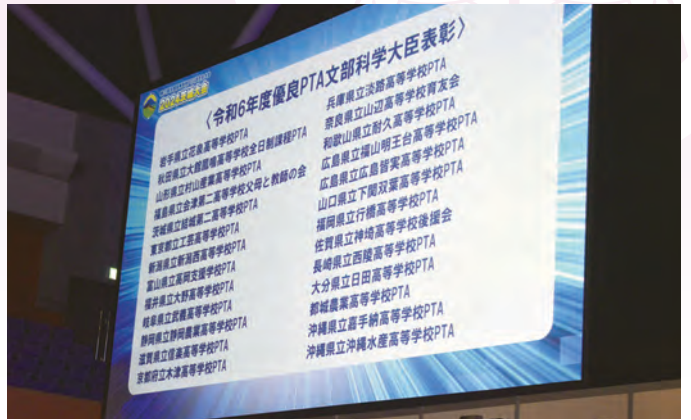
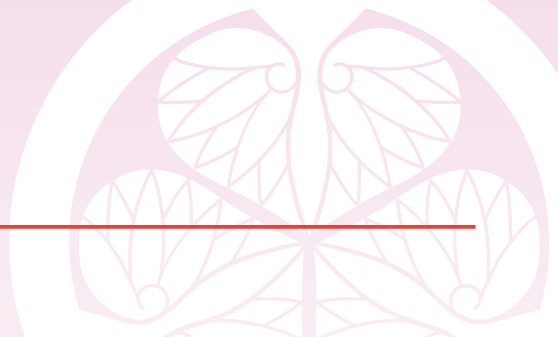
開会行事





全体会
(大会2日目)
8月23日

表彰式

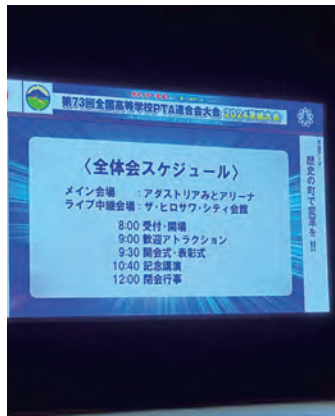
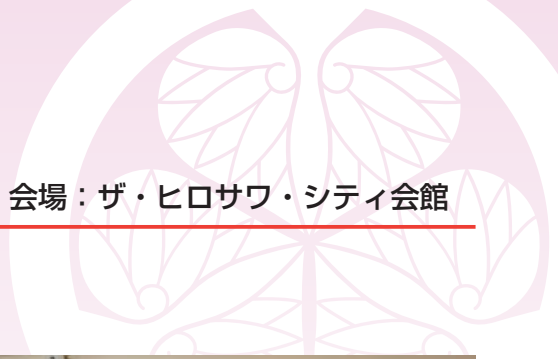




全体会
(大会2日目)
8月23日

第2会場

会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館



記念講演

会場：アダストリアみとアリーナ

演題 人材育成の不易流行

講師 第72代横綱・稀勢の里 にしよのせき 二所ノ関 ゆたか 寛氏



プロフィール

平成14年	中学校卒業後角界入門
平成16年5月場所	新十両昇進
平成16年11月場所	新入幕
平成24年1月場所	大関昇進
平成29年3月場所	横綱昇進
平成31年1月場所	現役引退
令和3年3月	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科修了

生涯戦歴 800勝 496敗 97休 (101場所)

幕内戦歴 714勝 453敗 97休 (85場所)

引退会見では、「私の相撲道において、一片の悔いもございません」と語り、土俵を去った第72代横綱・稀勢の里。目先の勝利を求めて小細工に走ることなく、正々堂々と真っ向勝負を挑む姿が全国の相撲ファンの心をわしづかみにした。

15歳で角界入り後、新十両と新入幕をいずれも史上2位の若さで果たした。横綱白鵬の連勝を63で止める大金星を機に更に飛躍し、25歳で大関昇進。多くの試練を乗り越えての初優勝、そして横綱昇進。大けがを負いながら奇跡の逆転V等、数々のドラマを土俵に刻んできた。

現役時代は多くを語らず、黙々と土俵に上がり続けた横綱が引退して親方となった今、相撲道を飾らない言葉で語る。

分科会
(大会1日目)
8月22日

アトラクション

第1分科会
会場：アダストリアみとアリーナ

高校生花いけバトル 「花いけパフォーマンス」

茨城県立小瀬高等学校 現代文化研究部
茨城県立太田西山高等学校 商業コース
茨城県立取手第二高等学校 華道部



BLUE BEGINNERS 茨城県立水戸工業高等学校 ジャズバンド部



分科会
(大会1日目)
8月22日

アトラクション

第3分科会
会場：水戸市民会館

筑波山名物『ガマの油売り口上』

茨城県立筑波高等学校



為櫻応援団

茨城県立下妻第一高等学校

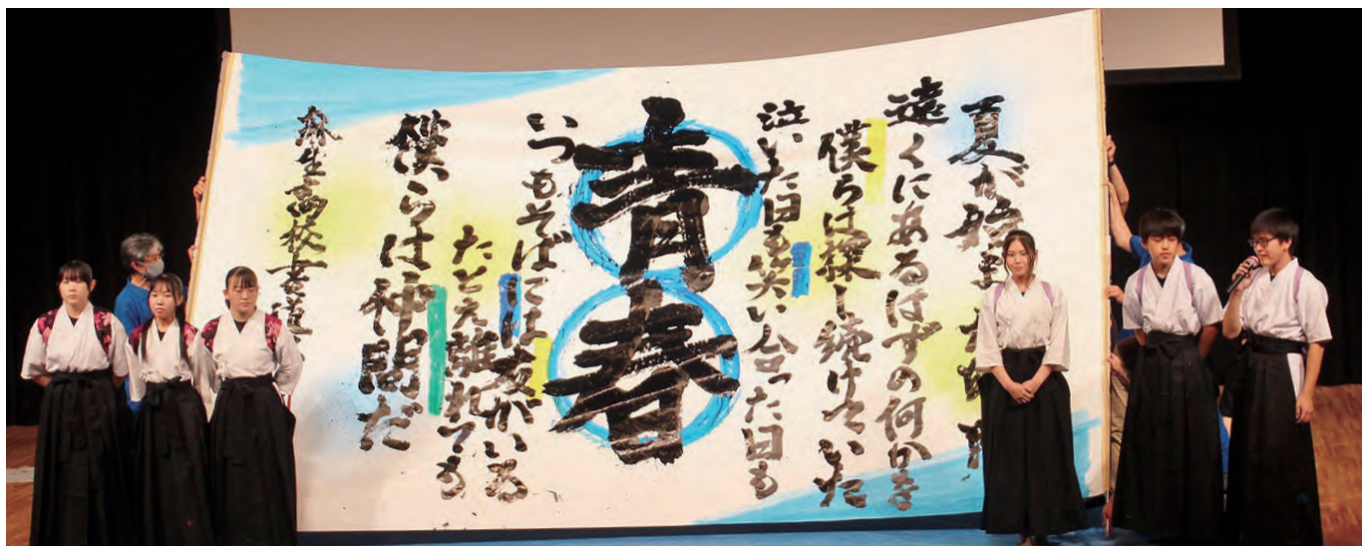


分科会
(大会1日目)
8月22日

アトラクション

第5分科会
会場：小美玉市四季文化館みの〜れ

書道部 茨城県立麻生高等学校

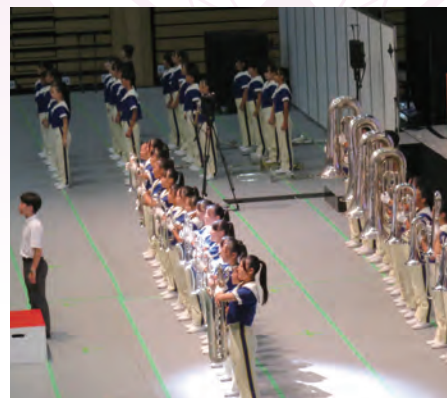
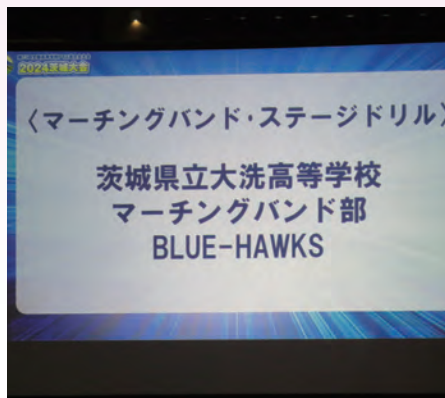


全体会
(大会2日目)
8月23日

アトラクション

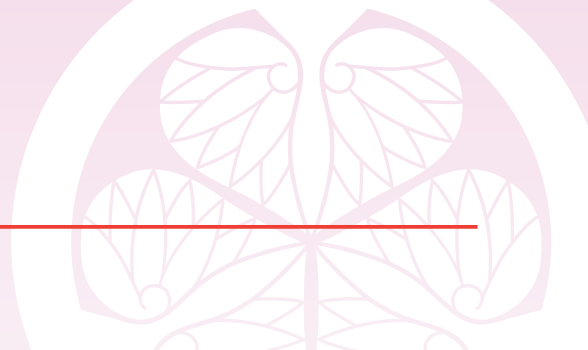
会場：アダストリアみとアリーナ

BLUE-HAWKS 茨城県立大洗高等学校 マーチングバンド部



全体会
(大会2日目)
8月23日

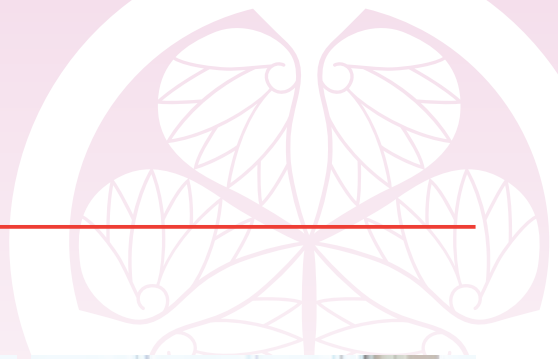
閉会行事







大会運営





教育視察
(希望者)
8月23日

つくばコース・笠間コース

A. つくばサイエンスコース (30名参加)

アダストリアみとアリーナ発

上記==<車中お弁当>====地質標本館====地図と測量の科学館====
13:00 14:00 15:00 15:30 16:30

TX つくば駅 (離団可) ==== JR 土浦駅 (解散)
16:50 17:15



B. 笠間体験コース (20名参加)

アダストリアみとアリーナ発

上記==<車中お弁当>====笠間稲荷 (参拝見学)====
13:00 14:00 14:45

笠間焼絵付け体験と笠間焼のお買物==== JR 友部駅 (解散)
15:00 17:00 17:15



教育視察
(希望者)
8月23日

県北コース・牛久コース

C. 県北の自然と歴史に触れるコース (37名参加)

アダストリアみとアリーナ発

上記==<車中お弁当>====竜神大吊橋 (見学) =====
13:00 14:00 15:00

御岩神社 (パワースポット見学) ===== JR 水戸駅 (解散)
15:30 16:15 17:30



E. 牛久の歴史を知るコース (24名参加)

アダストリアみとアリーナ発

上記==<車中お弁当>====牛久大仏 (見学) =====
13:00 14:00 14:45

牛久シャトー (館内見学) ===== JR 牛久駅 (解散)
15:15 16:30 16:45





第73回全国高等学校PTA連合会大会2024茨城大会概要

大会テーマ **「歴史の町で変革を !!」**
サブテーマ **～新たな時代が目に入らぬか～**

大会趣旨

明日の日本そして世界を担う青少年が、豊かな心を育み、たくましく成長し、自立・活躍できる社会を実現することは、私たちの願いです。もちろん、多くの子どもたちも自分の夢や希望に向けて努力し、成長を遂げようとしています。一方で、少子高齢化やグローバル化、AIの進化による急激な社会の変化に伴い、子どもの規範意識の低下、ネット犯罪や貧困問題、ヤングケアラーなどを背景として、問題が多様かつ複雑になっており、学校や家庭だけでは対応できない課題が多くなっています。

中でもコロナ禍は、家庭や学校、地域教育の活動に甚大な影響を及ぼしました。オンライン授業や学校行事の中止、会話の抑制などにより、目と目を見て話すという人間本来のコミュニケーションや、それによって生じる絆を断ち切ってしまったのです。ウィズコロナ、アフターコロナの新たな時代に向けて、私たちは切れた絆を再構築しなければなりません。「親の背を見て子は育つ」と昔から言われてきましたが、背中を見せるのではなく、子どもの目を見て気持ちを伝え合おうではありませんか。

「予測困難な時代」に突入するなか、この変化に対応していくためには、学校及び家庭や地域においてどのような教育が求められるのか。暗中模索のトンネルの中でも、出口にたとえ小さくても灯りを見出すことができれば、新たな時代に向かって進むことができるはずです。その灯りを本大会で見つけていただければ幸いです。

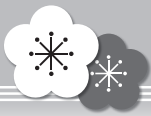
幕末の動乱期に、水戸学は新たな時代明治維新に大きな影響を与えました。その水戸の地で、PTAの新たな取り組みに向けて話し合える機会を持つことができるのは、意義あることだと思います。

今後とも私たちは、予測困難な社会情勢の中においても、PTA活動の歩みを粘り強く進めていかなくはなりません。すべての子どもたちが、自らの居場所を得て、自己有用感を高め、持てる力を十分発揮できるようになるための新たな時代のPTA活動を目指し、関係機関・団体との連携を一層密にした活動体制の充実強化に積極的に取り組める大会となることを祈念し、ここに茨城大会を開催します。



大会概要

- 1 期 日 令和6年8月22日(木)～23日(金)
- 2 会 場 全体会場 アダストリアみとアリーナ
分科会場 第1分科会 アダストリアみとアリーナ
第2分科会 ザ・ヒロサワ・シティ会館
第3分科会 水戸市民会館
第4分科会 ひたちなか市文化会館
第5分科会 小美玉市四季文化館みの～れ
- 3 主 催 一般社団法人全国高等学校PTA連合会
- 4 主 管 茨城県高等学校PTA連合会
- 5 後 援 文部科学省、全国高等学校長協会、関東地区高等学校PTA連合会大会、茨城県、茨城県教育委員会、水戸市、水戸市教育委員会、ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会、小美玉市、小美玉市教育委員会、茨城県高等学校長協会、茨城県高等学校教頭・副校長会、茨城県県立学校事務長会、(公財)日本教育公務員弘済会茨城支部、茨城放送、朝日新聞水戸総局、毎日新聞水戸支局、読売新聞水戸支局、茨城新聞社、(一社)水戸観光コンベンション協会
- 6 参加者 約5,500人
約260校(リモート参加校)
- 7 参加費 7,500円 ・ オンライン参加費 7,000円
- 8 企画・運営取扱業者 株式会社JTB 水戸支店
宿泊・輸送取扱業者 株式会社JTB 水戸支店
- 9 日 程 8月20日(火) 全体会場設営
8月21日(水) 分科会場設営(9:00～13:00)
分科会別打合せ会議(13:30～)各会場
分科会リハーサル(15:00～)各会場
8月22日(木) 大会1日目 分科会 5会場
11:30～ 受付
12:20～ アトラクション(各会場)
13:00～13:20 開会行事
13:30～14:50 講演1
15:05～16:25 講演2
16:30～16:40 閉会行事
終了後 全体会場設営(実行委員のみ)
全体会リハーサル(関係者のみ)
映像配信会場(ザ・ヒロサワ・シティ会館)設営(実行委員のみ)
8月23日(金) 大会2日 全体会
8:00～9:00 受付
9:00～9:20 アトラクション(大洗高校マーチングバンド部)
9:30～10:30 開会行事、表彰式
10:40～11:50 記念講演
講師 二所ノ関 寛 氏(元横綱稀勢の里)
演題 「人材育成の不易流行」
12:00～12:30 閉会行事



10 分科会

第1分科会

会 場：アダストリアみとアリーナ
テーマ：「教育の過去・現在・未来」 ～故きを温ねて**新**しきを知る～
講演1：茨城県水戸土木事務所偕楽園公園課弘道館事務所
主任研究員 小坪 のり子 氏
演 題：藩校「弘道館」の教育
講演2：茨城大学教育学部教授
(教職大学院・学校運営コース 主任) 加藤 崇英 氏
演 題：もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する

第2分科会

会 場：ザ・ヒロサワ・シティ会館
テーマ：「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」
～**新**たな一歩を踏み出すために～
講演1：司馬クリニック院長 医学博士 司馬 理英子 氏
演 題：のび太・ジャイアン症候群
講演2：有馬総合法律事務所 弁護士・中小企業診断士 有馬 慧 氏
演 題：18歳になったら気をつけること～18歳になる前に～

第3分科会

会 場：水戸市民会館
テーマ：「**新**・生きる力と家族の絆」 ～子どもの心に風邪を引かせない～
講演：7男2女の大家族お母ちゃん 石田 千恵子 氏
演 題：子育ては気力・体力・経済力
フリートーク (石田講師を交えて)
パネラー 板倉 哲男 氏 (茨城県立水海道第二高等学校 PTA 顧問)
吉江 知子 氏 (茨城県立八千代高等学校 PTA 副会長)
丹下 基生 氏 (茨城県立竹園高等学校 PTA 会計)
司会進行 高野 由紀子 氏 (茨城県高等学校 PTA 連合会元副会長)

第4分科会

会 場：ひたちなか市文化会館
テーマ：「みんなで考えよう、これからの PTA」 ～あるべき**新**しい姿とは～
講演1：花園大学社会福祉学部教授 炭谷 将史 氏
演 題：PTA は学校づくりのパートナー
グループトーク

第5分科会

会 場：小美玉市四季文化館みの～れ
テーマ：「これからのコミュニティ・スクール」
～地域社会との**新**たな連携・協働～
講演1：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部
総括研究官 志々田 まなみ 氏
演 題：「学校と地域とでつくるこれからの学校ーコミュニティ・スクールとはー」
グループトーク



●大会役員名簿

大会役員			
大会会長	田名部 智之	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	会長（代表理事） 総務委員長
大会副会長	松下 妙子	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	副会長 総務委員 健全育成委員長
	伊福 聡	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	副会長 総務委員 調査広報委員長
	中村 慎也	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	副会長 総務委員 研修委員長
大会運営委員	西岡 豊	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	専務理事（業務執行理事） 総務委員 賠償責任補償制度運営委員長
	中川 徹	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	常務理事（業務執行理事） 総務委員
	村井 為敦	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事 総務委員 進路対策委員長
	古沢 和明	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	沼澤 早苗	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	笹原 良太	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	松本 正一	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	小野 喜照	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	丸尾 友明	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	佐竹 大樹	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	杉本 龍	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	理事
	海東 剛哲	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	代表監事
	檜山 美智子	一般社団法人全国高等学校PTA連合会	監事

全国高P連事務局

事務局長	中川 徹	事務局次長	川端 由美子	事務局員	入野 登代子
------	------	-------	--------	------	--------

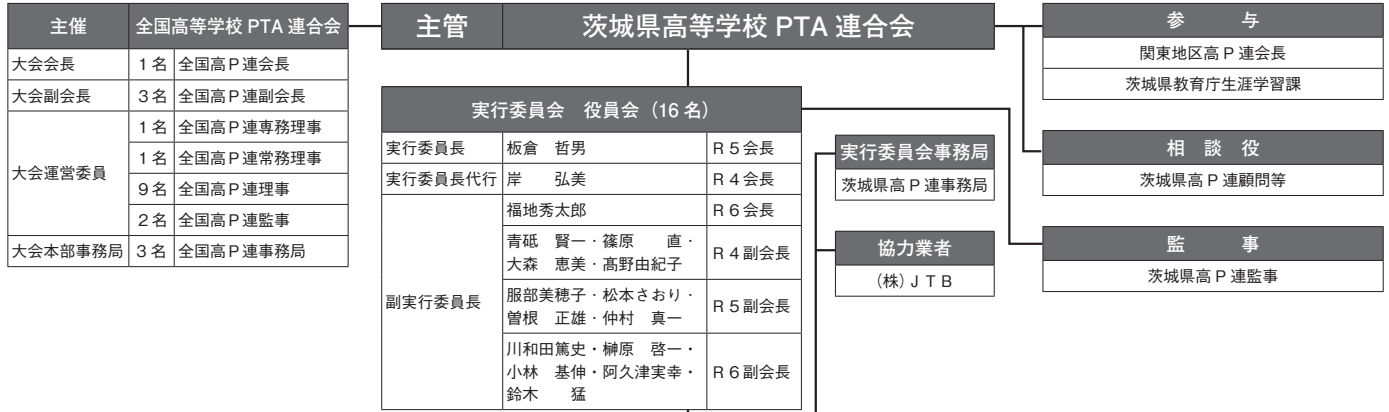
●茨城大会実行委員会役員名簿

役職名	氏名	県連役員名等
実行委員長	板倉 哲男	令和5年度茨城県高等学校PTA連合会会長
実行委員長代行	岸 弘美	令和4年度茨城県高等学校PTA連合会会長
副委員長	青砥 賢一	令和4年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	篠原 直	令和4年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	大森 恵美	令和4年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	高野 由紀子	令和4年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	服部 美穂子	令和4年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	鈴木 猛	令和5年度、令和6年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	松本 さおり	令和5年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	曾根 正雄	令和5年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	仲村 真一	令和5年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	福地 秀太郎	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	河和田 篤史	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	榎原 啓一	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
	小林 基伸	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会副会長
阿久津 実幸	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会副会長	
相談役	篠塚 洋一	茨城県高等学校PTA連合会顧問
監事	松本 治伸	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会監事
	鈴木 厚子	令和6年度茨城県高等学校PTA連合会監事
事務局	金澤 秀美	茨城県高等学校PTA連合会事務局長
	田口 佳実	茨城県高等学校PTA連合会事務局次長
	梅原 敬子	茨城県高等学校PTA連合会事務局次長（茨城県立太田西山高等学校）
	櫻井 隆之	茨城県高等学校PTA連合会事務局次長（茨城県立水戸商業高等学校）
	久保 晶子	茨城県高等学校PTA連合会事務局事務員



実行委員会組織図

第73回全国高等学校PTA連合会大会「茨城大会」 実行委員会 組織図



※ () 内数字は動員人数

全体会・式典部		資料・映像配信部		歓迎部	
担当：実行委員会役員 (16名)・事務局		担当：岸・事務局		担当：青砥・篠原・事務局	
進行班 (31)	受付・接待班 (72)	資料班 (50名)	映像配信班 (55名)	案内・誘導班 (154)	
アダストリアみと		主管校 竜ヶ崎二 (6)	主管校 土浦湖北 (6)	会場周辺・水戸駅	
主管校 常陸大宮 (6)	主管校 緑岡 (6)	担当校 竜ヶ崎南 (6) 江戸崎総合 (7) 取手一 (7) 取手二 (6) 取手松陽 (6) 藤代 (6) 藤代紫水 (6)	担当校 石岡一 (6) 石岡二 (7) 石岡商 (6) 中央 (6) 坂東清風 (6) 守谷 (6) 伊奈 (6) 並木中等 (6)	主管校 岩瀬 (9)	
担当校 小瀬 (6) 水戸一 (6) 水戸二 (6) 水戸三 (7)	担当校 水戸農 (6) 水戸工 (6) 水戸商 (6) 水戸南 (6) 高萩清松 (6) 日立二 (6) 日立工 (6) 日立北 (6) 神栖 (6) 波崎 (6) 鹿島灘 (6)	班会議構成員【24名】 班 長 竜ヶ崎二 PTA 会長 副班長 竜ヶ崎二 校長 班 主任 竜ヶ崎二 渉外部長 班 員 担当校 PTA 会長 (7) 班 員 担当校 校長 (7) 班 員 担当校 渉外部長 (7)	班会議構成員【27名】 班 長 土浦湖北 PTA 会長 副班長 土浦湖北 校長 班 主任 土浦湖北 渉外部長 班 員 担当校 PTA 会長 (8) 班 員 担当校 校長 (8) 班 員 担当校 渉外部長 (8)	担当校 真壁 (6) 下館一 (6) 下館二 (6) 下館工 (6) 明野 (6) 下妻一 (6) 下妻二 (7) 結城一 (6) 結城二 (6) 鬼怒商 (6) 石下紫峰 (6) 水海道一 (6) 古河一 (6) 古河二 (6) 古河三 (6) 総和工業 (6) 三和 (6) 境 (6) 笠間 (6) 大洗 (6) 東海 (6) 茨城東 (6) 那珂 (6) 大子清流 (6)	
班会議構成員【15名】 班 長 常陸大宮 PTA 会長 副班長 常陸大宮 校長 班 主任 常陸大宮 渉外部長 班 員 担当校 PTA 会長 (4) 班 員 担当校 校長 (4) 班 員 担当校 渉外部長 (4)	班会議構成員【39名】 班 長 緑岡 PTA 会長 副班長 緑岡 校長 班 主任 緑岡 渉外部長 班 員 担当校 PTA 会長 (12) 班 員 担当校 校長 (12) 班 員 担当校 渉外部長 (12)			班会議構成員【57】 班 長 岩瀬 PTA 会長 副班長 岩瀬 校長 班 主任 岩瀬 渉外部長 班 員 担当校 PTA 会長 (24) 班 員 担当校 校長 (24) 班 員 担当校 渉外部長 (24)	

分科会部					オンライン担当会議 (必要があれば)
第1分科会 (48)	第2分科会 (42)	第3分科会 (45)	第4分科会 (42)	第5分科会 (48)	全体会式典部進行班主管校代表 第1分科会班長 第2分科会班長 第3分科会班長 第4分科会班長 第5分科会班長 以上各班正副班長 計6名
アダストリアみとアリーナ	ザ・ヒロサワ・シティ会館 大ホール	水戸市民会館	ひたちなか市文化会館	小美玉市四季文化館 「みの〜れ」	
主管校 水戸桜ノ牧 (6)	主管校 竜ヶ崎一・附中 (6)	主管校 水海道二 (8)	主管校 日立商 (6)	主管校 波崎柳川 (8)	
担当校 IT 未来 (6) 勝田中等 (6) 水戸桜ノ牧常北 (5) 勝田工 (6) 佐和 (7) 那珂湊 (6) 海洋 (6)	担当校 土浦二 (6) 牛久 (6) 牛久栄進 (6) 土浦一 (6) 土浦三 (6) 土浦工 (6)	担当校 八千代 (6) 古河中等 (7) 筑波 (6) 竹園 (6) つくば工科・つくば サイエンス (6) 荊崎 (6)	担当校 日立一 (6) 多賀 (6) 磯原郷英 (6) 太田一 (6) 太田西山 (6) 高萩 (6)	担当校 鉦田一 (7) 鉦田二 (6) 玉造工 (6) 麻生 (6) 潮来 (6) 鹿島 (9)	
班会議構成員【16名】 班 長 水戸桜ノ牧 PTA 会長 副班長 水戸桜ノ牧 校長 班 員 担当校 PTA 会長 (7) 班 員 担当校 校長 (6) 班 員 水戸桜ノ牧 渉外部長	班会議構成員【15名】 班 長 竜ヶ崎一 PTA 会長 副班長 竜ヶ崎一 校長 班 員 担当校 PTA 会長 (6) 班 員 担当校 校長 (6) 班 員 竜ヶ崎一 渉外部長	班会議構成員【15名】 班 長 水海道二 PTA 会長 副班長 水海道二 校長 班 員 担当校 PTA 会長 (6) 班 員 担当校 校長 (6) 班 員 水海道二 渉外部長	班会議構成員【15名】 班 長 日立商 PTA 会長 副班長 日立商 校長 班 員 担当校 PTA 会長 (6) 班 員 担当校 校長 (6) 班 員 日立商 渉外部長	班会議構成員【15名】 班 長 波崎柳川 PTA 会長 副班長 波崎柳川 校長 班 員 担当校 PTA 会長 (6) 班 員 担当校 校長 (6) 班 員 波崎柳川 渉外部長	
担当役員 松本・川和田・鈴木	担当役員 仲村・小林	担当役員 板倉・高野・阿久津	担当役員 服部・福地	担当役員 曾根・大森・榊原	



●開会式・表彰式次第

- | | | | | |
|---|--------|---|-----|------|
| 1 | 開式のことば | 茨城大会実行委員長代行 | 岸 | 弘美 |
| 2 | 国歌斉唱 | | | |
| 3 | 開会の挨拶 | 茨城大会実行委員長 | 板倉 | 哲男 |
| 4 | 大会会長式辞 | (一社) 全国高等学校PTA連合会会長 | 田名部 | 智之 |
| 5 | 来賓祝辞 | 文部科学副大臣 | あべ | 俊子 様 |
| | | 茨城県知事 | 大井川 | 和彦 様 |
| | | 水戸市長（代理：水戸市教育委員会教育長） | 志田 | 晴美 様 |
| 6 | 来賓紹介 | | | |
| 7 | 表彰式 | 優良PTA文部科学大臣表彰「団体」
(一社) 全国高等学校PTA連合会会長表彰
・ 個人の部
・ 団体の部
・ 役員・事務職員の部
・ 特別感謝状贈呈「団体」
・ 特別感謝状贈呈「個人」 | | |
| 8 | 閉式のことば | 茨城大会副実行委員長 | 大森 | 恵美 |

ご来賓

文部科学副大臣	あべ	俊子	様
茨城県知事	大井川	和彦	様
水戸市長（代理：水戸市教育委員会教育長）	志田	晴美	様
ひたちなか市長（代理：副市長）	吉富	耕治	様
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長	高木	秀人	様
茨城県教育委員会教育長	柳橋	常喜	様
ひたちなか市教育委員会教育長	秋本	光徳	様
小美玉市教育委員会教育長	羽鳥	文雄	様
全国高等学校長協会茨城県高等学校長協会長	渡邊	剛	様

●閉会式次第

- | | | | | |
|---|----------|---------------------|-----|-----|
| 1 | 閉式のことば | 茨城大会副実行委員長 | 松本 | さおり |
| 2 | 大会会長挨拶 | (一社) 全国高等学校PTA連合会会長 | 田名部 | 智之 |
| 3 | 全国高P連旗返還 | | | |
| 4 | 全国高P連旗授与 | | | |
| 5 | 次期開催地挨拶 | 第74回三重大会実行委員会委員長 | 小野 | 喜照 |
| 6 | 閉会の挨拶 | 茨城大会実行委員長 | 板倉 | 哲男 |
| 7 | 閉会のことば | 茨城大会副実行委員長 | 篠原 | 直 |



一般社団法人全国高等学校PTA連合会 会長

田名部 智之

本日は大変お忙しい中、全国高等学校PTA連合会の全国大会茨城大会にご出席いただきましてありがとうございます。ご来賓といたしまして文部科学副大臣あべ俊子様、大井川茨城県知事、また、多くのご来賓の方々へもご出席いただきましてありがとうございます。また、PTA 会員全国 190 万人のうち本大会に 5500 名の出席と聞いております。また、昨日から第 1 分科から第 5 分科会、非常にて学びを深くしました。その後の懇親会では実行委員長がお話されていまして通り、茨城県の素晴らしい食文化に触れた方も多いのではないかと思えます。第 6 分科会での学びが深く、本日眠そうな方等多く見受けられるのではないかと思います。本日がメインですのでしっかり結束を固めて参りたいと思っております。3 年前、私が県の会長時代、そして東北の会長だった頃にはコロナ禍真最中で、青森県大会そして東北大会も中止にせざるを得ない状況でした。昨年から今年にかけて通常通りに戻りつつある中で、このように皆さんとお会いできることをとても楽しみにしておりました。私は令和 6 年 6 月 29 日に山田前会長から一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会の会長を引き継がさせていただきました。最長 3 年間の任期となりますが、できれば早くバトンタッチしたいと思っております。ただし、会長という職は単に名誉職ではないと捉えております。板倉実行委員長のお話の中で、昨今 PTA 不要論や、また新たなコロナ

以降の教育のニーズ、子どもたちへの支援の方法、学校との関わり方、様々なものが大きく変わってきています。価値観が既に大きく変わったと思っています。最近、文部科学省はじめコミュニティ・スクールということが推奨されておりますが、PTA 無くしてはこのコミュニティ・スクールはできないと思っております。この PTA 不要論について、本日まで出席いただいております、あべ副大臣、大井川県知事を通じて、この 190 万人というスケールメリットを活かして、PTA は不要ではないということを経済界の先生、行政のトップの皆さんへも発信していただき、そして我々はしっかり襟を正して、PTA に会費を納めているが、何に使っているかわからないとか、役員を押し付けられるというようなネガティブな風潮を払拭していただければ良いと思っております。折角この茨城の地に皆さんでお集まりいただきましたので、しっかり昨日今日勉強したことそして楽しい思い出を地元を持ち帰り、単位 PTA で活躍いただきたいと思っております。今日 1 日になってしまいましたが、しっかり結束を固めて良い PTA になる様に一緒に活動して参りましょう。

結びになりますが、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会の全国大会茨城大会の開催に当たりまして、ご尽力いただきました全ての皆様方に感謝いたしまして、主催者の代表の挨拶とさせていただきます。一緒に学んで参りましょう。



文部科学副大臣

あべ 俊子 様

第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

日頃からPTA活動を通じ、子供たちの健全育成に御尽力いただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

文部科学省としては、学校運営協議会制度の導入などを進めておりますが、皆様におかれま

しても、教育環境の充実のため、引き続きお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会のますますの御発展と、皆様の更なる御活躍をお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。





茨城県知事

大井川 和彦 様

「第73回全国高等学校PTA連合会大会2024茨城大会」が、盛大に開催されましたことをお慶び申し上げますとともに、全国各地から茨城県にお越しくださいました皆様を心から歓迎いたします。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会田名部会長をはじめ、本日お集まりの皆様方におかれましては、日頃よりPTAの活動を通して、子どもたちの幸せと健全育成のためにご尽力されておりますことに深く敬意を表します。

また、永年にわたる活動のご功績により「優良PTA文部科学大臣表彰」並びに「全国高等学校PTA連合会会長表彰」を受賞される皆様に心からお祝いを申し上げます。

本県におきましては、次世代を担う「人財」を育成するため、生徒一人ひとりが興味関心事を探究・追究できる教育環境の整備に力を入れており、これまで中高一貫教育校13校の開設や、学校改革への強い意欲とリーダーシップを持つ民間人校長の採用を行っておりますほか、昨年4月に、全国初のIT専科高校の「IT未来高校」、次世代の科学技術人財を育成する「つくばサイエンス高校」を開校いたしました。さらに本年8月には「つくばサイエンス高校」の名誉校長にノーベル物理学賞受賞者である小林誠先生を迎え、教育内容の一層の充実を図っているところです。

また、高校生が自ら地域課題の解決に取り組み、その成果を発表する「IBARAKIドリーム・

パス事業」を通じた起業家精神の育成に取り組んでいるほか、今年度から平日に学校外で保護者などと体験的・探究的な活動をする「ラーケーション」制度を導入し、子どもたちが自ら未来を切り拓く力を育てております。

こうした中、全国のPTA会員の皆様が一堂に会し、新たな時代におけるPTA活動などについて、研究討議や情報交換が行われたことは、大変心強く感じております。

本大会を契機とし、学校・家庭・地域が連携した活動の輪が、全国に広がり、将来の日本を支える「人財」の育成につながりますことをご期待申し上げます。

さて、このような機会をいただきましたので、ここで少し本県の紹介をさせていただきます。

本県は、生産量日本一を誇る栗、メロン、ほしいも、レンコンなどに加え、新ブランド「常陸牛 煌」、「常陸乃国いせ海老」など、豊かな自然が育む食の宝庫であり、五つの豊かな水系に支えられた、関東屈指の酒どころでもございます。ぜひ皆様には、この機会に茨城県自慢の美食・美酒をご堪能いただけると幸いです。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました一般社団法人全国高等学校PTA連合会の益々のご発展、並びにご参会の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、挨拶いたします。



水戸市長

高橋 靖 様

昨日から引き続き第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会がこのように多くの方にご出席いただき盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、本大会の会場に水戸市を選んでいただきましたことに感謝申し上げますとともに、水戸市民を代表して厚く歓迎を申し上げます。

多様性社会の到来やコロナ禍による生活の変化等により子どもたちを取り巻く環境に変化が生じ、それに応じた柔軟な対応が求められています。本市におきましては、平成26年4月から導入した小規模特認校制度を活用し、今年の4月から新たに小学校1校を追加した全5校で特色ある教育活動を展開することで、一人一人の個性を伸ばすことや教育における選択肢を増やすなど、教育環境の拡充を図っております。また、今年の4月からスタートした都市づくりの基本方針となる水戸市第7次総合計画においても、水戸市の未来を創っていくすべての子どもたちをまち全体で育むことを最重点に定め、様々な政策に取り組んでいるところでございます。

本大会は教育視察や記念講演、各テーマごとの分科会の開催など、様々な内容が盛り込まれていると伺っております。本大会が実り多い大会となることを願いたしますとともに、教育

に携わる皆様の有意義な意見交換の場となりますことを期待いたします。

結びに、本大会の開催にご尽力をいただいた全国高等学校PTA連合会の皆様をはじめ、関係者の方々に感謝申し上げますとともに、ご参会の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。本日は誠にありがとうございます。



第73回全国高等学校PTA連合会大会
2024茨城大会実行委員長

板倉 哲男

全国の会員の皆様、残暑厳しい季節によるこそ茨城県へ。第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会へご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、オンライン参加の皆様も歓迎とお礼申し上げます。本大会に先立ちまして、公私ご多用の中、文部科学副大臣あべ俊子様をはじめ、多くの皆様のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今大会のメインテーマは、「歴史の町で変革を!!」、サブテーマに「新たな時代が目に入らぬか」を掲げ、先行き不透明、予測困難な時代に突入する中、大会趣旨にもありますように、この変化に対応していくためには、学校・家庭・地域においてどのような教育が求められているのか、みなさんで考え情報を共有することで、見えないトンネルの灯りを見出すことができれば、新たな時代に向かって進むことができるはずです。その灯りを本大会で見つけていただければ幸いです。そのために、昨日の分科会では、水戸市、ひたちなか市、小美玉市で5つの分科会を用意させていただきました。講師による講演やパネルディスカッション、グループトークなどを盛り込んだ内容の濃い分科会であったのではと感じております。全体会においては、茨城県出身でもあります二所ノ関寛氏第72代横綱稀勢の里を講師にお招きし、演題に「人材育成の不易流行」と題して講演をいただきます。相撲人生や親方になっての経験を活かした人材育成について熱いトークで語っていただけたと思います。

昨今PTAを取り巻く環境は、少子高齢化により生徒数の減少によりPTA加入者の減少や退会するなど、PTA活動にも影響を及ぼしております。生徒数も減少し野球部では部員数が

少なく他校との合同チームによる大会参加を余儀なくされ、子どもたちも不安を抱えながらの学校生活を迎えていることと推察いたします。また、ICT導入によるタブレット端末の活用など、不慣れな学習に不安を抱えているものも事実です。ヤングケアラーの問題やSNS等によるいじめ問題など学校だけでは解決できない状況にあります。問題解決には学校と保護者そして地域と密に連携を図り、問題解決に取り組むことが求められているのではないのでしょうか。それがまさにPTAではないのでしょうか。本大会でPTAのあり方を今一度考え、PTAとは何か、PTAはなぜ必要かを念頭において研修していただければ新たな時代即ち新たなPTAが見えてくると思います。次世代を担う子どもたちが健全に安全安心に学校生活を送れますようPTA活動を通じて見守っていきたいと思います。

研修終了後には、教育視察や観光など茨城県の魅力ある観光スポット、竜神大橋のバンジージャンプ、大井川知事も体験されたとお聞きしております。見渡す限りの花畑のひたち海浜公園、海の幸がおいしい大洗水族館、笠間焼で有名な笠間神社、日本一の大きさを誇る牛久大仏といったところもお勧めですので、是非足を運んでみてください。これで魅力度ランキング最下位県なのかと驚かれることでしょう。

結びになりますが、これまで準備をしていただきました実行委員会の皆様、全国高P連の皆様、協力業者の方々には、誠にありがとうございました。全国の会員の皆様が、実りある研修となりますとともに、皆様のご多幸とご健勝を祈念し、大会実行委員長の歓迎の挨拶いたします。



第1分科会 講演1

藩校「弘道館」の教育

講師 弘道館事務所主任研究員 小坏 のり子氏

〈講演要約〉

この度は、全国高等学校PTA連合会大会という素晴らしい大会で弘道館の教育についてお話をさせていただきます。大変貴重な機会を賜りまして、心からありがたく思っております。

江戸時代の後半期は教育爆発の時代とも言われています。当時、全国のほとんどの藩では、弘道館のような藩校を設けており、その数は二百数十校に上ります。また、城下町にはいくつもの私塾があり、さらにどんな小さな村にも1つか、2つの寺小屋というものがありました。幕末に駐在公使として来日したイギリス人のオール・コックは当時の日本についてこのように述べているんですね。“日本では、教育は恐らくヨーロッパの大半の国々が自慢できる以上によく行き渡っている”。また、イギリス領時代のカナダ出身の冒険家ラナルド・マクドナルドは、日本人のすべての人、最上層から最下層まで、あらゆる階級の男、女、子どもは紙と筆と墨を持っている。すべての人が読み書きの教育を受けている。また下級階級の人々さえも書く習慣があり、手紙における意思伝達は我が国よりも広く行われていると述べています。江戸時代に日本を訪れた外国の方々が驚くほど、当時の日本には全国的に教育が普及していたのです。それが日本が近代国家として発展していくことができた一つの要因であるとも言われています。その教育の普及に貢献していたのが、藩校などの教育施設です。おそらく皆様がお住まいの都道府県にも藩校の建物であったり、藩校の跡が残っていらっしゃると思います。あるいは、藩校での教育を現代に受け継ぐような活動が行われているところもあるかと思えます。今日はその藩校の一つの事例として、水戸藩の藩校、弘道館についてお話をさせていただきます。これからご覧いただきますスライドの数が何と193枚だったかな、になっておりまして。弘道館の美しい画像なども入れておりますので、ぜひ、楽しくご覧いただければと思います。少しでも皆様のお心に残るお話ができればと

思っておりますので、よろしくお願いたします。

新1万円札の顔になりました、渋沢栄一が主人公の大河ドラマ「青天を衝け」。ご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、そのロケが弘道館で行われました。弘道館は重要文化財ですので、とにかく、建物とか資料に絶対に傷がつかないように、細心の注意を払って行っていただいたんですね。私の仕事はですね、弘道館を守るために、しっかりと監視をする立場ですので、俳優さんたちが見られて嬉しいというよりは、ずっと緊張しながら現場立ち会いをしておりました。

大河ドラマのロケ地に選ばれたことから色々調べておりましたところ、主人公の渋沢栄一が大正5年に水戸を訪れ、しかも、弘道館で公演をしていたということが分かったんです。栄一が弘道館に来ていた、っていうことはロケがきっかけで初めて分かりまして、大変感激をしました。

栄一が水戸を訪れたのは、大正5年5月27日から29日にかけて、水戸で開催されました関東東北北海道感化委員長協議会に中央慈善協会会長として講演をするためで、栄一が水戸に滞在したのは、5月28日29日の2日間です。栄一がもう77歳の時で、この頃の栄一は既に実業界の第一線からは身を引いて、講演活動などに力を注いでいました。こちらが栄一の水戸訪問の行程なんですが、弘道館で講演をした後には、彰考館というところで大日本史という歴史書の閲覧をしたり、偕楽園を訪れたりしています。翌日には、県立商業学校で商業を学ぶ若者たちを前に、栄一が最も大切にしていた経済と道徳の一致について、熱く語っていらっしゃるんですね。こちらはイメージ写真なんですが、弘道館でこのように多くの聴衆を前に行われた講演の演題は、感化事業に対する所感という、栄一が実業界での活動とともに力を注いできました貧困による少年少女の非行防止と自立支援についてでした。感化事業というのは、栄一は経済の発展に尽力するんですけれども、経済が発展すればするほど、どうしても貧富の



差が生じます。栄一は豊かさの影で生じてしまった弱い立場の人々のことを決して忘れなかったんですね。栄一は、もう、どんなに忙しい中でも、必ず時間を取って養育院を訪れていたそうなんです。そして、講演の冒頭では水戸藩の学問に影響を受けたことや徳川慶喜に仕えたことなどを述べ、水戸という土地には甚だ深い感情を持っており、と水戸への特別な思いを明らかにしています。

それでは、この栄一が影響を受けた水戸藩の学問とはどのような学問かと申しますと、皆様、弘道館に来ていただいたことはございますか。ちょっと手を挙げていただいてよろしいですか。ありがとうございます。午前中もたくさんの方が来てくださったって、事務所の方から連絡いただいたんですけど。ありがとうございます。ではですね。梅で有名な偕楽園にいらしたことがある方、いらっしゃいますか。後ほどご説明をさせていただきますが、弘道館と偕楽園は2つで1つの教育のための施設として作られていますので、ぜひ皆様、機会がありましたら見学をいただければと思います。

話に戻りますと。先ほどの映像の大手門をくぐっていきますと、水戸市立第二中学校の校門の前に、彰考館跡の石碑が立っています。先ほど渋沢栄一のところでもお話をさせていただきました大日本史が編纂されたところです。ただ、栄一が訪れた彰考館はここから移転してしまっていて、別の場所にありました。この大日本史は、こちらの本大会のポスターにも描かれています。水戸黄門で有名な二代藩主徳川光圀が明暦3年1657年に編纂を開始して、歴代藩主が引継ぎ、完成したのは明治39年ですので、約250年をかけて編纂された歴史書になります。渋沢栄一がものすごく忙しいスケジュールの合間を縫ってわざわざ大日本史の閲覧をしたのは、光圀をとてても尊敬していたからなんだそうです。この彰考館という編纂所の名前は、徳川光圀が「彰往考来」という言葉から命名をしました。「彰往考来」という言葉は、中国の春秋左氏伝という古典の中の言葉で、過去を明らかにして将来を考えるという意味があります。この分科会のテーマも、古きを尋ねて新しきを知るということで、この言葉にも通じていると思います。この「彰往考来」の精神は水戸藩で代々大切にされてきたものです。私はいつも思うことがあるんですが、歴史というのは、教科書に載っている遠い昔のことではなく、そこに生きた人々の考えとか行動から現代に生きる私たちが学べるものがたく

さんあると。例えば、江戸時代の人々も私たちの同じ人間ですので、喜怒哀楽もあれば悩むこともありますよね。そのような江戸時代の人々と、ご自身を重ね合わせてお聞きいただけますと、共感していただけたところもあるのではないかなと思います。

特に幕末九代藩主徳川斉昭の時代になりますと、外国からの脅威が迫る中で、水戸藩の学問はいかに現実的な課題に対応するか、ということが重視されてきて、この先見性、実践性、国家的視野、この3つが重んじられるようになります。先見性は先を見る力ですね。実践性は机上の学問にせず行動することです。国家的視野は、水戸藩という狭い範囲ではなくて日本の国全体を、世界情勢を踏まえて考える、ということです。

このような水戸藩の学問は、吉田松陰や久坂玄瑞、そして渋沢栄一など、多くの幕末の志士に影響を与えたと言われていています。特に吉田松陰なんですが、東北遊学の途中で、嘉永4年の12月から翌年1月まで水戸に滞在して、会沢正志斎から水戸藩の学者のもとを訪れて学問交流を深めています。皆様、吉田松陰は弘道館に行っていたのか、って思われるかもしれませんが、残念ながらその記録がないんです。ただ、理由はですね、年末年始だったということで弘道館が休館だったということもありますし、また、松陰は脱藩をしてくれていますので、公の場である弘道館にはあえて来なかったのではないかと考えられます。その代わり、水戸藩の学者のもとで熱心に教えを受けているんです。会沢正志斎の家には7回も訪れて、直に、一対一で学んでいたと言われています。松陰の松下村塾で、水戸藩関係の書物が教科書として使われていたそうです。また、松陰は、獄中での手記に「余深ク水府ノ学ニ服す」、水府の学というのは水戸学のことですね、「謂ヘラク神州ノ道スニアリト」、日本の道はここにあると記してしまっていて。水戸学に影響を受けていたことが分かります。そして、斉昭の時代の水戸藩の学問の拠点であり、教育実践の場となったのが、この藩校、弘道館です。

次に、弘道館の教育に入ります前に、創設者である徳川斉昭について見てまいります。斉昭は、寛政12年、1800年に七代藩主、治紀の三男として江戸で誕生しました。こちらは、江戸にあった水戸藩上屋敷の小石川藩邸の図です。現在は大部分が東京ドームになっていますけれども、こちらの赤い丸で囲んだところにあった後楽園という庭園ですね、現



在は小石川後樂園として公開されています。この小石川後樂園は徳川光圀の時代に完成した庭園です。

斉昭は文政12年に30歳で藩主に就任をしますが、三男で生まれていますので、藩主になるまでは部屋住みという、かなり光の当たらない時代が長く続いたんですね。この斉昭は、部屋住みの時代から、いざ自分が藩主になったら藩のために様々な改革をしようと、心に秘めておりました。また、一方で、この部屋住みという時代は、斉昭にとっていろんな政治に表立った政治をしない時期ですので、幅広い学問であったり武芸を習得する、そういう期間にもなったんです。とても大事な期間になりました。例えば茶道だったり、琵琶の演奏の名人だったりしますので、この時に身に付けたものと思われるんです。斉昭は天保4年、34歳で初めて就藩します。水戸藩の藩主は常に江戸におりまして、国元の水戸に来ることを就藩ですとか帰国と言います。

水戸藩主なのに、初めて来たのが34歳。藩主の間に4回来ているんですけど、トータルで水戸にいた期間がなんと5年間なんです。これでも光圀について2番目に長い藩主でして、一度も水戸に来ない藩主もいるんです。費用も、行き来するとかかりますし。ですので、5年というのは非常に水戸への思いが深かったということを表しています。こちらの肖像画は、斉昭が初めて水戸に帰国した時期に描かれたもので、若き先導者としての「これからやるぞ」というような、そういう改革への思いが伝わってくる肖像です。そして、斉昭は天保の改革と言われる藩政改革を推し進めるんですけど、その中で特に力を注いだのが、天保12年、1841年の弘道館の開設と翌年の偕楽園の開園です。斉昭42、3歳の頃でした。

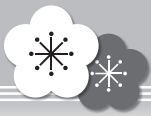
ここで、皆様に斉昭のちょっと多彩な一面をご紹介します。よく斉昭は、ドラマなどでは、攘夷の巨魁として頑固者のイメージがあって描かれることが多いんですが、これからご紹介する斉昭の一面には、きっと皆様も驚かれることがあるんじゃないかなと思います。

まず、弘道館の蔵書目録に洋書の蔵書もあるんですが、斉昭個人の蔵書目録の中にも洋書の蔵書がかなり多くありまして、西洋の優れた技術とか知識っていうのは、積極的に取り入れているんです。また、医学の知識と種痘の実施では、当時大流行しておりました天然痘の予防として、いち早く種痘を取り入れて、領内に計画的に種痘を実施しまして、

13,400人の子どもたちに無料で接種をして命を救っているんです。その際、斉昭は、自分のお子様たちにまず試してから、安全性を示して広めていったということなんです。また、食採録という料理のレシピ本をはじめ、幅広い分野のたくさんの書物の執筆や編纂も行っています。

また、最後の将軍となりました徳川慶喜は、斉昭の七男なんです。七男の慶喜をはじめ、子どもたちの教育に大変熱心でした。斉昭は息子である慶喜に宛てて、百数十通の手紙を出しているんです。その中に、毎朝、黒豆100粒と牛乳を飲みなさいとか書いてありまして。黒豆100粒食べるのは大変だったんじゃないかなと思います。お膳の隅に置かれているのは、農人形ですね。この農人形は、斉昭の手のひらに乗るくらいの大きさの、ちっちゃなお人形をつくりまして。朝夕の食事の際に膳の隅にお供しまして、農民の笠に一箸の御飯を備え、「朝な夕な飯食ふごとに忘れじな恵まぬ民に恵まるる身は」と農民への感謝の歌を唱えてから食事をしたといます。斉昭は、自分の子供たちにも常に農民への感謝の気持ちを忘れないようにということで、この農人形をいくつか作って、養子に出る子供たちに持たせているんですね。そして、斉昭自身も、質素な食事をしたり、質素な着物を着ていたということです。

建築の知識と様々な発明ということでは、斉昭が弘道館とともに作りました偕楽園というところにございます。今日見てくださった方もいらっしゃると思うんですが、好文亭という建物ですが、斉昭自筆の設計図なんです。こちらは模写なんですけれども、実物は水戸徳川家に所蔵されています。自分で書いた設計図なんです。以前、建築の先生に御覧いただいたところ、かなりの建築の知識がないと描けないものだ、とおっしゃっていました。そして、こちらはなんと、斉昭が考案しました潜水艦の設計図なんです。この資料からも、斉昭が積極的に、西洋の技術を吸収しようとしていたことがお分かりいただけるかと思います。この潜水艦は、残念ながら実際には作られなかったんですが、こちらは実際に作られました日本で初めての鉄製戦車と言われる安神車というものなんです。これ、中に人が入りまして、小窓が周りにあって、中から鉄砲で打つみたいな仕組みになってるんです。この絵は弘道館で展示をしまして。ある時、小学生の見学の時に同じご説明を私がしたんですが、そしたら、小学生の男の子から「先生、牛とか人が鉄砲で撃たれ



ちゃったらどうするの?」って言われてまして。はっと思っ、その時、答られなかったんですけども調べて分かりました。こちらは追い鳥狩りっていう軍事演習の絵なんですけど、実践では牛とか人にも鉄の鎧を着せなさいっていう指示がちゃんと出てましたので、斉昭、机上の学問にしないというより、ほんとに実用的なことしかしませんので、実践ではそういうふうを考えられていたということなんです。子供たちの質問には、とても勉強になる質問がたくさんあるんですよ。

ここでいよいよ、弘道館の創設について見て参ります。弘道館はまず、天保9年、1838年に建学の精神を示した弘道館記という文章が斉昭の名で公表されます。翌年の天保10年には、弘道館の敷地が水戸城内の三の丸に決定するんですが、この位置がとても重要ですのでご説明をさせていただきます。こちらは水戸の城下絵図です。青で囲んだところが水戸城本丸、黄色で囲んだところが二の丸ですね。そして、この赤で囲んだところが三の丸で、弘道館が建設されたところなんです。ここを拡大しますと、弘道館が建設される前の三の丸には、この図で見えお分かりいただけますように、12人の重臣の屋敷が立ち並んでいたんです。斉昭は、この重臣の屋敷を移転させ、藩の政治の中心であった水戸城二の丸の目の前にですね、反対意見もあったんですが、弘道館を建設しているんです。斉昭がいかに学問教育に力を入れていたのかがお分かりいただけるかと思えます。また、当時、水戸藩は藩財政がとても厳しかったんですけども、しかも、藩士の教育は最初にお話をしました彰考館で既に行われていましたので、今更お金がかかる学校を立てる必要はないっていう反対意見もたくさんあったんですけども、斉昭は、困難な時期だからこそ優れた人材の育成が急務であるという、斉昭と、斉昭の改革を支える家臣たちの強い意志で創設されたのが弘道館です。大変な時期だからこそ学校を創って人材育成をする、それくらいこの人材育成が大事だということを、斉昭や家臣たちが認識していたということになります。

そして、弘道館は、天保11年に建設が着手されて、翌年の天保12年8月1日に仮開館をします。仮が付いているのは、2年後の天保14年に医学館が開設されていますように、仮会館の段階ではまだすべての施設が整っていなかったんです。学則などの制度も完全にはできていなかったんです。じゃあ、なぜまだ不備な状態で開館を急いだからって言い

ますと、それはやはり、斉昭のなるべく早く藩士に文武の修業を積ませたいという本当に強い思いからなんです。

そして、天保14年には江戸詰めの水戸藩士のために、先ほどの小石川の水戸藩上屋敷の、赤で囲んだところに江戸弘道館が開設されます。斉昭の時代の藩士の数というのはおよそ3,600人と言われてるんですが、なんとその半数が江戸詰めだったんです。で、江戸にも文武研修のための藩校が設けられたということです。これは弘道館だけではなくて、他の藩校でも、やはり江戸詰めの人達のために江戸にも藩校ができたというところはございます。また、同じ年の天保14年には水戸の弘道館に医学館が開設されています。そして、仮開館から約16年後の安政4年5月9日に弘道館は本開館の日を迎えました。

続いて、弘道館の設計についてお伝えしたいんですが、弘道館の設計は、水戸藩資料という資料にこんなふう書いてあるんです。「その設計企画至らざるところなく、自ら図面を制してこれを指揮したるなり」とありまして、斉昭が自ら設計の指示をしています。弘道館の特徴は、まず約3万2千坪、10.5ヘクタールの広大な敷地面積なんです。この面積は藩校としては国内最大規模になります。赤で囲んだところが現在弘道館として管理しているところですので、藩校当時は今の3倍の広さがあったんです。地元の皆様はお分かりになるかと思いますが、藩校当時の敷地内には、現在、小学校だったり図書館だったり旧県庁舎などが建っています。藩校の敷地面積で2番目に広いのは福山藩の誠之館、約2万3700坪ですので、弘道館の広大さがお分かりいただけるかと思えます。

建物の配置にも独特の工夫がされています。敷地中央に建学の精神を刻んだ弘道館記碑を納める八卦堂を置きました。こちら、管理棟である正庁、至善堂を挟みまして、学問を学ぶ文館と武術を修練する武館を配置して、文武一致、文武両道という建学の精神を表しているんです。また、中央の聖域には鹿島神社と孔子廟建物を建てて、神儒一致という、こちらも建学の精神を表しています。ですので、弘道館の設計には、ご覧のように建学の精神を建物の配置で具象化、具体的な形として表現したという大きな特徴があるんです。では、なぜこのような設計にしたかと言いますと、斉昭は学生が日々この広いキャンパスの中を歩くことによって、建学の精神が



自然に身に付くっていうことを目指していたと考えられるんです。これはなかなか素晴らしい設計なんじゃないかなと思います。

そして、最後の弘道館の特徴は総合大学的機能です。弘道館では、文館や武館のほかに、こちら、医学館ですとか専門学科の教場です。ここには、礼儀、音楽、兵学、軍用、歌学の各局が置かれていました。天文台と天文方もありまして、天文方には天文、数学、地図の各局が置かれていました。まさに、総合大学のような機能を持つ学問所だったということです。ここで、せっかくですので特徴的な医学館についてご紹介をします。弘道館の医学館は、仮開館から2年後の天保14年に開設をされています。医学館では一般の藩士と、藩のお医者様だったり町医者とか地方の医者の子どもたちが学んでいました。弘道館の敷地の真ん中の方の南側のとても良い場所に医学館が作られていますので、この位置からも斉昭がいかに医学館を重視していたかっていうことが分かるかと思います。水戸藩では、早くから領内の郷校という庶民のための学校で医者のための医学、医療研修が行われていたんですけども、斉昭は水戸藩の医学教育、医療機関のセンターとしてこの医学館を開設しています。

医学館の主な活動は、まず、医学、医療教育のほか、医学館の中にありました薬園で薬草の栽培と製薬などもしています。また、牛部屋というところで牛を飼育しまして、ここで牛酪という今のバターのようなものを作るんです。これは、栄養価の高いお薬のようなものでした。また、種痘の実施ですとか、当時痘瘡とともに大流行しましたコレラの予防法の普及もしています。また、この医学館では、病人の治療を無料でしてあげたりとか、「山海庶品」という百科事典のようなもの、1000冊あったと言われているんですが、こういうものの編纂ですとか蘭学の講義とか研究など、本当に幅広い分野の、医学、医療が行われています。江戸時代には、数え方にもよりますが、大体藩校の数は260校くらいあったと言われているんですけども、その中で医学館あるいはそれに準ずる施設を備えていたのは40校余りですので、全体の16パーセントぐらいと言われています。ただ、中でも弘道館の医学館は、規模とか教育とか医療活動において、大変充実していたということが分かっております。

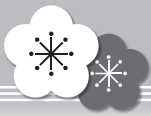
この鳥瞰図で弘道館の全体像を改めて見てみますと、まず、管理棟である正庁、至善堂。学問を学ぶ

文館は、今の大学でいうと文学部に当たりますね、武館は体育学部。調練場は広いグラウンドです。医学館は医学部、天文台と天文方は理工系の研究室のようなところですので、まさに江戸時代の総合大学であったということがお分かりいただけるかと思います。弘道館の創設は、全国の藩校の中ではかなり幕末に近い、遅い時期になるんですが、広大な敷地にこのようにさまざまな学問や武術を学ぶ施設が設けられた弘道館は、近世藩校の一つの完成形態という評価をいただいております。

次に、敷地中央の八卦堂内に建てられました弘道館記碑に刻まれた建学の精神ですね、弘道館記碑についてご説明をさせていただきます。弘道館記というのは、天保8年、1837年に、藤田東湖という水戸学の学者が草案を作成しまして、その後、たくさんの学者が検討を重ねまして、天保9年に斉昭の名で公表されました。弘道館という校名は、弘道館記冒頭の「弘道とは何ぞ。人、よく道を弘むるなり」という言葉から付けられています。この言葉は論語の一節によるもので、人の生きる道というのは、自然にあるものではなく、人が努力して広げていくものである、という意味があります。弘道館では、学問とか武芸の習得はもちろん大事なんですけれども、その前に、何より人としてどう生きるかということですね。人としての資質の向上というのが重視されていたということが、この冒頭言葉から分かります。

また、この弘道館記には5つの重要項目が示されていて、まず、神儒一致は、神道と儒教をどちらも尊び敬うことです。次に、忠孝一致は、主君への忠節と、父祖、先祖代々に孝を尽くすということは根本において一致するということです。3つ目は文武一致、こちらは文武両道です。次の学問事業一致は、斉昭が特に重視したことで、教育の成果が現実の社会の上に活用されることです。治教一致は政治と教育の連携です。この弘道館記には、現実の社会生活や政治に有用な学問と武芸の習得を基本とすべきである、ということが明示されています。

斉昭が、この弘道館記をいかに重視していたかということがわかることがございまして、この高さ3.18メートルもある弘道館記の拓本を、1枚で取れる紙を作らせていることからわかるんです。斉昭は、弘道館記の文章を公表した次の年、天保10年に、大判の紙を漉く製紙所を水戸城下の藤柄町というところに作らせています。こちらがその製紙所の



絵なんです、「斬新な機械」というふうにも資料に書いてあるんですけども、この製紙所で大判の紙が何枚もできます。さらに、弘道館記碑は、領内の真弓山という山から切り出された寒水石という大理石で出来てるんですね。ですので、大きな紙ができて、何枚も石碑から拓本を直接取りますと、石碑がちょっと痛んでしまいますので、斉昭はどんなことを考えたか。大きな紙ができて、拓本何枚か石から取るんですが、石がとても、弱い石なんですね。ちょっと閃いている方もいらっしゃると思うんですが、現寸大の版木を作らせてまして、全く石と同じ、写真機もコピー機もない時代に、全く石碑と同じ文字の同じ大きさの同じ彫刻の版木を作らせるんですね。そして、大きな紙がありますから、何十枚もの拓本を取らせてまして、朝廷をはじめ親しい大名とかに送ったり、また郷校にも配布してるんです。また、拓本という発信のツールによって、弘道館の教育理念を水戸藩だけに留めずに可能な限り広めようという意図があったものと考えられます。斉昭は石碑がとっても大好きですね。たくさん石碑を作って、また、拓本を取って発信してますので、とっても発信好きだったんです。こちら是非、皆様にご覧いただきたい資料です。明治期の錦絵なんです、現在の霞ヶ浦市出身の郷土、竹内百太郎という方が学問に励む姿が描かれているんですが、私はこの絵を見た時に大変感激をしたんです。なぜ感激をしたかと言いますと、こちらに弘道館記の拓本が描かれてるんです。床の間に飾ってあるのではなくて、横長のタンスの上に広げられていますので、百太郎が常に弘道館記の拓本を、身近に置いて学んでいたということが分かります。一生懸命に読んでいたのは大日本史なんじゃないかっていう研究者の方がおっしゃってました。また、こちらの赤で囲んだところに描かれているの、なんだかお分かりになりますか。地球儀なんです。まさに、水戸藩の学問の特徴である国家的視野を象徴しています。

ここからはいよいよ、弘道館の教育について入っていきます。入学制度から見ていきたいと思いますが、弘道館は水戸藩の藩士とその子弟が学ぶ学校です。藩士の子弟は8歳頃から私塾というところで学びますが、この私塾が弘道館の基礎教育を担う家塾と呼ばれるようになるんですね。ご覧いただいているは「青門肖像」という資料で、青山信之という弘道館の初代教授頭取になった先生の家塾で学んでいた子どもたちの似顔絵なんです。こちらは、青門肖

像の最初の部分なんですけれども、ここにとても興味深いことが書いてありました。青山信之先生、大先生が教えているときはみんな神妙な顔で真面目に勉強しているのに、信之先生がお留守で、息子の先生が代理で教えると、みんな賑やかになってしまって収拾がつかなかった、っていうことが描かれてあるんです。遊び盛りの子供たちの様子が生き生きと記されています。青山先生の家塾は1番大きな塾だったので、この「青門肖像」には91人の門下生の顔が描かれているんですけども、こちらの5人の子供たちの顔に黒い点を書いてあるのがちょっとお分かりになりますでしょうか。こちらは、斉昭や医学館のところでお話をさせていただきました痘瘡、天然痘の跡なんです。跡がある子たちは治った子供たちなんですけれども、かなり流行していたことが分かります。

家塾で学んだ藩士の子弟たちは、15歳になりますと塾の先生の申請で指定の日に従時入学となります。15歳ですので、ちょうど高校の入学と同じくらいの年齢なんです。藩校の入学年齢というのは、藩によって異なっていて、だいたい7、8歳が1番多いそうなんです。弘道館の15歳入学というのはほかの藩校に比べますとかなり遅い入学になります。文館では、論語など試験がありましたが、武館は無試験で入ることができました。学生の数は、文館の出席簿などからおおよそ1,000人というふうに推定されます。学費は無料なんですね。弘道館の運営は、領内の久慈郡太田村というところ、今の常陸太田市ですね、そこの周辺の土地を学田というふうに指定しまして、そこからの年貢米が運営費に充てられていました。では、卒業は何歳だと思われませんか。弘道館は15歳から40歳まで登館の義務がありまして、30歳以上及び職務のある者、仕事の者は出席日数が半減される措置もありました。卒業という制度が設けられていませんので、今の生涯学習のような体制がとられていたというふうに言ってよいと思います。

先生方の教職体制も様々な教育科目に合わせて整えられています。文館の教授頭取は今の校長先生にあたりまして、2名それぞれ置かれています。文館にはそのほか、教授、頭取代、助教、訓導などが置かれています。武館には、各流派ごとに武術教師と手副がいました。手副というのは助手のことです。弘道館の武芸の流派というのは、41流派もあったそうなので、結構先生方も多くいらしゃったんで



す。医学館では、教授のほかに、本草局長や蘭学教師などが置かれていました。また、注目いただきたいのは華道、歌の先生とか、天文とか数学などの理数系の先生と、あと、音楽の先生です。皆さん音楽があったって驚きませんか。全国の藩校の中で、ある先生の研究論文を読みましたら、音楽を科目にしていたのは6校だけだったということなんで、弘道館の特徴かなと思ひまして、これからちょっと研究をしたいと思っているところです。他にも専門分野の先生が揃っていますので、本当に総合的な教育が実践されていたんだなということを、この教職体制からも感じます。

次に、教育課程ですが、弘道館では学力に合わせた教育が行われており、学生は文館に入学しますと、まず、講習生と呼ばれて、講習生は何組かに分かれて会読というのを課せられます。会読というのは、数人が集まって書物を読んだり論じ合ったりすることで、この段階の学生は会読生と呼ばれるんです。会読生が一定の学力に達しますと、輪講生に進みます。輪講生になると論語などを順番で講釈していきます。講釈というのは、書物の内容や語句の意味などを説明することです。輪講生のうち、試験によって学力優秀と認められたものが居学生に進みまして。居学生になりますと、なんと弘道館の中に三畳敷の個室が与えられるんです。こちら是非ご覧いただきたいんですが、弘道館の文館の間取りですけども、赤で囲んだところは居学寮と呼ばれ、3畳敷の押し入れ付きの個室が、これ55室もあるんです。こちら、なぜこういう間取りにしているかって言いますと、藤田東湖の意見として、1つの部屋に数十人が集まるとは真の読書ができないので、部屋を細かく仕切り、1人または2、3人で学ぶように、ってということが示されてるんです。ですので、弘道館では自学自習が重視されていて、その教育方針が実現できるような間取り、設計になっていたということがわかるんです。また、文館には寄宿寮もあり、選ばれた学生が寄宿生活をしていました。写真は、朝の時を告げる「学生警鐘」という鐘です。私が文館の間取りで注目したのは、こちらのちょっと黄色で示した空き地の部分なんです。これ学習環境を整えるための、光を取り入れるための、彩光ですね。江戸時代は電気がないので、空き地を多く設けて、光が入りやすいようになっていたんですね。

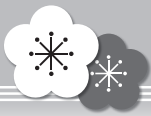
次ですね、教育課程。学業の日課になります。弘

道館では、身分によって毎月の最低出席日数が決められていて、15日間、12日間、10日間、8日間と、4段階に分かれています。身分の重いものほど、登館する日数が多くなっていました。これは、大事な職にあるものほど教養を積むべきであるという方針によるものなんですね。就業時間は、「朝文武」という規則がありまして、午前中は文館で学問を学んで、午後は武館で武術の修練をするという時間割りになっているんです。この時間割から、文武両道のバランスが図られています。

次に、教育内容についてですが、教育科目は学問では儒学、国学、歴史などのほか、科学、天文学、数学、地図などの専門学科がありまして、武術でも剣術、柔術、薙刀、槍術、水術など、ここにもう本当に書ききれないくらいの多岐に渡っています。試験は、年に1回、藩主が隣席をして秋に行われました。1カ月くらいかけるんですよ。文武の大試つていうのがありまして。また、月2回の小試と呼ばれる試験もありました。

ここからは弘道館の閉鎖に入ります。水戸藩は幕末に藩内抗争がありまして、明治元年、1868年に最後の激戦と呼ばれる弘道館の戦いが起こり、文館、武館、医学館などを消失してしまいます。明治4年には廃藩置県により水戸藩は廃止となり、弘道館は全国の藩校とともに廃止となります。明治5年には館内に県庁が置かれ、同年の学制発布によって弘道館は完全に閉鎖となります。そして、明治、大正期の弘道館は県庁や学校の校舎などに使用されました。こちらは県庁時代の正門の写真で、貴重なんです。赤で囲んだところに茨城県庁という看板がかかっている写真なんです。こちらは弘道館の至善堂というところで、仮校舎にしていました。茨城県高等女学校、私の母校でもあるんですが、水戸第二高等学校の女学生が礼儀作法の授業をしているところです。

続いて、大正から昭和期の弘道館についてです。弘道館は大正11年に史跡指定を受けますが、その後、昭和20年の水戸空襲で鹿島神社、孔子廟、八卦堂を消失してしまいます。この昭和20年の水戸空襲では、建物に焼夷弾の火の粉が降りてきまして、危うく燃そうになってしまうんですが、市民の方がもう命がけのバケツリレーで消火活動してくださって、そして、奇跡的に焼失を免れたということで、今も焼け焦げの跡があるくらいなんですね。そして、昭和27年には特別史跡に指定をされまして、



昭和34年から38年にかけて昭和の大修理と言われる修理工事が行われ、翌年の昭和39年には正門、正庁、至善堂が重要文化財に指定されています。

ここからは、弘道館の魅力としまして現在の弘道館をご覧ください。こちらは正門になります。藩主が来館をした時のみ開門しまして、柱には幕末の抗争の際に生じた弾痕が残っています。こちらは正庁です。管理棟にあたる部分です。玄関は広い式台玄関になっています。こちらは諸役会所という来館者のお部屋です。こちらは正庁正席の間で、藩主臨席の下で大試験や諸儀式が行われました。また、特別講義なども行われています。正庁の軒下には、斉昭の書による「藝に遊ぶ」という扁額が掲げられています。文武だけに凝り固まらず、ゆうゆうと芸の道を極めるという意味があります。この「藝に遊ぶ」は、論語の言葉なんですけれども、藝は六藝という、礼は礼儀作法、楽は音楽、射は弓術、弓ですね、御は馬術、書は習字、数は算術の6つを指し、幅広い教養をバランスよく身につけるといふことの大切さが示されています。最初にご紹介をしました渋沢栄一の「村莊小言」、という資料があるんですけれども、こちら、弘道館での講演から約2ヶ月後に栄一が語った水戸訪問の感想がここに記されているんです。ここに栄一が弘道館の感想として挙げているのが、この「藝に遊ぶ」の扁額なんです。栄一は、弘道館には藝に遊ぶと題した大きな扁額があって、斉昭が「六藝に通じる士を養わん」、との、「士を養わん」との精神で建設したのが弘道館であり、「文武礼楽射御書数より銃砲の操練、医術の末に至るまでを、課を分けて藩士とその子弟に教えた」と述べています。斉昭のバランスを重視した教育方針に栄一が感銘を受けていたということが伝わってまいります。

こちらは対試場と申しまして、武術の試験が行われたところです。こちらは至善堂です。ここは藩士の休息の間に、斉昭の七男、徳川慶喜が幼少期に学び、大政奉還後に恭順謹慎をした部屋です。外に参りますと、こちらは孔子廟です。学問の祖、孔子を祀っております。こちらは鹿島神社です。神儒一致という独創的な構成です。こちらは学生に時を告げる学生警鐘です。こちらは弘道館記碑を納める八卦堂です。こちらは、要石歌碑で日本人の歩むべき道が示されています。こちらは種梅記碑で、斉昭が弘道館、偕楽園、そして領内各戸に梅を植えた理由が記されています。本当に斉昭、石碑が大好きですよ

ね。この種梅記碑には、梅は春に先駆けて咲き、詩歌の良い材料となるとともに、梅干しにしますと、薬とか軍事の非常食になるから梅を植えたということが書かれています。また、偕楽園には、先ほども申し上げましたが、好文亭という建物があります。梅は好文木という別名がありまして、梅は文を好む学問の木でもあります。この、学問の木である梅を弘道館、偕楽園、水戸城内の各戸に植えさせて、斉昭は学問教育が領内に広がるようにという思いを込めたと言われています。

ここで、弘道館と偕楽園の関係について見てまいります。斉昭は、偕楽園の創設の趣旨を示しました。「偕楽園記」という文章の中で、孔子の教である「一張一弛」という言葉を用いているんです。「一張一弛」というのは人を弓に例まして、弓はこう、弦を張ったり緩めたりすることで良い状態を長く保てることから、人も厳しいばかりでなく、時には休んで緩めることも重要であるという意味があります。これがまさに、弘道館と偕楽園の関係なんです。弘道館は一張、文武の修練の場です。偕楽園は一弛で、弘道館での文武の修練の緊張や疲れを癒す、リラックスする場として、斉昭の構想では一對の施設、しかも教育のための施設として作られています。弘道館で学問や武術をして緊張したら、偕楽園に行って良い景色を見たり、歌を詠んだりしてリフレッシュして。そして、また弘道館で勉強するという、この緊張と弛緩の相乗効果で学習の成果を上げるってことを斉昭は目指していました。今でこそ、ワークライフバランスが大切という風には言われませんが、斉昭はすでに、緊張とリラックスのバランスが大切であるということをもう知っていたんですね。斉昭の先見性かと思えます。

これまでご説明をさせていただきました弘道館なんですが、東日本大震災で甚大な被害を受けまして、弘道館はこのように建造物のほとんどが被災をしました。全国で地震などの災害で被災された皆様は、まだまだこう大変な状況でいらっしゃると思います。復帰を心からお祈りしております。

こちらは震災当日に撮影した正庁玄関の写真です。土壁が崩れ落ちて足の踏み場もないような状況でした。こちらは弘道館記碑です。今回は特にこの弘道館にとって最も大切な建学の精神を刻みました、弘道館記碑の修復について皆様にお伝えさせていただきます。こちらは震災前の写真です。震災直後、いつもは閉まっているんですけれども、八卦堂



の扉を開いて大きく崩落した弘道館記碑を見た時のショックは本当に言葉になりません。震災前後の写真を比べますと、震災前にも傷が見えますが、こちらは昭和20年の水戸の空襲の焼夷弾です。お堂が全焼してしまいまして、その時に生じた傷なんです。震災では、その傷から下が大きく崩落してしまいました。こちらは破片の採取をしているところです。石碑はあげやという江戸時代の技術だそうですが、あげやという技術でお堂を持ち上げて運び出されました。少しずつ持ち上げているところです。約2メートル持ち上げたお堂から石碑が運び出されるところです。本当に祈るような思いで見守っておりました。無事に運び出されたところです。説明では本当に数分なんです、石碑を持ち出すだけでも1か月以上かかっているんです。

石碑の修復は、仮設テントの中で行われました。解体してみますと、地震よりも空襲でできた傷がたくさんありまして、ボルトや樹脂で接着していききました。何十本というボルトが入れられています。こちらは樹脂を注入しているところです。だんだんと強化されているところです。落下した破片は大小さまざま、そのまま戻しますと、表面がでこぼこしてしまいますので、文字が刻まれた破片は全て石材店で5センチの厚さに板状にスライスされました。アラミド繊維で固めた石の上に、パズルのように破片を並べていき、形が整ってきたところです。文化財の修復ですので、戦災や震災でも粉々になってしまった文字の部分があるんですが、それはあえて文字を作らずに3ミリ下げてオリジナルの部分に分かるようにしてあります。

今回の石碑の修復では大きな発見がありました。震災は決してあっては欲しくなかったことなんですけれども、その修復の過程で分かったことがございました。それは、石碑の構造なんです。こちらは通常の石碑の構造のイメージ図なんです、通常の石碑はこのように上の碑身の部分の下に出っ張りがある、下の台石にくぼみがあって、スポッて入れるのが通常の石碑の構造なのですが、弘道館記碑は高さが3メートル18センチもありまして、重さが8トンもあるんですね。ですので、石碑を持ち出すときに、どれくらい深く中に入っているんだろう、台石の方に、って先生方と見守っていたんですけども、なんと3センチの溝しかなかったんです、3センチ。何で支えていたかと言いますと、これ原寸大で作ってきたんですが、こちらと全く同

じ大きさの鉄製のダボと呼ばれるものです。これ2本、この大きさの2本だけで支えていたことが分かりました。こちらがその写真、手前に写っているのがダボです。こういう、石碑の構造というのは、文化庁の方も、結構世界中の石碑を直している修復の方も、初めてというか、かなり珍しいというふうにおっしゃっていました。奥のダボはすぐ抜けたんですが、手前の方のダボが抜けなくて。修復家の方が、こうやって丁寧に一生懸命抜いてくださったところ、このダボの下の方に黒くてねばねばして匂いのするものが付着していてなかなか抜けなかったんですけれども、何だと思われませんか？ よく「漆」とか「にかわ」とかおっしゃる方がいらっしゃるんですね。時々「納豆」という方もいるんですが、違います。道路とかに使われるものなんです。ピンと来た方もいらっしゃると思いますが、天然のアスファルトなんです。江戸時代は「土歴青」と呼ばれていました。接着剤と防サビ効果があるそうなんです。その天然のこのアスファルトの粉を、「弘前大学に送ってください」と文化庁から言われて、慌てて弘前大学にお送りしたところ、分析の結果、秋田県の豊川産だっていうことも判明したんです。今の技術もすごいですね。秋田県豊川は、今も原油とかアスファルトの産地と伺っています。齊昭は質のいい土歴青が取れるというのを知っていて、わざわざ遠くから取り寄せて塗っていたということです。

こちらは、最終段階なんですけど、先生と一緒に本当に小さな破片を拓本の上で、位置を確定しているところです。1つ1つ、約1か月くらいかけて探していききました。こちらは、確定した破片です。現在、確定できてない破片がこちらの7つだけあるんですが、もう本当に文字があるかないかの7つだけ。写真では大きいですが、こんなに、もう本当にこんなに小さい2、3センチのものです。これだけわからないだけで、他は全て戻していった。こちらは、修復が完成した石碑をお堂の中に入れるところです。お堂は、一旦、石碑を持ち出してから降ろして、また、石碑を入れるために持ち上げています。おかげさまで弘道館記碑は約1年をかけて修復が完成しました。修復前と後の写真を比べますと、本当に感慨深いものがございます。弘道館全体はですね、約3年をかけまして、平成26年3月に全面復帰をしております。

そして、震災復旧の翌年、平成27年4月に弘道館と偕楽園は近世日本の教育遺産群、学ぶ心、礼節



の本源として、栃木県足利市の足利学校、岡山県備前市の閑谷学校、大分県日田市の咸宜園などの構成文化財とともに日本遺産に認定をいただきました。現在も世界遺産を目指して推進事業が進められています。栃木県足利市の足利学校は、中世に創設された日本で最も古い学校なんです。また、岡山県備前市の閑谷学校は、日本最古の郷校という庶民のための学校です。そして、大分県日田市の咸宜園は日本最大規模の私塾です。私たちの日本遺産、世界遺産のテーマは近世日本の教育遺産群ということですので、この4県4市だけではなくて、日本全体の江戸時代の教育の素晴らしさがテーマとなっております。それは、江戸時代の武士だけでなく、多くの庶民にまで見られた教育水準の高さです。江戸時代に日本を訪れた外国人は、冒頭でもお話をさせていただきましたように、庶民にまで浸透していた読み書き、日本人の識字率の高さに驚嘆をして自分の国に報告をしています。また、和算の水準の高さでは、江戸時代には塵劫記という算術の本がベストセラーだったそうなんです。江戸時代の学びは人々の楽しみ、喜びであり、自発的な学びが江戸時代の教育の力であったということです。水戸市の世界遺産登録推進協議会の専門委員で、「江戸の教育力」という本の著者である東京学芸大学名誉教授の大石学先生に、数年前に弘道館でご講演をしていただいたことがあるのですが。その際に、大石先生がお話くださったことがとても印象に残っております。

大石先生はこのようにお話してくださいました。250年以上もの間、国内でも外国とも戦争をしない、世界でも稀に見る平和を維持した底力は教育である、との思いに至りました。江戸時代には、藩校の下に郷校という地域の学校があり、さらに寺子屋がある、という多重構造の教育制度がありました。現代は小中学校に行かせることは義務ですが、当時は寺子屋に行かなくてもいいわけです。家にとって子供は貴重な労働力でもありました。それなのに、多くの子どもたちが寺子屋に通います。お金がなくても、子供に授業料代わりの野菜を持たせてでも通わせるわけです。それがなぜなのかという疑問は、実は今でも解けていません。おそらく、単に、経済的な損得や出世ではないと思います。そう考えると、江戸時代は、人々は学ぶことの楽しさ、大切さを知っていた、意外と素敵な時代かも知れない。戦争はせず、教育が盛んな時代、ということアピールしたいと思って書いたのが「江戸の教育力」です。

大石先生がお話くださったように、約250年間続いた江戸時代の平和の基礎には、この教育の力がありました。ユネスコ憲章の前文には、戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない、という素晴らしい言葉があります。まさにこの平和の砦は教育によって築かれるものです。弘道館をはじめとする教育遺産は、心の遺産とも言われています。ぜひ、皆様のお近くにもある藩校や郷校、私塾などの教育遺産を訪れていただきまして、江戸時代の教育に想いを馳せていただき、心の遺産を大切にしていいただければと思います。

皆様に熱心に聞いていただきまして、本当にありがとうございます。ご清聴いただきまして、本当にありがとうございました。



第1分科会 講演2

もっと学校・教育が みんなに開かれる未来を展望する

講師 茨城大学教育学部 教授 加藤 崇英 氏

〈講演要約〉

ご紹介いただきました、茨城大学の加藤と申します。よろしくお願いします。

生まれは東京で、茨城県で育っています。昔、莒崎村っていうところがあったんですけど、今はつくば市っていう、かっこいいところに統合というか入ってまして。そのままずっと、つくば市内で育っていました。大学、大学院教育の制度とか、教育の経営とか、教育の行政ということで。ちょっとあまり、皆さん馴染みがないかもしれません。最初、山形大学に赴任しまして、その後、国立教育政策研究所ってのが文部科学省にあるんですけども、そちらに赴任しまして。地元っていうか、まあ、私にとっては、つくば市っていうか、莒崎村は、ここから見ると県の南の方なので。こっちの水戸は、そんなに、頻繁に来ていたわけじゃないんですけど。そういう意味では、茨城県に戻ってきたっていうような感じになりました。

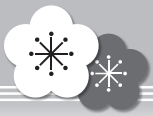
今日は学校教育の研究者としての立場。それから、私にとってはこれから高校生になるであろう子供たちの保護者として、それから、これからの子供たちのために、何ができるか、大人の1人として考えていることをお話しさせていただいて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

すごく大きな題名にしちゃったんですけども。私自身は地味なところでやっていて、むしろ学校ってすごく地味なことやっているんですよ。でも、その地味なことがすごく大切。まあ、もっとそういうのが社会に認知されて、メディアに取り上げられて、っていうふうになればいいなと思うんですけども。自分の研究とか、自分の考えるところから、未来を展望というか、これからの学校教育のあり方をお話しさせていただければというふうに思います。

概要としては、みんなに開かれるっていうこと

は、社会全体1人1人の子供のために、じゃあその子供たちがどうすればいいのか。子供が自ら主体的に、能動的に、何を学んだらいいか、とか、どういうふうになったらいいか、っていうことを探し、あるいは選び、自分から学ぶことができる。これを、みんなに開かれる教育の在り方と私は考えています。その意味では、もっと子供本位の学校教育にしていける必要があるかな。まだまだですね、足りないっていうふうに思います。長らく教育を提供する側の論理っていうんですかね、与え込む、あるいは教え込む、ですね。ようやく最近、教育を享受する側っていうか、学習する側の論理っていうのが出てきましたけれども、まだまだ足りなくて。そういう意味では、享受する側っていうんですかね。子供の側の考えをもっと優先して。最近では、マッチング、なんかちょっと怪しいアプリとか増えちゃって、そっちの危険も感じますけども。マッチングの課題が教育でもとてもあるかなと思いますし。間をつなぐ人、例えばコーディネーターだったり、それはカウンセリングでもあると思うんですけども、今までそういうことを学校の先生が抱え込んでしまうようなことになってしまったところを、もっと変えていく必要があるかな、って思いますね。

先ほど、小坪先生からお話があった藩校、いかがでしたでしょうか。江戸時代は、庶民は寺子屋、エリートは藩校っていうふうには、教育は開かれていたけれども、身分社会、身分制度を前提に開かれていたということだったと思います。それが、明治時代、近代的な国を作って、近代的な学校を作って、っていうことで。大きく2つテーマがあって。1つは、国民形成。1人1人をしっかり基礎をつけて育てる。もう1つは、エリートの人材養成。大学を作ったりとか。だから、江戸時代から明治になって、急いで小学校とエリート教育と、っていうふうに進めていきます。だから、農業を引っ張って



くる、くれる人、商業を引っ張ってくれる人、工業を引っ張ってくれる人、外国語を教えてくれる人、お医者さん育ててくれる人。学校の先生を育てる場所。いろんなところで、例えば、お雇い外国人なんていう言い方をして、外国の指導者なんかもどんどん連れて行ってですね。

中学校、昔の旧制中学校は今の高校に繋がるが、中学校が出来て。それから大学に入るために旧制高等学校が出来て、っていうふうになってきます。今見ていただいているこのラインは、基本男子のラインなんです。だから、昔の中学校ってというのは、男子の中学校ということです。明治6年ぐらいの時は、男子が39.9%、女子が15.4%っていうこと、就学率。明治12年になっても、男子は58.2%、女子は22.6%っていうこと。なかなか、小学校に行くっていう子たちも少ない。

日本の歴史で言うと、それが決定的に変わるのが、1900年。皆さん、私と大体年齢同じとか、ちょっと上ぐらいでしょうから、昭和はすぐ換算できますよね。私も、1970年、昭和45年。皆さん、令和とか平成とか、大丈夫ですかね。明治はね、明治何年って、ぱっと西暦でなかなか換算難しいですよ。ぜひ、1900年、明治33年って、キリがいいのでね、覚えていただきたいと思います。この年から小学校の授業料を無償化するんです。それまで小学校って授業料取っていたんですね。だから、女子は行かせないとか、長男だけ行ってりゃいいんだ、みたいなところがなかなか抜けきれなくて。この1900年、明治33年から学校にどんどん通えるようになってくる。

今度は、じゃあ中学校は男子だけ女子のための学校作ろうってことで高等女学校。名前が高等女学校って言うから、もっと大学みたいな感じに聞こえてきますけども。位置づけとしては、この男子の旧制中学校の同じ、横みたいな感じですね、年齢的には。そうすると、すぐ社会に出ていく人のために実業学校。あるいは、学校が増えていって、学校の先生が足りなくなってくるので師範学校っていうふうに作ります。ちなみに、師範学校ってというのは、授業料取らない学校なので、次男坊とか優秀な子が通うふうになっていた。こうやって、それぞれの、まあ経済的なものとか必需的なもので、違うふうに進んでいくように、横に細かく細分化されていきます。こういうのを副線型って言っています。こんなふうになって、発展をしていきます。

ただ、戦前、戦中、戦前って言った方がいいんですかね。昭和15年の段階でも、旧制中学校への進学率は全体の7%、高等女学校へ含めても、約25%です。小学校以上進むのは4分の1っていうことで、さらに狭められていくっていうことです。私の個人的なこと思い出しても、自分の祖父は小学校卒で。なんか、商い頑張ったみたいだね、そう聞かされた記憶があります。こうやって、初等教育、中等教育、高等教育っていうふうに、成立していきます。大体、イメージとしては、明治に入って、小学校が6年間で義務教育ってというのが、明治の最後の頃に確立されます。ですの、今日、先ほどの小坏先生の藩校から、明治時代45年間、ほぼほぼかけて、まずは小学校がきちんと作られていったというのが、学校の一番土台だったと思います。

そうやって学校の土台ができて、戦後、改革が行われて。皆さん、日本国憲法ができて、今、ちょうど政治がいろいろ動いていて、憲法改正がどうか議論が出ているところですけれども。

じゃあ、今の学校って子供本位なのか。確かに、戦争が終わった後に、国民の主権ということ国民中心で日本の仕組み作って、教育の仕組みも作って、ってなりましたけども。でも、学校教育、じゃ誰が受けるんだって言ったら、国民は国民でもやっぱり子供なんですよ。憲法には、国民、教育を受ける権利ってというのは子供とは書いてないです。国民って書いてあります。でも、やっぱり子供なんです。ですの、子供本位に本当にできてんのか。

最近でも、まだブラック校則なんて言ったりしてるじゃないですか。私自身は、今のつくば市内の私立の学校に行ったんですけども、公立の学校に行くと、男は丸坊主、私立に行くと伸ばせる、みたいなね。親は「勉強しろ」みたいな感じ。子供時代の自分を思い出すと、坊主になっちゃうのか、髪の毛伸ばすのかみたいな、そんなようなことで悩んだというか、子供なりに悩んだ、っていう記憶があります。もっと、いずれにしても、そういう子供本位にやっていく課題があるんじゃないかなっていうふうに、思います。

ちょっと大学の紹介をさせてください。この近くに私の所属する茨城大学があります。そして、教育学部がございまして、教育学部では、主に小中学校の先生、当然高校の先生にもなっています。見えにくいかもしれませんが、1番右端の方が、国語、社会、英語、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技



術家庭科っていう各教科の先生方の並びですね。1番下のところが、特別支援コースと、それから養護教諭って保健の先生を育成するっていうコースで。教育学部は1学年275人掛ける4学年っていうふうに基本定員があります。それから、私が主に担当させていただいているのは、大学院っていうところで。教職大学院ってちょっと耳慣れないかも知れませんが。区分けで言うと、専門職学位課程って言って、種類としては、例えば法科大学院って聞いたことないですか？ 法科大学院とか会計の大学院とかっていうのと同じように、教職の大学院ということで。学校の先生、さらにレベルを高めてください、っていうような大学院。今、日本全国の教育学部のところには、この教職大学院っていうのが出来ています。私は、学校運営コースっていうところを担当していて、これから校長先生、教頭先生になっていくであろう方の指導をさせていただいております。

今の学校の課題、大きく2つ両立させることだと思います。一つ目は学力向上と生きる力の育成。二つ目は不登校やいじめに苦しむ子どもたちへの支援。二つ目の方が非常に重要になっています。子供たちの数がどんどん減っているのに、不登校の子供の数はどんどん増えている実態になっています。今年、年明けのNHKスペシャルでも、この不登校の話が1番メインで教育番組が作られていました。私の授業のところで恐縮なんですけれども、私はこういう学校経営とか、教育の制度と経営とか、大学院ではスクールリーダーシップの理論と実践を担当しています。管理職向けでは、学校マネジメントとか働き方改革、それから、今各学校がカリキュラムを工夫するっていうのを、カリキュラムマネジメントっていう言葉で言っています。まだ教育関係者の方々の興味範囲、仕事の範囲ですけども、是非PTAの皆様にも、このカリキュラムマネジメントって今学校が取り組んでいるんだっていう、キーワードみたいなのもって知っていただければと思います。

あと、「チーム学校」が今スローガンになっています。文部科学省で「チーム学校」っていうものの答申が出た時に、私もその答申を作る作業部会の委員だったんですけども、学校の先生1人に抱え込ませないで、いろんな方いろんなスタッフにチームになって子供たちを支えようっていうふうに、今はだいぶ変わってきています。今日ビデオの映像でもと思うんですけど、今、やはりこう著作権のことも

あったりとかして。ただ、授業ではなるべくビデオで観ています。なかなか今の学生さん、文字から入ってくるのが難しくて。やはり映像の力っていうんですかね、そういうので1回共有してからじっくり文章を見るみたいなことをやっています。大体どういいうビデオ観るのかな、なんていうと、校長先生がリーダーシップを発揮しているビデオとか、あと、「PISA」っていう、ピザとも言いますが、国際学力調査って皆さんご存じでしょうか。そういう学力に関わるビデオとか。あと、学校の先生がこういう授業改善やっているよっていう、小学校だったり中学校だったりメインですけども、ということですね。

それから、いじめから学級崩壊、学校への不信感増大するっていう、ちょっとネガティブな話あるんですけども。そういうのもビデオ観て考えてっていうふうには、なるべくビデオを観て、イメージを共有してから、活字に入っていくっていうふうにはやっています。学生と色々議論して、例えば、こういういじめが発生するんですね。そうすると、生徒の関係が悪化して、生徒、保護者、教師間で不信になって、じゃあ防止対策を強化する、校則を強化する、決まりを強化するみたいなことをやると、また、どこかでいじめが発生し、ぐるぐる回っちゃう。あるいは、生徒が荒れる。生徒が荒れてもやっぱり関係は悪化して。荒れないように、あるいは防止対策をしすぎてという場合に指導が萎縮しちゃうとまた荒れちゃう。防止対策を強くしてもまた荒れちゃう。もう、荒れちゃうと先生たちが我慢できなくて体罰も起こってしまう、みたいなことで。実は、私も調査でも、いじめが起こっているであろうところでは生徒が荒れている、生徒が荒れているっていうところでは、見えないところでいじめが起こっている。こういう負の連鎖みたいなものがある。こういうものを一時的に止める。校則とか指導という形でね。一時的に強く止めるっていうことについては否定はしないんですけども、それだけだとなかなか不信から解放されないっていうことがあります。重要なのは、学校不信から信頼に切り替えるっていうことです。そういう意味では、学校不信を止めるのは、実は校則を厳しくしたり指導を厳しくしたりという、本来の意味では防止策ではないですね。そういうこともやらなくちゃいけないことがありますけれども。

やはり本質的には、学校が勉強する場、もっと優



しく学ぶ場、いろんなことを考えたり色々話ができる場、ですね。それを子供たち本位にしていくっていうことをしない限りは、いくらぎゅうぎゅう締め付けたって、っていうことです。私たち自身が、私たちの世代自体が、もうそれは80年代とか嫌というほど経験してきているはずなんです。でも、まだ、なんかだいたい変わりましたが、少しそういうのが残っているようなところもあるんです。例えば、部活なんか、たまに見るとそういうのがあって。でもなかなか保護者の立場では言えなかったりします。

やはり、学校の基本、本質。みんなで学ぶ、語り合う、学び合う、そういうところから生まれる関係性にこそ本質があって。そういうのじゃなくて、けなし合ったり、引っ張り合ったりってところから色々問題が起きてしまう。これ、先生方分かっているんですね、基本的なメカニズム。分かっているんだけど、色々お忙しかったり大変だったり、先生方もいろんな考え方みたいなのが、お互いに、うまく共有されずに。ですので、信頼を作っていく取り組みをやったりやっていく必要があるっていうことです。今、いじめが起きているところは生徒も荒れて、ちょっとした体罰みたいなことも起こってみたいなことをお話ししましたが、やはり、基本的には信頼、協力の関係で不信を断ち切りましょう。学校に関わるすべての人たちの主体的な活動、が求められるんだと思います。

そういう意味では、やっぱり学校は授業なんです。それを支えるカリキュラムなんです。授業っていうと、今、皆さん一斉のこういう形で聞いていただいている訳ですけども、むしろ、これからの学校って、一斉授業的に聞くような場面を少なくして、もっと自由にいろんな場所で学んで、いろんな形態いろんな形式で学んで。それが学びなんだよ、っていうふうに授業やカリキュラムでしっかり位置づけていく。だから、保護者も先生たちの授業参観行って、うちの子ちゃんと座っているかしらみたいな、昔の基準で考える授業じゃなくなっているんだよっていうのを一緒に理解して、そういうところを変えていく必要があると思うんです。ね。

そういう意味では、学校だけじゃなくて、我々保護者も学校がどう変わっているのかっていうのを一緒に考えて考える。もちろん、その保護者、自分もですが、もうちょっと頑張ればいいんですけども、妻に任せちゃうみたいな感じのところもあるので、

大きなこと言えませんが、やっぱり我々にもちょっと余裕がない。その学校だけじゃなくて、我々の働き方改革っていうんですかね。そして、もっと学校に足を運んで、先生方と色々話して、っていうことも必要なのかなと思います。つまり、授業やカリキュラム、それからそれについて先生たちで理解し合う。子供たちの関係が良くなる。子供たちの関係が良くなるから、ますます信頼も高まり、授業やカリキュラムが高まっていくっていうふうにする。この力が、いじめとか生徒の荒れとか体罰とかっていうのを、必然的、相対的に関係として小さくして、必ず全部なくなるとは申し上げませんが、メインの、子ども本位に学ぶ力がやっぱり重要、そのために指導や支援のあり方を改善する。

関係を構築するために、私はマネジメントをしっかりする。アカウントビリティは説明責任と言います。コンプライアンスは法令順守と言います。やはり、学校も説明責任をしっかり果たす、法令順守をしっかり果たすっていうのは、もう一般企業と同じなんですよ。いろんな企業の不祥事もニュースになっていると思います。学校だってそういう意味では同じです。

そして、子どもたちにきめ細やかな支援ですね。最近の、さっきの「チーム学校」ということで言えば、スクールカウンセラーを増やしてきました。あと、スクールソーシャルワーカーを増やしてきました。それから、学校と地域の関係を取り持つコーディネーターも増やしてきました。でも、まだまだそういう間を取り持つ人が少ないです。こういう間を取り持つ人が少ないとどうなるかっていうと、それ、全部学校の先生が抱えなくちゃいけない。そうすると、結局、「俺の言うこと聞け」みたいなことが増えちゃうわけですよ。だから、各方面、各領域でどういう問題があるのかってちゃんとはっきりさせて。じゃあ、ここの問題から手を付けていこうって、優先順位ですね。そして、具体的な方策、取り組みを作って、そして取り組んで、1つ1つの問題を解決して、断ち切っていくんです。これ、別に学校じゃなくて企業、社会組織と同じだと思うんです。それを日本の学校でもやっぱりやっていくべきだ。

この2000年代は、まず学校経営はどのようにあるべきかって言うと、単純に言うとイギリスモデルの影響が強かったです。イギリスモデルの影響が強くて、校長先生に裁量を与えて校長先生の力を強く



していく。けれども、校長先生の力が強くなりすぎるのも困るので、イギリスには学校理事会っていうのがあるんですけども。日本の学校は、もっと地域や保護者の声を入れようと、コミュニティースクールっていうのが、今増えています。こういう校長先生の力を強めて、それから地域との関係を作って、コミュニケーションを取って、コミュニティースクールっていうのを進めていくっていうのは、言ってみれば経営を開いて、学校の自由度を高めていく。このように学校を進めてきた方がいいんだ。こうなってきたんだけど、まだまだ子供本位じゃないと思っています。

それから、やっぱり学力が非常に重要になっていて、学校の中では。特に、そのOECDのピザっていう国際学力調査の影響。その中で、リテラシーって、単に知識、情報っていうんじゃないで、それを使える力、それを集めて加工して、そして色々デザインできるような力っていうことをリテラシーって言っています。学習指導要領ができて、皆さん、生きる力っていうのを聞いたことあるかと思うんですけども、少し、ゆとり教育っていうのが批判されて、修正するときに、こういうリテラシーとかが影響を受けました。いずれにしても、どういうことを学ぶのが必要なかっていうのを、もっと学校と、保護者の方もなかなか学校の先生のところにも口出しているか、もっと学校ではこういうこと学ぼうよみたいなことを、もっと話すべきじゃないかなって思っています。特に高校。学校の先生だけではなかなかやれないようなことも、保護者の協力でどんどん、今日会場にいらっしゃる方も、学校にゲストティーチャーみたいな感じでいらっしゃっている方もいるかもしれません。どんどんそういう形で入って行って、ということですね。

校長先生のビデオも結構観るんです。100マス計算の陰山先生の学校とか、麹町中学校って、最近当たり前をやめたって本、ご存知ですか。工藤校長先生のビデオとか。あと、浜之郷小学校とか、ぜひ機会があったら観ていただきたいと思います。NHKの、八王子拓真高校の校長先生が、子供たちがドロップアウトしないように頑張っている学校ですね、観ています。それぞれのタイプで異なる校長先生なんですけれども、信念あって、学校の環境を変える。ですので、だいたい子供本位にするために、校長先生中心に動けるようになってきたんですけども。なかなかまだ全部の校長先生がみんなそうなる

わけではなくて。でも、もっと保護者がそういうのを後押ししてあげる。私は、自分の授業でこれから先生になる学生が、そういう保護者が来ても、「保護者が来ちゃった」ていうふうに怯まないように。今、ブラック校則とか、ブラック部活動っていうのが1番怖いとか心配だって、これから学校の先生になる学生さん、そう言ってるんですけど。ちょっと前は違うんですね。ちょっと前は、親が怖かったんですね。なぜかと言うと、モンスターペアレントっていう言葉が流行った時期があるじゃないですか。あれの影響で、学生さんがそういうの怖がって、っていう随分相談された記憶があります。

いずれにしても、子供の主体性がどういふふうに生まれるとか、授業における主体性はどうかとか、そのとき教師は何をしなくちゃいけないのか。こういうビデオを通して学生と議論して。もちろん、私も現場の学校にだいたい入っています。でも重要なのは、対話を重ねて、その対話でもって信頼関係を作って取り組みをしていくんですね。ただ、対話が重要だと言っても、自分の意見ばかり押し付けたりとか、自分の意見が通らないとへそ曲げるみたいなことは、本当にいけないことです。やはり対話というのは、お互いの意見、お互いの考えを受け入れて。それを、じゃあどうしたらうまくいってというふうに考えていく必要があるかな。まだまだ小学校や中学校や高校も、そういったところの取り組みが必要になっていふふうに思っています。

インターネットが普及して、日本もこれからどんどんインターネットが普及したらみんな勉強するようになるぞ、とかね。学校教育で取り入れられるようになるぞ、これは日本の教育変わるぞって。研究者駆け出しの頃でもあったので思ったんです。思ったんですが、全然、ぱったりだったっていうふうにはっきり言えます。これは一体なんなんだろうって思ったんですけども、やはり学校のその教育の内容、あり方がなかなか変わらなかったっていうのが1番大きいのかなと思います。こういうものが必要だって言っても、結局黒板で教える、教科書を使って教えるっていう、なかなかその型から抜け出せなかった。今ようやくそういうものが抜け出せた、ですね。

私がスペインに行った時っていうのは、もちろん英語もあるんですけども、そのスペイン語っていうのがわからない。スペイン語のインターネットの記事を見ても、辞書を引き引きやっていました。今、



どうですか。インターネットでやっても、どこの言語も日本語に訳されるし、日本語で訳された外国のニュースがもう次の日には入ってきちゃうんですね。何が言いたいかって言うと、もう私たちは勉強しようと思わないと、外国のニュースなんかは、口開けてりゃ、日本語のニュースとして日本語に訳されてきちゃうんですよ。だから、勉強したいって思う前に中身がわかっちゃったりするんですね。だから、ある程度の年齢になると、もう自分で勉強しようと思わなくても、どんどん情報だけは入ってきちゃう。それを思ったのは、茨城大学に来るちょっと前なんですけども、これはかなりまずいなって思いました。私たちが今、勉強したい、子供たちが、学生の人たちが勉強したいって思って、これ学びたいと思って、これはどうしてなんだって思っても、あたかも答えがあるかのように、どんどんこちに情報が届いちゃうんですね。だから、本当に最初に学びたいとか、本当に自分で会得したいとかって思った時に、その環境っていうものを私たちは大事にしてあげないと。「はい、座って聞いてなさい」だと、結局スマホでどんどん情報を得るだけ、与えられるだけ。情報端末もただ慣れるだけっていうような。いくら主体的にやりなさいとか、能動的にやりなさいとか、自分で色々探してやりなさいとかって言ったって、そんなことしなくたって、教えてくれるじゃないか。そんなことしなくたって、口開けてりゃ食べ物放り込んでくれるじゃないか。一気にこうなっちゃったですね。インターネットが普及して、自分たちが勉強しよう、自分たちでやるうっていう前に、一気にこう切り替わっちゃった。変な言い方なんですけど、携帯電話もないような昭和を過ごして、インターネットが出てきたぞとかってやっている我々と。今、生まれて鉛筆持つ前にタブレットで遊ぶ子供は、全然感覚や認識が違うんです。

今、教育の政策で動いていること、学びの多様化がどんどん進んでいます。だからみんな同じものを学ぶ、みんな同じ制度のもとで学ぶっていうわけじゃなくなってきているんです。さっき明治のところで副線化って話をしましたね。あれはどちらかというと、男子か女子かとか、経済的に恵まれてるか恵まれてないか、っていうところだけの切れ目だったわけなんですけども、今はそこに、その子供の個性とか、子供の学びたいこととか、学校の特徴とかっていうのも関わって、どんどん学びの多様化が進む。

いろんなところで学べるようにはなっているんですけど、自分でそういう学びが得られるか、自分で中身を選べるかっていうと、そうならないところにやはり問題があるんですね。

学校教育は多様化になっているんですけども、多様化していくと今度はどういう問題になっていくかっていうと、何をもって学んだっていう、学びの認証、サーティフィケーションっていうんですかね。今まで席に座って、黒板を見て、何時間あの先生の授業を耐え続けてね、テスト耐え続けて、それで学んだってやったわけなんですけども。これからは極端なこと言って、寝転んで、子供たち同士、どうなってる、こうなってるって言ってやって。それでなんか作り上げたとしても学んだって認められるような仕組みを考えていかないと、どんどん子供たち学校来なくなっちゃう。自分の関心とか、自分の夢とか、自分の希望みたいのをつないでいってあげてことをまず優先にしなくちゃいけないし、何をもって学ぶ、学んだとするかっていうことがとても重要になってっていうのは、特にコロナ禍で学校に行けない、家で勉強する、オンラインで勉強する。どういう課題をする。それを何を持って学んだとするかですね。じゃあ、そもそも学校行かなくていいの？ 学校に行って勉強っていうことじゃなくて、家でいればいいんじゃないの？ カフェテリアでいいんじゃないの？ そういうふうな感じに、いろんな疑問が出ちゃう、いうことですね。そういうふうに、コロナ禍は、学校の学びは何なんだとか、学んだってことはどういうことなんだとかですね、それによって、単位を認めるとか、卒業を認めるとかっていうことはどういうことなんだっていうことを、改めて問うことにもなりましたし、そして、インターネットを活用して、オンラインを活用してっていうことを前倒しさせたっていうふうに言うことができると思います。

今、私が言ったようなことに、国としてこう答える、政府としてこう答える、学校としてこう答える、教育委員会としてこう答えるっていう、いろんな方針を示している学校教育の総称っていうんですかね。それを、今は、令和の日本型教育っていうところでまとめています。文部科学省のホームページとかね。あるいは、教育政策なんか。検索かけてみてください。もう、すぐ出てきます、令和の日本型教育。

でも、令和の日本型教育ってなんなんだろう。そ



の中の1番重要な答申が、令和の日本型学校教育の構築を目指して、すべての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと共同的な学びの実現。

それから教員確保のための環境整備。今日のニュースで教職調整額を、4%から10%、13%にしようってニュースになっていたかと思います。そういった学校の先生の待遇を含めた環境整備っていうこと。

皆さんから見て左側の方に、指導の個別化って書いてあり、その隣に学習の個性化。この2つを個別最適な学びって言うふうに言っています。教師の視点では、個に応じた指導、個別の指導、個別の個に応じた指導って言うても、その能力とか、到達度とか、習熟度とか、そういう力でもって個別化するのを、まあ、指導の個別化と捉えましょう。一方、さっきからお話しているような子どもの関心、こういうことを学びたい、こういうことに取り組みたい、いうふうなところを大事にするって言うのを、そういう意味での個別のって言うのを、学習の個性化って言うて、個別最適な学びって言うても、この指導の個別化って言う視点でもって、しっかり標準的な力がついている。一方その子の個性、その子の自分の望みの生きる力って言うものを、学ぶ、身につける、そういう機会を得られる、そういう教育の、学習を、そういうふうにつまみ、個別最適な学び。こういうものを、1人1人の子どもたちにしっかり計画してあげようよ、って言うのが1つの流れです。もともとそれは、特別支援教育のプログラム、個別にプログラムを作るんですけども、それと発想としては似ていますね。すべての子供たちが、もっと個に応じたプログラムなり、個に応じた学びの支援、今まで通り受験みたいなね、ていうところを頑張る子もいれば、部活頑張るとか。それとか、あるいは自分のやりたい趣味とか、自分のやりたい特技とかって言うのを伸ばすって、いろんな子供がいるけれども、何か型にはめるんじゃなくて、それぞれの個別のプログラム、そういうものにつながるような学びって言うことですね。

ただ一方そうやって学びが個別化していくと、やはり社会で生きていく、協力して生きていく、そういうことをしっかり身につける場所としても、学校は重要なところなので、それを学ぶ場所として、皆さんから見ていただいて、右側の方ですね、共同的な学びって言うふうに位置づけています。そこはむしろ、先生方以外の地域の方々、いろんな専門家、

それから保護者、PTAですね。保護者が入って、もっと子供たちの多様な学び、多様な経験というものを保障していこうよ、作っていこうよって言うことです。

こういうふうには、学びって言うても、個別最適な学び、共同的な学びですね。こうやって一斉に喋って、学んで聞いて。これはみんなやってるから共同的なのか、PTAの方々も、自分の好みに応じて聞いているのかな、個性化のかな、こういうことを聞いたら、なんかPTAとしての標準のかな、みたいな。

個別最適な学び、共同的な学びなんて細かく言わなくても、みんな集まって授業するみたいなのところをつまみ、もっと内容とか、場面とか、1人1人の課題とか、そういうものに応じて、その場面場面、内容、課題をしっかりと、どういうものなのかって言うのをつまみ、共同的な学びを実現するような場、それから個別最適な学びの指導の個別化を実現するような場。つまり、ちょっときめ細やかに考えていかなきゃいけないですね。「はい、国語学んどいて」「はい、数学学んどいて」なんて単純な話じゃなくなってくる。何が大変なのかって言うのと、そういう授業計画が大変になり、そしてそういう授業が成り立つカリキュラムを作るのが大変になってくるって言うことなんです。そういう意味では、これからの教育は手間を惜しまない授業の設計なりカリキュラムの設計。それを、先ほどちょっとお話したカリキュラムマネジメントって言うので実現していこうって言うふうに言っていて、今、学校の先生たちはそういうものに取り組んでいます。

何をどれくらい学ぶのかって言うものの中心は、学習指導要領が決まってるって言うのは、もちろんこれは国の中心です。こういう基準がしっかりしていることが、日本の学びの水準、きちんと国が、あるいは公的機関がしっかり保障するって言うことだと思えます。ただ、学校ごとに見ると、そのカリキュラムとか授業時数の特例的な学校が、少しずつ増えているんです。昔からあるのは研究開発学校か、最近だと教育課程特例校って言うて、特別の科目を設定したりとか、授業時数をちょっと入れ替えてって言う授業時数特例校とか。それから、不登校の子のために、不登校特例校って言うものを作っています。言葉としては学びの多様化学校って言う言い方をしています。いくつか有名な学校があって、



岐阜県に草潤中学校っていうのは多分1番有名な不登校特例校の中学校かなと思いますけれども、そういう学校単位の不登校特例校だけじゃなくて、ある中学校の分校。分校っていうと、昔は山間部とか島とかね、そういうところの分校なんて言っていましたけれども、不登校特例校っていうところを作るほどじゃなくて、その分校。あるいは同じ中学校の中に、分教室とかですね。この学びの多様化、学校っていうのも進んでいます。

ですので、何をどれぐらい学ぶのか、その学びの多様化みたいなものは、1つ1つの学校とか、1つ1つの教科っていうところの多様化も進んでいるんですけども、学校ごとのカリキュラムの多様化とか、そもそも全然違うカリキュラムで動いている学校とかっていうのが、どんどん増えています。そういうふうには、小学校や中学校も変わってきて。小学校や中学校、高校もそういう研究開発学校があったりとか、不登校特例校なんかがあったりするんです。そもそも高校は多様化っていうのが90年代からずっと進んでいる。もちろん、設置者ですね。どこが作っているのか。都道府県、市町村、私立、それから国立です。それから学校も、高等学校、それから中学校と合わさった中等教育学校、それから、特別支援学校高等部、それから、高校プラス大学の前期課程みたいな感じで繋がっている高等専門学校っていうのがありますし。当然、全日制、定時制、それから最近増えているのは通信制です。すごい増えています。私、茨城県の私立学校審議会の委員をやっていて、色々書類でもチェックするんですけども、通信制はすごく増えています。そもそも普通科、昔の職業学科は今専門学科って言っていますし、それから総合学科っていうのがあります。だから、これらの組み合わせ、もういろんな学校があって、さらにこう特色があるっていうようなことですよ。例えば、スーパーサイエンスハイスクールに認定されました、とかですね。あるいは、最近だとインターナショナルバカロレアっていうのがあって。そういうものに採用されました。それから、スーパーイングリッシュラングリッジハイスクールって言っていたやつは、最近はワールドワイドランニングコンソーシアムっていうのになっているそうです。私も細かいところはちょっとよく分かりません。

それぐらい、いろんな高校の段階で言うと、そういう学ぶ場所がたくさん増えていって、多分保護者がなんとなく聞いたことあるかもしれませんが

も。学校を選んだ後にね。なかなか、スーパーサイエンスハイスクールだからこの学校選ぼうとか、インターナショナルバカロレアだからこの学校選ぼうとか、っていうふうになっていないですよ。どっちかっていうと、学力とか偏差値とかっていうところで選んだ学校がどうなっているか、そういうところも、ちょっと順番がね、反対になればいいんじゃないかなって思います。

大学の私の立場から申し上げますと、今、大学の学びを先取りしてレベルを上げるっていうのが高校の課題になっています。だから、単純に言えば、高校の学びがどんどん大学の学びに近くなっています。もちろん、高校で身につけるべきものがあるんですけども、高校生とは思えないような研究だったり勉強だったりっていうのが、大学で学ぶようなものが、どんどんどんどん高校でできるように。あるいは、そういう力をつけているような生徒さんを大学がしっかりつかみたいが故にです。つまり、そういうふうに入試をどんどん今いろんな大学が変えています。だから、もちろん昔で言うと、センター試験ね、共通一次みたいなところの大学共通テストもね、重要は重要なんですけれども。総合選択みたいな、選抜というような形、昔のAO入試っていう感じ、その入試の仕組みもどんどん変わって、なんか1つのペーパーができるできない以上に、こういう学びをしてきたんだ、あるいはこういう学びをしてっていうのを発表して、パフォーマンスして、示してもらって。それを力として認める。だから、1回で力測るっていうよりは、例えば何回か大学に来てもらって、教育活動に関わってもらって、そして力を認定してみたいな感じで。これは外国の大学にどんどん近くなっているかな。それだけ、逆に言うと、こうペーパー1発でやるっていうのは、入試の方はそれが1番手間がないんですけども。そういう意味ではもっと手間を増やして、高校の学び、入試、大学の学び、これがもっとこうシームレスに繋がっていくっていうふうになっている。そういう意味では、さっきのインターナショナルバカロレアとか、スーパーサイエンスハイスクールだからこういう活動していますよ、そういうものが、例えば推薦みたいなのと繋がっていくわけですよ。だから、単に偏差値っていうんじゃなくて、ちょっと言葉は悪いですけども、どれだけ特色持っているかっていうような意味での学びの多様化っていうのがどんどん進んでいって、そういう特色がない、どれぐらい



あるのか、一種の序列化って言うんですかね、持っている学校とそうじゃない学校っていうような感じにもちょっとようになってきていて、そこは変な意味での競争にならなきゃいいな、っていうふうには思っています。そういう課題がこれからどんどん中学校に降りてくると思います。ただ、中学校ってやっぱりゆとりがないですね。もっと公立の中学校が豊かになればいいかなっていうふうに思っています。

今回のテーマでも、将来の変化を予測するのが困難な時代を謳っています。将来と言っても、100年後なのかとか、20年後なのかとか、10年後なのかっていうことでは、スケジュールちゃんとすればいいんじゃないか。変化って言うても、イノベーション、改革、改善、改良、工夫等。でも、私から言わせれば、その前に整理整頓なんです。片付けなんです。ちゃんと問題を区分して整理してどういう課題があるのかっていうことをすることがやっぱり課題なんです。さっきのカリキュラムでも急には変えられないです。

何が難しいかっていうと、とにかく今求められるスピードが早い。スピードが早いっていうのは、結局1人のこなす量を超えているんな要求が来ているっていうこと。これを解決する方法は、私から言いますと、2つしかありません。やる総量を減らすか、人を増やすしかない。だから、今悩ましいのは、教育の全体の総量を減らすっていうことは、なかなか減らしますよとは言にくい。かと言って、先生たちの負担を増やせないし、先生方の数をなかなか増やせない。ひとまず先生方の処遇、給与面、手当面をちょっと上げる、ですね。義務教育の方では、高校の教員の方にも影響があっっていうのが今の流れかなと思います。学校は、今はもう私、業務改善、色々手伝ってまいりましたけども、自前の努力で負担を減らすところはもうかなり困難なところまで来ていると思います。

教員の採用倍率が低くなっているっていうのは、すぐくニュースになっていると思います。でも、それが全部質の低下にはなっていないと思います。それなりに、他の職業じゃなくて、教員を選んでくれているのです。あとは、ちょうど我々が子供時代っていうのは、先生たちがたくさん増えた時期であって、その先生たちがなんか質が低下したかっていうと、その先生方がつい最近退職したので、今教員の採用が増えているんですけども、そんなことはないです。昔と違うのは、学校の先生の働く環境ですね。

手間が増えている。社会全体が、もうちょっと教員を見守ってほしいな。

最後の方になってきました。ちょっと未来、展望みたいところで言うと、教育DX、ちょっと全部読みませんけども、教育DXってことデジタルトランスフォーメーションっていうこと。ちょっと前まで、ICT教育って言うていたんですけども、今は教育DXっていうふうには、デジタルトランスフォーメーションっていうふうに言っています。

1つは、1人1台端末でもってレベルを上げる。もう1つは、学校に入れない、教室に入れない、このオンラインのサポートみたいところで考えてもらえばいいかなというふうに思います。

コロナで課題が増えて、オンラインも増えて。茨城大学でも、オンラインね、取り組んで。この辺はちょっと写真だけ見てもらって。私もYouTuberにならざるを得なかったんですけども。YouTuberになる、ていうか、YouTubeやるのね。何が嫌だったかっていうと、あのYouTuberが何の機材使っているのかとか、どうやっているのかっていうのを、YouTubeを見る。生意気なやつだな、でも言っていること聞かないとわからないしな、みたいな。あれは辛かったですけど。自分も授業の動画をアップロードしてやりました。

それから、教職大学院の内容で見ると、最初は手作業でやってたんです。スロット分析って言うんですけども、レジメ、模造紙に付箋貼ってね。これをTeams上オンラインでやりました。2015年のICTはこういう環境を増やして、一斉授業みたいなものを前提に教育DXって言うていたんですけど。今は、さっきの個別最適な学び、共同的な学び、1人1台端末みたいところを一斉にやるようなところもあれば、個別にやるようなところもあれば、共同的にやるようなところもあればっていうふうに言っています。絵で見ると、「あ、そういうことなのか」なんて思うかもしれないんですけども、これをきちんと学んだっていうふうには、授業計画したり、プログラミングプログラムを作るっていうのは、非常に先生方大変かなというふうに思います。

ロイロノートっていうのがあったりとか、Zoom、Google、Teamsっていうのを活用してっていうのをすごくやっているのは皆さんもご存知かと思いますが。やはり、小学校から大学までこういうツールの活用は非常に進んだと思いますし、もう大学でやっていることと小中高生がやっていること、そんな



変わらないです。日頃の学ぶ活動は、もちろん発達段階とか内容とかによってレベルが違うのは当然です。でも、ぱっと見、なんか大学生と同じことやっているんじゃないかって思うぐらいにツールを活用していますね。

ただ、学校の先生方の個人差が大きいんですね。我々個人個人も大きいと同じようにですね。学校全体としての取り組みが大切ですし、そういうものを、保護者の皆さんも関心を持ってもらえればと思います。こういう教育DX化の課題っていうのは、授業システムと校務システムっていうものを両方接続することなんだっていうのが、前々から課題で言っています。こういうのはコロナの前からずっと言っていることです。私自身もこう関わった次世代学校支援モデル構築事業っていうものがあるって、それでもコロナでなかなか発表できなかったんですけども、そこでもそういうICT化、DX化の課題っていうのは言っています。

今日、皆さん県外からってことですので、茨城県では茨城県立IT未来高等学校っていうの開校。それから、県立つくばサイエンス高等学校。こういうこと、DX教育推進する学校が出来ていますね。それから、私もちょっと議論で関わった学校。文科省じゃなくて厚労省関係なんですけども、茨城県立産業技術短期大学校っていうのを県立情報テクノロジー大学校って改称して、短期大学校を大学校化するっていうようなことを進めています。こういう教育DXを進めていって、様々な教育課題と組み合わせることが課題なのかなと思いますね。そういう意味では、よりスペシャリストの方に教育に関わっていただくと同時に、学校の学びにDXを取り入れる、ICTに取り入れるっていうことを標準化していく、このあたりが課題なのかなって思いますし。そういう意味では先程来申し上げているようなカリキュラムマネジメントをもっと担当してくれる人を増やす。

それから、1人1人の子どもたちの個別最適な学びをサポートするような仕組み。アメリカとか、例えばフィンランドなんかにいるようなキャリアガイダンスのカウンセラー、そういう人たちを増やしていくっていうことが課題なんじゃないかなって考えています。

最後、もう1つヒントを皆さんに知っていただきたい。最近、「高校の居場所カフェ」っていうのを作っているんです。ぜひ興味を持ってください。高

校をドロップアウトしちゃうと、社会との接点、働く環境との接点っていうのが失われちゃう子たちがいるんですね。「高校の居場所づくりカフェ」。最初、私もカフェってなんだと思ったんですけども、こういうのが今すごく進んでいます。こういうところがもうちょっと教育の内容とか、教育のDXかICT活用とかと、もうちょっとシームレスに繋がって、それから、助けてくれる人っていうだけじゃなくて、いろんな大人が関わってっていうところも、さらに居心地のいい場所っていうふうになって、子供たちの学び、主体性っていうものを、持ってもらうようなところにしてもらえばいいかなっていうふうに思います。

こう様々な可能性があるんですけども、今の子どもたちは。同時に、生きづらさを抱えている子供たちもいて。そういう子供たちを支えながら学びを高める「チーム学校」っていうのが非常に求められていて、そういう教師が求められているっていうふうに思います。1人1人の可能性を高めて、多様性を受け入れられる学校、小学校、中学校、高校、そして私の大学っていうところをどんどん広げていってもらって、少し寛容にというか、温かく見守ってっていうことを一緒にやってまいりたいっていうふうに思います。そのためには、保護者、教師の力が必要かなと思います。

お暑い中、茨城までどうもありがとうございます。是非、茨城県ね、いいところたくさん観光して見ていっていただいいて、過ごしていただければというふうに思います。今日のご清聴ありがとうございます。



第2分科会 講演1

のび太・ジャイアン症候群

講師 司馬クリニック院長 医学博士 司馬 理英子氏

〈講演要約〉

私はのび太ジャイアン症候群という本を1997年に書いて、その後発達障害をメインに子供たちの診療とか大人の診療をやっています。今日私もADHDチックなところがあるという人になってるので、今日のエピソードをお伝えします。

今日は10時53分東京発の電車に乗ることになっていたのですが、これは40分前に家を出ればいいのかとは思わず、何かあったらいけないから1時間前には駅に着いていようと思い、9時過ぎに家を出ました。これはとても良いことだったと思います。ところが、この会場にきましたら、すごい旗がたくさんはためいていて、私の来る所はここでよかったのかなと思い、よくその旗を見たところ、全国大会と書いてあり、私はまさか今日は全国大会だとは全然思わずに、茨城県のちょっとした大会があるのかなと思って講演をお受けしたという次第で、こっちはちょっとADHDチックなところがもろに出て、ちゃんと依頼文を読んでいなかったということがわかりました。皆さんちょっとくらい笑っていただけると和むのですが、みなさん偉い人ばかりだからあまり堅苦しくされてしまうと私も喋りにくいのでよろしくをお願いします。

今日はちょっと物々しい題もつけましたけど、発達障害です。発達障害にもよく知られているのとして三つくらいあります。

ADHDですけど、現在の名前は注意欠如多動症と言っています。主な症状としては、不注意、注意力の持続ができない、多動性と衝動性。集中できないのは、しなきゃいけないこと、面倒くさいこと、嫌なこと、例えば勉強とか家のこととか、自分の身の回りの整理整頓とかそういうのはできないけど、ゲームはすごく集中できるっていうように好きなことなら集中力が続きます。ADHDでは実行機能の障害があり、ルールとか決まり、やるべき今日の宿題とか、寝る前に歯を磨くとかそういう当たり前のことを覚えておくことができない、忘れてしまう。

わかっているけどできないということです。これまでに失敗した過去の経験から学べない。昨日も宿題やらなくて先生に怒られた。だから今日は頑張るやろうな、みたいなふうにはなかなか思えません。そして、先のことを考えて計画できない。過去も見られないし、将来こうしておくとかこんなふうがいいからやっつけていこうっていうふうにもできないのです。そういう考え方があんまりない。みなさんは、ちゃんとこれまでの経験を生かし、未来のことも考え、今こう振る舞おうということができないかもしれないけれど、ADHDの子たちはそれがすごく苦手なのです。記憶の保持、記憶力がすこし弱いところはあって、さっき聞いたことをすぐ忘れてしまうことが頻繁に起こってしまいます。

この子供たちの特徴として、大事なのはわかっているけどできないのです。これがわかってなくてできないタイプもあるので、後でお伝えしますが、ADHDの場合はわかっているのだけどできないところがみそです。もう一つADHDの特徴としては、報酬系（ちょっと慣れない言葉かもしれないけど）がうまく働いていないです。

それから目的のある行動。例えば自分の行きたい大学に入るためには、今ここで勉強し、内申点を上げてテスト勉強もしっかりするとか、苦手な科目を克服するみたいに、目的のあることに対して、少しずつ積み上げて努力していくことが苦手です。楽しいこと、興味のあることだったらいいのだけど、そうじゃないと、たとえそれが自分の人生にとって役立つことであってもできないというのが特徴です。

この子供たちと関わり合うとき、いかに動機づけをしていくかを考えることが大切です。ちょっとご褒美あげるとか、「これができたら週末なんかするよ」みたいに言うと、「お、じゃあやる」というふうに乗ってきてくれます。あとは楽しみを先延ばしできない。例えば「この宿題を今日やったらその後ゲームできるよ」って言っても、今ゲームをやりたいと



なってしまいます。今のこの楽しみを一時間後に先延ばしすることができないのです。ということで、「今を生きている子供たち」です。違う言い方をすると、「現在の中に囚われた囚人」。今に囚われているのです。今の楽しみ、今がよければ、ということで、これを見ると私はアリとキリギリスを思い出します。夏の間散々楽しいことをやって過ごして、その間アリたちは一生懸命、仕事をやっていたのだけど冬になりました。キリギリスさんは食べ物がないと言ってアリさんのところに來ます。だって君はずっと遊んでいたよね。というように今、現在にとらわれている子供たち、過去のことも未来のことも見えず現在にいるって言うとかわいな感じがします。

ここでASD（自閉スペクトラム症）の復習をしたいと思います。自閉スペクトラム症では人との関わりが独特です。社会性が独特なのです。コミュニケーションがうまくできない。この中には知的な遅れがあって、全くお話ができない重い自閉症の人もいますし、すぐにお話もできるし、なんなら文学作品も書けるし、知的にも優れている、そういうタイプの方の中にもコミュニケーションの問題を持っている方もいます。あとは社会的想像力の問題。こだわりと言ったりもしますが、そういう特徴を持っています。あと感覚の過敏さ。例えば、光とか気温とか湿度とか、触覚、触った感じとか、味覚とか、いろんな感覚がすごく敏感だったり、あるいは鈍感だったりすることがよくあって、私達からすれば「そのくらい何ともないでしょう」と思っても本人は苦痛って言うことがよくあります。その中には人の匂いとか、人がいる気配が苦手っていう子もいるので集団で学校で勉強していくことがすごく苦しくなったりもします。だから今も会場は結構暑いし、ムシムシしてるし、人の雰囲気もたくさんあるから、もしこういうタイプの方だとしんどいなというふうに思うかもしれません。

ASDの人の人との関わり方っていうのが、社会性の問題の中でも大きいんですけど、いろんなタイプがあります。

一つは孤立群といって、他の人に興味を示さない。一人で例えば小さい子供だったらずっと砂遊びしたり水遊びしてる。高校生くらいだとずっとゲームをしていて、友達とも夏休みに遊ばないし、親ともそんなに接したくもないし、好きなことを延々とやっていられるタイプ。受動群というタイプもいま

す。このタイプの人は受身、誰かが自分に関わってくれれば、それに対して応じることはできるのであたかも人との関係が成立しているように見えるんだけど、自分から相手に関わってほしいということがすごく少ないタイプなのです。学校生活もうまくいっているなど見えることも多いのだけど、時としてすごく過剰適応していることが多いタイプです。嫌なことがあっても我慢している。しんどくてもそれをしんどいと言えない。宿題が多くても、コソコソとすごく無理を重ねてしまうタイプが多いです。こういう子たちってクラスで見ていると、よくやってる、何の問題もない。なんだけどその子自身をよく見ると、長年、特に高校生くらいになっていると、もう10年くらいそういう無理を重ねてきていて家でも一生懸命やっているし学校でも一生懸命やっていて、もうヘトヘトっていう子も結構います。こういう子たちが問題行動は起こさないかもしれないけど、苦しくなって学校に行けなくなったりすることもよくあります。

次のタイプは積極奇異群という感じで、人との関わりをととても求める。グイグイいくようなタイプです。けれども相手の気持ちとか相手がどうしてほしいとかっていうことがわかりにくいので、人とのトラブルが割と起きてしまうタイプです。積極奇異群の子が受動群の子と、仲良くなっちゃったりすると、受動群の子はすごく負担になってしまうこともよくあります。いろいろ無理難題を言われてもそれを受け止める形になっちゃうので嫌とか、「ちょっとそれはやめて」とか、「今度の日曜日は都合悪いわ」みたいなことが言えなくて、どんどん疲れていきます。この積極奇異群の人って人との関わりもあるから、ちょっとADHDっぽく見えることもよくあります。

三つは全然違ったタイプに見えると思うのだけど、共通点が多々あって、見た目は違うけどその共通点に合わせてどう関わってあげるかを考えていくといろいろ解答が見えてくることがあります。なのでこの三つのタイプのASDってあるのだよっていうことは覚えておいてください。さらにもうちょっと大きくなって例えば高校生、大人とかなってくると、いろんな世間のルールとかマナーとかも全部一生懸命学習して身につけて、過剰にすごく丁寧で折り目正しくみたいなタイプになる方もいます。過剰に大仰なタイプと言うのですが、そういう人たちはどこに問題があるのか全くわかりませんみたいな



人なのだけど、社会性の問題を抱えていて、結構しんどくしているということもあります。

タイプとしてはこの三つです。コミュニケーションが苦手なのですが、さっき言ったように本当に喋らない人からめっちゃ語学にも達しているし本当に言葉が得意って人もいます。コミュニケーションは言葉のコミュニケーションと言葉以外の非言語のコミュニケーションがあります。例えばこうやって身振りをしたりとか、ちょっと私から見えないけど、アイコンタクトを取ったりとか傍に行っ手を握るとかいろんなコミュニケーションがあるんだけどそれも含めてのコミュニケーションがASDの方は苦手です。言葉の遅れ、口調が不自然な人もいます。アナウンサーみたいな喋り方とかいうこともよくあるけど、堅苦しい打ち解けない感じ、その人との関係にあってないような喋り方をすることもあります。こだわりが強いとか、自分の言いたいことばっかりたくさん喋るけど、こっちが聞きたいことは答えてくれないみたいなタイプもあります。目を合わせなかったり表情が乏しかったり、真に受けたり、冗談が通じないってこともあります。表情が乏しいんですけど、いつもニコニコしてるって形で顔が変わらないっていう方もいるので、すごいニコニコして幸せそうに一見見えても、その中身がそれにマッチしているかどうかっていうのは違ってたりするんです。そういうタイプもいるよってことをみなさんちょっとわかってあげただけると嬉しいなと思います。

ASDのもう一つの特徴としては、想像力、特に社会的想像力です。相手がどう思っているか、今の状況はどうなっているのか、この場の雰囲気とかがわかりにくいです。自分の好きなものだけに対しての関心があって、同じ手順でやりたかったり、このやり方でしないと嫌だっていう強いこだわりがあります。こだわりがあるってことはそれと違って変化があると嫌だな、新しいことは不安だっていう感じなのです。

相手の気持ちがわかりにくいというのが特徴なんですけど、わかってて意地悪する場合、わからなくて意地悪する場合もある。こうすると相手が嫌がるってわかっているけど意地悪をする場合もある。

ASDの人は相手の気持ちがわからないことはよくあって、こういうことをすると相手はこう感じるよとか、こんなふうにあなたが思われちゃうよとか、こんな評価になっちゃうよ、君自身がみたいな

ところがわからないので、それを教えてあげると、ちょっと糸口が開けてくることはよくあります。自分がこういうことをしたり言ったりすると、相手はどう考えるかがわからないというところがみそなので、これを伝えることが学校とか家庭でのやるべきこととしては大事なことだと思います。

あと感覚です。予期しない音、騒々しいとこ、駅とか繁華街とか。あと急に触られるとかっていうのもあって、急っていうのは予期しない、変化なのです。急にやられることはすごい苦手。わかっていると楽なだけで、この2週間みたいに地震が起きますよ、起きるかもしれませんよ、でも起きると決まったわけではありませんよっていうのはすごい苦手で、早速私の患者さんたちは影響を受けて調子を崩します。

最近季節によって気候がすごい変化します。これまでの経験とはちょっと違った変化をするので、そういうのにもすごいづらい。中には、暑いなら暑いになってくれた方がいい、あるいは寒いのはめっちゃ寒いのがいい。でもその中間、暑くなったり寒くなったり雨が降ったり止んだりっていうとその変化のときが一番嫌っていう人もよくいます。

変化が起きるときは要注意です。何か困ったことが起きたりしんどいことが起きる。ここまでがADHDとASDの復習でした。

それを高校生に当てはめて考えてみようというのが今からなのですけれども、元々発達障害の特性を持っている子がいるとします。例えば今みなさんがお父さんたちが小学生であるとすれば、今の話だけで結構、いろいろそうなんだこうしようかあしようかっていう話になるんだけど、高校生になるとここが違ってきます。既に15歳、18歳という歳になるまでに、家庭環境の影響、親子関係の影響をすごく受けているのが今の高校生です。学校の生活でいろんなことがあった。中には学校に行けなくなってしまっている子もいるかもしれない。友達関係でもいろんなこと、辛いことがたくさんありました。その複合した状態が高校生です。いろんなことがこじれてるので、取り組むのも難しいです。発達障害だけではない。さっき言ったような症状があるように見えて、それだけが原因じゃない。他の影響をすごく受けているのが高校生の子供たちです。なので、どう関わっていくかもより難しくなってきます。今回は発達障害を理解した上で叱り方をという話だったんだけど、どう子供に伝えていくかを探っていこ



うじゃないかっていうことなんです。今日私のお話で、皆さんが何か一つヒント、こういうアプローチあるんだとか、こういう切り口ありかなとか思っていたら、うまくいったかなってことになりま

す。なぜ子供はそんな行動するの、何でできないの、どうしたらそれがうまくいくのっていうふうに考えていきたいんです。発達障害もいろいろあるんだけど、アタッチメントの問題。アタッチメントというのは愛着とも言いますが、小さな子供が親との間で、あるいは先生との間で信じて安心して関わられる関係があるってのがアタッチメントなんです。でもなかなかアタッチメントがきっちり持てない子供ってたくさんいて、そのことが子供たちの問題をよりややこしくしていると思います。高校生になると、小中学生と変わっているような問題が起きてきます。学業についても、試験を受けてA校、B校、C校とかなっていくので、それまではADHD的なところがあっても、公立の中学校だったら宿題あんまりしなかったり、忘れ物とかちょっとしたりしてもあんまり困らなかつたかもしれないんだけど、同じような能力の集団の中に入っちゃうと、これまではそんなに目立たなかつたADHD的行動がすごく目立ってくるということが起きてしまいます。

今SNSとかいろいろソーシャルメディアを、さすがに高校生くらいになるとスマホを持っていたりする子も多いのでそういうものからの影響もたくさん受けてきます。バイトをして、お金を得ることもできてくるので、いろんな意味で子供たちはパワーを持ってきてその分、大人たちは難しい問題に直面することになってきます。行動半径が広がってお金を持つようになり、性的な形でもアクティブになってきます。もちろん中学生でもそういう子いるんですけど、さらに広がってきます。

ADHDを持っている子供たちというのは、いろんな問題が早く起きやすいです。例えば性的な関係を持つのも早かったり、交通事故とかに遭いやすかったり、いろんな金銭の問題を起こすこともよくあるし、ASDの子供たちの中には必要のないものを買う羽目になったり、望んでないのに性的な関係を持つようになったりということでも、発達障害を持っている弱さとそれによる好奇心のためにいろんな行動に問題が生じやすいってところが一つ特徴です。妊娠とか性病とかっていうのも、普通によくある問題になってくるかなと思います。そんな

こんなあった問題が山ほどあるんだけどどうしようか。そこに座らせて説教をしてそれでうまくいくんじゃないんだけど、多分それはうまくいかないです。

ご自身が高校生だったとき、親との関係が非常に良好だった方、もしよかったら手挙げてみてください。すごい関係よかったよって人は。ちょこちょこっています。最悪でしたっていう方はどうでしょうか？ 少ししかいないな。私が高校生のときは親との関係は本当に嫌なものだったんです。いろいろわかってないのにいろいろ言うてるし、私のやりたいことはわかってくれないみたいな感じだったんだけど、その親と子供の戦いが一番強くなるのが高校生かもしれないです。いろんなこと起きてくるけど、じゃあ親や先生として何ができるか。その行動だと、こういうことになりますよ。という親としての意見を述べるということができるとかなと思います。

子供はある程度、まだわかってないとはいえ、だいたいいろんなことがわかってきて判断できる年齢でもある。だからこの行動するとこうなるよってことは、親は伝えて、でもその行動によって起きるトラブルを親が解決してあげることができないよっていうところが一つのポイントだと思うんです。「こういうことをすると困ったことが起きるよ」っていうのをどう伝えるか、子供の認知能力も合わせて例えば発達障害を持っていれば、その発達障害の特性に合わせてどういう形で一番伝わるかを考えていくっていうのが大事です。子供って、親の説明、先生の説明で、「あ、そうなんだ」と思うとそれを自分に当てはめようとすることも多々あると思うんです。

でも規則だとか常識だっていうふうなアプローチで言われても、あまりそれは納得できないかもしれないです。子供が納得するってことは、自分が得だ、そうした方が得だっていう知識を持っていることが私は大事なかなと思っています。叱るだけでは子供が困った行動をやめさせることがわかってきにくい。なぜその行動をするかということを考えていけないと、叱っても意味ないんです。意味ないことはあまりしたくないからどうしたら効果が出るかなって私はいつも患者さんと話してるときは思うんだけど、なんでこの子はその行動しちゃうんだろう。他にコミュニケーションの手段がないのだろうか。例えば、家の中で暴れて困るんですけどっていうようなことはよくあることなんだけど、子供は家の中



で物を壊したり、包丁を出したりしてるときって多分それ以外の方法では、親に聞いてもらえないからってことはすごい多いです。だから適切なコミュニケーションの方法を知らなかったり、親が聞いてあげる耳を持ってないとそういう過激な行動がよく起こるかなというのは観察していると思います。

またコミュニケーション繋がりだけど、人とどう関わったらいのかが分からないから、その行動をしてしまうということもよくあると思うんです。駄目な理由がわからない。一つには、対人関係の基本が分かってない。例えば誰かをいじめちゃってますよみたいな話のときにもこういうことがあるし、不適切な性的な関係を持っていますっていうときも、対人関係の基本、相手への配慮とか、相手の気持ち、立場がよく分かっていないことが起きてくると思います。言葉で伝え方が分からないからって、言葉でいくらでも私達は伝わるんだけどそれを言えないときに過激な行動します。親に対してでも先生に対してでも友達に対してもそうするかもしれないです。よく誰でもいいから殺してみたかったとか言ったりするけど、ああいう人たちの中にも発達障害の人もあるんじゃないかと私は思っていますけど、どうしたらそのややこしい自分の中の気持ちを相手にわかってもらうとか、自分の中でそれを処理していくかってことがわからなくて、ああいう形になっちゃうことも多いかなと思います。

社会的ルールがわかっているようでわかってないということも、私は多いと感じています。親から見ると高校生の問題はコントロールしたい。例えば夜の外出を控えさせたい、タバコを吸っているのをやめさせたいとかいろいろ思いはあるけど、でも方法がない。なおかつ、背も高くなり、言葉も強くなり、親に攻撃的である挑戦的である、っていうふうになってきます。

今度は親にも発達障害があるんじゃないかなっていう視点をちょっと持ってきたいと思います。

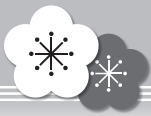
LD、この学習障害は大人になっちゃったら、少し数学が苦手でも、文章が苦手でもあんまり目立たないかもしれないけど、ADHDとかASDの特徴って、大人になっても親になっても結構家庭生活に影響があると思います。特にこのASDで相手の気持ちがわからないとか、コミュニケーションが下手だっていうのがその症状が家の外ではあんまり目立たないんだけど、家では症状が目立っているっていうご家庭が結構あるかなと思うんですね。

ここまで発達障害の観点からお話したんだけど、今度ちょっと視点を、愛着障害の方アタッチメントがうまくいってない方にちょっと移してみますけど、報酬課題っていうのがあるんです。

コンピュータでこの作業をしてどのくらいできるかという点数を見ていくんだけど、普通の子供はご褒美があろうがなかろうが、一定の成績を取れます。例えばこの問題ができたら後で100円もらえるという話があったとして、100円もらえるようがもらえまいが、この課題をやります。ADHDの子供は、100円だったらちょっとできないなみたいな感じで、1,000円だすよって言ったら一生懸命やるよみたいになるんです。報酬が大きい、モチベーションがしっかり高められれば、能力を出しやすい。ADHDの子には、報酬が必要というのはそこなんですけど、報酬を与えることは治療的な意味合いがあるんです。ところが、愛着障害の子供では、その報酬系がちょっとうまくいってないんです。

ADHDの子がうまくいってないってのは、その感度が鈍いって話なんですけど、愛着障害を持っている子は、ここが少々のことでは、うまくいかないんです。そして愛着障害を持てるとフリーズしちゃう。叱られるとフリーズしちゃう。褒めてもその褒められたことがスーッと心に入ってきにくいんです。だから小さいときに虐待を受けてたとかっていうのは愛着障害の中でもとてもわかりやすいものなんですけど、褒められたことがなかったり、いつも罰せられたりとか温かい言葉をかけられてないとか、体罰を受けてるとかかっていう、そういう児童相談所が出勤するような虐待と、そこまでじゃないけど温かく接してもらってないなみたいな、そういうマルトリートメントを受けている人たちって結構いるんです。その人たちは叱られても褒められてもそれがあまり効果にはなってない、という特徴があります。少々のことでは頑張ろうとまらないんです。よくあるシーンですけど、「また宿題忘れたの、ちゃんとしなさい、こんなんじゃまともな大人にならないよ」とか、「このゲーム面白いって言ってんだけどいつまでやってんの、時間守れないんだったらパソコン取り上げますよ、スマホを解約しますよ」みたいな、こういう強い形で親が対応しても、なかなかうまくいかないです。

子供に対してもっと子供のニーズを考えて見極めて、それに沿った関わりをしてほしいというのは私達専門家はいつも思うところなんですけど、なかなかそ



うはならない。その背景に親御さんの気持ちもいろいろあるんじゃないかって思うんです。誰しもが自分の親はすごい私によくしてくれたって思ってる人ばかりではないと思うんだけど、「私はちゃんとやったのに、なんでこの子はこうなの。」「私は親が言ったことは全部やりました。勉強もお手伝いも全部やったのになんでうちの子はしないんだろう」とか、「私は親からかわいがられたり優しくされたわけでもないのに、なんでこの子はこんなに一生懸命やってるのにできないんだろう」とか、夫あるいは自分の親、あるいは姑は「子育てを手伝ってくれなくて、文句ばかり、私ができないことばかりを言ってる。この子は私を苦しめる子だわ」みたいに思ってるしゃる親御さんも結構いるんです。

今日はPTA 会長さんとかもいらっしゃってると思うので、PTA の親たちの中にそういう思いをもってたり何か周りからのサポートを必要としてたりする人もたくさんいるんじゃないかと思うんです。そういう人たちは、「だから、私助けてほしいんですよ」とは、なかなか言えないんだけどそれを先生方や親同士の仲間としてこういう人のニーズに耳を傾けてあげれるといいかなって私は思ってます。親をサポートするというのが私の仕事でも結構大事で、お母さんのかわいがる力を育てるとか、こうであるべきだという基準を下げて、このくらいで十分だよ、かわいいよっていうふうに思えるってところを指導するのが私の仕事の半分以上なんですけど、なかなか難しいです。実際診察してそう言ってあげても、家に帰れば大変なのは何も変わらないので。お母さんの気持ちだけを子供に向けて、もっとかわいがってくださいって言っても簡単ではないんです。私はここでお父さんがもっと参加してくれるといいな、家庭のいろんな事ごとに。叱る場面じゃなくてかわいがる場面とか日々の遊ぶ場面とかで、お父さんが参加することがもっと日本の家庭を良くするなって常々思っていて、実はそういう本を出したいと思って出版社にまで持っていったんですけど、いや、そういうニーズはないですからって言われちゃって、あれ、父親が子供に子育てに参加する、そういうニーズはないんだろうか。すごいショックを受けちゃったんですけど、そんなはずはないだろうなと思うんです。もっとお父さん方が子供や家庭や、奥さんたちに目を向けてくれたら多くの問題はだいぶ良くなるなってというのが私の正直な感想なんです。

さて次のスライドからはペアレントトレーニングってのをちょっと紹介したいと思います。

ペアレントトレーニングというのはお母さんやお父さんの子育ての力を上げようという目論見で、私のところでも8回シリーズでやるんですけど、今日は「なんちゃってペアトレ」みたいなのを三つぐらい紹介したいと思います。こういうのをちょっとするだけでもだいぶ変わってくるかなと思います。まず一番、いいところに目を向ける。私達は子供を見るとあるいは人を見ると、悪いところを言いたくなります。あそこができてない、夏休みなのにいつまでも寝ている、宿題をやらない、手伝いもしない、だらしないとか、全部そういうのを言いたくなるんだけど、特に子供に発達障害があったりすると朝から晩まで言っても、終わらないくらいの悪いところはたくさん見つかるわけです。いいところに目を向けてください。って言うそれは難しかったりするんです。みなさんは自分の子供のいいところ、あれだっけすぐ見つかります？ 今すぐ言えます？ 言える人はちょっと手を挙げてみてください。自分の子のいいところはあそこだよって、なんかあんまり挙げてないように見えるんですけど、しっかり挙げて、もちろんあると思います。それを口にしていきたいって話です。小言の蟻地獄と言いましたけど、嫌味とか皮肉とか、それを言い出すと子供はどんどんこの蟻地獄に沈んでしまいます。ポジティブな親からの注目。ネガティブじゃなくてポジティブ、例えば「何とかしなさい」じゃなくて、「そこがいいね」、「頑張ったよね」ってというのが子供にとってはオアシスになる。これだけでもいいので本当に残りの10日間やってみましょう。それで子供絶対変わってくるんです。こういうことが本当に増えていくといいなと思ってます。でも日本人ってより良くしたいって思いがあるからなのか、まだできてないことを言いたくなりますよね。

二番目、スペシャルタイム。これは子供と時間を過ごすことなんです。注意ばかりしがちなんですけど、スペシャルタイムでは、子供の遊びに15分くらい参加させてもらいます。さすがに高校生になると、一緒に遊ぶのはなかなか難しいだろうけど、遊ぶのが難しかったら一緒にデザート食べるでも何でもいいんです。1日10分とか15分、それを週に4、5日続けてほしい。そして「今日その髪型決まってるじゃん」とか、そんなちょっとしたことをポジティブコメントをしながら、子供と時間を過ご



す。あれができないこれができない、1学期の成績がこんなにひどかったとか提出物がこんなに出てないぞみたいな話じゃなくてポジティブなコメントを言う時間を作ることによって、子供との関係が本当に改善される。ややこしかったのがだんだん解きほぐれてきます。私、究極は子供ってというのは、勉強ができたりとか、推薦で何大学に行けたりとか、そういうよりも私は生きてるだけでいいかなってというのが私の今の結論なんだけど。生きてりゃいいかなみたいな、そんなふうにして、みなさんにも言っています。でも、なかなかこの境地にはみんな立てなくて、やっぱりあれができてこれができて、みたいなのがいいんだなってのは分かるけど。でも死なれちゃやっぱり悲しいですから。

ペアレントトレーニング三つ目は指示の出し方です。特に小さい子に、「近づいて穏やかに静かに言いましょう」が大事です。大きくなった子供、高校生の子供には特に遠いところからイライラして大きな声で言っちゃいがちです。しかもうんざりして。だってもうこのことを言うのは千回目、1万回目だし、でもできないし、みたいに思っちゃいます。でもそうじゃなくて穏やかに静かに近づくってというのがすごい大事です。以上がペアレントトレーニングの手法のエッセンスで、これに報酬とかもつけたりするんですけど、まずこの三つがやれるとだいぶよくなっていくかなと思っています。

「片付けられない」というのは夏休みなんかは、一つ大きなトピックスかなと思うんですけど特性によってアプローチの仕方も違うんです。環境調整、片付けられないっていうのも ASD の特徴から見るとこの四つがあります。一つは、たとえば高校生でも片づけ方を知らないっていうことがあるんです。さっき言ったように、知ってるけどできないのが ADHD とすると、ASD ってわからないからできないっていうことが多いんです。どう片付ければいいのかを具体的に伝えてあげることがいいです。例えばペットボトルを集めましょうとか、衣類をここに入れてくださいとかっていうことをより具体的にそれを口で言うんじゃなくて、紙に書いて伝えるっていうのがすごく大事です。興味のあることだけやりたいから、唐突にお母さんが来て片付けなさいって言うてもうまくいくわけがないんです。なぜ片付けなきゃいけないかわからない。自分は特に ASD の子って何がどこにあるかある程度知ってたりすることもあるから困ってない。お母さんから見て散ら

かってるだけで、自分が困ってないのになんで、みたいなことがあるので、そうするとお母さんがどう嬉しいか、何がどう助かるかっていうことを伝えることが大事です。こだわりで物がたくさんあって捨てられないということもよくあります。なので視覚化、見える化してスケジュールにして、その行動によって何がいいか教えて、どのくらいの分量を貯めてもいいかってことがわかってきたりすると、片付け問題はクリアになったりします。同じ片づけられないを、ADHD の方から見ると、面倒くさい、後回しにしたい、今楽しいことやっときたいからそれは後回しにしちゃう。気が散りやすい、片付けようとしてても、この漫画面白い、これがどうだみたいにならなくて片付けをやりきらない。最後までフィニッシュできないってところが特徴の一つです。片付けのシステムもなかったりそれが細かすぎたら覚えられないということもあるのでどういうやり方をするかをしっかり伝えてあげることが大事です。

片づけ一つでもこういうふうやり方が違うので、ADHD の特徴と ASD の特徴それぞれに合わせてアプローチがすごい大事です。シンプルだったりご褒美だったり、例えば高校生で、部屋の掃除が夏休みにガッツリできたとしたら、1,000 円じゃ動かないだろうな 5,000 円くらいかかるかもしれないけど、何かの報酬、夏休みじゃなくて日々の片付けだったら、週末のこの時間までにある程度ここまで片付けていたら、1,500 円とかっていうふうにししたり、「おうちバイト」を私は勧めてるんだけど、家でちょっとしたことをするによってそれに対して報酬をあげる。普通のバイトの時給ほど高くしなくてもいいけど、それがあると、欲しいものが買えたりすることで、モチベーションを上げやすくなっていきます。

親として何を願うのか。私はその子らしくその子が幸せであることを親の価値観とは別にその子がこういうのがいいなという形で幸せを感じられたり、自分で人生を切り開いている感覚、親が言ったからこうしてます、先生が言ったからこっちの道行きますじゃなくて、自分でこっちの道がいいなと思って行く。そういう力を持ってたり、信頼できる親子関係があるのがすごくいいかなと思っています。親は自分が望んだことを子供に押し付けるわけでもなく、こうすると絶対うまくいくからこうしなよってアドバイスとかいろんな絨毯を先に敷いてしまうんじゃ



なく、子供が冒険を楽しむのをサポートしながらやっていくというのが私はいいかんと思っています。

親のポジションなんだけど、安心の基地。小さい赤ちゃんのときに抱っこしてたくさんケアしてあげて、お母さんがいたら平気、お母さんが見てくれるところで二、三歳の子がちょっとそこまで散歩に行ってくる。ハイハイしてまた戻ってくる。あっちへ行ったら転んで泣いちゃった、戻ってきてママって言って慰めてもらってまた遊びに行く。そういう安心の基地であるのが一番いいかなと思います。そして安全な避難所ってというのは、何か本当に困ったことがあったとき、そこへ来て、避難所に来て傷を癒し空腹を満たし、そしてまた勇気を持てる、しっかり休息を取ってまたやっていける。そういう安全な避難所と安心の基地、両方を親だったり先生が提供できるとすごく子供との関係は良くなると思います。それに尽きると思います。残念ながら親がそういう存在でいられないときは先生方とか周囲の大人がそういう人になっていくことで、子供はすごく力を持っていくかなというふうに思います。

これ最後おまけですけど、テッドトークというので、ADHD の理解のためっていうのをティムアーバンって人がやってるんですけど、これはめちゃくちゃ面白くてみなさんもよかったら YouTube を見てください。多分日本人で、みなさんのようなちゃんと要職に就かれてる方はいろんなことをきちっとできると思うけど、そうじゃなく、すごく全てのことを先延ばしにして、何とかこの世を過ごしている人も結構いるんだよってことがわかるだけでもちょっと笑えるかなと思うので機会があればぜひご覧ください。今日の私のお話はここまでになります。



第2分科会 講演2

18歳になったら気をつけること ～18歳になる前に～

講師 有馬総合法律事務所 弁護士・中小企業診断士 有馬 慧 氏

〈講演要約〉

こんにちは。弁護士の有馬と申します。今日は18歳になったら気をつけることということで講演をさせていただきます。私茨城県出身なんですけど、高校生のときに演劇部入ってまして、音楽が鳴りながら入ることで昔を思い出して興奮してましたけれども、高校のときは何の役やってたかって言うと、最初にやった役は、ゴキブリの子供役やってました。

僕の経歴ですが、子供の関連で言うと昔の児童相談所の嘱託弁護士ということで、虐待を受けたお子さんたちに関する児童相談所業務の相談とかをやったりとかです。その後はいじめとか学校関連についてやっているということで、基本的に子供関連の法律関係を結構やってきたというところなんです。僕が弁護士になりたかった理由も、子供関係に関わりたいたいというところがそもそもありまして、僕が学生時代というか子供の頃にいわゆる酒鬼薔薇事件とか、バスジャックの事件とか、あそこら辺がすごくマスコミでワーッと騒がれていた時期に、弁護士になりたいと志してそのまま弁護士になったというところなんです。

スクールロイヤーは、最近それなりに浸透してきたのかなというふうには思うんですけども、学校関連の相談とかについてかなり関わる人が多いかなというところなんです。昔は義務教育課、要するに小中がメインなんですけれども、義務教育に関するスクールロイヤーというのをやって、今高校教育課、高校教育課っていても県立学校なんで県立学校全部含むんですが、そのスクールロイヤーというのをやっています。

スクールロイヤーとは何なのか。スクールカウンセラーはよく聞きますよね。心の問題をサポートするということです。それからスクールソーシャルワーカーというのがあります。スクールカウンセ

ラーに比べるともしかすると馴染みが少し薄いかもしれませんが、ソーシャルワーカーは生徒の家庭の悩みです。これをサポート支援するというのが業務になります。それに対してスクールロイヤーは学校で実際に起きる現実のトラブル、これの解決をサポートするというのが弁護士がしている支援ということになります。

スクールロイヤーとしての活動なんですけれども、普段は私に限らずどこかの事務所に所属して別のことをやっているということが通常です。時々県とかその自治体の方の採用している任期付公務員というような形で入っている弁護士も一部いますけれども、大体いわゆる巷で言うスクールロイヤーというのは個人で別に事務所をやっていることが多いかなというふうに思います。

普段のその業務の中で子供が関わってくるものとかで言うと、学校に通っている少年の刑事事件もありますし、離婚とか面会交流とかの場面で、お子さんについてどちらが親権者にするかみたいな話でお子さんと会って喋ることもありますし、児童相談所の嘱託の弁護士としてやっているという弁護士もいたりします。具体的な内容としては法務相談です。通常スクールロイヤーになってる弁護士が受けてる法務相談は、生徒側というよりも学校の方からこういう状態に対応に苦慮している、もしくはどういうふうにするべきなのか困ってるっていうことの相談を受けるのが通常かなと思います。それから教職員や保護者向けの講演会とかもやったりします。保護者向けの講演会って、例えば、どうやったらいじめ防止できるのかみたいな、いじめゼロフォーラムとかあったりするんですけども、そういったところで保護者も参加する中で講演することはやったことがあります。あとはいじめ予防授業です。いじめ予防授業もかなり全国的に浸透しているかなと思います。学校に弁護士が出前授業として行って、どうし



ていじめがいけないとされているのかと、いじめによってどんな被害が生じるのかとか、最近 SNS いじめについて、どういうふうにいじめ予防授業の中で扱うかということがかなり弁護士の間ではホットな話題になっているんですけれども、そういった形でいじめの予防授業ということで学校に関わったりというような業務をスクールロイヤーとして行っております。

今日の講演の内容なんですけれども、18歳未満あるいは18歳以上になるにあたってどういうことに気をつければいいのかとか、今後に向けてどういうことを考えなくちゃいけないのかということについてお話をしていきます。

まず18歳になることによるどういう法的な影響というのがあるのか。法的に18歳未満の子供たちはすごい手厚い保護を受けています。例えば、犯罪被害を受けやすいという面がどうしても子供はありますので、被害者になりやすいという特性です。そういったところをカバーされていたということがまずあります。それからよく少年法ということもニュースに話題になったりしますけれども、お子さんたちの犯罪行為は、どうしてもその周りの環境というものに非常に影響を受けやすいという特性があります。なので、そういった環境によって非行に陥ってしまいやすいというところについて少年法で保護を受けている存在ということがいえます。それから学校生活で生徒間のトラブルがあったときは、今いじめ防止対策推進法があるわけですけれども、そういったいじめ対応でも保護されている面があります。それから騙されてしまって契約をしてしまったり約束してしまったというような場合であっても、未成年者取消権といった形でその契約を取り消すことができるのか、そういった形で通常の、物を買ったりとか契約したりとか、働くときの契約とかもあるんですけれども、そういった契約についての保護というのを受けているという面があります。

それが18歳になるとこの保護を受けた側面がいろいろ変わってきます。それから18歳になると責任ある主体として、法律上認められることとなりますので、選挙権が与えられるとかです。選挙権自体は平成28年の6月から与えられるわけですが、選挙権が18歳になると与えられるとか、裁判員裁判の裁判員の候補者にもなりますよということがこれは去年から始まりました。それから婚姻可能年齢になるということです。ちなみにちょっと前までは

女の子については16歳から親の同意があれば婚姻できるみたいな話ありましたけれども、今はもう全部統一されてますので18歳からが婚姻可能年齢ということになります。

ではその保護を受けていた面について少し詳しくお話していきます。まず18歳未満の子供への保護ということで、児童買春児童ポルノ禁止法です。児童ポルノ法って言った方がわかりやすいかもしれません。この法律において児童とは、18歳に満たないものをいうということです。18歳で切り替わるわけです。児童ポルノは児童の同意の有無を問わず、児童の性的姿態などを撮影していた写真動画が該当するということになります。なので児童の有無を問わないということがポイントなわけです。例えば児童生徒にあたる子たちが同意して自撮りしたということで、SNSとかで知り合った相手の方から、こういう格好した写真送ってとか、こういうことをして動画送ってってわいせつ系の写真動画とかを求められて、そのときはこの人だったらいいかなと思って撮って送っちゃうというようなパターンです。こういった場合も児童ポルノに該当します。それが18歳になったらどうなるのか、今は撮影罪というのがまだ1年経ったぐらいです。性的姿態撮影等処罰法というのができました。

撮影やインターネットによる拡散とか、これもどんどん簡単になってしまっています。誰でもみんないつでも、スマートフォンを持って撮影できるわけですね。そういった形で撮影とかが非常に簡単な状況になってるわけです。こういった状況を踏まえて規制がされています。それからこれまで条例でいわゆる規制の方が盗撮については、迷惑防止条例などで規制されていたんですけれども、これを国として統一的に規制処罰しますということです。なんで条例じゃ駄目なのって話なんですけれども、例えば、飛行機の中で客室乗務員の方の下着とかを隠し取りするというようなパターンだと、どこで撮影したかがわからないと。どの上空のどの子って意味です。上空のどの県のところで撮影したかってのがわからないと処罰できないんです。どこの条例が適用されるかわかんないんです。ということになって処罰できないとか、この地方でやるとこの程度の処罰なんだけど、この地方でやると違うとかっていうことで処罰の方が統一的じゃないといった問題がある一方で、これは頻繁に起こるとも重要な犯罪であるという認識が広がっていたことによって、国として統



一的な法律を作るというのがようやくされたということです。

この性的姿態撮影等処罰法のきもは、盗撮だけじゃないんです。広く撮影そのものを処罰しているというところにポイントがあります。正当な理由なく密かに性的姿態を撮影する行為、いわゆる盗撮です。それ以外の行為でも不同意わいせつ罪で規定されている一定の行為に乗じて真実の同意がないのに撮影しちゃうとかです。行為の性質が性的じゃないんだと。特定の人、要するに僕しか見ないよとか言いながら写真の方を撮らせて送らせたりして、実はそれを販売したりとか他の人に回す予定だったとかそういう場合です。こういうのも該当しますよというようなものです。

不同意わいせつ罪っていうのも、これも令和5年から始まって、つい最近なものなわけですけども、どういう場合に不同意わいせつ罪として、処罰できるのか。暴行脅迫があったりとか、アルコールの影響でとか。重要になってくるのはそれ以外のところでして、その性的行為をすることについて良いとか悪いとかの判断させる暇もなく、そんなこといでしょうと言ってやっちゃうというようなパターンとかです。また、いわゆるフリーズです。そんなことになるとは思わなかったっていうことでフリーズしてしまってる状態で、抵抗とかそういうのはしないけどとてもそんなのをしていいとは思ってなかったですよっていうパターンです。それから経済的または社会的関係上の地位に基づく影響力による不利益の憂慮。これもわかりにくい日本語なんですけれども、これで嫌と言ったら、この後関係悪くなるよとか、内申が悪くなるよとか、職場の上司とか部下とかそこら辺もそういうのに当てはまりやすくなるわけです。そうすると教員と生徒、これも当然含まれてくるということです。教員の方から言われて、それを拒絶することがとても言いにくいとか、ここで先生の言うことを断ったらもしかすると先生嫌な気持ちにさせちゃうんじゃないとか、そういうことでわいせつな行為をするといったパターンです。

こういった不同意わいせつのほうで規定されてるこの状況に乗じて、真の同意のないものは、性的姿態を撮影するとかっていうのは処罰されますよという、これが成人になってからも適用される撮影罪です。そうすると児童のときは18歳未満だと同意して自撮りしたわいせつ動画ってのは児童ポルノに該

当するんですけども、撮影に同意していた場合とかは処罰されないということになります。もちろん先ほど言ったように、同意したといってもそれは嫌だというふうにする隙を与えていないとか、それが真実の同意じゃないというふうになる場合。例えば、自分に送ってくれるだけで絶対誰にも見せないからとか言いながら、撮ったみたいパターンは撮影罪に該当しますけれども、そうじゃなくて例えば交際相手あるいはこの人のこといいなと思っている人から送って送ってって言われて送っちゃったみたいなので、後からやっぱりその人と仲悪くなったりして、この人が持っているからとっても不安みたいなこういうパターンです。こういうパターンだと成立しないということになりますので、そういった保護がどうしても18歳以上になってくると、乏しくなってくるということです。ということで犯罪被害者としての方が上回りますので、今の段階からお子さんたちには身を守るためにどうしていけばいいのかと、基本送らないでいいんですけども、そういったわいせつな画像とか送るとことはどれだけ危険なことなのかということについて、あらかじめお子さんたちに伝えておく必要があるということです。

次に加害者になっちゃった場合のパターンです。こちら少年法です。少年法の方は令和4年に改正されて、18歳19歳は少年は少年なんですけれども、特定少年ということで類型が変わりました。一応少年として扱われるんですけど特定少年って何が違うかというとても大きく違うのは2点です。

これまでは、原則逆送、要するに少年事件というのは、少年は先ほども言ったように環境によって犯罪行為を起こしてしまうというパターンが相当数見られるということもありますので、基本的にはその少年の立ち直りのために、環境調整したり少年のこの問題点とかを教育していくという視点で保護処分というのをしています。それが保護観察ということで、社会の中で保護司などに見守られつつ更生していくのか、あるいは少年院というところに1、2年が多いんですけども、入って改善更生していくということがされていたわけですけども、そうじゃなくて逆送というのは少年について保護処分とかを前提としないで、少年院に行くとかそういうことを前提としないで大人と同じような裁判を受けさせるというのが逆送です。

16歳17歳の原則逆送事件は、殺人とか傷害致死



なんですけれども、18、19歳になってくると、合同罪現住建造物等放火とか不同意性交とかそういったところまで増えてきますよということです。逆送して相当な事案ってのはもちろんありますんで、その場合はもちろんしょうがないんですけども、逆送されて起訴されると実名報道が可能になるというこの規定もできてしまいました。

これがなかなか曲者でして、逆送されて起訴されて裁判した結果としてやっぱりこれは保護処分にした方が良かったですねって言って戻ってくることもあるんです。そういう場合とかも関係なく起訴された時点で報道できちゃうので、起訴された時点で名前がバーンと出ちゃって、それはもうなかなか消すことができないというところがあります。今もデジタルタトゥーってよく言いますね。果たして名前を出すことがその改善更生の役に立つのかという問題があります。名前が出るとかそういうことから、悪いことはやめようと子供たちが思ってくれるんだとすると意味あるんですけども、そもそもこの年代の子たちはそこまで考えるだけの脳があまり達していないというところがあって、後でその話するんですけども、そういう問題があるのでなかなかこれで本当にいいのかというところが難しいところなんです。

裁判の方を大人の方と同じことをやるのはどういうことかって言いますと、少年の場合、少年審判ということで要するに密室でやるんです。けれども大人と同じ公開の法廷なんで公開でその子の成育歴とか含めて全部明らかにする必要があります。公開なんで当然マスコミとかも見られます。なのでマスコミが報道することは自由ということになります。僕が前にやった事件で女の子が、赤ちゃんをこっそり産んで亡くなってそれを埋めたという事案がありました。なので死体遺棄でまず逮捕勾留されてるんです。赤ちゃんが亡くなったのがその女の子曰く死産でその後土に埋めたという話だったんですけども、ただ本当に死産だったのかというところは当然問題になります。

どういうことかという生まれた後に何かして要するに息を止めて、その後に埋めたというふうになるとこれは殺人と死体遺棄ということになります。殺人は当然原則逆送、ということになります。なぜこの子がそういうことをやったのかというと、この子は成育歴がとて複雑な子でした。親が小さい頃に離婚して、その後親が再婚するんですけども、

その再婚相手の親から性的虐待などを受けていました。そういったこともあって唯一その彼女を受け入れてくれた彼との間にできた子がいるんですけども、その子についてその子が生まれるということを親に言うと、逆上して大変なことになるということがわかっていたので、そういうことは言えない、ひた隠しにしているうちに、どんどん若い2人が何もすることができない間にお腹が大きくなって生まれてしまったという事案でした。そういった事情とかを全部公開の法廷でやるんですかって話です。なかなか難しいところがあるというのが少年事件の話です。少年犯罪が増えてるみたいな話、完全に嘘です。少年犯罪自体はどんどん減っております。

こういった話はニュースとかで少年法の改正の問題よく話題になるので、実際どうなのかというところも一応考えてくれると嬉しいかなと思います。これが結局加害者になる場合の話なんですけれども、この子についてそういった環境とかを考慮して保護する必要がありますねというふうにあるのが少年法なんですけれども、要保護性のある加害者としての方がどうしても18歳超えてくると減退してきますよというところなんです。

学校に通う子供たちの保護についてもお話します。いじめ防止対策推進法というのができてもう10年ちょっと経っております。いじめ防止対策推進法によって子供たちは、生徒間でのトラブルについて非常に手厚く保護されているという面があります。どういうことかという、ここにいじめの定義書いてありますけれども、いじめというのは人的関係にある他の児童等が行う、影響与える行為によって苦痛を感じているものというのがいじめの定義です。学校に通う子供たちはこの法律によって保護されていますということなんですけどどういうことか。

2項にこの法律において学校というのは、小中とか高校、中等教育学校、特別支援学校ということなんです。要するに高校卒業するまでの法律の適用に入らないわけです。人的関係にある他の児童等が行うって書いてあるんですけどその前に、学校に在籍しているなど当該児童と一定のうちに関係がある他の児童等が行うというふうになっていて、3項では児童等というのは学校に在籍する児童または生徒というふうになってます。なので、学校に在籍する子じゃないとこの法律の適用はされないということになります。ちなみに4項で、この法律において保護者とは親権を行う者をいうというふうになってるん



で、そうすると18歳超えると親権を行うものにならないんだけど、それどうなるんですかって問題があるんですけどこれ後でお話します。ここで言いたいことのお話は、要するに高校卒業した後はこの法律でいじめを受けた場合に、いじめとしての対応をしてもらえないということを示します。それがどうということを示すのかということなのですが、いじめの定義、先ほども言ったように人的関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為で、相手の児童さんが苦痛を感じているものというこういう定義です。

こういう定義だとすると、どういうものが当てはまるかなんですけれども、例えば、故意で行った言動、あの子がむかつくということで暴力を伴わない行為だったり暴力を伴うものってのはあると思います。SNSで嫌なことを発信するとか、殴っちゃったりとか。そういった行為がある。ここ社会通念上のいじめって書いてますけれども、みなさんが一般に思ういじめというやつです。

一方、衝動的に行った言動、ついカッとなって暴力を伴わないで嫌なことをしちゃう、暴力を伴う嫌なことをしちゃう。例えば廊下でぶつかったときに、痛いなーって言ってドーンてぶつかるとかそういうやつです。そういうのが衝動的についカッとなってやっちゃうというパターン。で、それから好意で行った言動。親切のつもりがっていうのがありますけれども、例えばなかなか意見が言えない子とかに、何々ちゃんもちゃんと意見言わないと、自分の言いたいこと伝わらないから早く言いなっていうふうに言われて、それは良かれと思ってやってるわけなんですけれども、自分はそういうふうなことをされたくなかったと言って、先生に相談するみたいなパターンです。これは好意で行った言動で、親切のつもりでやったんだけど相手は苦痛を感じているということはいじめに該当するというパターンです。このように、いじめ防止対策推進法上のいじめというのは非常に広いです。なのでおよそ生徒間で何かトラブルが生じて先生に相談するぐらい嫌だったというレベルであると、基本全部いじめとして扱うというのがいじめ防止対策推進法上のいじめです。

いじめなんですけど大体の学校がちゃんとやっていると信じていたんですが、ちょこちょこいじめの定義に従ってない学校があるというのも事実なんです。そのところはとても問題なんですけど一旦置いといて

て、いじめ防止対策推進法上はこれだけ幅広い保護がされているということになります。継続性がない行為とか、偶発的たまたま1回だけの行為だったり、相手を特定していない要するにワーワー教室の中で騒いで他の子がすごく迷惑がっているというようなパターン。もしくは謝罪などによってすぐに解決した行為でも、心身の苦痛を感じさせた行為は全ていじめに該当しますということで、東京都教育委員会はいじめ総合対策をまとめているということです。

今そのようにいじめの定義を言いましたけれども、いじめというのは違法な行為なんですかという話です。ちなみにいじめ防止対策推進法は4条に、児童等はいじめを行ってはならないというふうに規定してあります。いやいや大人も駄目だろうって感じなんですけれども、児童等はいじめを行ってはならないということではあるんですが、裁判所の考え方はちょっと微妙に違います。法律上のいじめに当たるからといって、刑事罰に当たるわけでは必ずしもありません。無視とかが典型かもしれませんが、無視したことによって刑事罰の対象になるかという和多分ほぼないだろうなというふうに思います。なかなか思い浮かばないという感じです。

それから法律上のいじめが民法上の不法行為いわゆる慰謝料とか損害賠償の対象となる行為になるかという、これもそうとは限らない。東京高等裁判所の判決でこういうのがありました。

いじめ防止対策推進法上のいじめに該当する行為が認められる場合、これが同時に不法行為の要件を満たすこともありうるのは当然のことであるが、そうであるからといって上記いじめに該当する行為がいかなるものであっても、当然に被害者に対する民法上の不法行為つまり慰謝料とか、そういったものを構成するとまでは認めることはできないと言っています。なのでいじめ防止対策推進法上のいじめに当たるからといって、慰謝料請求とかがいつでもできるのかというと、そうとは限りませんよということなんです。例えば高校卒業後、専門学校、大学、会社、そういったところではこれはいじめ防止対策推進法適用されませんので、学校ではいじめとされていた行為が、会社などでは特に問題とされないという場合が、これは生じうるということになります。今ですといじめとして被害生徒の方が訴えた場合は学校は法令上、それに対応する義務を負います。なんです



が、それは会社などではそうとは限らないよということ。このいじめ防止対策推進法は、何で容易にいじめとされる定義をあえて採用したのかというと、元々はいじめについてすごく隠蔽体質というものがあるという認識のもと、それがすごく問題視されたわけです。そういった隠蔽の防止です。定義からすると、いじめじゃありませんっていうのは基本的になかなか難しいので、被害生徒側の方が、これが苦痛だったという話であれば、その被害生徒が訴えてる前提となる事実があったと言えるのであればいじめに該当するわけです。

それからいじめ自殺を防げなかった学校への反省です。大津のいじめ自殺事件覚えてますか。蜂を食べさせたとかそういうひどい時もありました。あれを契機にいじめを早期に積極的に発見して重大事態を防止しようという趣旨です。

これらのいじめの学校の管理はあくまで教育目的なので、そのまま民法上違法な行為をしているからとか刑事罰に当たるからだからやめさせないといけないとか、そういうこととは限らないわけです。教育目的で積極的な認知によって重大化を防ぎましょう。だからああいう定義を使っているということになります。

そもそも何で学校でこんなに幅広くいじめとして考えて指導するのかということなんですけれども、例えば部活で後輩の力を伸ばそうと思って指導しただけの子なのに、その行為で相手が嫌だと言ってるからいじめだと言われたと。これはもう先輩の方はなかなかうーんと思います。それから、相手から先に嫌なことをされて、もうあなたとは私付き合えないというふうに言ったら、そっちがいじめというふうに言われたというパターンです。これいじめなんですか、これをいじめとして指導するんですかというふうな話、これ言われることがあります。なんですけど、結局社会で言うとこれパワハラって言われちゃったりします。パワハラとまでは言えないかもしれないけど、こういうことがあったから、ちょっとこっちに異動してくれないかということで、部署異動になっちゃう可能性、これ全然あります。それから職場で相手から先に嫌なことされたとしても、その相手を簡単に退職させられるのかっていうと、退職ってそんな簡単にできません。なので基本的にその子がいるという前提でどう付き合うのかという話になるのが、社会に出てからの動きになるわけです。なのでこの法律上のいじめに当たる場合、当事

者双方にとって社会に出る前にどう対処すればよかったのか、どう対処していくべきなのか、これを学ぶ重要な機会なわけです。なので指導するということなのです。

学校や保護者もそうですが、なんで指導するのかどう指導するのか、なんで指導されるのかこれをお子と一緒に考える必要があります。たまによくないのが、これいじめに当たるから向こうが嫌だと言ってるから、だからやめなさいっていう指導のパターンがあるんです。これ全然駄目って言うてるんです。何が駄目かっていうと、それだと、なんで駄目だったかわからないんです。それは加害児童の方からしても、なんで自分が悪いと言われたかわからないから、言ったもん勝ちじゃないかっていう話で終わっちゃうんです。そうすると教育的な効果が全然ないし、社会に出たときも大して役に立たないということになります。なので何で指導するのかということについて、ちゃんと一緒になって考えるということが必要になってきます。いじめに対する学校の指導として、どういうことやってるのかっていうところなんですけれども、グラデーションがあるわけです。良かれと思ってやった行為について、厳しくこれやっちゃ駄目だからみたいなこと言ってもそりゃしょうがないわけで、そうじゃなくてそういった気持ちとかそれ自体はいいんだけど、相手は発言苦手なわけだからちゃんとしっかり考えよう。どういうふうに言ったら伝えられるかなということと一緒に考えると。

一方で、いわゆる社会通念上のいじめと当たるようなひどいものについては、警察とか児童相談所と連携して厳しい指導を行ったりとか、そういうふうなグラデーションがあるわけで画一的な指導ができるわけではないということです。そういった指導を通じて18歳になって社会で生活するために指導していくということになります。

親はどう向き合っていくのかという話ですが、例えばもし加害者と言われてしまった場合のお子さんです。加害者になってしまったお子さんの親御さんどう向き合っていけばいいのかですが、まずすぐ子供を叱るんじゃなくて、話をよく聞いてあげてください。いじめって言われたと、これ駄目だと。相手とは付き合うとかそういうことじゃ駄目なわけです。まずはお子さんはどういうふうな思ってるのと、どういうことがあったのかということに耳を傾けて聞いてあげてください。結局いじめ防止対策推進



法上のいじめは、どういった意図でやったのかとかそういうことを考慮しません。なのでいじめイコール悪者というふうにはこれは必ずしも言えないわけです。さっきの東京高裁の裁判例でありましたけれども、損害賠償の対象になってないというのもありました。だからといってその悪者って意味じゃないと。衝動的に行っちゃった言動とか故意に行った言動というので、程度がひどいものっていう、これはもう社会でも許されないってことは当然あります。何か嫌なことがあって、うっせー馬鹿と言ったり、突き飛ばして向こう転んだとかそれも当然駄目なわけなんです。社会に出たらそれやったらアウトなわけなので、そういうことは当然駄目なんでそれは指導しないといけないということになるし、そういうのは社会では許されないんだよということをわかってもらう必要があります。

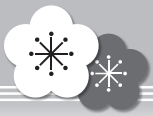
その上で子供にどういうふうにしていけばよかったんだろうねという改善点について、これを話し合うといいと思います。当たり前ですが、相手の子にも改善点がある場合っていうのもそれはあり得ます。当然です。なんですけれども子供と離れてどういう対応すべきだったのかと話し合う必要があります。相手の子の方の改善点ってのは、いじめられた側が悪いって話言ってんじゃないんです。でもそうじゃないけれども相手の子の方の何かしら先行する行為とかがあればこれ当然あるわけです。そのときにどういうふうに対応すればよかったんだろうねということをお子さんと一緒に考えるしかありません。これは教師の側もそうですけど、簡単に答えが出るような話じゃありませんので、いやあ難しいね、どうすればよかったんだろうね、どう思うってことで聞いて一緒に考えていくと。それによって大人が知っている18歳以上になってからのノウハウをお子さんに伝えることもそうだし、どういうふうにしていくのがよかったのか一緒になって成長していくということです。

被害者になってしまった子供に対してですけれども、まずはよく伝えてくれたねということで伝えてくれたことをこれは肯定してあげてください。社会に出てからもそうですけれども、まず何かされて嫌なことがあったときに、自分でふさぎ込んでしまって溜め込んでいてその後病気になるっちゃうとか、そういうのよろしくないです。できれば社会にそのまま残っていける、うまくやっていけるって形の方がもちろん望ましいわけです。なので、困ったときに

まず周囲の人に相談するってことは正解なわけです。大人について考えても。これはとっても大事なことなので、伝えてくれたことにまず、言ってくれてありがとうということで肯定してあげてください。その上で子供が何を望んでるかを冷静に聞く必要があります。保護者の方がヒートアップしてしまっただけで感情的になっちゃうと、本当は子供側としてはどういうふうにしていきたいということがよくわからなくなってきます。例えばお子さんの方としては、こういう形で大ごとにはしたくないんだけどもという気持ちがあったとしても、親御さんがこんな許せんと言っちゃうと、子供の方で戸惑っちゃいます。

別に大ごとにするのが駄目って趣旨じゃないんですけれども、お子さんの方がどういう形にしてほしい、どういうふうな解決がいいと思ってるんだっていう気持ちがあったら、なんでそう思ってるのかっていうのは聞いてあげる必要が当然あります。その上でどういうふうにお子さんが望んでるのか、どういう形で解決していくのがいいのかっていうことを冷静に聞いてあげてください。その上で学校にその子供から聞いたことを、この要望をどういうふう伝えるかということと一緒に考えてあげるとことです。もうすぐ成人するわけなので、例えば会社で何かトラブルがあったときに、親が電話して会社に連絡するってことあんまり世間じゃありません。

そうすると、高校生で、中学生とかは別です。高校生とかになると、自分で伝えていくというのを先行させるべきなのか、それとも親が言うって形にするべきなのかということは、これは子供自身が自分でその会社の方に何かあったときに伝えられる能力を養っていく必要がありますので、そこをどうするかということはこれはよく考えないといけません。一方でお子さんの精神状態が、もう相当きついという場合にそこまでやらせるというのはこれもまた酷な話ですので、まもなく自立した大人になっていかなきゃいけないという話とお子さんの精神状態とそこをどうよく勘案しながら、お子さんと話し合っただけで決めていくということになります。もちろんお子さんにまず最初に言ってもらった上で、その日の夕方とかに、学校に連絡して子供から聞いたと思うんですけど、こうこうこうなんですって補足説明をすってかかっていう形で補っていくのもいいでしょう。その後落ち着いたタイミングでお子さん自身に何か改善すべき点がなかったか、子供と話



し合う必要があります。別に改善する必要がないというパターンもあると思うんです。改善すべき点がなかったかっていうのは、それまでの経緯のところでもうちょっと早いタイミングで他のことを調整ができたらよかったねとか、嫌なことは嫌だっていうふうに初めの段階で言っているとその後こんなに盛んに言われることなかったかもしれないねというパターンもあったりするので、どういうふうにしておくとより問題が広がりにくかったのかということ話し合っていていくと今後のお子さんの成長に繋がると思います。

次に、子供の契約行為についての話をします。まず民法。お子さんが主体となってですけども、契約をすることによって、まず契約が成立するのかという話なんですけれども、未成年者が法律行為をするにはその法定代理人の同意、法定代理については基本的に親御さんですが、親御さんの同意を得なければいけないということです。それに反する行為は取り消すことができる。これが未成年者取消権というやつです。例えば小遣いもらってコンビニで買いましたみたいな、そういうパターンは取り消しできないんですけれども、そういうものを除いて、親の同意がなければ契約できないし、仮に契約しても親は子供がした契約これを取り消してあげることができるということです。反対に18歳以上の成年に達すると、1人で有効な契約ってのができますよというのがこれが未成年者取消権のお話です。一応取り消すことができるって書いてあるんですけども、自分は成人だというふうに相手を騙して契約した場合、これは取り消しできませんので。その点はあるんですけども基本的には取り消すことができます。

騙したっていうパターンってどういうのを言うかっていうと、例えば免許証とかで18歳ですと偽造したとか、かなり詳しく向こうの質問に回答して18歳以上だと誤信させたというパターンを言いますので、ネットとかたまにあなたは18歳以上ですから出てきてはいちポチってあります。あれは詐術になりません。ああいう場合はまだ取り消し可能だというふうに思ってください。成年年齢の引き下げですが、令和4年の4月から民法の成年年齢引き下げになりました。改正前は年齢20歳をもって成年とするとなっていたのが年齢18歳をもって成年とする。たった2文字変わったんですけどもこれによって変化が生じました。

この成年年齢が持っていた今までの意味なんですけれども、まず親権の対象です。対象となる年齢が20歳までだったということです。親権の対応となるものとしては居所指定権、要するにどこに住むかを決められる。職業の許可っていうのは親の許可が必要です。アルバイトするときは親の同意書って書いてましたよね。あれです。それから財産管理権です。子供の財産について親が管理する権限が与えられていました。それから契約年齢です。1人で契約することができる年齢というのを成年年齢で区分していたわけです。

それによって未成年者については親などの同意が原則必要というふうになるわけなので、同意のない契約を取り消しができたというわけなんですけど、ここは変わってくるということです。お子さんが単独で契約できるというのは、学校の関係で言うと、生徒が単独で契約できるというふうに言い換えることができます。学校との契約関係ありますよね。例えば、退学する、転学する、留学する、それから休学するとかこれらの手続きも子供が単独でできるということがあるんじゃないかなというふうに考えられます。ちなみに学校教育法施行規則というものがあるんで、これらの規定には親御さんの方が同意しない限り、退学転学留学休学できませんよなんてそんなことは書いてないということなので、お子さん1人でできるっていうことに、18歳以上なっちゃうのかしらというところがあるんですけども。ただ、学則という定めが別にありまして、茨城県も茨城県の学則が定められているんですが、そこで保護者の関与についてルールとして定められているところが一般的かなと思います。令和4年の民法の成年年齢引き下げのときに、そういう通知を文科省の方が出しますので大体のところは保護者の関与について、これら退学転学留学休学とか、保護者の方の署名と一緒に校長に届け出てくださいみたいに変わっているのであんまり問題ないかなと思います。

それからいじめ対応についてもですが、先ほど言ったようにいじめ防止対策推進法では、保護者というのは親権を行うものをいう、とありますので、法律上は親権を行う人がもういないわけですから保護者がいないということにいじめ防止対策推進法上なりますが、成年年齢に達した生徒について文科省が通知を出していて、引き続き18歳以上になってもこの法律で保護者に準じて取り扱ってくださいというふうになっています。準じてってどういうこと



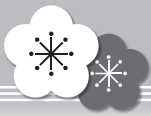
かっていうと、結局、法律上はやっぱり保護者じゃありませんので、いじめ防止対策推進法上この保護者に何々しないといけないっていうところはこれ適用されないというふうに言わざるを得ないだろうなというふうに思っております。もし保護者に対して何も学校が連絡しなかったり報告しなかったことによって、いじめが重大化したりひどいことになっちゃった場合は、それは学校安全配慮義務というのを負っておりますのでそちらの義務違反になるというところに繋がっていくんじゃないかなと思っております。

ということで学校にいる間については、あまり影響はないだろうという意味です。なんです、専門学校や大学とか会社とかになってくると話が変わってきます。今まで未成年者取消権というのがありましたので、みなさん18歳、19歳の時代を当然経験していらっしゃるでしょうから、その頃は例えばどこかに借りるとか契約するっていうときとかも、親の同意をもらってくださいとかもしくは親名義で契約してくださいってなっていたと思います。そうじゃなくなるわけです。未成年者取消権というのはそもそも二つの機能があったというふうに言われています。まず一つが後戻りができるという特効薬です。契約の当時未成年であったということさえ立証出来ちゃえば、どういった形で契約に誘われたとかそんな関係なく、基本的に取り消しできちゃうという特効薬があったわけです。それから予防薬として防波堤の意味もありました。契約を結ぼうとする企業商売する人の方からすると、どんな契約を締結したとしても、後々親の同意とかないと取り消されちゃうという可能性があるのです。初めから未成年者はあんまり勧誘のターゲットとしないという効果があったわけです。その機能が失われちゃうというのが19歳20歳に起こる影響です。この防波堤予防薬の話しましたが、それはそれなりに機能していたと言われております。これ何かって言いますと字細かいんですが、18歳19歳の相談件数を2で割った数と、20歳から24歳までの5歳分の相談件数の合計を5で割った値として、どれくらいの件数がそれぞれ相談件数として国民生活センター消費生活センターとかそっちの方に上がったかということを示す件数です。18歳19歳の方は年間4,820件ぐらいで20歳以降になってくると、7,740件で1.6から1.8倍ぐらい上がったということで、それまで防波堤になっていたというところがあ

るんですけれども、このところがちょっと防波堤にならなくなりますね。成年年齢引き下げによってこういうことが起こるかという、若者に多い消費者トラブルっていうのは例えばマルチ取引ネットワークビジネスです。こういうふうにと簡単に儲かるよみたいなやつです。それからエステサービスとか美容系です。それからタレントやモデルの契約です。あなたタレントとして登録しませんかというレッスン代として月10万円払ってくださいというふうに言って、レッスン代だけ取られるってパターンです。こういったものが20歳の若年層に多かったわけですが、これが18歳19歳も関与ターゲットに当然なりうるだろうというところなんです。これまで18歳という年齢が持っていた社会的な意味なんですけれども、そこの比較なんです、まず高校3年間に基本的に17歳の子と18歳の子が同じクラスの中にいるってこととなります。

同じクラスの中にいますので、例えば、そのクラスの中でマルチ取引みたいのが18歳の子の方がまず何か始めちゃったりして、17歳の子も勧誘してみたいなふうになってくると、17歳の子については、未成年者取消権で取り消せるんです。18歳は取り消せないんです。ということでクラスの中に救える子、救えない子が出てきちゃいます。それから結局この消費者被害、全員被害者なんですけれども、それを誘った子についてはもう加害者扱いに当然されます。高校卒業時のことを考えても全員成年なっちゃってるわけなんで、今基本的に8割強の人がもう高等教育にいらっしゃいます。親元から離れちゃって一人暮らしデビューよくあります。自立した経済基盤本当はないわけなんです、勧誘が来るわけです。いやいや僕そんなお金ないで、まだバイトも始めたばかりなんで貯金もないし、大丈夫だよ借りちゃえばって言うんです。自分では買えないんだけど、借りてきなよって言って借りさせちゃうわけです。借りてくることだったらOKだったことで借りてきちゃって、その高い何とか料とかを支払わされるという形で被害に遭う危険性が出てくるということです。実際に2023年度の国民生活センターの方への相談件数でどういう類型が多いのかについてピックアップしてみました。契約者が18歳19歳の商品別の相談数です。いわゆる美容系です。脱毛とか医療サービスとかダイエットサプリとかここら辺がやはり多いというところなんです。

こちらはマルチとかそういう内職副業系です。ア



フィリエイト内職というのは、ネットの広告とかのやつです。自分でホームページを開設してそこどこに広告を載せて、そこでクリックしてもらえたらお金がもらえるとっても簡単なお仕事ですってやつです。このホームページを作る方法とかアフィリエイトの儲ける方法の指南料が20万円発生します。それを最初に入れてくれたらあとはもう何もしないでも儲かりますみたいなやつです。そういう稼ぎ方指南のサポートというものも一定数ありますね。

娯楽系はネットゲーム課金です。件数として18歳19歳はちょっと少なめなのかなというところですが、マルチ取引、FXで年収1億円稼いだ男が明かす驚きの方法っていう情報商材系です。初心者でも必ず儲かる。そんな馬鹿な。元手10万円で始められる1日たったの10分。プロがあなただけに教える。なんで私だけなんだって感じですけど。

これがどういう感じになってるかっていうと、20歳未満っていうのは何かっていうと、成年年齢引き下げ前のグラフになっちゃうんですが、20歳代圧倒的に多いです。突出しています。43.6%ってことで割合出ますけれども、消費生活センターのうち43%がマルチ関係のです。他の年齢層に比べて、そのうちの43%が20歳代ですというふうになります。

この頃はまだ20歳未満はほとんどないということです。狙われてなかったということなんですけれども、これがちょっと下がってくるんじゃないかということが恐れられるわけです。実際18歳19歳の先ほどのグラフ見てもらいましたけれども、2023年だとだいぶ上がってきてるんで、これは狙われてますねというのがよくわかるということです。

マルチ取引の事例で紹介すると、これは国民生活センターの事案です。中学時代の友人からいい話があるから会わないかという電話があってレストランで会った。別の勧誘者も同席して海外の不動産に投資すれば仮想通貨で配当があるから消費者金融で借金をしても埋め合わせができる。投資者紹介すると紹介料をもらえる。ネズミ講です。借金の返済なんか簡単だよと言われた。学生だともう借金できないって言ったら、結婚式の費用って言って借りるとできるんだよっていうふうに教えてもらうわけです。それで合計130万円借金してそのお金は友人に渡したんだけど、結局投資のセミナーに参加したんだけど、投資の仕組みの説明ってのは全然な

くて友人にも解約してくれって言ったんだけども半額しかできないとか言われたみたいな事案が紹介されております。

実際僕が過去やった事案でもこんなのがありました。これは中学時代の友人から、自宅にしながらパソコンでお金を稼ぐことができるネットワークビジネスがあるよということで、投資競馬ソフトの購入をすすめられたんです。これ当時競馬ソフトって何かかって言いますと、勝ち馬がわかるっていうソフトウェアなんです。なわけないだろうって思うんですけども、そのソフトウェアの購入資金として80万円借り入れてそのソフトウェアを購入した。1回あたり10万円ぐらい総額75万円投じて馬券購入したんだけど、思うような利益は得られませんでしたということで、結局これは回収不能です破産の申し立てをするということになりました。それから美容健康関係です。これもかなりパーセントどんどん若者が多いんですけどもこれ2023年、令和6年度までの消費者白書のところから抜粋しましたがけれども、美容に関する相談件数どんな感じかということで、女の子なんですけれども、15歳19歳で見ても多いです。20から24歳も相変わらず多いです。ということでかなり美容系のやつが多いということがわかるかと思います。それからこれ男性ですけれども、男性15歳から19歳で見ると、ネットのゲームが多いんです。美容系はそんなに多くないんですけど、20歳になってくるとそれなりのケース上がってくるというところかなというところなんです。ただ、15から19歳でくくってるんですけども、先ほど18歳19歳の方で見たときにこちら辺のネットゲーム全然上がってこなかったです。なのでこれはあくまで想像ですが、15歳から17歳までのインターネットゲーム系が多いんじゃないかなという感じで、18歳19歳はやっぱり結局こちらの美容系にいるんじゃないかなというふうに思っています。15歳から17歳でインターネットゲーム系、何が生じるかっていうと、大体よくあるのが親のクレジットカードで勝手に課金したパターンです。

これは私が実際にあった事案です。いとこの方からのすすめでエステの100円脱毛始めた。するとエステ会社の担当者から当初大きな契約すると様々な特典がありますよということで、この程度だったらローン組めますよと言って30万円のエステローン組まされる。その後もローンの支払い終了したら今度また契約。次々エステの契約ローンを組ま



されてだんだん高くなって返せなくなっちゃって破産申し立てみたいなやつです。破産なんですけれども、破産すると当然新たな借り入れってのは当面できなくなっちゃいます。ETCカードとか電子マネーとかは使えないとまでは言えないんですけども、かなり使いにくくなる。もっと大きい話で言うと住宅ローン組めなくなっちゃう、車のローンも組めないということがあるので若者がこれやると結構その後苦労します。しかも2回目の破産ってなかなか難しいのでその後例えば事業を起こしたいなみたいな感じの人生の再チャレンジみたいなことは難しいというところですよ。

ちなみに破産するときに浪費というふうになると、一応法律上、債務をチャラにできない免責不許可事由ってのがありまして、ギャンブル投資とかによって大きな負債を負っちゃったとか、収入の方を偽って借り入れちゃったっていうふうになると、借金をチャラにできないというふうにされてはいるんですが、実際は、裁量免責ということで正直に申し立てをすれば免責されますので、もし困っちゃったなということがあったとしても最悪破産をするということは一応できますので頭の中に入れてください。

なんで子供たち若い人は特にそうなんですけど、高齢者層も多いんですが消費者被害に遭うのか。まず問題。マットとボールの合計金額は1ドル10セントで、マットはボールよりも1ドル高いです。ボールの値段はいくらですか。答えみなさん聞いてみましょう。10セントだと思う人。5セントだと思う人。ありがとうございます。分かれました。答え5セントなんです。10セントだと1ドル10セントプラス10セントで1ドル20セントなんです。本当は5セントと1ドル5セントで合計1ドル10セントです。

この写真ですが、皆さんこの人どんな感情だと思いますか。怒ってるんじゃないかなと思ったと思います。脳の思考方法というのは2通りあるというふうに言われています。まず一つが自動システムと呼ばれるものです。もう一つが熟慮システムと呼ばれます。自動システムっていうのは感覚の情報です。ぱっと聞かれてぱっとわかるというこの感覚の情報に基づく迅速な感情とか行動の方をコントロールするというのが自動システムで、熟慮システムは論理性に基づく思考です。自動システムは外部からコントロールされやすいのに対して、熟慮システムって

いうのは自分で主体的に考えるので、だんだん磨かれる力ということになります。

自動システムはもう、生まれたときとか幼い頃から感覚的に学んでいくものなので、こちらの方がぱっというふうに判断できるというものになります。熟慮システムもこれだんだんだんだん発展するということです。少年犯罪の話ですけども、なんであの子たちは我慢できずにそんなことしちゃうのかって話なんですけれども、この熟慮システムは、頑張って頑張ってだんだん向上させていくものなんです。25歳までだんだんだんだん発達してくるので、そもそもまだこの熟慮システムが発達していないというところで、しかもその環境的な因子によってこの熟慮システムの成長が遅い、不十分というところがあるため、それによって浅はかな考えでやってしまうというところがあります。

自動システムに比べて熟慮システムは、とてもさぼりやすいんです。興奮する、不安な気持ち、疲れちゃうとかです。そういったことがあるとこの熟慮システムってうまく作動しなくなります。この熟慮システムの方を麻痺させて、外部からコントロールしやすい自動システムを刺激する。これによって消費者被害に遭わせているというのがこれが消費者被害の実態です。脳の観点から説明すると、自動システムをどうやって刺激するのかということなんですけれども、まず返報性と言われるやり方です。借りは返さずにいられないということで、例えば試食です。試食いかがですかとハムとかいろいろ配れます。そうするとなんとなくそこのハムを一応取っちゃうとか。あと、長時間ずっと呼び止められて説明されて、もう行きたいなと思いがら別の商品とかすすめられてずっと勧誘を受けてると、何か買わないとまずいかなとか、そういったことがあると借りを返そうということで消費者被害に遭ってしまふ。

それから社会的証明です。みんながやっている、要するに何とか売上No.1とかです。うちの会社はこういう大きな、例えばNTTと取引があるんだみたいな、そういうことを言われると、信用できるのかなみたいに思わせる。それから、権威です。これなら信用できるということで、コーンフレークとかもありますけれども、後ろの方に栄養士監修とか栄養士がこれはいいいんだみたいなこと言ってるみたいなやつです。そういう専門家のお墨付きがありますよとか、FX取引のカリスマが勧める商品ですみた



いなやつです。これなら信頼できるというふうに思わせるということです。このところに別に企業の方のCMとかこういうのは大体入ってると思います。大体見ますよね企業のCMとかでこういうのが入ってます。

別にこれ自体が違法だとかそんなこと言うつもりはさらさらないんですけれども。ただそういうところはちょっと割り引いてみる必要がありますよねということで、考え方で対策しないといけません。借りは返さずにいられないというところがありますけれども、これ何のためにこういうことされてんのかなということを、一歩引いて考えなくちゃいけません。社会的証明や権威についてはそう言ってるけど、その商品が良いとは限らないよねというふうに考える力、これを養っていく必要があります。それからコミットメントと一貫性ということです。これ言ったことは守ろうという意識です。例えば、すいません、ちょっと5分だけでいいので体に気になることアンケートやってるんで教えてくださいというふうにやって、友達待ってるだけだしいいかと思ってそのアンケートに答える。ありがとうございますというふうな感じになるんですけれども、例えばそのアンケートのところに、腰が痛いところが気になるとかに丸したりすると、今腰に効くサプリメントを売ってるんですよみたいな感じで、そこに引っかけた言ってくるわけです。そうすると自分で一度言ってしまったことなので、それと一貫した行動を取らないというふうになってしまうというのが人間の心理だそうです。それから希少性、プレミア感です。期間限定、あなただけ。それから好意。あの人がいいと言っている。例えばインフルエンサーみたいなのが、これはいいよと言ってるっていうパターンです。

なんでこの順番でやってんのかなということは本当に気になるはずですが。先にアンケート答えさせられて、その後それに乗じたものを言ってくるってこの順番おかしくない？というふうにする能力を養う必要がありますし、希少性プレミア感でいってもこれ本当に今必要なものなのかということを考える必要があります。好意の部分でいうと、あの人がいいって言ってるからって本当にいいかどうかは別問題ということです。今、ステルスマーケティングというのがありますから。インフルエンサーがいいって言ってたからといっても、それはステマかもしれないわけです。若者は商品やサービスの購入を検討

するときに決め手となる情報源としてSNS、圧倒的です。15歳から29歳の人なんですけれども、圧倒的にそういったものを決め手とする情報源として選んでます。インフルエンサーなんかでいっても、若者はすごく高いです。みなさん若そうだから30から49だとすると4.1ということであまり少ないです。50から69だと1%とかで全然信じないというような感じなんですけども。

消費者保護法の話です。消費者保護法の基本的な考え方ですが、契約は当事者双方の自由な意思の合致によって成立するわけなんですけれども、先ほどの興奮や不安や疲労や困惑、これらを不当に押し付けているという場合は自由な契約しているとはいえないから、その契約の効力を制限するという考え方を消費者保護法がとっているわけです。

例えば情報の誤りがある場合です。事実でないことを告げたり、将来株が上がるかどうかかわからないのに、これ絶対上がりますからみたいなやつです。そういったことで情報の誤りによって不安だったり興奮させたりしてやるという場合に取消しの対象となるといったことで規定されています。

通信販売、ネットショッピングについて一点注意みていきます。ネットショッピングについてはクーリングオフはありません。なぜかというクーリングオフっていうのは、不安にさせたりなんなりするっていう行動がある状態の契約類型などについてクーリングオフできるわけなんですけれども、ネットショッピングは自分で検索します。自分で検索してクリックしてやってるので、不当な勧誘がないという前提で考えるんです。クーリングオフということで8日以内にキャンセルすればOKみたいなやつがない、ということになってます。ネットショッピングの場合は本当に気をつけて購入する必要があります。

消費者被害を防ぐための教育ですが、熟慮システムそのものを育てる必要があります。論理や理性に基づく思考です。自分で主体的に考えるようになりましょう。その上で熟慮システムが成約させられちゃうと自動システムを刺激する手法ということで先ほど六つあげました。そういった広告だったり勧誘方法に関する知識や危険性、これをお子さんに教える必要があります。それから大切なのが事後対応です。被害に遭ったときに何ができるのかを教えるということが必要です。消費者保護法のルールを教えることもいいんですがちょっと難しいので、



どっちかっていうと相談先の知識を教えるということの方が重要です。相談先ってのは具体的に何かっていう話なんですけれども。保護者さんとしてどういうことができるのかという話なんです、消費者被害に遭わないためにお子さんの成長を促すということです。

ネット購入するときとか、広告表示、これがネット上出ます。これが出たときに、こういう理由でこういうのやってるだけだから信用しちゃ駄目だよっていうようなこととかを説明してあげるとか、親が契約するところを見せて、これってどういうところを自分は確認してるんだっていうことを説明してあげる、教えてあげる。オンザジョブトレーニングです。OJT っていうことになります。これは学校の先生じゃできません。一緒に暮らしている親しかできません。それから子供が契約するところに親も同行してみて、18歳ぐらいの時は。一旦持ち帰らせて考えるということが重要だよということで、その場ですぐ契約しないように教えるとか、契約していいか迷ったら親に相談の連絡を、親じゃなくてもいいんですけど相談連絡を入れるように助言するということです。ちなみにこの間、消費者契約法改正がされて相談連絡することを相手に妨害されたという場合は取り消しができるっていう余地が広がっておりますので、相談しようとすることはとても重要になりました。事後対応の認知度なんです、消費生活センターの認知度が、16歳から17歳が56.5%半分ちょっとです。消費者ホットラインの認知度がこれが16、7歳34%というところです。消費者ホットラインの電話番号188いややっていうんです。消費者ホットラインということでなにか困ったことがあったらまずこのいややに電話して、ここにいらっしゃる方もそうだし、お子さんにも教えてあげてください。

最後、子供の権利の話についてお話したいと思います。こども基本法というのが昨年施行されました。子供基本法で、子供の最善の利益だったり子供の意見の尊重というものを掲げています。これらは、子供の権利条約で定められているものです。今年で日本は批准30周年なんです。子供の権利条約でも最善の利益と子供の意見への尊重という意見表明権について規定がされています。子供の権利条約は子供を保護の対象としてるんじゃなくて、権利の主体として認めています。大人が子供にことを決めて押しつけるということを想定してはいません。大人は

権利の主体である子供との間で最善の利益をコミュニケーションをとりながら実現していくということが求められています。権利と主体である子供の意見表明権についても保護がされています。なので大人は子供の気持ちや意見を聞く場をちゃんと設けて、その意見に誠実に回答しましょうということがこの条約ではいわれています。こういった意見交換によって最善の利益となる結論が導き出されるし、子供が一つの人格として成長発達していくんだというふうに考えてるわけです。なので、子供とコミュニケーションをとって意見について耳を傾けて一緒に考えていくことによって、子供の自立が促されて、18歳までに責任ある主体へと導くことができるということです。学校保護者がお互い尊重し合って子供の健やかな成長を見守っていただければと思います。



第3分科会 講演

子育ては気力・体力・経済力

講師 7男2女の大家族お母ちゃん 石田 千恵子氏

〈講演要約〉

今日皆さんに会うために新調して参りました。私にとっては「高級」です。これまでは、それこそ着たきり雀で子育ての時には大体3パターンを洗っては着、洗っては着、ってやってきました。結局穴が空いていなければ大丈夫だろうと。その時私は若さで乗り切っているという訳のわかんないことを思いながら育ててきました。今は流石に若さは無理なので、着るものでなんとかしなくちゃいけないという思いはあるんですけど、結局クローゼットを開けると、どどめ色ですね。洗濯物干した時1番悲しいです。なんでこんな色しか私は着ないんだろうと思うけど、結局そうなっちゃうんです。皆さん、たまには可愛いカラフルなのを着ましようね。そうしないと、自分の心折れますよ。

私、1冊しか出していない本、その中に出てるのが、この言葉です。子育ての時に「なんでこんなにお金がかかるの」「なんでこんなにうるさいの」「なんで」っていうけど、子育てってそうだから。だから私言うんです。「子どもいないなら、できちゃった、いないじゃなくて、まずは最初作らないことから考えてくれる？」って。

その本に私の生い立ちが書いてあるんですけど、私は父親をいまだに知りません。母が認知症になってこれ以上進んだら、「お母さん、名前も忘れちゃうだろうから教えて」って言ったら、「忘れた。今更知ってどうする」の一言で終わりです。私、東海村の亀下ってところで海が近くて、久慈川が隣を流れてるんですよ。日立との境目なんですけど。常磐線が走ってて「その鉄橋から私は何回も要するに自殺しようと思ったかわからない」と母から言われまして、そういう子どもです。本当だったら、田舎だから絶対後ろ指差されるじゃないですか。そういうこと1度もないんです。もうどこ行ってもご飯食べられたの。私いまだにずるいんです。昔の農家のご飯って麦ご飯なんです。麦は上に浮くんなんです。いくらかき回しても、1番下まで麦は到達しないんです。

だから私は「下のご飯が食べたい」ってずっと言ってたから、どこ行っても「千恵子は下のご飯だね」って言って私はどこに行っても麦の入っていない下のご飯を食べていました。今考えると、麦が入ってた方が賢くなったのにな。あそこで選択を間違えましたね。今は、栄養食として麦を食べましようっていうのにな。そういうのもちゃんと説明してあげればいいのに、あの頃はわかんなかったんです。

大家族って言っても9人です。女の子が2人で男の子が7人です。女、男、女、男ってここまで産んだら、最高でしょ？ 女、男、女、男でよかったねって言ったら、今度はその下に男の子ができて、うちは、男の子が3人もいるのに女の子が2人しかいないっていう言い方するの。そこで間違いが始まりましたね。男の子7人になりまして、間違いっていうのは恐ろしい。結局育ててる。

何故か田舎に来てから子どもたち、喘息になりました。すごかったです。だから車に必ず2人分の入院設備を置いて、病院へ連れてって、家で吸入から何からするんです。ダメで病院に行くと点滴して「ん～入院かな」って言われて「はい～」って言って全部セッティングして帰ってくるという。どうしても2人、5番目と6番目がしょっちゅうやりましたんで2人分置いてあって。結局、母が心臓の方が悪かったものですから、その子たちの入院設備がなくなった頃に、何故か母の入院設備を必ず車に積んでおくという。「入院です」って言われたらすぐ「はいわかりました」っていうぐらいにできるようになって、私の人生何だったんだろうなと思いつつも、今はおかげさまで母は特別養護老人ホームの方に預かっていただいています。

私がここでお話しできるようになったのは何かなと思ったら、高校に子どもたちが通っている時に、結局会長職を何故か4期やらされて、最初は何が何だかよくわからないでやってたんですけども、2期目になったら渉外部長は、「あんたがするんだろ」ってことで、打診も何もないんです。「は



い、では次期会長石田さんご挨拶をお願いします」って、「えっ？」ですよ。それでこっちも開き直って「じゃあ分かった」ってみんな楽しくやろうねって言って、結局司会とかもやって、色んなのやらせてもらって、その蓄積が今ここでお話ができるってことです。

あとは入学式とかいろんな時に目の前でお話するっていう、そのポイントを掴むっていうことをその時に教えていただいた。だから無駄はないですよ。「永遠に役やらされちゃって困る」っていうけど、いやあなたの未来は開けた。どこでその芽が膨らむかわからない。だから1つ1つを大事に前に進んで。自分が完璧なんて思わないで、必ず誰かをね、道連れにする。道連れにしてるってことは、共に歩くことです。でも、道連れにする時によく「頼んだじゃない！ あなたに頼んだし、助けてくれって言ったじゃない！」っていう人がいるけど、逆やられたらどうする？ 逆やられて嫌だなんて思うことは相手にしない。必ず私は、病院の先生でも何か言われても「待てよ」って思う。どっかに疑心を持ってらんです。そうすると、もし思い通りにならなくても、「だよね〜」って言えるわけですよ。そうすると相手を恨まないで済むわけです。共倒れにならなくても済むわけです。だから子育ての時もそうなの。「私はこんなに頑張ったのに！ あんたはなんで！」って言うけど、いやいや、人間ってそういうもんでしょ。それから、「あなたのためよ！」っていう人がいるけど、それよーく考えてご覧？ それ自分のためでしょ？ 子どものためって言うてる？ 今中学校の全国大会って運動の指導の先生がいなくなっちゃうし、先生たちが大変だからやらないことにしましょうって言うてるけど、どこで子どもが芽を開くかわからないのに、頭いい子だけを優先して、運動で活躍できる子たちの芽を摘んでどうすんの？って。未来は子どもたちの為にあるの。先生とか大人とか親のためにあるわけじゃないんだよ。

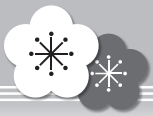
子どもたちの未来をどう私たちが開いてあげようかっていうことを親になったら特にね。そのために生きてらんですよね。だから私本にも書いたんですけど、本当に赤ちゃんを育てる時には8割がた自分の人生捨ててね、2割くらいは自分の人生を持つのはいいけども、でもその8割も一生じゃないんだから。ほんのちょっと、ただその現場にいるときは、もうなんかこれぞ一つと続くと思うんですよね。で

も、未来ってふっと気づいたら過去になってるのよ。早いわよ過去になるのが。それなりのお年の方は「そうね」って思うでしょうけども、若い方はもうちょっと「あれ？」って思うでしょうけど、本当に未来ってあつという間に過ぎて過去になっちゃうの。だから未来をドキドキしながら、不安に思いながら生きるっていうのも必要かもしれないけど、でも目の前にある、特に子ども。この子をどうしよう。どうしたらこの子の人生の芽を摘まないで済むだろうかっていう。それだつあつという間に過去になっちゃうの。過去を今にはできないの。未来は今にできるの。

だからそういうことをよく考えながら、自分の人生のいろんなものを次の人に伝授する時、細かいことじゃないけども、大きな目で俯瞰で物事を考えて相手に伝える。伝える時も、相手の心にちゃんと届くように伝えなくちゃダメなんです。そこを間違っってなんか突き刺すように話をする人がいるでしょ？ それはまた違うよね。子育ての時に自分で一生懸命やってたのに「なんでこうなったの？ まさかなんですか？」とかっていうこと、いっぱいあるのね。けども、目の前にあることが現実なの。「そうなんだ。じゃあ今何すればいいの？」そうやって前に進んでいるんです。そうだ、私もそうやってきた。あの悪ガキのためにどれだけ頭下げたかなあ。

私が会長の時にグループで悪さしたやつがいて、親皆さん呼ばれて、そこのお店でやったんですけど、私そこで土下座しましたから。「私はこの子たちの学校の会長です」って「申し訳ありませんでした」って。目の前で見せました。子どもにも。母ちゃんはね、お前のために恥かいたって恥ともなんとも思わないよって。お前のこれからの人生ちゃんと生きていけるようにいくらだつて恥かけるからね。他の父兄なんか何も言わずにただ帰っていきましたけど。やばいって思ったんじゃない？ この母ちゃんは、と思うけど。

子どもの前でもどんなに悪さしても堂々と頭下げ、何でじゃないの。現実がそうなんだから。やっちゃったんだから。でもその子の特徴もあるから、停学になったからダメなんじゃなくて、これはこの子のために切っちゃったら、心病んじゅうなつていうのだけは緩くして。そしてこれはダメだよ。やっぱり自分の子だからちゃんと見てるでしょ。その代わり生まれた時に私1週間、今は病院に1週間はいないんでしょうけど、1週間の間、子どもに



向かって「可愛いねえ。だ～いすきお母さん。愛してるよ～」っていうのを細胞にインプットしました。心臓とどこだっけかな。そこは変わらないそうですから。

そこまで到達するように全部その言葉を1週間言っただけでした。思いもかけないような人相で生まれる場合があるんですよ。「どこの子？」っていう。今笑った人はちょっと思い当たるんだろうけど。長女は「ご主人そっくりですね～間違いない～」っていう感じだったんですけど、長男は同じとこで産んだんですけど、みんななんて言っただけでいいかわからなかったって。

うちの母、手伝いに来てくれて、今は思いますよ。ありがたかったなと思うんですけど、あの頃は「面倒見させてあげる」って思ってますね。主人のお母さんも来てくれました。今1番下の愚息が、母ちゃん育児手伝ってって言って手伝いに行った時、「あー私はなんて失礼なことをしたんだろう」って今になってわかりますけど。あの頃は「見させてあげる」と思っていました。そうやってみんなを巻き込んで今自分をなんとか子どもたちも全部一人前になったのか何人前になったのか知らないんですけど、一応自分の足で立ってる、歩いてるっていうのが現実です。

気力・体力・経済力っていうのありましたけれども、子どもは生き物・生物・腐り物、メンテナンスが悪かったら、すぐ腐っていくし、それこそ手の施しようがなくなってしまう。その前にちゃんとメンテナンスをよくしていかなきゃいけない。それと、金食い虫。うるさくて汚くてね、金がかかるのよ。でもそれが子育て。それを笑い飛ばせるぐらいにならなくちゃダメだよ。今やっと思い出した。長男ですけど、全然誰にも似てなくて、うちの母が一言、「どこの子？」って言ったの。個人病院で産みましたが、私が産んだ時には誰もいないところだったんですよ。夜中に女の子が産まれてましたけど、だから看護師さんがね、一言「取り替えようがないんです」って言ったんです。本当にね、これ誰なん？ よく考えたら、主人のお父さん、舅さんに似てたんですよ。ちょっとお乳飲ませる時、ちょっと複雑でしたね。でもこの子もやっぱり2人から産まれてきたんで、頭が2つあったんです。びっと引っ張られて、可愛いでしょって言われたけど、なんて言っただけでいいかわからなかった。

でもだんだんだんだん形になってきたけど、やっ

ぱり頭は変形していますね。それでもなんとか今は一家を支えて頑張っているからなんとかなっているんでしょね。言っておきますけど、あれはね、息子、長男さんはね、立派ですね～って言いますが、あれは嫁さんが立派。もう本当にお嫁さんがしっかりしてますよ。だから「お願い、返品はやめてね」って言ってあるんです。

人間っていろんなものを犠牲にして搾取して生きてるんです。植物は自分たちだけで生きてるんです。みんな食べるのにまず植物からいってるわけですから、私、植物大事にしています。一応ジャングルですけどね。やっぱり植物を見た時に草でも「ごめんね」って言って引っ張るくらいの気持ちでいるといいなと思います。牧野植物園に行って彼が書いた言葉を聞いてきたんですけど、「植物は人間がいなくても生きられる」って。「だけど人間は植物がなければ1日も生活できない。だから植物に自分はどれだけ助けられているのかを認識しながら植物に感謝しなくちゃいけないんだよ」っていうのが牧野先生のお言葉でしたね。考えてみればね、牛だって豚だってそうなんだよね。そういうものに助けられて自分たちは生きてるんだってことを思うと、やっぱり子育ても自分だけでやってるんじゃないんだよ、いろんな人たちに助けられてやってるんだよって考えられると1番いいんじゃないかと思うんです。

「私の子どもは私が育てるから大丈夫です！」ってあり得ないから。自分だけで育てたいっていうのは、昔から言うように「つ」が抜けるまでです。9つまでです。10になったらそれまでどう自分が子どもと関わって、やって良いこと悪いこと、それから人の心を教えてきたかっていうのを、10になった時にその子が世の中に出ていって、友達と関わって、それを基本にして、友達とのコミュニケーション、それから友達から学ぶことも出てくると思うんですよ。でも根っこ「つ」の抜けるまでをどう親は育てるか。そして「つ」が抜けた時に子どもの生きるところを俯瞰で見れるようにしていかなきゃいけない。

でも子どもが病気になったり、色んなことがあったら、サッと行ってそこに手を差し伸べて、また俯瞰になって、その繰り返し。いずれ手を離れていくってことになるんで、それをずーっと目の前でしがみついていたんじゃない、親も子ども将来どうすんの？ってことになっちゃうわけですよ。だから成人



してもう大人なんだからどうぞって、今までずーっと1から10まで、右見ろ左見ろまで全部やってきちゃったら、あとはもうお前の人生だよって言われたって自分の心がないまま育っちゃった子はどうしようもないですよ。決定権何もなくて育っちゃった子は。それをなくすためにはやっぱり俯瞰で見る時期をちゃんと。それがね、同じ兄弟でも「誰々ちゃんはいくつでこうなった」って言うけども、みんな違うのよ。同じ遺伝子で産んだはずなのに。遺伝子が出てくるところが違うんでしょうね。成績も全然「あれ？」っていうのもいれば、「ふーん」っていうのもいるし。うち1番下が28なんです。1番上が今年の暮れになるともう45。先日44になると老化が目覚めって言ってましたね。目覚めすぎちゃってんですけど、私はね。だけどそういう目覚めの時期が来て、それまでに子どもたちをどう自然に導いていくかっていうのもあると思うんですけど、だから私高校の卒業式の時に保護者の人に言うんです。「見守ってほしいんだけど、絶対手を離さないとかって言うことはやめなさいね」って。いずれ私たちは先に死ぬんだから。その時に「母ちゃん、俺これからどうやって生きてくんだ。父ちゃんどうしてくれんだ」って言われたってそれは無理なんだから常に背中を押してあげて、潰すほどじゃいけないんだよ。

そっと背中に手を差し伸べて、温かみをわかるようにしてあげて、前に進んでいくように子どもたちを支えなくちゃダメだよって。疲れたなあって言って帰ってきたら、お金じゃなくて、あったかいお布団で、好きなご飯を食べさせてあげるっていうのが本当の親の心だよ。金で、お札でほった引く叩くようなやり方、絶対ダメだからね。私がいたところは工業高校なんで、いっぱいポケットに、入学式の時に言ったんですけど、みんなポケットにいっぱいアイテムを入れなさいよって言って。

父兄は、お金がなんでこんなにかかるんだって言うけれども、ここは資格をとる学校なんだから1度で取れなくても2度でもやらせてあげて、もし卒業の時に取れなくても、もし自分が就職した時に「そういえばこの資格って、あの時ここやったから。1から10じゃなくても5くらいまではだいたいわかるでしょ。そしたらその上に足せば良いから、そしたらまた取れる。」アイテムになっていくわけだから、「なんでこんなに金かかるんだ。」って言うのはやめてちょうだい。それを父兄に言って、そう

やって育った子たちが今何やってんのかなって言うんだけど、うちの愚息2人ね、なんか好きに生きてます。うち美容学校出た2人がいるんですけど、2人とも全然やっていないんですね。もったいないでしょって言われるんですけども、いやいや、そのやって自分と合わないなって気づいた時にそれをずっとやっていて心を病んだらどうするのって。それを自分の財産として自分に役立たなくても、自分の子どもがやりたいって言えば、こういうことだよって教えてあげられるし、友達とか知り合いとかにちょっと話を聞かせてくれって言われたら自分の経験を言えるでしょ？ そしたら人の役にも立つじゃん。

そういうことをしてくのが「生きる」ってことだよ。だから無駄はないんだよ、って言ってるんですけど。今ここは高校生の保護者の方ですけども、ちょうど分かれ目ですよ。このあとどうなるかっていうのがちょっと。うちの工業高校に行ったのは「高校を出て就職したい。家が大変だから」とか言ってたのに大学院まで行きやがって。「えっ」て言ったけれども、私はもしやりたいものがあつたら上を目指せば？ でも借金背負いましたけどね、本人はね。その代わり借金があるよ、行きたいなら行きなあって言って今なんとかやっていて、知らないうちに家まで買いやがって。3DKだかなんだかって、お前結婚するのって聞いたら「うん、どっちでもいい」って言ってました。半分以上結婚してないんですよ。大丈夫かしら。

私なんでも楽しんでじゃおうって。だから役員やった時もそうですよ。「みんな楽しもうね」って言って。そしたら1人だけ「もう役員なんかやったら大変だから」って言われたんだけど、「うーん」って言って3年の時にやってくれた人がいた。卒業する時に「なんでもうちょっとやりたかった」って言って。私がちゃんと楽しめるように頑張りましたから。でも本当に、どうせ生きるんだから、楽しんで子育てしてやっていくしかないよね。

大人とは何か。返事ができて挨拶ができて後始末ができる、衣食住を自分で賄える、これが「大人」だと思ってるんですよ。返事って何って、「自分はここにいますよ」「私はこんな人間ですよ」ちゃんとアプローチできるか。それと挨拶、こんにちわ、これは「相手のことを私はちゃんと認めてますし、あなたがそこにいるのを私はちゃんと知ってますよ」。後始末、「自分の言ったこと、それから行動し



たこと、ちゃんと私は責任を取ります」。それができて大人なんです。それと着て食べて住むということが自分で賄えるようになる。私はどっちかっていうと最後のところは、いまだにパラサイトしてますね。今母のところにいるから、母の家の維持費は母の通帳から抜けていきますけれど、いつまで続くかとドキドキしながらやっています。

あとは「バランス力・集中力」これはどの世界でも必要だと思いますけれども、子育てにも必要なことです。自分の子だけ見ているのではなくて、周りの人の子どもも見ながらバランスをとっていくという、生きるってバランス力がとっても必要なことなので。でもバランス力ばかり考えてたら、なんかいつの間にかそっちの方にずーっと落ちちゃうから、やっぱり本当に自分はどう生きたいかっていうのも、自分に問いかけることが必要だと思うんですね。私必ず言うんですけど、ある方が言った、デヴィ夫人かな。寝る前に20個自分を褒めなさいって言うんですよ。普通の人、20個も褒められる？せめて5個だよ。何を褒めるかって言ったら、「今日金儲かった」そんな話じゃないんですよ。「今日は良い天気だったから、なんか素敵と思えた自分が素敵」雨降ってたら、「うわー今日雨降ってたんだけ肌潤った。素敵」それから「今日は人のこと恨まなかった。自分を褒めることができたわ。嬉しい素敵」これはだいたい3分くらい。長くても5分。それ以上やったら心病むから。目一杯、ちっちゃなことでも良いのよ。子どものことでもね。今日はね、誰々ちゃんって言ったら「はい！」って返事が返ってきた。当たり前のことを当たり前だと流さない。「わあ素敵な声で返事してくれた」ってだけで喜ばないわけ。だからそういうことを、自分で自分に褒める言葉を見つけて3分ね。

それから山本五十六さんが「やってみて、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ」って言葉を言ったんですけど、私は褒めるっていうのが少なかった気がするんです。ただ、兄弟の「お兄ちゃんはできたのになんでできない」とか「誰々ができたのになんであんなはできない」とかは言わなかった。「お兄ちゃんなんだから、なんとかだよ」っていうのはないけど、長男は1番下の子が入退院の時は、夫と私とその長男とで手が離せないから、3人で入れ替わり立ち替わり病院に行きました。だから長男が家を出て、日立の方の学校に行く時には、どうすんだこれって思いましたけど、

でもその時には下の子もそれなりに大きくなったので、そこまで心配しなくて済みましたけれども。でも本当に子どもたちには助けてもらって、子どもたちも嫌だと言わずに、手助けしてくれてたんだなって。今も感謝だけです。

あと高橋智隆さんっていうロボットクリエイターの方が言ってましたけれども、「IT時代の高度な技術に対応しているが、シンプルなアナログなことは人の力である」と。「シンプルなアナログ」って子育てですからね。今、びっくりしますけど2歳の孫がタブレットやってるんですよ。誰々ちゃんって声かけた瞬間に睨まれて。ごめんなさい。でもそういうのばかりやってたら、目の心配してるけど大丈夫なのかなって思います。保育園に入ってくれたので、なんとかなったかな。家に帰ってきてからもずっとやってたら、目の方が心配だなんていうのがあるんですけども。

ちょうど私が真ん中くらいの時かな。学校のシステムが変わって、今までは1年生の、最初は3段階で成績表を作りましたけれども、1年生の3学期とかそれから5年生までは「できる・普通・できない」というような感じでやられましたから、どう理解して良いのかわかんない調子で、横の方に丸がついているのが多かったらいいみたいな感じで、6年生になったら5段階だったのがいつの間にか6年生も3段階になっていて、中学校行ったら5段階になりますでしょ。ある先生が、私がぼーっとしているからでしょうね。「石田さん、この普通っていうところは、誰々ちゃんは2ですからね」って言われました。私もそんなにバカじゃないから「知っている」って言いましたけど。一生懸命コツコツやっても、やっぱり芽が出ない子もいるんですよ。でもその子2ですって言われたのに、いつの間にか大学出ましたけど。すごいとこじゃないですけど、お嬢さん大学でしたけど、コツコツやるからすごいことはできなくても、ちゃんとそのレベルで人生歩んできましたので、私はそれでいいと思っているんです。

加藤諦三さんが言っていた言葉で、「どうにかならないことはそのままに置いておく。どうにかなることをどうにかしましょう。」これ子育てそのままです。どうにかならないことを先の先ばかり考えて「あー！」って言っているけど、まず目の前にあることをなんとかしようよ。今日の前にあることをちゃんとしなかったら未来はないんですよ。言った



こともこれから先の未来まで考えていて、目の前を疎かにしてどうするの？ 成長には3つあるんですって。これは「年齢的成長・社会的成長・精神的成長」。これがちゃんとバランス良くなってないと、やはり歪みがくる。特に、年齢的成長。これを重視していかないと、やはり心に穴が空いてしまう。こういう偉そうなことを私が言っているのは、だいたい私高校の役員やった時に、講演会に参加させていただいて、手に入れたアイテムです。だからみんなもそれなりにアイテムを使って、これから全部覚えるなんて言いませんから、1つでも自分の心の琴線に触れるものがあったら、ラッキーと思ってそれを大事にしていたら嬉しいなと思います。

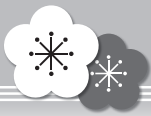
それから、本には書いたんですけど、「はひふへほ」っていう言葉。「は」は半分がいい。「ひ」は人並みでいい。「ふ」は普通でいい。「へ」は平凡でいい。「ほ」はほどほどでいい。たまに半分がすごいレベルの高い人がいるんです。下げろって言いたくなるんですけど、でも心がちょっと窮地に陥った時に、そこにすとんと自分の心を落としてみると、「あ、そうだ自分は高望みしすぎちゃったな」と自分の振り返りになるんじゃないかなと思います。

それから「おい、悪魔」。一瞬この言葉を聞いた時に、「え、何それ」って思ったけど。「おい、悪魔」これはね、「お」は怒るな、「い」は威張るな。「あ」は侮るな。「く」は腐るな。最後の「ま」は負けるなです。「おい悪魔」これはやっぱり自分の心が病んでしまったりとか、なんかちょっと辛いなと思った時にこの言葉を思い出してみてください。役員やった時にいろんな人のお話を聞かせていただいたり、新聞を読んだ時にいろんな記事が私に話しかけてくれたり、本当に今思うのは、「あ、あの時間は私のためにあったんだな。ありがとう」っていう感じですよ。

それから、今更ですがこれは他の人のお子さんをみた時に、ちょっと気をつけてほしいなと思うのは、ネグレクトが1番わかるのが「歯」なんだそうです。虫歯があってもそれはちゃんと治療してあげればいいんですけども、治療のされていないお子さんの歯っていうのは、親御さんが手抜きしているんじゃないかっていうことが一番目につくところらしいですから。そこは他人でも気がついたらちょっと、なんとか手が出せるのなら、手を出してあげてほしいなと思います。

本当にご近所の人に私の悩みを聞いてもらいまし

た。「石田さんの話は聞きたくない」って言われるくらいに聞いてもらったんですけど、でもその方たちとは今でも繋がりがあります。それは何かって言ったら「どう生きてきたか」ですね。水害の時に本当にそれは思いましたね。本当にみんなに助けていただきました。その水害の時に繋がった、今うちの母が特別養護老人ホームに入っているんですけども、2日後にはもう施設に預かってもらえたんです。役員やっていた時の方が私に連絡して「おばあちゃんどうしてる？ 近隣のところではなんの調べもなく入れてくれるから、そちらの方利用した方がいいよ」って言うてくれたんで、私ケアマネージャーに電話して、ケアマネージャーはやっぱり役員やっていた時の方だったんですよ。その方がうちの母を「私が担当でいい？」っていうからお願いしますって。その方事務所変わってうちの母だけ連れて行ってくれたんです。その方に「こういう風に連絡きたけれども、なんとかなる？」って言うたら調べてくれて、「預けるの？」っていうから「うん、もうここにおけないから預けて」って言うて預かってもらって。そしたらその方、ケアマネージャーも自分の担当者の人全てそこに送り込んで1箇所済んだわけ。結局うちの母は8カ月預かってもらって戻ってきたんですけど、元気すぎちゃって。同じデイサービスの人に唾吐いたり、引っ叩いたりしちゃうので無理だっていうんで「どうしましょう」って言うたら、水害の時に預かってくれたところがいいよって言うてくれて。私またずるいことをして、コロナになった時に「どうしましょう」って、そしたら「預けてください」っていうから「よろしくお願いします」って言うていまだに預かってもらっています。もう要介護4までいったのでちょっとうちではねって。本当に私、あれ以上いたら殺してましたね。すごかったです。そんな綺麗事じゃないですよ。突然怒鳴り散らすんです。それこそ抑え込みもやりましたし、でもね抑え込みしたらいつの間にか自分で起きられるようになったんです。だから無駄はなかったですね。抑え込みも。でも本当にその抑え込みをした頃は結局、病院の先生が、暴れるから「睡眠導入剤を飲ませろ」だったんです。そしたら、たまたまケアマネージャーが「私睡眠導入剤があわなくて、朦朧としちゃったのよ。もしかしたら。」って言われて。私が決断するしかないの、「じゃあやめます」って言うてやめてたら、本当に少しずつ、薄皮を剥ぐように元気になっ



て、自分でちゃんと言っていることもわかるようになって、施設の人は驚異の復活と言いましたけれど。あとで新聞で読んだら長期に飲んでいた薬を突然やめるとおかしくなっちゃうんですって。うちの場合は1ヶ月、2ヶ月弱くらいでしたね。だからそれも「ああ私は運が良かったんだな」とつくづく思います。だからそういうのも本当にみんなに助けてもらいました。

私の場合、動物にも助けてもらったんです。うちには猫も犬も全部保護猫、保護犬なんです。うちには1人猫アレルギーの子がいたんですけれど、小児科の先生と相談してどうしようかって言ったら、「本当に出てきたらその時はもう1度考え直そうよ」っていう話になって、猫を引き取って、まあ拾ったんですけれどね。育ててたら、結局クッションの役割でした。子どもたちの間で。次に黒猫を拾って、これはご近所の人が拾ったんですけれど、結局「猫嫌いだから」って言って捨てに行っちゃって、「えー！」って言って私拾いに行ってきたんです。その捨てた猫を。そしたら主人が病院に連れて行ったら、最初はイヤイヤだったらしいんですけど、病院の先生がいいこと言ってくれたんですよ。「黒猫はね、幸運を運ぶのよ」って言ったら、行く時は嫌な顔して行ったのに、帰る時にはウハウハで帰ってきましたよ。これは20年生きましたね。次が「ノコ」って言って、これもロシアンブルー。本当にロシアンブルーみたいなんですけど、目だけがブルーじゃなくって、もどきだ。これも21歳で私おしめして介護しました。今「ニーナ」っていうのがこれが面白いんですよ。水害の年の5月に拾ったんです。それも八幡様の目の前で。全然逃げないからそのまま連れてきて大事に育てて、まあそれがね、高級食材しか食えないの。食わないんじゃないって食えない猫ちゃんなんですけども。今それ1匹なんですけども、アリー・マコーミックって犬も、これは私が癌になって、病院から帰ってきた時に、目の前にいて、「おいで」って言ったら膝の上に乗ってそのまま15年いました。それは私のリハビリのために来てくれましたね。今「リン」という犬がいるんですけども、これは娘が泣きついて「可哀想だからお母さん」って言うので市役所に2匹いたんです。兄弟で捨てられたのが。1匹は茶ぼかったんですけど、それは大人しいから他の人がもらって行ったんですけど、お元気なお犬様が残っちゃって。私64だったんです。知ってます？ 65になったらペット飼えな

いんですよ。なんでかって言ったら、経済的にもそうだし、年齢的にも。特に犬なんかは散歩連れて行かなくちゃいけないじゃないですか。私あと80までは頑張ってる犬散歩に行かなくちゃいけないんですけど、「お年寄りのところに来たから散歩は1回しかできないよ」って。ちょっとワイドなので20キロあるんですけど。そしたら「うん」「雨の日もダメだよ」「うん」って言ったら本当に、今日の朝も必死で散歩してきたけども、目離せないんですよ。犬が来た、わーって行っちゃうし、人が来た、わーって行っちゃうし、もうバイクなんか来たらそれを追っかけて行くっていうすごいことなんだけど、要するに雷が大嫌いだから玄関に入っているんですけどね。横にフードがいっぱいあってもそれに手をつけないし、靴もかみかみしないし、大人しく居て私がうろちょろすると「どっかいくの？」って顔してますし、だから利口ではないけど馬鹿ではないの。まああんまり利口すぎると飼い主の馬鹿が目立つからね。ちょうどいいんですけどね。そうやって本当に子育てっていうのを、本当は今日は子育ての話をいっぱいしなくちゃいけないんですけども。

親が個性を決めるのではなく、子の個性を探り、認めて伸ばすっていうのが親の役目だと思うので、これを言いながら自分の心に問いかけると、「あんたはどうなの？」って。ただ高校も全部私は「どこどこ行きなさい」とは一言も言わなかったし、「行きたい」っていうところを「どうぞ」っていう感じで。「あんたこう言ったからこうでしょ」っていうことも言わない。でも専門学校行った時に、途中でやめそうなやつには「あなたは自分で決めたよね？ 1つ区切りつけなさい。その代わり私は区切りをつけた瞬間に、出た瞬間にあとは自分の人生だよ」と言いました。

それから夏休みを短くした方がいいっていう親御さんがいるけど、それ大人の考えよ。子供は自由にしてあげたいと思うの。ゆっくりさせてあげればいいのっていうのはあるんだけど、高校生の馬鹿息子、1ヶ月寝てたね。あいつの人生何だったんだろうって思うんですけど、まあなんとか今働いているからね。いいんじゃないね。だからそういう時もあるのよ。だって、いい大人になってから寝てばっかりいたら困るもんね。病気とかは別問題よ。普通に働けるのに寝てられたら困るでしょう。だから寝てるつまらなさとかそういうのも早いうちに経験しておいて良かったのかもしれない。でもその当時は「どう



するんだろうな」ってつくづく思いましたけどね。

人を育てるには梅と桜の違いがあるんだって。手をかけた方がいいのもあるし、見守った方がいいのもいる。違いを見つめてそして生かしていくっていうのが親としての務めじゃないかなと思います。

あと、子どもって承認欲求が強いんです。だからまずは認めてあげて、「すごいね。でもそれにこれを足したらもっとすごくなるよ」というようなアドバイスをしていくとか。否定から入らないことを心がけると、人は前に進めるんじゃないかなと思うんです。親御さんが子どもに負けたくなくて子どもを否定する人がいるでしょう。それ違うからね。まず子どもをちゃんと世の中に出してあげられるかっていうのは、あなたの力にあるんだよっていうのをわかかってほしいなって思うんです。

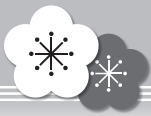
それから、子どもが悪さかなんかした時に「もう知らないからね！」って言って「あんたのことはお母さんに関係ないからね！」って言う人いるけど、産んだんだから最後まで面倒見ろや、ましてや社会人になるまでは。それから子どもの力だから。その力を発揮させるために、頑張るのは親の定めだからね。これはね、親だからそうでしょ、親の定め。諦めて。

それと、妬みと憧れ。なんか似ているようで違うのよね。その自分の立場がどこにいくかで、その人の人生観が変わっちゃうから気をつけて。自分がその変なところの思いを持ってしまうと、子どもって敏感だからそれに影響してしまうか反発するかは、その子の心にあるから、反発してくれるような子どもだったらいいんだけど、それを受け入れてしまうような子どもになってしまったら大変だから、やっぱり親は律していかないといけないと思いますね。子どもへの影響っていうのは母親が7割なんです。3割が父親なんですって。そういうことを思うと、大変でしょうけどお母さん頑張ってるね。ただ、私はいつも言っているのは、ゆるゆると心豊かに過ごせたらいいねって。それは忘れないでほしい。やっぱりキュウキュウ生きていたら、お互いしんどいから。そこは「あ、いけないな」って自分を振り返って、1日ごと褒めると同時に振り返っていただきたいと思うんですよ。いい歳しても承認欲求過多の人がいますけど、そこはちょっと考えて律していただきたいと思うんです。先週「つもりちがい10箇条」っていうのをたまたま見て、「えー」って思ったんですけど、「高いつもりで低いのが教養。低い

つもりで高いのが気位。深いつもりで浅いのが知識。浅いつもりで深いのが欲望。厚いつもりで薄いのが人情。薄いつもりで厚いのが面皮。強いつもりで弱いのが根性。弱いつもりで強いのが自我。多いつもりで少ないのが分別。少ないつもりで多いのが無駄。皆さんそれぞれ感じることもあると思います。」って書いてあったのを目にしました。んーちょっと辛いね。そういうものも「あ、色々あるんだよね」って。

今、行方不明者の中で子どもの人数が増えてきているわけ。未成年の人数が。その1番の元凶は何かって言ったら、「家に居場所がない」。それが1番の理由だそうです。まず子どもたちに居場所を作ってあげてください。あなたはそれでいいんだよっていうことを発してあげてほしい。

この前「えっ、こんな人がいたんだ」っていうことで、リクトール・フランクルっていうユダヤ人の方なんですけど、この方収容所に入ってやっと出てきたら、両親も奥さんも殺されていたって。心折れていたら、そのお友達たちが、今のままじゃダメだって言って、仕事を一生懸命見つけて彼にあげて、大学関係の先生になったのかな。その時に戦後のヨーロッパとアメリカの若者の、要するに大学生の心情を調べてみたら、未来に何も見出せないっていうのが、逆にアメリカの生徒の方が多かったらしいんですよ。でも、その彼が言うには、「未来は今をどう生きるかで作られるものだから、まず目の前にあるものを貪欲に自分のものにしていきなさい。知識を積んでいきなさい。そうすれば未来に対して自分で開いていくことができる。漠然とした恐れを成さなくて済むんだよ」って言ってました。「えーこんな人もいたんだな」と思って本当に目から鱗でしたね。やっぱりいろんな苦しみ、悲しみがあるでしょう。私が講演に行った時に「私は子を無くしてるの」と話され、だから私は「大変だったね。でもあなたは人に優しくできるアイテムを見つけたんだよね。良かったね。子どもにもありがとうって言ってあげてね。」って言いました。悲しみ、苦しみていうのは人を思いやる心ができたってことです。悲しみも苦しみのない人なんて絶対いないんだから。そういうことを思った時に、「あ、私は人に優しくできる心を持ってたんだ」と思えるようになったらいいね。ただ、イコールではないんです。よく「私はこうだからあなたもそうでしょ！」って言うてる人いるでしょ。違う。みんな違うの。想ってあげられ



る心を持てるっていうのはあなたの力ですよ。そういうことを思っやっぱり人生を生きていてもらいたいな。子育てもそうですけど、皆さんも高校生程度になったら子育てとしてちょっと「ん？」って思うでしょうけども、そういうことを1つずつチェックしていくといいですね。

うち、下から3番目が3歳から目の検査が始まったんですよ。目がやっぱり結局悪かったんですね。メガネをかけた時に右と左の厚さが全然違うのでびっくりしちゃいましたよ。6年生になったらメガネもういいですよって言われたんですよ。そしたら、「いやあった方が楽だから」。だからいまだにメガネしてますね。あの子長期で視てると疲れるらしいんですよ。今は薄い感じになりましたけど。私大阪、広島と転勤族できて、そしたらたまたまその斜め向かいのご主人が、視野が狭くってバイクならいいんだけど、車が運転できない。だから雨降ると奥さんが迎えにいくっていう。だからうちの子は結局そのままいってしまったら、そちらのご主人と同じような道を辿るようになるのかなっていう感じでしたね。だからそれも運ですよ。えーっていう感じで。その後メガネをかける子どもたちがいっぱい増えたんですよ。お年寄りの方たちが「まったく可哀想だね。あんなに小さいのにメガネかけて」っていうから、「良かったねって言ってあげてください」って。「あれそのままになったら大人になった時に車の運転ができなくなったりとか、色んなことの不便があるんですよ。今見つけて良かったねって言ってあげてください」って。そしたら啞然としてましたけど。そしたらお母様たちが「そんな。可哀想でしょうよ！」って言っているみたいだけれども、初めての子どもがそうだったらどれだけお母さんの心が折れていたかわからないんですよ。でも「早く見つけて良かったね」って言ってあげたらどんなに心がほっとするかわかんないじゃないですか。だから皆さんもそれなりのお年頃なんですからそういう「ああ？」と思うことには、失礼ですけどそれは違うよって言ってくださいね。いい子になろうと思うんじゃないんですよ。

それだけ生きてきたんだから、うるさいわねって言われてちょうどいいんですよ。それが皆さんに課せられたお年頃の人にはうるさいっていうのを発揮してほしいと思います。場所によってはね、いろんな検診ができています。発達障害なんかでも5歳ぐらいで検査してもらおうと、要するに手立てがあ

るんですよ。「うるさいのは子どもの特権だ」って言っていて、そのうるささが違ったりするわけですよ。

コレステロールなんか、親子の遺伝子でなっている人もいますよ。だからそういうのも調べられるんです。早くに手立てしてれば、その人すごい大変な生命に関わることもなくなるわけですね。弱視の子どもも私3歳でありましたけれども、上の子が小学校の何年生かで結局目が悪ってメガネをかけるようになりましたけど、その前にわかっていたらある意味違っていたのかなっていうのもあるんですけどね。あと健康診断でも心の健康診断っていうのも始めている地域もあります。小学校の高学年から中学生にかけてですね。1番多感な時期に心のケアをする。それから大人っていうかそれなりのお年の方は、子どもは、自分も子どもの時期があったはずなのに忘れてるんですよ。「うるせえじゃねえか」とか公園で遊んでいたりすると「警察に電話するぞ」なんていうのもいるみたいです。公園があるとうるさいから公園なんか作らないでくれとか幼稚園側に作らないでくれとかいろんなこと言われる方がいるけど、よく「今の若者は年寄りの気持ちがわかんないんだから」って言うけれども、言ったこともないからわかるわけじゃないでしょうね。でも自分が過ぎてきた頃を忘れてガキはうるせえって言うのはおかしくないですか？ だからここにいらっしゃる方たちは間違ってもガキはうるせえなんて言っちゃいけませんよ。ガキはうるさくて「よかったよかった元気そう」って言ってあげないと。うるさいの一言で若いお母さんたちは寂しい思いをする。日本は子どもがいないから、子どもをいっぱい産めって言うておいて手立てが少な過ぎます。もうちょっと心をおおらかに持って、自分には関係ないかもしれないけど、未来を繋いでくれる子どもたちのためにも、やっぱりありがとうって気持ちで接してあげてほしいと思うんですよ。

少年院の87.6%はまた戻ってくるそうです。家庭に居場所がない。これが1番の原因だそうです。だけど家庭だけではどうしようもないこともあります。周りの人間が「おいで、こっちでなんかしよう、ご飯食うか？」とかこれくらいのおおらかさがあってもいいなと思います。うるさいとか言われても、うるさくてなんぼだよーって気持ちもあって私はいいんだなと思っています。

「何事も立ち止まりさえしなければゴールが近づ



く」って言葉を聞いて、「あっ、なるほど」っていう気持ちもありましたね。それとファーストペンギン、やっぱり自分が先頭に立つといろんなトラブルとかいろんなことを言われるけども、それを物ともしない年齢とそれから経験を積んでいる方がいらっしやると思いますから、やっぱり若い人にファーストペンギンを望むんじゃなくて、自分で立ち上がって前に出る。

あと私いつも言うんだけど、子どもが可哀想だからって、自分の影に隠しているのは子どものためじゃないから、お日様にも当ててねって言うんです。そのお日様にあてる時間も増やしていかなければ、親離れ子離れはできなくなるよって。それと最初に言ったように、「あなたのためよ。」って言っていることを逆バージョンにしたときに、「本当にあなたのために言ってるの？」っていうことをもうちょっと自覚してほしいなって。

キビナゴって知ってます？ ちっちゃいお魚なんですけど、それはどんどん大きいお魚に食われていくんですけど、下水道を綺麗に濾過して海に流していったら、なんかだんだん大きい魚が取れなくなって、なんだろうっていったら、キビナゴが食べる栄養源を全部排除して水を流していたらしいんです。やっとなんか気づいて、必要な栄養源は残して下水道を流すようになったら、だんだん増えてきたけれども、少なくなったものを元に戻すのにもものすごい時間があるようなんですね。そこまで頭をめぐるせてやっとなんか気づいて、1足す1は2で答えが出ましたというのではちょっと違うかなって思うんですね。

1番最後に言わなければいけない言葉、これは自分にも言い聞かせなくちゃいけないことなんですけども、子どもに対してこれができる人になるといいなと思うんですけど。高濱正伸さんって方が監修した言葉で、「飯が食える大人になる世の中ルールブック」っていう言葉があるんですよ。これが「良いことを言うよりも、良い行動をとる」「すぐに嫌いと言って自分の世界を狭めない」「見た目でなく中身で勝負する人になる」「迷った時はきつい方を選ぶ」「失敗を失敗のままにしない。経験にする」「一生懸命を馬鹿にするような人には決して振り回されない」「身近な人にこそ丁寧な態度を」「わかってもらえないとは言わない」「できません、休みます、言いにくいことこそちゃんと自分で伝える」「ありがたうを口癖に」「後悔はしない。でも反省はしっ

かりする」「どうしても辛い時は逃げる」「合わない人がいるのは世の中の当たり前だと知る」「自分が幸せになってこそ、それから人を幸せにする」私、子どもに1番望むのは何って言ったら、まず自分を大切にしてください。

どんなに自分が頑張っても、助けてって言いたい時って必ずあるのよ。その時には助けてって言える自分でいるためには自分のことも想う心もちゃんと持っててね。ちょっとで良いから。よく「人のために私は命を捨てる」って言うけど、馬鹿かお前って。だってあなたを頼りにしている人もいますよ。だから生きて、そして自分が幸せであるって言うことが1番なんだよ。そこから人に想う心を持ちなさい。そして助けてって言える自分でいてちょうだい。その助けてって言った時に、背中にそっと手を差し伸べてもらって、温かみを感じられるような自分でいてほしい。それが私は1番大切だと思うんです。死ぬ時に「あんたがいてくれて俺は、私は幸せだったよ」っていう人が1人でもいてくれたら、あなたの人生は丸だよ。みんなに良いように思われたいと思ったら、そんなことやってたらあんたがなくなっちゃうよ。本当に自分を大切に。1番は自分だよ。1番だということ子どもたちには言ってもらいます。ただ望むことはそれだけ自分が自分かと思っても最終的に人を踏んづけるような生き方だけはしないでほしい。そこだけです。そこだけを1番に思っています。やっぱりそれはゲスになってはいけなし、「子どもだね」じゃないの。子どもに申し訳ないから。ガキにはなって欲しくない。その2つだけは心に留めておいてほしい。それだけが1番の望みです。今晚じーっと考えてちゃんと筋道立てて頭に入れてくださいね。



第3分科会 フリートーク

●パネラー

7男2女の大家族お母ちゃん
茨城大会実行委員長
茨城県立八千代高等学校PTA副会長
茨城県立竹園高等学校PTA会計

石田 千恵子氏
板倉 哲男氏
吉江 知子氏
丹下 基生氏

●司会進行

茨城県立つくば工科・つくばサイエンス高等学校PTA顧問 高野 由紀子氏

〈要約〉

高野：ただいまより、フリートークを行います。私は司会進行を務めさせていただきます、つくば工科・つくばサイエンス高等学校PTA顧問の高野由紀子と申します。不慣れではございますが、精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、フリートーク参加者のご紹介です。改めまして、中央にお座りの、石田千恵子さんです。前半に引き続き、よろしくお願いたします。私のお隣は、茨城大会実行委員長でもある、板倉哲男さんです。

板倉：よろしくお願いたします。

高野：石田さんのお隣が、茨城県立八千代高等学校PTA副会長の、吉江知子さんです。最後は、茨城県立竹園高等学校PTA会計の、丹下基生さんです。

丹下：よろしくお願いたします。

高野：それでは、先程の講演内容について深くお尋ねしたいことや、ご自分の子育て体験との相違について伺いたいことなど、パネラーの板倉さんからお願したいと思えます。

板倉：石田さん、貴重な講演ありがとうございました。余談になりますけれども、私、茨城県立水海道第二高等学校なんですけれども、ちょうど石田さんの今お住まいになられているのが水海道二高のすぐ近くということで、石田さんは毎朝学校の前に立っていただいて、私どもの子どもが自転車に乗って学校に行く途中におはようという形で毎朝声をかけてくれて、子どもも石田さんにおはようって声かけていただいているんだよっていうふうに、嬉しく毎日登校している状況でございます。先程石田さんから話が思ったと思うんですけど、石田さんは猫と犬を飼っていると。すごい犬も優しい犬だとは言っていました。先日石田さん宅にお邪魔したときすごい吠えられまして……。

石田：番犬です。

板倉：すごい番犬ですね。もう怪しい顔の人が来たらすぐ吠える。やっぱりお子さんを育てるのもそうですけど、犬をそういうふう育てているのかなって感じました。石田さんの講演を聞いて、私のほうからちょっと質問させていただきたいんですけども、子育ての中でいわゆる思春期。高校生はもう思春期を過ぎていると思うんですけど、中学生ですかね、思春期ってなると。反抗期とか、親に対する暴力や中学生の時代とかの家出などはあったのでしょうかということ、ちょっとお聞きしたいと思っております。もしあったとしたら、子どもたちにそのときにどのような言葉をかけられたのか。どのような対応をされたのかということをお聞きしたいと思えます。よろしくお願いたします。

石田：おかげさまで暴力はない。家出もない。なんだかんだ言いながらも帰ってきたという……。私は見捨てない、もうそれだけを。母ちゃんはお前のこと見捨てないからね。ちゃんと見てるからねって言う……。そうすると、うちその頃アリー・マコーミックって行って、おとなしい1歳半まで野良ちゃんだったわんちゃんがいたんですけども、それが亡くなる前にゲージの中で生活してたんですよ。その横でベッドに寝てたんです、うちの愚息がね。そうしたら、嫌じゃない？って言ったら、ううん、アリーは俺が帰ってきたら玄関のところで俺の顔じっと見て、俺の話を聞いてくれたんだって。一生懸命聞いてくれたんだよって言って、すごいその犬に感謝してたんですね。だから隣で、ほんとに立ってるのもつらいくらいになってた犬なんですけど、その横で平気でベッドで寝てました。だから、この子はちゃんと心のある子なんだな。ちゃんと心が育ってきてるんだなと思ってほっとしました。

板倉：ありがとうございました。

高野：ありがとうございました。石田さんから思春



期の子どもへの対応ということで、今お話をいただきましたが、丹下さんのご家庭では、そういったときにどんな向き合い方をされてきましたか？

丹下：思春期でうちも反抗期だったりしてる子どもいますし、高校生2人いるんですけど、どうですかね。そんなにうちも殴って……。殴ってますね、すいません。私も殴られたことありますが、いろいろと大変な時期もあって、思春期をどう過ごすかっていうことですよ。やっぱりその子どもと向き合うっていうのが一番大事なんじゃないかなと思ってんですけど、ついつい私もかっとなって殴り返しちゃったりすることも実はあったりするんですけど、今はすごく仲いいんですけど、そういう時期が一時期あって、どうやってまた仲良くなったのか、ちょっと覚えてないんですけど。でも後で結局、さっきも石田さんのお話にもありましたけど、承認欲求じゃないですけど、褒めてあげるとか、こういうことすごいよねみたいな特技あったりして、それを伝えたりするとすごいニコッとするので、まだ心がつながってるんだなと思って日々暮らしているという……。いろんな時期ありましたけど、今はとても良好に過ごさせていただいているっていう感じですかね。

高野：ありがとうございます。石田さん、今の丹下さんの親子同士の殴り合いっていうんですかね。そういうのってどうなんですか？

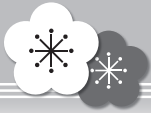
石田：きっと私が弱そうに見えたから、そういうことはなかったんですけど。笑っちゃいけない。だけど、やっぱり女の人に手を上げちゃいけないっていう暗黙のルールがあったみたいで、父親と殴り合ってる場所もあまり……。めったに帰ってこない人だったから、そういうのもあまりなかったような気がするし。ただ私が大腸がんになって入院してる時3週間、長女と長男が家の面倒を見てくれたところがあったんで、そのときどういうふうに過ごしてたのかなっていうのと、それから私、一番下を産んだときには夫がクレイマー・クレイマーをしてくれて、1週間。退院したら次の日から逆バージョンで子どもが入院してたので、生まれたばかりの子どもをバッグに入れて病院通いましたね。もうほんとに横になってる暇なく、だから昔の私のお産は何だったのかしらって。帰ってきたら21日までほっくりしててねって言って横になってたような気がするんだけど、でも上がいるからそんなふうにはできなかつたけども、一番下の子のときはほんと

にクレイマー・クレイマーで、夫も一生懸命頑張ってくれてやってた。

高野：ありがとうございます。思春期の子どもへの対応は難しいと思いますが、石田さんのお話を参考にさせていただきたいと思います。それでは次に、吉江さん、お願いします。

吉江：私の家は男、女、男、女と4人の子どもを育てている母親であります。よく周りから、上手に産んだねなんて言われるんですけども、自分ではそんなつもりは一切なく、やっぱり子育て4人それぞれ悩みとかいろいろ不安なこととかあって、それぞれ対応もちょっと違ってくるのかなと思うんですけども、石田さんちの場合は、子どもがそういった不安とか将来の悩みとかそういう壁にぶち当たったときにどういった感じで向き合ってきたのかなということ、ちょっとお話をお伺いしたいと思います。

石田：何がしたいっていうよりも、もううちの場合は学校で決めてきちゃってる。先生と二者面談で。私は行ってただハンコ押してくるという……。一番つらかったのは、工業高校行くのは就職したいからって言って工業高校に行ったはずなのに、先生が三者面談のときにずっと書類を出すわけですよ。何これって言ったら、そこにはうちの高校はどここのなにかっていう科の推薦枠あるんですけど、って言うから。それですって書類出すの。そのくらい自分の手柄みたいに言うんだったら、入学金は僕が払いますって言うてくれると助かったんですけど、それからおもむろに広げて、もう必死でいくらかかるって。だからうちのテレビ見たことある人は、あそこに全部短冊に書いてますでしょ？ いくらいくらって、いつまでにお金を入れるとか全部。小遣いまで入れて全部書いて、4年間でいくらかかるかも全部書いて。夫に言わせると、あれは俺にとっては地獄だって言うてましたけど、でもわかってもらわないといけないし、かつ子どもにももうお金の問題はしっかりと認識してもらわなくちゃいけないと思ってるんですよ。よく皆さん、お金って子どもにとってはどうのこうのって言うけど、いやいや、生きる知恵だから、お金はね。だから必要なお金はどれくらいかかるかって、自分の人生にもこれから設計立てるにもお金はかかるんだよっていうのをわかってもらおう。ほんとに子どもは変わりますから。変わったときに、え？って言うことはやめようと思って。そうなんだ。じゃあそのためには頑張っただけって言うことしか言いようがないですよ。あと



はもう必死で通帳見て、うーんって言うぐらいだったんですけども、でもおかげさまで、なんとかそれでクリアできたので、助かったなと思いますけど。

ただほんとに自分で選んだ道は、私はずるいから途中でドロップアウトは、それあんた自分で選んだよねって言う。母ちゃんが言ったからってというのは絶対言われたくないと思ったんで、私はその道でやってきましたね。

だから、ほんとには上に進んだほうがこの子は面白いのになと思って、俺は就職って言ってさっさと資格取ってそっちへ就職したのもいるし。だから、ほんとにいろいろですね。ただただ本人が行きたかって、だいたい18のもう高校に行ったぐらいになると、少しずつ自分の前を見るようになりますからね。それに対して拒絶しないで、そうなんだ、そうなんだって言って、じゃあ何すればいいの？って感じで前に進ませてあげるようには一応努力しました。

高野：ありがとうございます。板倉さんのご家庭では、子どもが将来のことで迷ったりしたとき、どんな対処法を取りますか？

板倉：うちは、子どもが娘3人なんです。いつも我が家ではやはり女性が強く、男性は私しかいませんので男性の味方はいません。なので、いろいろ進路というか自分の道に関してお父さんに相談ってあまりないんですよ。どうしても母親のほうにいろんな相談事やら悩み事やら彼氏の話やら、やっぱり母方のほうにどうしても相談とか行って、私のほうにはなかなか相談がない。でも母親に相談しても、母親に回答が得られなかったときだけはお父さんみたいな形で、相談はあります。でも私も娘が小さい、ほんと15歳、中学生ぐらいのときにはある程度叱ったりはしました。でも高校に行ったら、やはり親が叱らなくても、自分のことは自分で考える。そういう力を身につけさせなければいけないっていうふうにも私も考えを直しました。なのでそれ以降は、やっぱり自分のことは自分で考えて、自分で考えても答えが出なかったときだけは母親、父親に娘たちは相談に来ますけど、あえて否定は私はしていません。自分で考えたこと、自分がそう思うんだったらそうしたら？ その道で行ったら？っていう形で子どもたちの意見を否定することはなく、子どもたちが自分で考えた意見を通すようになっていて、石田さんが言ってたように背中を押してま

高野：ありがとうございます。石田さん、これ私の思いもちょっと乗せてお話しさせていただくんですけども、今板倉さんのお宅では女の子3人っていうことで、ほぼほぼ最初はお母さんのほうに相談していたってことなんですけど、石田さんのお宅は男の子女の子混ざってたくさんいらっしゃるじゃないですか。みんな最初はお母さんのほうに来たんですか？

石田：母親も信用できなかったんじゃないかな。友達とか、あとは先生とかのほうが多かったんじゃないかな。いかにも忙しそうにしてたような……。形はね。でももう友達に相談したりとか、そういうのをやる年頃だと思うんですよ。ただ生きるか死ぬかの選択になったときには、やっぱり親に来るんだろうなと思いますけど、そこまでのこともあまりないし、でもほんとに結果が出たときに大騒ぎっていうときは、もう私がけつまくって行きましたからね。だから言いましたよ。未成年のうちはみんなが助けてくれるよって。だけど成人したら、上から重しが乗るからね。そのことだけは心に留めといてねって。それだけは、その都度その都度言ってましたね。いつまでも子どもではいられないというのが現実だからねっていうのだけは。世の中舐めちゃいかんよって言ってきました。

高野：ありがとうございます。たいへん心に染みしました。それでは次の質疑ですね。丹下さん、お願いいたします。

丹下：お子さん9人もいらっしゃるって個性はそれぞれ違うと思うんですけども、その個性に対してどのように向き合ってきたのかっていうことと、それはもうご講演の中で一人一人に合わせた教育をしていくっていうことだと思うんですけど、個性なのかこれしつけなのかみたいな境目がわかんない状況のときって私もよくあるんですけど、これはやめてねみたいなことを言っても、高校生になってくると言い返してきたりして、そんなことしなくてもいいでしょみたいなふうになってきて、これはもうしつけだからってあえて言ってるんですけど。何かって言ったらほんとに他愛もないことで、ご飯食べてるときに肘をつくなっていうのを何かわからないけど教え……。これ、私の父親からの唯一のしつけだとか言って教えてるんですけど、そんなことしなくても食べれるからいいじゃんっていうふうに戻ってくるし。これは個性だと思えば肘をついて食べるっていうのも個性だと思うのか、それともしつけだから、ちゃんとどこに出しても恥ずかしくないという



か、そういうふうな食べ方してほしいとこっちは思ってるんだけど、そんなことしなくても別にみたいなことで喧嘩になったりして、それでさっき言った殴り合いじゃないですけど、そういうのもあったりして。結局私、指が……。殴ったんですけど、向こうのほうがかたいが大きすぎて、私のほうが怪我をするっていうとんでもないことになったりして、すごい大変だったんですけど、そういうのを個性なのかしつけなのかみたいな境目がよくわかんない状態ってあると思うんですけど、そういうのってどうされてるのかなっていうのをちょっと教えてほしいんですけど。

石田：私、餌作ってるだけで一緒に食べたという思い出があまりないんで申し訳ないんですけど。ただ、もしそういうので言うんだったら、これから彼女の家に行くとか、もしかしたら一緒にご飯食べるとか、やっぱりあなたの彼氏って食べ方汚いねなんて言われたら嫌だよとか。そういう言い方だと、やっぱりピリッとするんじゃない？ 食べる姿勢ってその人の品に関わることなんですよ。だから、その筋から嫌いだって言うんじゃないで、やっぱり公に出たときに、人とコミュニケーション取るときに、見る人は見るよって。食べ方がちゃんとしてると、この人はちゃんとした家の育ちをしてるんだなっていう。そしたら見る人は、ちゃんとしたご家庭でちゃんとした教育を受けてらっしゃる方なんだっていったら信用おけるねっていう、ここまでくるんですよ、人の見る目っていうのは。だからそういうことを、もう高校生だから言ってもいい年頃だと思うんですけど。だから、姿勢っていうものはもうほんとに人の見た目。第一印象だよって。ましてや食べてるときの印象っていうのは、ごまかしが利かないんだよっていうこと。これはシビアだけでも、大人の社会っていうのはそういうものだよっていうことを、もうお父さんは言わなくちゃいけない年ですね。

丹下：そうですね。ただ、彼がわかってくれるかどうか……。

石田：わかってくれるじゃなくて、それを淡々とやってあげてるっていうのが、その子のきつとどこかに残ると思うんですよ。感情じゃなくて。いいです、私の名前出しても。

丹下：わかりました。

石田：石田のばばあが言ったよって言うても大丈夫ですから……。

丹下：わかりました。じゃあ、ぜひとも使わせていただきます。

石田：そうそう。だから、ほんとにちゃんとした人を見ると、立ってる姿勢、それから座ってる姿勢、あとお話しをしている姿勢。それと、一番出るのが食べてるときの姿勢っていうのが一番その人の人生を、まだ若くてもわかってしまうんですね。だから、ほんとにちゃんとした大人に認めてもらおうと思う気持ちがあるんだったら、やっぱりそういうものを自分の心に律していかないとダメですよって。それが大人になるための心構えですよって言うのは、これは父親の役目ですね。頑張ってください。

丹下：わかりました。ありがとうございます。そう伝えておきます。

高野：ありがとうございます。吉江さんのお宅もお子さん4人ということで、比較的多いご家庭かと思うんですが、吉江さんのご家庭ではどのようにお子さんの個性と向き合ってますか？

吉江：うちは4人ともやっぱりそれぞれ性格も違ったり、あと得意不得意があったりとか。うちは結構自分が仕事してたりすると、やっぱり帰りが遅くなったりすると、家のことがおぎなりになっちゃったりして、そうすると何も言わなくても娘が家のことをやってくれたりとか。そういうのを見てると、私の子育ても間違いばかりじゃなかったんだなっていうふうに思えて。個性がそれぞれあって、一番上の長男はもう優しさの塊みたいな子で、長女はほんとに優しいっていうところ。それぞれの個性をしっかり受け止めながらも、その個性を大事にしてほしいっていうところで、そこはもうずっと伸ばしながらも、直さなきゃいけないところもあるよっていうところで、プラスの面だけじゃなくてマイナスの面も指摘して、そういうところで成長を促していけたらなというふうに思ってます。

石田：今ありがとうございますって言ってます？

吉江：はい。子どもにも、ありがとうとかごめんなさいとか、そういう挨拶はしっかり……。

石田：コマーシャルで、ごめんねごめんねって言ったら、ごめんじゃないんだよって子どもに言われてるお母さんがいて、今その映像が映ってきましたよね。だからやっぱり、ごめんねって言うよりも、ありがとうでいいんだと思うんですよ。ただ、家族なんだからやって当たり前っていうのを全面に出さないようにすると、いいよ、そんなに言わなくても。でもありがとうで。延々と言わなくていいから。そ



うすると、子どもも納得してくれると思うんだよね。でも難しいよね。

高野：ありがとうございます。子どもの向き合い方も個性を尊重したいと思いますね。3人のパネラーの方に、ご自分の体験など加えて質疑応答をいただきました。お時間がまだあるようですので、さらに深く掘り込んで石田さんに伺いたいことを、板倉さんからまたお願いできたらと思います。

板倉：それでは私のほうから2つ目に、石田さんが今後9人のお子さんたちに期待していることは何でしょうかね。

石田：まず自立してほしいということですね。それで十分なんで、ほんとに気持ちがあつたら現金をね。ただそれをいつまで言えるんだろうなと思って。うちの母は75ぐらいからヤバかったんで。77で完全にアルツハイマーですというふうに太鼓判を押されてしまったんで、そうするとやっぱり母親の遺伝子が強いと思うんで、そうするとちょっとね。叔父ももう認知症になりました。だからそれを思うと、ちょっと背中に魔物がヒタヒタと迫ってるような気もしないでもないって・・・。

24日にフラダンスをしなくちゃいけないんですけども、覚えられないの。今日これが終わったらほんとにもう少し真剣にやらなくちゃと思ってるんですけども。私ずるいから、先輩を前に立たせようという、もうそれだけ目標にして24日終わって、あと31日も今度は本番があるんですよ。だからほんとにここえ来てバタバタバタバタとなっているんですけども、でももうほんとに目の前にあるものを、子育てと一緒に今何しなくちゃいけないって。だから他の子どもも全部無視するんじゃないんで、こちら辺にいるなっていうのはわかってるけど、今一番はこの子だよっていったら、この子には何をしなくちゃいけないっていうのを、やっぱり優先順位を持ってやってましたね。それから、平等に物事をするっていうのはあり得ないです。親も年取ってくるんで、経験も積んでくると対応の仕方もお上手になってくるし、あと新鮮味がなくなってきましたでしょ？ だから上の子たちは言ってますね。お母さんは私のときはあんなにキャッキャッキャ言ってたじゃないって言うけど、疲れたからって。でも最終的に私、自分に納得したのは、所詮我が子。誰も産んでない。私だけってということになるんで、そこに安住したら、自分のこと振り返ったら大した人間じゃなかったよねで終わっちゃいましたね。だか

ら、ちょっと諦めるっていうよりも、自分を認めるっていうことをまず考えて、それから子どもを認めてくと、案外楽かもしれないです。ただ、あまりにも優秀な親御さんっていうのもつらいね。

板倉：ありがとうございます。自立ということを目指しているということで、私どもも長女はもう25、三女が21かな。今度22になるんですけども、もう自立してそれぞれ職業を持ってるわけですよ。なので、ある程度は自分なりに自立をしているので、私が家族に期待することは、素敵な彼氏を見つけて結婚をして、明るい家庭を築いてくださいということですかね。

高野：ありがとうございます。これからの子どもたちの活躍に期待していききたいと思いますね。それでは次に吉江さん、お願いします。

吉江：今年のお盆休みがちょうどうち予定なかったので、じゃあみんなでどこか行こうっていうふうになったんですけど、みんな言うことがバラバラで、長男なんかはもう高校3年生だから、俺はいいっていう感じで。みんなが家族からちょっとバラバラな方向に向き始めてきているのかなというところで、そこで家族が一つにまとまって同じ方向というか一致団結するにはどうしたらいいかな。しなくちゃいけないっていうことはないと思うんですけども、たまには家族っていうものを認識できる場所を作りたいなと思ひまして、そういう認識できるような場所を作るようにするにはどうしたらいいかなというふうに思ひまして、質問よろしくお願いします。

石田：昔はチャイルドシートとかないから、みんな1つの車に押し込んで。よく死ななかったよね。山形県まで。主人の実家が山形なんで、そこまでお父さんだけの車の運転で行って帰ってきてって、昔は何だったんでしょう。私、自転車の前のハンドルのとこに子どもを乗せて、後ろに乗せて、おんぶして、私が乗って、ついでお腹大きかったんです。今犯罪ですね。でもそれまかり通って、頑張ってたんですよ。両方のハンドルに買ったやつ下げて帰ってたんです。私の人生は何だったんでしょう。でも夫は出張に出ちゃったらもう土曜日ぐらいしか帰ってもこないから、その間食いつなぐためには買い物に行かなくちゃいけないんで。

ちゃんと自分たちで生きてて、そして友達もちゃんと作って、自分らしく生きててくれればよかった。さっきも言ったように、人の苦しみの上で笑うような人間になってほしくないって。人を傷つける



ような人間にはね。思いがけず傷つけてしまうとかはあるけども、生き死にに関係するような傷つけの仕方はしないでほしいっていうことを、ただただそれだけです。あとはもう、こんなことがあるけど行きたい人この指に止まってって言ったら、はいって来た人だけでみんなでウロチョロするっていう。まだお年が若いから、みんなであってという気持ちがあると思うんですけども、もうやっぱり高校3年生ぐらいになって、でもお兄ちゃんのほうにもしかして高校3年でみんなで行くのは最後かもしれないから、今度はお兄ちゃんの希望を優先するからどこ行きたい？っていうのも1つの方法かもしれないですよ。もしかしたらもう最後かもしれないです。大学行くんだったら別としても、それでもやっぱりいろんなサークルだとかなんとかっていっぱいあるわけだから、家族が家族がってということもないと思うんですよ。だからほんとに、もしかしたら今回は最後かもしれない。だからそれを活用するのはあなたの腕にかかっている。頑張る。

吉江：ありがとうございます。参考にさせていただきます。

高野：板倉さんのご家庭では、もうお嬢さんたち3人とも成人されてるんですけども、まだ高校生だとか中学生ぐらいだった頃、一致団結の秘訣ってものはありますか？

板倉：一致団結・・・でも今はそれぞれ成人して自立してるので、今家族で一緒にどこに行こうっていうのはないですけども、高校生時代はやはり家族で休みの日にどこか行こうかって言ったときに、意見が分かれるわけですよ。1人の娘は例えばディズニーランドに行きたいとか、もう1人は大洗水族館に行きたいとかって意見が分かれたときに、じゃあどういうふうにして決めるってうちはなるんですよ。結局多数決で決めるんですけど、そうするとそこに行きたくなかった娘は、えー？ 私はディズニーランドのほうがよかったんだけどねとか言うんですよ。でもそのときに、今日は大洗水族館に行くけども、次回あなたが言ったディズニーランドも考えようねっていうふうな形で、家族の意見をまとめて旅行先とかを決めております。

高野：ありがとうございます。その辺りは父親がまとめる感じなんですかね。ありがとうございます。続きまして丹下さん、お願いできますでしょうか。

丹下：私からの質問ですけども、2つ目は、先程と少し似てるんですけど、いろんなお子さんいらっ

しゃると思うんですけど、それにどのように等しく愛情表現していたかっていうことをお聞きしたいと思いで。一人一人違うんだからその個性を尊重すべきみたいな話もありましたけど、どういうふうにされてたのでしょうか。

石田：引く子どもがいるんですよ。その子は引かせないようにしようと思ってました。ちょっと話が飛びますけども、昔イタリアのほうで6人いっぺんにお産みになった方が、5人だか6人。そのときに、手のかかる子にやっぱり手をかけて、すごくおとなしくて言うこと聞く子をほっといたつもりはないんですけども、やっぱり抱くのも少なかったりそういうことをして。そしたら他の子たちは、やっぱり弱かった子たちも元気になって学校行くようになって、あるときふっと気がついたら、その手のかかなくなった子が心がフラフラし始めてる。なんでだって言って。そしたら、そのお母様が教育者だったものですから、よく自分がその子を育てたことを思い出したり、あと病院の先生とお話ししたりなんかしてたら、この子は手がかかんないから大丈夫、自分で大丈夫っていうのをやっぱり見過ごしてしまった。その子の心を結局戻すために、もう大きくなってののに、小学校の中学年くらいになったのかな。もう常に抱いてあげてた。大好きだよ、大丈夫だよって言って抱いてあげて、ほんとに子育てのときにそれこそ最後にインプットしなくちゃいけなかった言葉を一生懸命一生懸命言ってあげたんですけど。そしたらだいたい落ち着いてきたって。だからやっぱり必要なときに必要な手立てっていうのは、どんなにすごい子どもでも、所詮子どもなんだよね。そこをちゃんと順番に段階踏んであげなかったら、さっきも言ったように成長の中には3つあるっていうけども、精神的成長をちゃんとしてあげないと、大人になっても常に・・・。

それからアルバイトしてた男の子が、すごくちゃんと何でもできる子なのに、大丈夫ですか？ 僕これで大丈夫ですか？ってすごく聞くんですって。どうしたのかっていいたら、悪いことだけを怒られてたらしいんですよ。ダメじゃないか、こんなん、どうのこうのとかって。自分ができたことを褒めてもらえなかったから、常に自分はダメなんだ、ダメなんだっていうのがあって。だから子どもはちゃんと認めて褒めてあげて、育ててあげてほしい。基本はそれだと思うんですけど。ダメなことはダメと言ってあげるって必要なんです。それ親の務め



だから。その代わり前もって、こういうところお前
すごいよねっていうことをちゃんと誇大表示して、
でもここ直したらもっとすごくなるよねっていうこ
とをやっぱりしていかないと、否定が先になっちゃ
うと自分はダメなんだ、ダメなんだっていったらそ
れなりの年頃になっても心に穴が開いてしまっ
てるっていうことがあると思うんで、やっぱり遅くない
です。今からでもいいから褒める。褒めるって
いうか、認めてあげるっていうことをまず前提に出
して、ここは直してもらってっていうところをちょろ
っと出すぐらいの感覚で。でも全然気づかないよう
に出しちゃダメなんです。ちゃんと気づくように出
してあげて指導していかないと、今は親として楽か
もしれないけども、将来その子が世の中に出たとき
に困ってしまうと思うんですね。

小学校1年生の先生が、君たちはいっぱい遊び
なさいって、それが仕事だよ。勉強も大事だけど、
友達と遊ぶっていうことはこれから将来自分が生き
てくために必要なことなんだからね。いっぱい友達
と遊んでねっていうことを、入学した最初に言われ
たそうです。でもそれが、やっぱり人とのコミュニ
ケーションを取るっていうことで一番必要なことだ
と思うんですね。特に1年生なんていうのは、得
になるとかこれは損するとかっていうのがあまりな
い年齢なんで、そういうときにひつつきもつつきし
ながら、あと喧嘩しながら前に進んでくっていうの
は心の成長に一番必要なことなんじゃないかなと思
います。だから、そういうものも大切にしてくれる
といいかなと思っております。

丹下：愛情表現ってことですけど、うちの息子も最
近言われてみれば、愛情が足りなかったとかって
言ってくるんですけど、じゃあ愛情が足りないから
抱きしめてあげるよって言って抱きしめてみても、
もう遅いからとかって突っぱねてるんですね。も
う高3だし。だからもっと若い頃にやってほしかっ
たみたいなことを言ってくるんですけど。

石田：遅くないです。一応まだ俺の子どもだからっ
て。

丹下：言われてみれば足りなかったのかもしれない
けど、ただあまり目立つような子じゃなかったの
で、褒めることもあまりしてこなかったかもしれ
ないとかいうのは、確かに言われてみれば私もそう
で。子どもによって、やっぱり目立つ子と目立た
ない子っているじゃないですか。すごい足が速か
ったら目立ったりするけど、もう1人の子は別にそう

もなく、別に勉強ができるとかいうわけでもなく
淡々と生きてるから、褒めどころというわけでは
ないけど失ってしまったのかなと思って。後で言っ
たら、もっと褒めてほしかったみたいな。やっぱ
承認欲求っていう・・・。

石田：親も若かったのよね。

丹下：若かった？

石田：だから完璧ってないんですよ。じゃあ抱
いてあげられなかったから今ぎゅっとしたいん
だけいい？って言って、やめろよとか言われな
がら、いやいやいやとか言いながら。その触れ
合いだけでも子どもはほっこりしますよね。拒
絶されたからっていうんじゃないで、ちょっとお
ふざけでもいいから、父ちゃんは俺のことを
ちゃんとあれしてくれてるんだっていうのでも
全然違うと思いますよ。だから、いやいや
やって言ったら、そんなこと言うん
じゃねえよとか言いながらも、俺の思
いをちゃんと認めてくれてるんだな
って思うだけでも全然違うと思
います。

丹下：それはそうですね。ちょっと切なくな
っちゃって。

石田：逆の意味でかわいい。

丹下：今更いいよみたいな。なので、すごい抱
きしめたりすることもあるんですけど。そんな
感じで今子育てしてます。ありがとうございました。

高野：ありがとうございます。吉江さんのところ
は、お子さん4人とも個性バラバラというお
話先程ありましたけども、それぞれ愛情表現
ってどのようになされてるんですか？

吉江：先程石田さんおっしゃったように、
うちの次男はもうすごいちょっかい出
したくなるような性格の子で、構うと
やめろよやめろよなんて言いなが
ら、すごい顔がニヤついてて、この
子はすごい照れやなんだという感
じで。もう娘、長女なんかはあ
からさまに、ママ、ママって
いう感じで甘えてくる感
じで。構ってほしいときの
態度っていうのがそれ
ぞれ違ったりするんです
けども、その違いを今
構ってほしいんだな
とか、この子はこ
ういう接し方して
ほしいんだな
っていうのを見
極めながら接
してるよ
うな感
じです
ね。

高野：ありがとうございます。

石田：女性ってそれできるのよね。女性はマル
チタレントですから。女性の特権です。い
っぱい特権を活かしてください。すると、
それで救われる人いっぱいいるわけ
だから。どうしても男の人はこうな



ちゃうから、それは自分の個性だと思ってください。心折れないで、そんなもんだよなっていう気持ちでいると、案外本人も楽ですよ。

高野：ありがとうございます。愛情表現は大人でもとても難しいと思います。でも子どものために、心温かくいたいものだと思います。

それで、せっかくの機会ですので、会場の方で石田さんにお聞きしたいことがあれば、県名、学校名、お名前を頂戴してから手を挙げていただければと思います。どうぞ、そちらの方お願いします。

客席 A：秋田県の秋田県立明徳館高校から参りました。

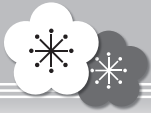
我が家は子どもが4人います。男、女、女、男なんですけど、やっぱり子どもがちっちゃいときって私もワンオペでやってたので、煮詰まったりすごく大変なことがあったときに、ちょうどテレビで石田さんが多分長女さんだと思うんですけど、台所で牛乳を……。

石田：次女です。

客席 A：牛乳を、反抗期でしたっけ。か何かでぶちまけたときに石田さんが、こんなことでもなきや掃除しないじゃない？って笑顔で言われてたのを見て、なるほど、こういうお母さんっていうか、こういう価値観を持った方がいらっしゃるんだと思って。うちはまだ高校生と大学生なんで、そのときももっとちっちゃかったんですけど、その後娘が今行ってる全日制をやめて、今の高校定時制なんですけど、定時制に行きたいって言ったときも、そうくる？って言いながら、その言葉の一つ奥を見てあげられるようになったなと思って、すごくずっと心の糧にしていました。実は今回高3で来てるので、最後の全国大会が石田さんのお話を聞くことができ、私もすごく感銘を受けたというか、私も頑張ってきたんだなと思いながら話を聞かせていただきました。それで、今日のサブテーマに、子どもの心に風邪を引かせないっていうのが入ってるんですけど、子どものことをたくさん聞いたので、子どもの心に風邪を引かせないためには大人である私たちも、保護者である私たちも風邪を引いてはいけないと思うんですけど、子育てをしながら石田さんが自分が風邪を引かないように心がけてたというか、すごく楽しみにしていたこととか。自分に戻れる時間ってすごく大事だと思うんですけど、どういうことを楽しみに、糧に頑張ってるんじゃないかなと思って。大人が自分の心に風邪を引かないこと、何をされてた

かなというのを聞きたいです。

石田：サブタイトルに、子どもの心に風邪を引かせないっていうのは違うんですよ、あれは。奥があるんです。母ちゃん、あんたが元気だったらなんとかなるよっていうことなんです。そういう意味で書いたやつなんです。まずは、でも私後で聞いたんですけど、胆嚢が胆砂だったんで、もうブスコパンっていう痛み止めが効かなくなっちゃったんで取りました。おへそから引っ張り出して。それから一番下が小学校1年のときに、今度は大腸がんになりました。夫は、毎日楽しんでるやつが病気になるっていうのは精神がたるんでからって怒鳴りまくってましたけども、結局そうすると、やっぱりあるべきものが無いっていうのは、そういうふうトラブルが起きるんだよっていうのを先生言われました。だから、石田さんとこみたいにいっぱい産みますって講演のとき言われるんですね。その方はもう5人も子どもがいるんです。だからやめろって言いますよ。私が小学校1年の子どもを残して死んじゃったら、長女は家庭の犠牲になると思うんですよ。それを思ったときに、夫は……。自慢話していい？ 高卒で外資系で本部長まで上り詰めた人なんです。そこまでは行けなかったと思うんですね。家のことももう帰ってきて必死でやらなくちゃいけないし、娘1人に頼むわけにはいけないして。もう長女が就職始まって、長男はまだ大学生でっていう状態でしたからね。いろんな学校行事だの進学だのなんだのかんだのっていっぱいあったはずなんです。それを結局私は長女に頼むっていうか、もう強制的に。私が死ななくても、病気で寝たり起きたりなんかしてたら結局そういうふうになるわけじゃないですか。それを思ったときに、私そういう思いをさせないで済んだんだなって言って、私は自分を褒めます。私、一生懸命ロジックしてましたね。あと週刊誌を、あの頃は文春と新潮をもう毎週買って必死で読んで、たまにタイトルがすごくいいタイトルのもがあると、それも読んでみたいって言ったら、ちょっとお姉ちゃんの色っぽいのが出てるような本は、スタッフが来たときに持ってっていいよって言ってあげてましたけども、貪欲に読んでました。今はもうほんとに本が積読になってますけども、今回読んだ本でもすごい本を読ませて……。これは私、この本に選ばれたのかなって思うような本も読ませていただいて、しっかりタイトルは忘れちゃったけども。でもほんとに、なんか知らないけどいろんなも



のが私に寄ってきてくれてるんだと思うのがあるから、人から見ると石田さんずるいねって言われるんですけど、でもその都度その都度真剣に頑張ってきましたから。私なりにね。だから、そのご褒美を私はいただいているんだなって。だから保護犬もそうだし、ご近所の人たちもそうだし、今フラダンスのほうの友達でもみんなワイワイやって。すごいご褒美を望まなければ、ほんのちょっとしたことでも嬉しいと思う気持ちを自分の心の糧にしていれば、何にでも喜べるんで。そういう思いをしてると、同じことを経験しても幸せは倍になりますよ。頑張らないで、ゆるゆるといいですから、ニコッと笑って。ちょっとシワが増えるのだけが問題ですけども。

客席 A: ありがとうございます。初めての茨城でしたので、ご褒美にいっぱい茨城の美味しいものをたくさん食べて帰りたいと思います。ありがとうございました。

石田: 11月、秋田行きます。

客席 A: どうしてですか？

石田: 秋田広いからね。

客席 A: どこでも伺います。伺えるようでしたら。ありがとうございます。

高野: ありがとうございます。他にいらっしゃいますか？ どうぞ。

客席 B: すみません。遅れて来て申し訳ないんですけど、広島県立呉三津田高校から参りました。はじめまして。

息子が今高1になったばかりで、PTAのこともよくわからず入らせていただいたんですが、ぶっちゃけて話すと発達障害があったり、人の心を読むことが難しい、コミュニケーションを取るのも難しい息子なんです。勉強できることはすごい褒めてあげたいなと思って、でも勉強できるだけじゃダメだよって。人と関わるために、人の気持ちを読んであげないとうまく社会に出ていけないよって教えるんですけど、やっぱり反抗期があったり思春期があったり、あと家に帰って学校のことを話してくれなかったり。そういうことがすごいあるんですけど。そこで、お母さんと思春期の男の子との関わり方をどううまくやっていけばいいのかなということがまず1つの質問。2つ目の質問が、やっぱりもうすでに風邪を引かせてしまっているの、そのアフターフォローじゃないですけど、どうやったらもう1回親子の信頼関係を築いていけるかなということが2つ目の質問です。

石田: そういう障害を持つてる子にできないことを強制するのはやめなさい。友達と、みんなと、心をわかってあげなくちゃいけないとかなんとかっていうのは、彼にとってはそれはもうほんとに苦しいことだと思うの。だから、周りの人にわかってもらう。だから先生にお話しして、この子はこういう特徴を持つてるんで、すいません、よろしくお願ひします。それから保健の先生にもその話をして、お願ひしますって。お勉強できるんだもん、いいじゃん。それ褒めてあげてよ。うちも孫が知的障害持つてます。その下の男の子はものすごい優秀らしいんです。私はすごい子要らないの。なんで半分で割ってくれなかったの？ 神様っておかしくない？って思うんですよ。だから、これからその障害持つてる子がどういう人生を歩むのかなって、それは心に常に思っではいるんですけども。

誕生日には何が欲しい？って、必ず私、孫たちの誕生日のリクエストをまず聞くんです。聞いてそれに沿うように、本がいいって言ったら本を買ってあげたり。もうシビアな子がいまして、コンビニでなんとかっていう券が3,000円とか5,000円であるから、それ自由に買えるから、それを欲しいって言うてのけるのもいるし。誕生日とクリスマスに欲しいものを聞いて、それを買って、一筆入れて渡すっていうふうにやってるんですけども。その知的障害がある子は、いつも本が欲しいって。こういう本が欲しい、あれが欲しいって言うて。読めるのかしらっていうのは思わないで、こういうのが興味があるんだねって言うて、買って渡してあげてます。

できないことを強制しないで。高校生はましてや母親になんか口利かないから。そんなもんだよ。運と鈍と根というものを自分の心にちゃんと乗せて、運を運ぶためには周りの人とどうコミュニケーションを取っていくかっていう。彼にそれを求めるのはとてもかわいそうだと思うから、お母さんがそれを手取り足取りじゃなくて周りの人に運を運んでもらえるように、実はこういうのなんですけどもどういうフォローをしたほうがいいでしょうかって。あと先生のほうにもお願ひできることがあったらよろしくお願ひしますって堂々と、もう土下座くらいしてもやってもいいのよ。もう、そうやってその子が生きていけるんだったら十分だと思う。

ほんとにもっともっとすごい運命を自分で背負ってる子たちもいっぱいいるのね。でもちゃんと高校行ってやってるから。その知的障害のある子もちゃ



んと高校出て、今3年生で今度出るんですけども、ただ受け皿はどういうふうになってるのかなと思うんです。ただ子どもお母さん一生懸命頑張ってるんで、そういう前に進むところっていうのは学校とちゃんとコミュニケーション取りながらきつとやってくれてるんだらうと思うから、相談されたら答えられるように一応本を読んだりとか、あとEテレのそういうところを見たりとかってやって、できるだけ自分も視野を広げるようにはしています。でも、こうだったらああだったらって一切言いません。聞かれたときに知らないという言葉は発しないように。だから子どものいろんなことを質問されたときも、知らないって言わない。必ず、そうなんだって。お母さん勉強不足だからちょっと勉強してみるけど、お母さんにわかるようにあんたもちょっと教えてよっていうぐらいの感覚で。知らないことっていっぱいあるじゃない？ 私が子育てしてるときはあつという間にパソコンがどうのとか、ネットがどうのって。最初、うちは家電しかなかったんですよ。次に何だっけ、ピッピッとする……。出てこない、ごめん。ポケベル。あつという間に携帯になりましたでしょ？ほんとにもう目の回るような……。だから山本五十六のあれだけど、やってみて、やらせてみたって全然無理。昔はこうだったなんて言っても、は？って終わっちゃうような時代のすごい変化を私は目の当たりにしてるから、もうすーっと身を引いてます。うーんっていう感じで見てましたけども、ほんとに変わりましたね。私はどこの国の人間？っていう……。ごめんね、わかりましたでしょうか。

客席B: ありがとうございます。ぜひ広島にもいらしてください。お待ちしております。

石田: 私、広島5年行きました。安佐北区に住んでました。

客席B: そうなんですか？

石田: 芸備線のそばです。太田川のそばです。昔々、太田川が氾濫しまして、あれ挟んでゴルフ場があって、そこが全部埋まっちゃったら、バタバタバタバタ音がすると思ったら、近所でそのゴルフ場の係員の人が屋根の上で助けてもらうシーンだったね。それテレビで見ながら音を聞いてたっていう。そこにいました。

高野: ありがとうございます。他にいらっしゃいますでしょうか。そちらの方ですね。

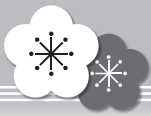
客席C: 香川県から来ました。高松中央高校PTA

会長です。よろしくお願いします。

今日ご講演を聞いていて、先程のフリートークでたまたま出てこなかった話題をお伺いしたいと思うんですが……。うちの家族構成は子ども4人なんですが、大学2年生、大学1年生の年子の男の子と、今高校2年生の双子の女の子がおります。経済力、大事だなど思いました。あともう1つ、都合11年ですかね。PTA活動を一生懸命やらせてもらってますが、父親の影響力3割にちょっとショックを受けております。

それはさておきお伺いしたいのは、子どもが安心して帰ってこれる居場所についてなんですけれども、居場所というと、うちは当然物理的に3LDKに6人で住んでるので自分の部屋っていうのは持たせてやれないんですけども、でも世間を見ると、自分の部屋=ちょっと語弊があるかもしれませんが引きこもりの牙城というふうにもなりかねない。なので、決して物理的なスペースという意味での居場所ではないというのはわかりました。でも、じゃあ具体的に子どもが安心して帰ってこれるような居場所ってどういう環境なのかなっていうところと、その環境をどうやって作ってあげたいのかっていうところを教えてくださいました。ただ、ご講演の中で1つヒントかなと思ったのは、俯瞰して普段は見ている。でも困ったときにだけ手を出す。そしてまた子どもが大丈夫になったら俯瞰して見る。この距離感が、もしかしたら子どもにとっての居心地の良さなのかなとは思ったんですが、その辺りもう少しお話を伺えればと思いました。よろしくお願いします。

石田: まずはおかえりって。爽やかな優しみを帯びた声で、おかえりって。それだけでほっとすると思うんですよ。外で嫌なことがあっても何でも。そのくらいただだから。やってあげて。それと、笑う。面白かったねって言って笑えるっていうのも、家の中が笑いで溢れてるっていうのも心の居場所だと思うし。うちも1部屋11畳ぐらいに6人でいましたね。真ん中に2人いて、それで女の子たち2人でいて、女の子たちが喧嘩して、下の例のヨーグルト事件の女の子が男部屋に来てそこで寝たら、男部屋のうるささに辟易して自分の部屋に戻ったという状態でしたけども。それでもあつという間に、どんどんみんな家から出てってしまって、一番下が残ってしまったという感じになりましたけども。でもやっぱり笑いがあって、おかえりってしてくれる言葉



を聞いたら幸せなんじゃないかなと思いますよ。まずそこが基本だと思います。ああでもない、こうでもない、ゴチャゴチャゴチャゴチャって言うよりも、もう笑ってあげられるっていうのが子どもたちにとっては幸せなことだと思うんですよね。しかもめっ面されるよりは、そっちのほうが幸せだと思うし。そこからまず始めていくって思うんですよね。笑えないときとか苦虫噛みしめるときとかっていうものもあるけどね。

全然話違うことなんですけど、子どもが野球やって、途中で俺やめるって言ってやめても、私ずっと1ヶ月以上は、要するに子どもがいないのにそこへ行ってお掃除したり何したりって行って、いつでも子どもが帰ってこれるようにしてたんですよ。それでもあちらの父兄の方が、石田さん、もういいよって言うてくれたんで、じゃあ皆さんありがとうございますって、それで……。だから、やめたから終わりって言うことじゃなくて、子どもの心って揺れ動くと思うから、ちょっと間延びした、何やってんだ、あの母ちゃんっていう方でも、私は子どもを守るんだから、お前には関係ないぞっていう感じで、どうもって言うてやりましたけどね。指導者によっていろんな人がいるんで子どもに合わない人もいるし。でも、そこでプツンと切るのは子どもの将来どうなるのかなと思うから、やっぱり1ヶ月かそこら辺は、お掃除に行ったりとか手伝いに行ったりとかって一生懸命やりましたね。だからそういう心の広さっていうものを持ってあげて、悪いことをしたときは、だよ、私の子どもだからバカに決まってるしねとか言いながら。まったくうちの母ちゃんは何考えてんだよって言いながらも、許してもらえるところがあるっていうのはほっとするんじゃないかなと思うんですよね。だからダメなんだとかやっちゃうんじゃないかってね。だからあんまり賢くて立派な親御さんの子どもさんって苦しいだろうな。でもそういうところに一度は子どもになってみたいという気持ちはあるんですが、私、自分の遺伝子をちょっと恨んでるところがあるんですけど、遠いほうにはすごい人がいるみたいなんですけども、ちょっと遠すぎてね。すいません、長くなりました。

客席 C: ありがとうございます。ちょうど今日、僕はこちらにいますので家にはいないんですけども、大学2年生の長男が帰省するというので、お土産買ったよという連絡があったんですけども、宇

宙工学をやりたいって言って、一生懸命勉強して大学入って、今は髪の毛真っ赤に染めて、鼻ピアス開けて、ライブハウスで大声を出していると。そんな長男なんですけれども、その話を聞いて、一生懸命笑えるように、家族で笑えるように準備したいなと思いました。ほんとにありがとうございました。

高野: 他にいらっしゃいますでしょうか。前の方、お願いします。

客席 D: 鹿児島県から来ました。県立錦江湾高校です。よろしくお願いします。私も石田さんと一緒に子育て、たくさん子どもを育てているお母さんです。自分の家族構成ですけども、6男2女の8人の子どもを育てています。この機会を高校で教えてもらったときに、ぜひこのセッションに行きたいっていうふうに手を挙げて、お話聞いて、共感できるところがたくさんあって、すごく嬉しかったです。ありがとうございました。

やっぱり8人育てて、心に余裕がないときが多いんですよね。多くて、どうすればいいかなって思ったときに、ふと笑顔がなくなってる自分がいて、子どもたちがやっぱりそれをじっと見てるところがあって、これじゃいけないって思いながらも一生懸命やってるんですが、そういうときに自分は子どもたちと一緒に何かをするように、簡単なことです。洗濯物を一緒にたたもうとか、ご飯をちょっと一緒に運ぼうとか。そういうので少し、1人ずつ時間を作るようにしてはいます。ただ、上2人はもう大学生なんですけども、この2人はまっすぐな子で、最初大学に行きたいって言ったときに、経済的なものがあっていうふうに思ったりもしたんですけども、石田さんのおっしゃる通り、やりたいならなんとなかなから行かんねっていうふうに言って背中を押して、今はお母さんありがとうございますって言ってくれます。ただ3番目が、将来が見えないっていうふうに今とても悩んでまして、お母さん、私やりたいことも特になくてって。けど周りの友達はどういう勉強したいからこういう学校を目指してるんだよって。お兄ちゃん2人も目標あってうらやましいよと。私は下にも弟も妹もいるのに。お母さん、どうすればいい？って聞かれたんですけども、自分が答えることができずに、そこを。だけど今日、子どもの背中を押してあげるとか、子どもの未来をどう開くかを考えてあげてっていうふうに教わったときに、自分はこの子に対してどう未来を開けばいいんだろうってやはり今悩んでるところがあって、ここをちょっと



お聞きしたいと思います。

石田：すごいね。悩みを相談される母親なんて。私、悩みなんか相談された覚えがないような気がするな。みんな我が道を行くという。何だったんでしょう、うちの子は。ふっと振り返ったときは、お前そこ？っていう感じでしたね。だから、どう考えてもお前が大学行くわけねえだろっていうのに、お母さん、どこどこの推薦もらいました。え、なんで？っていう感じで。だからさすがに夫が、何かうち留年したってよって。当たり前でしょうよって。そんな賢い子じゃなかったのに大学行くっていうこと自体が。働きながらだったんで、2部のほうに行ったんで。そうしたら今度は後期の先生が病気で、後期の授業が取れなかったから留年になったんだけどって。じゃあ前期、お前ちょっと休学しようって言って。それで後期復学させて、後期分はお前自分の金で払えよなって言って卒業して。

上の子たちがもう大学行っちゃってる。下の子は自分が置いてけぼり食って、お母さんを悲しませてるんじゃないかとか、そんなのちょっと考えなくていいよいいよって。ゆっくり考えなうって。それで立ち止まっちゃうとあれだから、前に進むっていう気持ちでちょっと散歩にでも行ってくれば？っていうぐらいの感覚で。そしたら散歩してる間に何か見つけるかもしれないでしょ？

私、能登の地震のときのお手伝いに行ったって、お年寄り座っててくださいって言われるし、資本もないんで、袋1枚持って、周りに落ちてるゴミを、たばこの吸殻だとかを全部拾って帰ってくるんですよ。ご丁寧にコンビニで買ったお弁当一式を食べ終わったら袋に入れて、土手に置いてく人もいますよ。だから私は、私のできることを一つずつやってるだけ。鬼怒川がそばだから、もしかしたらそれが飛んでって、それがいつの間にか太平洋に行って、それを食べた魚を今度は自分が口にするかもしれない。自分だけじゃなくて周りの人に害を与えるかもしれないと思ったら、ささやかでもいいからそういうゴミを拾ってあげれば、みんなここにいる人が全部それをやったら綺麗になるわよ。もうほんとにそんなちょっとしたことなのよ。そして私は人に、あなたもやりなさいとか一切言わないから。ただ私はしてますっていうだけ。だからそれを聞いて自分もやろうと思う人が1人でも出れば、それはそれで良かったなと思う。そのスタンスでいるんで、なんでも言ったのにやらないのよって、そういう気は全然

ないんです。

客席D：ありがとうございました。心がすっきりしたっていうか。自分が慌てると、やっぱり子どもも慌てちゃうので、ゆっくりどしどし構えて、背中をまた押していこうかと思っています。鹿児島の方にもぜひ。美味しいものいっぱいあるので遊びに来てください。ありがとうございました。

石田：先日大分行ってきました。

高野：ありがとうございました。お時間になりました。最後に皆さんで、優しい声でおかえりってささやいてみませんか？ 私のせーので、おかえりと皆さん言うてください。せーの。

会場：おかえり。

高野：せーの。

会場：おかえり。

高野：ありがとうございました。以上をもちまして、フリートークを終了いたします。石田さん、長時間にわたり誠にありがとうございました。



第4分科会 講演

PTAは学校づくりのパートナー

講師 花園大学社会福祉学部 教授 炭谷 将史氏

〈講演要約〉

大体こちらにいらしてる皆さんは充実されてる方が比較的多いのかなというふうに思うんですけども。

もう1つ、ちょっと変な質問ですが、PTAの活動されてるときの自分好き？ 嫌じゃないっていう感覚ってありますか？ これ何かって、平野啓一郎さんという小説家の方がおられて、僕作品いくつか読ませていただいているんですが、「分人」っていう考え方があって、それをある作品の中で使われているんですけども。我々生活している中で、アイデンティティって心理学でよく言いますが、自分1人のアイデンティティ、私はこういう人間だみたいなのがあると思っているが、そうじゃないんじゃないかと。何かをやっているととか仕事をしてるときの自分、もしくは誰々さんと喋っているとときの自分。それぞれ違う自分を出してることない？ということなんですよね。だからそれが全部合わさって自分じゃない？って言って、「分人」という概念を提起しているのがあって、僕は案外好きなんです、その考え方。

PTAをやっているとときの自分悪くないんじゃない？と思えたら、PTA活動もそんなに嫌じゃないかもしれないというのがあって、こんなこと聞いてみました。なので、よかったらそんな考え方もしていただいたらいいかなと思います。

ちなみに私は前に滋賀県立の守山中学・高等学校というところで会長をさせていただいて、今、石山高校というところに次の3人目の子どもがお世話になっているのでそこに行ってるんですが、石山高校の活動4月からで、しかも仕事がバッティングしてしまってなかなか出れてないんですが、守山中学・高等学校での活動をしているときの自分は、すごく居心地が良かったというか好きだったんですね。やることが。それをやっているとときの自分っていいよねって思えるっていうのは結構大事かなと思っているので、参加してる方がPTAをやっていると

自分が嫌じゃないっていうような感じになるっていうのはすごく大事だなというふうに。いろんなことを我慢しながらやってたら、やっぱりなかなかそうはならない気がするので、そういうことも少し大事にしていくといいのかななんてことを思ったりしております。

さて、少しずつ本題に入っていこうと思います。PTAの始まりということで、日Pのホームページを見ると、PTAの歴史というのは結構詳しく書いてあるんですね。戦後始まったというようなことであるんですが、教育の民主化というのが非常に大きなポイントになってくるところなんです。戦争に突入するときに、教育がある意味では洗脳に近いような話をしてしまっていたというようなポイントが、少なくとも相手国から見るとそう見えるという部分があるし、中にいる人間もそういう側面はあったのかもしれないという感じがあります。

民主化していくときにPTAという、親が教育に関わる。家庭が教育に関わる。家庭教育の重要性という話もあるということで、PTAというのは民主主義教育を進めていくために積極的役割を果たしたほうがいいというような話を、アメリカを中心とする連合国側がこういう話を持ってきたということで、日本側もそれを受け入れて、当時の文部省がPTAの結成を呼びかけたというような経緯があるということが書かれています。

案外民主化ということ言うと、教育って教える側と学ぶ側に分かれるので、今の教育って民主化と言っていいのかわかんないけど、学ぶ側の主体的な学びをどういうふうに喚起するかみたいなことをすごく大事なテーマとしてやってますけれども、ややもすると民主化していけないみたいなのところがちょっとあって、すごく大事なポイントになってくるのかなというふうに思います。このスタートの時点の戦争がどうか、いろんな考え方はそれぞれあるにせよ、教育の民主化というのは一つのキーワードなのかなというふうにスタートのところを思う



と、考えられるんじゃないかと思います。

じゃあ民主化とか民主主義とかデモクラシーということで、これを考えていくときにどう考えていったらいいかということはあるわけですが、神戸女学院におられて、今も本をたくさん出されて活躍されている内田樹先生という先生がおられますけれども、その方の『複雑化の教育論』という本の前書きに、こんなことが書かれてるんですね。これをちょっと読ませていただきます。「民主制は、メンバーに大人になってくれと懇願する制度です。その制度をきちんと機能させるためには、制度運用者たちの全員とは言いませんが、一定数がまともな大人であることを必要とする制度。」

これちょっと日本語おかしいですね。運用者たち全員が幼児でも運用できる制度よりも良い制度ですということを言っている。民主主義、民主制というのは、そういう意味では構成員に大人になってくれということをお願いする制度だということをおっしゃってるわけですね。

ここに書かれている大人とか幼児っていうのは、物理的にいる大人、20歳以上とかそういうことではなくて、その構成員である人間の性質じゃないかというふうに私には読めるんです。この大人を成熟と読み替える。子どもでも成熟してる人はいますし、大人でも幼稚な人はいます。なので、それを書き換えてみようということで、大人を成熟、幼児を幼稚と書き換えてみるとこうなります。「民主制は、メンバーに成熟してくれと懇願する制度です。その制度をきちんと機能させるためには、制度運用者たちの全員とは言いませんが、一定数が成熟した人であるということが必要とする制度である。」その制度は、運用者たち全員が幼児でも運用できる制度よりも良い制度だということですね。

これ、僕はこれを読み替えたときに、そうだなというふうに思ったわけです。去年近畿大会をさせていただきましたけれども、近畿と一緒に各府県からお越しいただいた会長さんたちだったり、滋賀県の仲間たちだったり、そういう方たちを見ていて、たくさんそこで成熟した大人たち、ご自身が今まで培ってきたノウハウだったりネットワークだったり、いろんなものをそこで無償で活かしていただきながら、高校のために、高校生のために、自分の子どもを含めた、自分の子どもじゃない人も含めた子どもたちのために、惜しみなく使っていただく成熟した大人たちとたくさん出会いましたけれども、

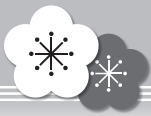
PTAってまさにそういうところだよねというようなことを非常に強く感じたということなんです。

PTAって民主的な社会システムというのか、そういうのを学ぶのにめっちゃめっちゃいい場所なんじゃない？ということは何年間かお世話になって非常に感じた。社会的バックグラウンドとか全然違うじゃないですか。出身地も多分違いますし。私も今はずっと滋賀県に住んでますが、元の出身は東京ですし、出身の学校も違うし職業も違う。そういう大人たちが集う。まして営利目的みたいなわかりやすい目的があるわけじゃないわけですよ。目的結構いろいろ人によって、ある程度、もちろん決まっているのは間違いないんですが、ある程度はつきりままならないままに運営しなきゃいけないというものであるって考えたときに、成熟が必要とされるような組織なんだと思うんですね。

一方で、今この社会、どうですかね。僕が受ける感覚で言うと、誰でも運用できて、たとえその運用をしている人が幼稚でもうまく回っていくシステムのほうが良いシステムだって思ってる節がある気がするんですね。ここにギャップがちょっと生まれてるかもしれないんですけど、本当にそうかなと思ったときに、私はここで内田先生がおっしゃってるやつを自分で読み替えたわけですが、誰でもできるわけじゃないけど、成熟した人間がある一定数いないと成り立たない制度のほうが熟しているだろうと。社会制度として思うと、やはり民主的であったほうがいいと感じるし、PTAというのはそういう組織だというふうに個人的には感じるわけです。

となると、私の立場は、PTAは多分必要であろうと、そういう意味でもね。社会教育団体としてPTAは必要だというふうに考えてますが、我々大人が成熟していく。大人だって別に大人になったら成熟するわけじゃないので、大人も成熟していくって考えたときに、生涯学習団体としてPTAというのが存在している必要もあるのではないかな。もちろん子どもたちを支える。学校を支える。我々であれば高校ですけど、幼稚園から小・中とずっとあって、子どもたちを支えることはもちろんですが、我々自身もそこで学ぶということが必要になってくるんじゃないかなと考えたりするわけですね。そんなことを思いながら、PTAは必要だろうというようなことを考えていました。

昨年、高P連の近畿大会を滋賀県で開催させていただきました。そのときにテーマどうしようという話に



なったんです。実行委員会が組織されて最初の会議で、実行委員会の2年ぐらい前から僕は会長をしたので、事務局の方といろいろ相談をしながらある程度案を練っていたんですが、そのときに、このPTA 不要論みたいな空気が2年前、特に準備委員会は2年前に立ち上がって、去年の大会のさらに1年前に立ち上がってるので、なかなか大きかったんですよね、声が。いろんな声が出てる。

その中で、その話しようよっていう話を僕が提案したんですね。いろんな意見がありました。おもないんちゃう？と。もっと夢とか希望とか、そういうのがいいんちゃう？と。例えば名前の知れた滋賀県出身の有名人っている？ みたいな話もしましたけど、誰かそういう人来てもらって楽しく終わったほうがいいんじゃない？ みたいな話もあったんですが、それもやはりやとは思うんですけど、いろいろ話をして、今日もこれだけの数のたくさんの方が来ていただいていますけど、でもやはり必要なんちゃうかなと。そこの話、今しといたほうがよくない？ みたいなことで、僕としては若干強引だったかもしれませんが、何だよこいつみたいな感じがちょっとあったかもしれませんけど、これしよう。「みんなで考えよう、これからのPTA」というタイトルで押し切ったというのが正直なところですよ。賛成したわけじゃないっていう方も多分おられたと思います。

その背景は、先程お話したようなちょっと堅苦しい話があって、これ絶対喋っておいたほうがいいよと。ここにいる皆さんにも今日これ終わった後、今日の3時間が終わった後に持って帰っていただいて、それぞれの場所で議論をスタートさせていたきたいというふうに思うんですが、PTA 要らない？ という空気ですね。これを空気に流されてるよねという感じが、少なくとも僕にはだいぶ強い。議論してくない？と。そんな気がするんですよ。

あとは、多くの人はPTAを語る言葉を持ってない。そう思ったので、もうちょっと違う言葉を使って。例えば強制反対とか、不要とかいう言葉ばかりが出てくる。PTAに繋がってる。PTAって、Googleに入れたら、不要とか強制とか面倒くさいとか、そんなのが多分後に出てくるわけですよ。じゃなくて、違う言葉はないのかということですよ。これを考えたい。

3つ目は、もっと議論が必要。1つ目とちょっと

関わってきますが、熟議っていう言葉をよく最近使ってますけれども、時間をかけてじっくりと議論したほうがいいんじゃないかと。良い悪いと早く決着つけようとするんじゃないかと、ああでもない、こうでもないっていうこと。近畿大会は、キーワードに漸進という言葉、ゆっくり進む、じっくり進むという言葉、キーワードにして、伊吹高校という高校、書道が大変有名な高校の書道部の方に大きく書いていただいて。そんな近畿大会をさせていただいた。滋賀と京都は京都新聞というのが比較的よく購読されてるほうなのかなと思うんですが、京都新聞に取り上げていただいて、それがホームページに掲載して、ヤフーニュースとかにもちょっと載ったりして取り上げていただいたりしたんですが、そういう経緯があって近畿大会を開催させてもらったというようなことがありました。実は今年の近畿大会、7月、京都で行われたんですけども、それこそさっき言ったタイに行ってたので、私残念ながら参加できなかったんですが、京都府さんが引き継いでくれて、そのテーマを。これは僕はもう感動しましたね、ほんとに。これをしていただきたかった。

僕が言いたいこととか言ってることを受け入れてほしいっていうんじゃないかと、みんなで考えようっていうことが一番大事だと思うので、京都府は京都府としてそのメッセージを受け取って、みんなで1年間かけて考えて、課題を出して、その課題に対して高校ごとにいろいろと取り組みをして、その中のいくつかの事例を今年の近畿大会で紹介してくださった。京都府としては、変わってはいけないことと変わらなくてはいけないことというテーマで、3つの課題と6つの対応事例ということで、近畿大会でそれを掘り下げてくださったということをしました。

このような動きがいろんなところで出てくるということが大事なんだろうと。熟議をしていく。みんなで話をする。ほんとにやめるの簡単なんです。やめるほうはあっという間にやめられます。だけど、やめたらもう復活しないので、ほんとにやめていいの。私はやめないほうがいいだろうというふうに思うので、このムーブメントが起こってきたらいいなということで今日もお話しさせていただきますし、今後も話が進んでいくといいなと思ってるわけです。

それでは前置きがちょっと長くなりましたけれども、ここからPTA問題の整理ということで、何が



問題なのかということをおなりに考えてみたいと思っています。先程もちらっと申しましたけれども、PTAってイコール問題だらけみたいな感覚があるかなと。私は幼児教育に関わるところが専門なんです。園庭とかの研究をして。幼稚園の先生たちと一緒に園庭のこと考えるみたいなことをするのが一番本職というか、メインでやってるんですが、保護者会でお話してほしいみたいな機会が増えてきて、本職とこのPTAの関わりがだんだん仕事としてマッチしてきてしまってるという感じがあるんですが。やめよう、もう要らないっていう保護者がやはり増えてると。幼児を今育ててる若い親御さんたちは、比較的そういうのに早めに乗やすいのかわかりませんが。忙しいのがありますよね、多分。昔に比べるとね。共働きとかそういうこともあるんでしょうけど。そういう話になってきて、とにかくPTAはろくなものじゃないみたいな空気がやや流れてると。それは多分変えたほうがいいんじゃないかなと思うんですが、端を発したのは多分京都府。

僕、今職場が京都なんであまり……。京都府の研修会で言っておきましたから。あんたたちがスタートさせたんで。京都市のPTA連絡協議会が日Pから脱退しようみたいな話から、多分なんとなくこのムーブメントはより大きくなった感じがするというのは、僕の印象としてはそんな感じ。その後多分東京都ですかね。東京都がもう退会したと。23年の3月に日P退会みたいな。それで東京都PTA連絡協議会というふうに名前を変えて、結局連絡協議会あるやんっていう感じですけど。どういって感じで変わったか僕はわからないんで、多分改善されたんだろうというふうに思うんですが、いろんなニュースがあったというような話。あと僕が近畿の会長を仰せつかったときに、神戸市でいろいろあって、神戸市はお聞きしたところによると、多くの小学校・中学校の単Pがほぼ消滅していつてるといってことだそうなんです。その世代がもう高校まで来てるっていう話なんです。なので、高校の単Pも怪しくなりそうな予測です。

なので、まず単Pなんとかしなきゃいけないということがあって、連合会をまず連合会してる場合じゃないからみたいな話になり、連合会が解散をするということがあって、僕もいろんなあの手この手で、解散までせんといいたほうがいいんじゃないかな？とか、横の繋がりがあったほうが逆にいいんじゃないかな？とかい

う話しながら、そのときの会長さんと何度もやり取りしたんですけども、なかなかうまくいかず、結局は解散をされたということで。これはおそらく全国の高P連、単Pも含めてですね。高校にそろそろそういう問題が起こってくる。神戸市若干早かったというところがあるのかなと思います。そんなことが起こっている。

滋賀県に草津市というところがあるんですけども、ここでも神戸市と同じようなことが起こっていて、成立しない単Pが増えてきて、連合会、連絡協議会みたいなのが解散した。小学校の単Pは特にもう成立してないので、その後中学校も成立しなくなっていくというような感じが起こっているというのが、私が見聞きしている近場のところではそんなことが起こってます。後でぜひ皆さんグループトークのときに、近くの方と共有していただけたらいいと思うんですが、こういうことがちょいちょい起こってきていることは実際としてあるということですね。

一方で、PTA本があるじゃないですか。PTA本っていう言い方が成立しているかわかんないけど。僕もそうですけど、大学教授がPTA会長やってみてみたい本があるじゃないですか。僕もどこからそういうオファーないかなと思うんですけど、とりあえず今のところ1件もないんですけど。あの手の本とか、一応僕も今日ここで話させてもらうのに、少しパラパラと斜め読みしたんですが。その中にもあったんですが、入退会自由とか。だけど近所のしがらみがあって、幼稚園、小学校とかだとやめるにやめられないみたいな。自治会とか子ども会とか、ああいうのに近いんですかね。そういうようなこともあるみたいなことは書いてあって。どうですか？皆さんの近くもそんなのあるんですか？うなずいてる方おられますね。実際どうですか？僕は前向きだからかもしれませんが、大多数の人はそこまで嫌がってないんじゃないかなという感じもあるし、そんなに強制してるんかなっていうのも。確かに強制っぽい感じで、そんなのあかんみたいなことをおっしゃる方も聞くし、園長先生とか校長先生から相談されることもあるんですけど、でもその人も良かれと思ってやってる部分もあって。良かれと思ってやるから難しいんですけどね。多くは充実しているのかなという印象があります。でもそうじゃない話ももちろんあるとは思っているので、錯覚も若干はあるのかなというふうに思ったりもしてい



るという感じもあります。

それから、これは僕がいろいろ調べてみて、PTAの外注がよく出てくるんですよ。NPOがそういうのをやってるとかっていうのもあったりしますし。あと名前がPTCAとか、PTOとか、そんなのがあるんですかね。皆さんご存知かな。あるらしいですね。アメリカでもPTOって。Parents and Teachers Organizationって、もうもはや名前だけすり替えたんじゃないかっていうぐらいにしか思えないような。でも運営の仕方は違うっぽいんですけど。

学校運営協議会の話が、これ文科省を中心に、今地域の人に入ってもらうというようなことで、私も元々会長をやった守山中学・高等学校で、この学校運営協議会のメンバーとしてやってますが、こういうのも出てきて。これはもしかしたらPTAの負担軽くするのに、このコミュニティスクールに関して言うと、ちょっとうまくいくかもしれないというふうな話はあるんですけども。

僕が申し上げたいのは、こうやったらうまくいくよ話。僕ら日本人って事例好きなので、あまり本質的な話からアイデアを練っていきこうっていうのは得意な社会性じゃない。我々そういう気がするんですね。ヨーロッパの人と議論をしてみると、日本人ってとにかく明日使える情報くれっていうのが多いんですよ。本質論になかなか行きにくいっていうのがあって、こうやったらうまくいくよ話があって、問題の本質からちょっと遠ざかってっちゃうというような、全然本当の意味での解決になってないけど、ぱっと見なんかうまくいった感があるみたい。だけど今度は結局違う問題が。こういうのって、例えば外注しても違う問題噴出するんですよ。なので、結局何も解決になってないっていうのが1つ起こり得るかなという感じがあります。

もう1つ、僕が会長をやってみて個人的に感じたというのは、税金だけで学校運営するのって無理やん。そんな最低限しかお金ってつかえないわけですよ。当たり前ですよ。税金でめっちゃいいプリンターとか使ってたなら、それに今度文句言う人絶対出てくるじゃないですか。だから先生たち、結構ストレスフルな状況を強いられますよね。どこの学校って言うと語弊があるかもしれませんが、こんなプリンター使ってるの？って思ったことがあります。僕は大学、比較的私立大学にお世話になってるので、私立大学結構使えるんですよ。しかもいいやつを。だからストレスないわけですよ、プリントアウト

するのに。例えば論文プリントアウトするとか、どこかの国が出してる書類を例えば何百ページもプリントアウトするとか、別に誰にも何も言われな。だけど高校の先生とかはものすごい気にしながら、あまり綺麗じゃないプリンターでプリントするわけですよ。それ気の毒だなと思って、僕が会長のとときにPTAからお金を補助して、ちゃんとしたプリンター買いましょって言って買ってもらいましたけれども。そういうのって、本当に心地良く仕事をしていこうと思ったら必要だと思うんですよ。別に甘やかすとかじゃなくて、お互い様だし、それは結局子どもたちに返ってくるわけだから。そういうことをしようと思ったら、公費だけで運営するの無理だよという話になるわけですね。

プリンターの例とはまた違う、例えば机をすぐに変えなきゃいけないとか、壊れちゃった。僕実際あったんですけど、椅子が壊れちゃった。机が壊れちゃった。これ起こり得ますよね。それいちいち県に言って、そこから出してもらってなんてことをしてられないわけだから、お金すぐに必要になってくるとかってなったときに、PTAじゃなくてもいいけど、何らかのそれは必要なわけです。絶対に徴収する必要があるとかっていうことが起こってくるので、それをどうしていきってなったときに、PTAみたいな組織があって親もそこに関わっていて、一緒にそれやっていったほうが、結局いろんな意味でうまくいくんじゃないかなと僕には思えたんですよ。

というようなことがあって、だからPTA会費は必要とか、それどうやって使う・・・。使い方がおかしかったらダメですよ、もちろん。そこで誰かがちょろまかしちゃってますみたいなのは、それは論外ですけど。そうじゃなくてある程度運営がちゃんとできてるのであれば、親がそこに入って、子どもたちのためにいろんなアイデアを出しながら先生たちの負担を減らしていったり、そういうこともやれるんじゃないかな。やったほうがいいんじゃないかなというふうに僕には思えます。子どもが通ってる学校が良い環境になってほしいっていうのは、皆さん思ってるわけですよ。そうじゃない逆の人なんて皆無と言っていいですよ。だけど、自分が負担するのはまた別問題という話なんだと思うんですよ。良い環境にはしたいけど私はできない、僕はできないっていう人もいます。それは考えていかなきゃいけない。



このように、いろんな状況の中でちょっと混乱をしてるというのか、おかしな状況になってないか、整理したほうが良くないかっていうのが僕の思ってるところなんです。

ここまでのところを整理させていただきたいと思うんですが、大きく分けたら2個ぐらいしか問題ないんですよ、おそらく。その問題を掘り下げて考えていったほうがいい。

1個は運営の問題。これは運営が稚拙。強制反対とか、過大な負担とか。僕もPTAやる前に、自治会の一会員をやったことがあって、もう会議が…。ごめんなさい、言葉悪くて。くそ長かったんですよ。ほんとにもういつまでやるねん。終わってるやん話って言って、僕2度ぐらい帰りましたけど。帰りますって言って。もう話し終わってるんで。ああいうようなことなんだろうと思うんですね、おそらくイメージとしては。だからそういうのは多分変えたほうがいい。ここにおられる方は、おそらく変えておられる方もたくさんおられるだろうと思いますが、多くは共働きだ、時間的・経済的余裕がない。これもよくわかる。なんとなく大変そう。これもめっちゃ言われました。

僕PTA最初やるときに、もう一番の反対勢力は妻が…。あんまり言うと怒られそうですね。でも妻だったんですよ。やめときって言われて。妻が、長男が小学校のときにPTAの本部役員やって大変だったということ言われたんですね。僕ずるいから、研修部を絶対取ってこいって言ったんですよ。手を挙げて研修部取ってこい。なぜなら、研修の講師探すのなんてもうお茶の子さいさいなわけですよ。テーマさえ言ってもらったら、お友達連れてくるからみたいな感じでやれるのでやって、それでも大変だった。会計とかやってる人ほんとに大変そうだったというような話があって、妻にそうやって言われたんですね。それを聞いて、僕はそういうものかと。妻は、高校も大変そうじゃない？っていう話で。でも別に高校全然大変じゃなかったんですよ、小学校に比べたら。僕にとってはね。なんとなく大変そうみたいな話もある。最近は役割を担ってくれる人もどんどん減ってきてる。いなくなってるというような話があるので、これをどうしていこうかという運営上の問題。

それから、今この全国大会で連合会不要論なんて言葉を使うなんていうのは僕は大変勇気があるなと思っていますが、そういう話がある。僕が不要だと

言ってるわけではありません。だけど、そういう話がある。各都道府県のPの連合とか高P連、日Pとかですね。そういうのは要るのか要らないのかみたいな。まして、ちょっと前にややこしいことありましたね、日Pの方。言っちゃダメなんですかね、こういうの。でも、そういうことがあったりすると余計ですよ。そういうのはもちろん話にならないと思いますが、何のために存在してるかよくわからない。僕も連合会の滋賀県の会長を3年させてもらいましたけど、ここに関してはわからなくもないなということもちょっとあったので、後で。でもあったほうがいいというのが最終的な僕の立場ですけども、こういう問題。大きく分けたら2つの問題かなと思います。

もうちょっと運営の問題について。やり方が下手だからなくそうっていうのが今の議論なんですよ。これ、でも皆さんどう思います？ 乱暴なことないですか？ その議論の仕方って。例えば法律に置き換えて考えてみてください。法律って、全員に平等じゃない場合もありますよね。法律って全員に平等であるように作ろうと、公平であるように作ろうと思ってるし、そういうふうには運用としては頑張っておられるわけですけど、そうならない場合もある。裁判の公平性に問題があるとか。人種だったりいろんなことがあったりしますよね。そうなったときに、だから法律や裁判所は要らないんだとはならないですよ。

例えば税金もそうですね。税金ムカつく。毎月明細見ながら、こんなに持ってきやがってみたい。ふざけんなど。こんなのおかしいじゃないかって思うけど、税金要らないっていう人ってちょっといるかもしれないですけど、あまりいないわけですよ。

となったときに、運用の仕方とか方法が違うからって目的まで否定するっていうのは、基本的には議論の飛躍なわけですよ。それはちょっと違うんじゃないかと。方法の不備を目的の問題にすり替えてるというのが僕の感覚ではあります。

目的自体も違うんだっていう問題だったら、またそれは考えようがあると思うんですけど。さっきの民主的な社会を作っていくとか、子どもとともに親も民主的に物事を考えていこうみたいな目的だと僕は思ってますけど、それは違うんじゃないかっていうことであればそれは議論したほうがいいと思いますが、方法の問題が目的にすり替わってるっていう



ところに関して言うと、間違っていないということなんです。

関わったことのない人の心境。何してるかわからないとか、お金ちょろまかしてる人いるやんみたいなこととか、そういうようなことがあったり、やってる人は大変そうみたいな。これは改善したほうがいいですよ。情報として、なるべくお伝えする必要はあるだろうと。ただ、知ろうとしてくない？っていうのもあるんですよ。なので、それはそれでそこにも問題はあってもいいんですけども、普通に考えて、目的や必要性がわからないっていうためにそんなしんどい思いしたいわけもなく。例えば税金がめっちゃ適切に使われてるわ。納得感があって、税金のおかげで救われてるわみたいなことがあったら、税金払うの嫌にならないですよ。そういうものだと思うんです。問題の根っこは知らないことだったり、知ろうとしないことだったりということだと思うんですけども、まず目的とか必要性というのが明確にわかるということが大事なのかなというふうに考えます。

2つ目の問題ですが、連合会の話。これは検討すべきかなと思っています。こういう検討は必要っていうのは後程しようと思いますが、だからすぐに不要というのも、これまた僕はちょっと急いだ議論かなというふうに思っていて、やっぱり乱暴なのかなというふうには思っています。基本的に今すぐなくしたほうがいいとか、そんなことは一切思っていない。やはり県の連合会の会長をさせていただいたときに僕は思いましたが、必要性は、他所の学校のこととかを知れたとかいうのはすごく良かったし、一緒に近畿大会を作った仲間の皆さんたちからいろんな話聞いたりさせてもらったのは、すごく勉強になったし良かったなと思うんです。

ちょっと手前みそな感じで大した論文書いてないんですが、総合型地域スポーツクラブって言って、地域住民がスポーツとか文化的な活動をできる場所を各中学校区に作ろうよみたいな動きが、21世紀に入ってから実はあって、僕研究者としてそこに拘りが以前ちょっとあったので、10年ぐらい前ですけど。そのときにした研究で、中間組織みたいな連合組織との関わりがあるクラブのほうが、充実度がどんどん上がっていきっているデータが、インタビュー調査をかなり広くいろいろやった中で、なんとなくそういうのが見えてきたという感じがあって、社会学っていうところの弱連結とか、弱い紐

帯っていう言葉が社会学にあるんですけども、緩やかに中間組織とかで人と繋がっている。これの場合だったらスポーツクラブなんですけど、どここのクラブってこんなことやってる。そのアイディアうちももらおうとか。そんなのPTAでもあると思うんです。そういうようなことをもっと積極的にというか、集まったときにそういうのをやっていると多量だと思うんですけど、そういうことを大事にしていくっていうか。

その中でうまく運用していくっていうようなことはやっぱりすごく大事なことで、連合会組織として、そのことをもうちょっと意識的にやってもいいのかもしれないというのは、全国のやつというよりは、もう少し身近なところ、各都道府県とかのところであってもいいのかなという気が……。あまり言うのあれですけど、行くの面倒くさいみたいな思いながら、県の会議とかにちょっと行くみたいな気はある気がするんです。あとブロックがある県もありますよね。ブロックの会議みたいな。だから、それが行くのがちょっと楽しみだったり、その情報を持って帰ってきて単Pに還元できたりとか、そういうのもすごく大事だと思うんですけど、そういうことがどのぐらいできてるかっていうのもあったりするので、その辺も十分議論した上で考えていく必要があるだろう。今すぐなってしまう話じゃないかなというふうに思います。

なので、さっきの問題の整理として2点あるよねっていう話をしたんですが、目的云々の話もちょっと入れたほうがいいかなと思うので、もう1回だけ整理をし直すと、運用の問題と、それから連合組織の話は一緒なんですけど、あと不要論の適切さっていうところで、ほんとにPTA組織って不要かと。PTA組織の目的とか必要性ってどうなんだろうとか、単Pがほんとに不要と思ってる人ってどのぐらいいるんだろうとか、連合会組織は何のために……。何のためにっていう本質論ですね。何が目的なのかっていうことですね。を考えていくと、目的と合わせて目標も考えるといいかもしれませんが、そういうことを考えていくことによって、ちゃんとした議論になっていくかなと。その上で要らないっていう話になるんだとしたら、それはまたそのときなんだと思います。PTAの研修大会でなんてこと言ってんだって話かもしれませんが。でもそうなんだとしたら本当にそうなんだろうと思うのでっていうことですね。



ところが今から高校に来る親御さんたちは、先程言いましたけど、幼・少・中で嫌な思いをしているので、そもそも議論にならないという話ですね。これは考えたほうがいいですね。だけど冒頭で言いましたが、幼稚な議論をしてたらダメなんです。そこは、なんとかしなきゃいけないというところはありますが、ここが難しいところなんですよ。おそらく、いずれにしてもこの問題を解決していく必要があるだろう。僕はこういうふうに整理をしています。

これPTAと直結はしないかもしれないんですけど、1つは資本主義の過剰肥大ということで、これわかりやすく言うと、全部金。全部金絡みになってというのが結構大きな問題じゃないかということが、僕は感じているということです。社会インフラが商品化される。例えば、水が外資に買われたときに何が起るみたいな本が結構出てますけれども、水道、電気、ガス、通信、交通とかっていうインフラがビジネス化していききましたね、民営化されて。今ここでそれをどうこう言っても仕方がないんですが。それから教育、保育、福祉といった、生命、安心、成長を支える業界。これもかなりビジネス化していつている。僕の専門に引き寄せて申し訳ないんですが、子どもの遊び場も街中にどんどんなくなっていつてます。だから僕、園庭の充実なんてことをやってるんですが、元々僕が園庭の充実っていつのを考え始めた一番初めのきっかけは、公園で子どもと木登りをしてました、僕が。35歳の私が。そしたら近所の人生の先輩にめっちゃ怒られて。僕がですよ、怒られたの。大人が何してんだと。何危ないことしてんだって怒られたんですよ。え、嘘と思つて。そんなこと言う？みたいな。僕の中では木に登るなんていつのは普通のこと。当たり前のこと。上つて、むしろ自分の身を自分で守れつていつ話なわけですね。子どもの安全つて大人が守らなきゃいけないつて思つてる大人比較的多いんですけど、そんなわけないんですよ。自分で基本的には守つていけるようにならないと、大人が100%守るなんてことは絶対ないの。そういうことを考えていく必要があるわけですが、そうはなつてない。

全部室内で全部人口の中で、お金を取つて遊ぶ場所を提供している。楽しいでしょ？つていつ顔してつていつ思つてますけど、内心ね。とはいえ、全部資本に支配されるようになる。そうすると儲からなければやめるといつことが起つてくるので、それ

は全部危うくなつていくわけですよ。

教育も、大学でもシラバスという取り扱ひ説明書を僕らは自分で書かなきゃいけなくて、君たちはこういうものがあるからこれが欲しかったらこの授業を取りなさいつていつをするわけですよ。ほぼ読んでませんけど。取説あまり読まないんですよ。商品買うときもあまり読まない気がしますけど。でもそういうふうになつていつている。教育サービスつていつ表現も普通に使うようになつていつきました。

さつきPTAの話も外に委託してみたいな話しましたが、そうやって委ねるようになつていつというふうになつていつるのがどうなんだ。善し悪しを今ここで僕が言うつもりはあまりないんですが、でも悪しつていつる感じの口調で喋つてますけど、やっぱり考えたほうがいいところもあるんじゃないかなつていつふうなことを思つたりもする。さらに言つて、合意形成がこの国はなかなかないつていつことで、どういつ人材を育てるのかみたいなのが、あまりこういつところで政治の話をしなほいつ方がいいんではいつけど、議論をするつていつことがあまり得意じゃないつていつるんですよ。議論をして国の方向を定めるとつていつ感じが元々歴史的にもないつていつるんではいつますが、ヨーロッパは、ヨーロッパの人と喋つていつると、実はさつきお話しした近畿大会でも、ドイツからドイツに住んでる日本人の方に来ていつたいて、ドイツの学校と保護者の関わり方みたいな話をしていつたいていつんですけど。ドイツに限らずヨーロッパ、自由、平等、連帯みたいなの、そういうような社会全体として、キーワードつていつかキャッチコピーみたいなのがあつて、そこに向つて学校も、国が目指す方向に対して学校がそういう市民を育てていつていつることがあるわけですよ。日本の場合どうなんではいつでしょう。それみんなここにいる全員がある程度共有したものを持つていつるのかつていつと、あまりそうでもないのかつていつことを思つたりもしますし、自助・共助・公助つていつ話もありますが、こういつの共助みたいなのつていつあまりないつていつものも、自助と公助はあるし、最近では公助にだいつ頼りたいつていつような感じが世の中の動きとしてはなんとなくあるのかなつていつような印象がありますが、そういうのもうちつていつリバランスしてもいいのかなんてことを思つたりもします。

あと不易と流行とかですよ。日本人は流行に流されやすいつていつ感覚があつたり。あと歴史の検証を



しないというのはこれは大きいと思いますが、先の大戦の振り返って本当にできてるのかなとか、国民的な合意形成とかってしてるのかなとかっていうことを思ったり。堅苦しい話ですが。それで言うとPTAも、ほんとに意味がなかったの？っていうことを検証してる人ってどれぐらいいるんだろう。要らないって言いますが、検証してるんだろうかみたいなことだったりもあります。

それから経済用語ですね。費用対効果、コスパみたいな話をしますね。教育ってどうですか？ここには多分先生方もたくさんおられると思うんですが、コスパみたいな。でも教育って10年経って、15年経って、20年経ってわかるみたいなことってたくさんありますよね。先行投資だったりするわけですよ、お金って。でもそういうのにどんどん投資しなくなってる。国全体もそうかもしれないし。

僕この間、38、9ぐらいの教え子と20人ぐらい集まってくれて酒飲んだんですけど、みんな仕事の話生き生きとしてくれたり、子どもの話いろいろ教えてくれたり。もう大学で教えてて本当に幸せな時間ってそういう時間なんですけど、そういうときにある意味答え合わせじゃないけど、それだってまだ途中経過なんですよね。そういうのをする場所だと思うんですが。だからコスパとかでは測れない何かなんですよね。教育とか医療とか宗教とか福祉とか、そういうものってあまり経済言語で喋っちゃいけないような内容だと思うんですが、そういうところにも経済言語が入ってくるというようなことが起ってるのも、PTA問題の背景にはやはりちょっとあるのかなと思ったりもするということを私としては考えています。そういう意味ではここに座っておられる皆さんのほうが、私なんかよりよっぽどもっと深く考えてたり、いろんなご意見あったりするかなと思ったりしますが、こういうふうなことを考えたりもするところなんです。

寄り道はこの辺にしておいて、これからのPTAということで提案をしていこうと思います。今後に向けた提案ということで、まず会員・会費のあり方の再検討ということで、ここからは提案です。お聞きいただいている中で、それは無理だろうとかそれはおかしいっていう方は、後でまた言っていただいたらと思うんですが。

僕まず、会員になる・ならない話を、あくまでも任意ですみたいなことを教育委員会が言うみたいなことをしてるんですけど、これはあまりせんぼ

うがえんちゃうかなと僕は思ってるんですね。なぜかという、その学校に子どもが入った以上、その学校の保護者なんですよ、どうしたって。皆さん生まれて、今日本国に住んでますが、日本国民になりますか？って同意書書きました？書いてないですよ。書かないですよ、普通。でも税金納めてこの国に住んで、日本人としてパスポートを持ちみたいなことがあるわけですよ。僕それとほぼ一緒じゃないかと思ってるんですね。なので、あまり会員になるのどうのっていうよりは、全員会員です。教員、先生は若干多少あれなんですけれども、でもその学校の保護者、教員である以上は変わらない。

本部役員をできますか？会費は払いますか？これについては意思表示をすればいいと僕は思っています。それを払ってなくても、本部役員をしないって言っても、例えば発行したPTA新聞だったり何かの情報だったり、皆さんに配布すればいいわけですよ。そこで差をつけなきゃとかいう話いろいろありますけど、それに差をつける必要なんか全然なくて、ある一定の選択権って本人にもちろんあって、しかるべき当たり前のことだと思うんですね。柔軟性の担保っていうのも必要だと思います。だけど柔軟性を担保する場所が違うんじゃないかということですね。僕が感じている違和感はそこがあります。なので、本部役員可。本部役員できます。もしくは会費払います。だけど本部役員はできません。もしくは本部役員できるけど、お金払うのちょっといろいろあって難しいとかいうことを、そんな細かいことまで説明せずとも。あと、何もしません。お金も払わないし、役員もしませんとかっていうのがあっていいのかなというふうなことを、僕個人としては思っています。それが学校としてできるかどうかとかっていうのはまたあると思いますが。

それから財務的なことは、学校の特徴に合わせて多分いろんなことがあるんだろうなと思いますが、今申し上げた通り、会費を払わない会員形式もあったり、一口いくら系ですね。寄付形式というふうに書きましたけれども。集まった金額で今年はどうするかっていうことを考えるというのも1つかもされないですし、こういうことしようと思ってるんだけどお金出してっていう形ですっていうのも1つかもされないですね。今、前例踏襲みたいな感じで、負担を減らすために去年と同じことをするみたいな雰囲気がもしかしたらある学校もあるかもしれないんですけど、それをしようと思うと結局強制



だったりお金が必要みたいな話になってくるので、そこは今の方法じゃないようにやるっていうのも1つなのかな。逆にそうすると負担が大きくなるっていうところももしかしたらあるかもしれませんがね。僕の提案としてはこれですね。あとは必要経費を学校が集めて、運営をPTA組織がして、学校と相談しながら提案をしていくっていうのも1つなのかもしれませんが、それは負担が大きいという人もいるかもしれないですね。

それから会員に種別を作るっていうのは、これは僕はあっていいだろうなっていう感じがします。全員会員としている。なので最低限、例えばさっきも言いましたが、机変えなきゃいけないっていうときに、PTAの会員じゃない人みたいなのがいると、あなたの机買えませんなんてことはできないわけです。実際問題としては、PTA会費からは払えませんが、払えないわけなので、全員会員になる。だけどお金払えないとかいうのはしかるべき選択肢があって、本会員という表現がいいかわかんない。表現はちょっと変えなきゃいけないかですが、本会員とか賛助会員とか準会員とか、そういうのがあってもいいのではなからうかというのが僕からの提案の1つですね。

一番大きいのは僕はこれなんですけど、空気を作ろう。僕がなにせPTAに関わってる中でなるべく意識してるのは、仕事っぽくない。組織の風土を作っていく。大人のサークルっていうのを僕はその守山中学・高等学校のときに、周りの本部役員のためたまたま僕のお母さんばかりで僕だけが男だったんですが、大人のサークルにしよう。例えばしたいことがあるってなったら、賛同する人はすればいいというので、自主サークルとかしました。そういうのをしようっていうふうにして、まずとにかく会議短くしようというので、そこは元々短かったんですね。僕がとやかく言う前から短かったの、土曜日に年に何回か2時間ほど集まってもうそれで終わりみたいな。みんな行きたい人はご飯食べに行くとかいうのもありましたけど、短くする。この辺はもう皆さんされてるかなという気もしますけど。よく言いますよね。日本人はスタート時間は守るけど、会議の終わり時間は守らないとかいう話をよくしますけど、終わり時間は絶対に早く終わることはあっても遅くならないとか。学校の先生と話しておいて、事前に落とすところも考えておくとか。LINEグループであらかじめ少し意見交換をしておくとか。

そういうようなことはしていくということと、気を使わずにざっくりばらんに話ができるように、お菓子を用意するとか、飲み物を用意するとか。そういうのをされてるところもあると思います。

負担から大人のサークルへということで、さっきも言いました。仕事っぽくするのはなるべくやめようという意識で、着るものとかも比較的ラフな感じで行く場合もあったりということもありますし、あと楽しく学ぶ機会とか、食事会、お茶会。これですね、自主サークル。スイーツを食べに行きたい人は何人かで寄ってスイーツ食べながら美術館行くとか、そんなのをしたりしましたが。それももちろんPTAとしての活動ではないので。そういうのをしたり、あとバザーとか、そういうのをやるっていうのもありかもしれないですね。だからしなきゃいけない、強制して全員で一緒にみたいなことになるとおかしくなってくるので、その辺を変えていくっていうのが大人のサークル。大人になってからなかなかそういう仕事以外の人と仲良くなるのも少ないですし、そういう機会になるといいかなと思っています。

あと先程もちろっと途中で言いましたが、学運協ですね。学校運営協議会との連携ということで、これは皆さんのPTAされてる学校にあるかどうかわかりません。これは文科省は進めていますけど、学校によって学運協をセットしているところとしてないところとがあるの、もしご存知なければもしかしたらやってない可能性もあります。だけどやってるところは、ここにも書きましたけど、僕が今いるところは校長経験者とか、それからPTAの役員さんも今の会長さんはおられます。それから僕は一応地域住民っていうことで入ってるはずですが。あと有識者。大学とか地域の中学校の先生とかですね。そういう方が来ていただいて、それぞれ何がしかの専門性みたいなのがあったりするの、そういうのを活かして学校の運営にアドバイスというところちょっと言い過ぎですね。サポートするとか、ちょっとPTAが今までやってきた負担をそっちに担ってもらおうとかいうのはめっちゃありなんじゃないかなというふうに思うんですね。

僕が思うのは、交通安全運動とかを街中に立ってやられたりするのがあるんですけど、そういうのを学運協の人と手分けをするとか、あと研修の講師探したりするのも結構大変だったりするかなと思いますので、そういう中にいる人に相談して探してきて



もらうとか、なるべくリソースを使っていくというか。一緒に活動するPTA会長が学運協に入れば、そういうのをシェアして、ちょっと探してくるわみたいな感じでやれると思うんですね。そうすると本部役員の人数が少なくても済んだり、実際に研修会の中でそういう運営を手伝ってくれたり、そういうのもあるかなという気がするので、その辺の活用は結構積極的にやっていくといいのかなと思いますし、僕も今いるところで可能性はないかなと。あまり凶々しく学運協のメンバーがズカズカPTAに入っていくのも、それもなんか違う気がするので、その辺今模索中という感じですが、考えていく必要はあるかなというふうに思います。

最後に、連合会の話の提案。これに関しては、僕が3年間県の会長をさせていただいたときに、政治の世界に少し接するというのか、知事にお会いできたり教育長にお会いできたりっていう機会があるわけですね。要望とかって言う機会があったわけですけど、そういう場面をやはり活かしたいなっていう気はするんですね。僕ら滋賀県の場合ですけど、高校のトイレが和式で古かったりするような県立高校もまだちょっと残ってたりして、そういうのを一刻も早くというようなことでお願いに行ったりっていうことをしましたけれども、これはすごく連合会としてやるべきことだし、必要性の大きいところなのかなと思うんですが、これは各都道府県によって状況が違うと思うんですけど、役員の任期が滋賀県は3年。一応ある学校に3年割り当たっていて、その学校からどなたを出すかっていうのはケースバイケースなんですけど、僕はたまたま3年間しましたが、3年間ぐらいたると少し様子が見えてきて、もうちょっとこうしたほうがいい、ああしたほうがいいっていうのが言えたりもするんですね、途中からは。だから任期のあり方とか、県によっては子どもがいなくなってももう少し会長ができるとかっていう県もあったりすると思うんですけど、会長の任期をどうするかっていうのはちょっと考えないと。1年だけ県の会長やって、そこで政治の世界に何か物を言うとかっていうのはさすがに無理があるんじゃないかなと思うので、その辺は考えなきゃいけないと思うんですが。

そういうのもうちょっと積極的に、連合会が外を向いた活動。特に政治の世界に対して親たちの思いを伝えるとか、そういう活動はしていく。学びの充実、教育の充実みたいなところにもっと力を注い

でいくっていうのは必要なのかな。

それから、生涯学習の場として、学びの場としての研修を集まってするのは大変なので、オンデマンド教材とかを作っていくって、連合会の会員になる保護者とか先生はいつでも見れますというようなことにしていくというのを全国でできるのか、各都道府県でできるのか、どのエリアでできるのかわかりませんが、もしかしたらやってるところもあるかもしれないですけど、ちょっと聞いたことはないです。内向きとしてはこういう情報共有とか、やっぱりそういう学びの場であったり、そういうのは結構大事なことなのかなとは思っていますので、ご提案としてこういうことをしてはどうかと思います。これも任期1年ではなかなかできないので、少し何年間かけて準備する必要あるかなと思いますが、こういう方法も今度内側向いた方法としてはあるかなと。

それから途中でもちらっとお話ししましたが、他校の視察とか情報共有みたいなものを、少し簡単にいいので制度化してもいいのかなみたいな。年に1回でも2回でもちょっと見に行けたり話ができたりっていうのも、希望する方はできるみたいなふうにして、連合会のそういうのをやってるといいのかなというふうな気はしていますが、やってるとこあるかもしれないんですけど聞いたことはないです。ちょっとこういうご提案をしてみました。

こういうふうにしていくと、連合会で弱連結とか弱い紐帯っていう、ちょっと繋がってる。単Pだけで単体であるんじゃないって、ちょっと繋がっているっていうのがあると、あまり暑苦しい繋がりは面倒くさいのでね。緩やかに繋がってるっていうのは結構大事かなと思うので、こういうオンデマンドとか情報共有があるといいのかなというのをご提案させていただきました。

ということで最後、若干ご提案が駆け足になったかもしれないんですが、会員や会費のあり方は再検討しよう。大人のサークル化していったらどうだろう。学運協との連携によってっていうのも負担軽減になるんじゃないか。それから連合会の活動の内容を考える。外向きと中向きとということ考えていってはどうかということをご提案させていただきました。

これ実質最後のスライドになりますが、皆さんご存知ですかね。国連でヴァーチャーズ・プロジェクトっていう……。ヴァーチャーって美德とか価値



とかそういう意味合いの英語だと思うんですが、そこに52枚のカードがあって、そこに感謝とか協力とか思いやりとかそういう言葉が書いてあるんです。そういうのに該当する出来事があったら、それを語り合おうとか書き出してみようとか、そういうので。その意思ですよ。そういうものになるべく焦点を当ててものを考えるようにしようとかっていう。ネガティブは感情だけどポジティブは意思みたいなことを言うのありますよね、言葉が。僕はそういうのは結構大事じゃないかと思っていて、青臭い話かもしれないんですけど、ここに書いたような、感謝、協力、思いやり、サポート、支援、柔軟性、信頼、節度、慎み、適度、手伝い、奉仕、優しさ、礼節、リニューアルみたいな、これは例えばです。他にもあるかもしれません。そういう言葉をなるべく使う習慣。PTAの中でそういうものを見つけたときに、そういうものを人とシェアし合うとか。そういうことをするような習慣っていうのを生み出すと、もうちょっとやってることが変わってくるかなとか。今日ここで今から休憩の後、皆さんで情報共有していただいたりお喋りしていただきますけれども、その中でこういうものを少し意識していただいたり、そういう話が出てきたら持って帰っていただいでシェアしていただいたり、そういうふうになると、なんとなくPTAの空気って変わっていったりするのかなという気がしますので、もしいいかもしれないと思っていただいた方は、ぜひそんなことも意識してもらおうといいかなと思いますので、最後のご提案ということでさせていただきます。



第4分科会 グループトーク

(要約)

炭谷: グループトークの設定をしましょう。全高Pとこの分科会の4をどうしようかというご相談があった時に、せっかくなので、ぜひ、皆さんで情報交換していただくのが大事だと。僕はこの後半の方が大事だと思ってます。前半の僕の話はウォーミングアップみたいなもんで。皆さん、ご経験がたくさんあって、お考えもあってっていうことがあると思うんですね。そういうものをいろんな角度から、それぞれの学校が置かれた状況って、本当にたくさんあって、経緯もたくさんあって。僕がさっき言ったのなんてのは、本当にごく限られた中でしか見ていないことだと自分でも分かっていますので。ぜひ、幅広い視点で情報共有をしていただきたいと思いません。

ご自身の状況をお話しいただいて、違う視点からコメント頂くとか。うちはこんなふうやってるとか、そういう話を、ぜひ、共有していただきながら、何か持って帰っていただくと、ああ、第4分科会行ってよかったなと思っていただけると嬉しいです。ぜひ、皆さん、楽しい時間を過ごしていただきたいと。後で、グループ作ってくださいとお願いしますが、今、同じところから来てる方と座ってると思うんですが、できれば少し席の移動をしていただいて、なるべくなら初めましての方とお話しいただけると、より有意義になるのかなという気はしますので、ぜひご協力をお願いいたします。

この80分間の流れですけれども、今、私の方で前置きをしましたが、グループ作りということで、3、4名で。5名以上になると、しゃべらない方が出てきてしまうので、極力避けていただきたい。

まず、自己紹介をしていただいて、テーマ1ということで、皆さんのPTA活動ですね。うまくいったこととか、あと、連合会の事務局の方とかもいるかもしれないので、それは見聞きしたこととか、うまくアレンジしていただいたらと思うんですが。テーマ1はポジティブなことですね。こんなことやってうまくいったとかいうことですね。各テーマ15分ずつぐらい設定できると思いますので、ぜひお願いしたいなと思います。

テーマ2、これが大事なかもしれないですが、うまくいかないこととか、課題とか、ちょっと相談

したい「こういうの、うち困ってんねんけど、どう思う?」とか「なんかアドバイスちょうだい」とか、そういうのをテーマ2のところでしていただきたい。

テーマ3は、マイクランナーの方も入っていただいて、フロアの方にしゃべっていただき、なんか私がお答えっていうか、ここでやりとりをしてさらに情報共有できればなと思ってますので、そんな形で進めていければなと思っております。ぜひ、ご協力いただいて、和気あいあいとおしゃべりしていただいたらありがたいです。よろしくお願ひします。

それでは、早速ですが、グループづくりをしていきたいと思ひます。周りの人の顔を見ていただいて「あっ、この人と組みたい」という人がいたら、ぜひお声掛けいただいて。誰でも結構です。動いていただいて。

もう自己紹介してると思ひますが、おおい。なんぼなんでもちょっと聞こうかなっていう気になってください。今から、一人1分、自己紹介って、1分絶対守んないもん、みんな。もっとしゃべらせろみたいな空気、もう既に出てますしね。さすがですね、皆さん。1人1分で自己紹介していただきます。どこから来たとか、私は何々が好きだとか、最近の出来事、楽しかったこととか、お子さんが部活でこんなんがとか。別にこれ全部しゃべんなきゃいけないわけじゃなくて。これ、例です。例なので、なんでも結構です。自己紹介を1分でしてください。

聞く人は基本しゃべらない。いいですか。聞く人がしゃべったら、そら、相手の1分奪っちゃいますからね。大体、ここにいる人はしゃべるのが上手な人が多いので。それは駄目です。相づちを打つとか「ほお」とか言うとか、そういうふうにして相手がしゃべりやすい空気をつくるということでお願いしたいと思ひますので、よろしいでしょうか。それでは、誰が一番最初にしゃべるかだけ相談していただいていいですか。決まりました? では、いきます。よーい、スタート。

〈自己紹介〉

炭谷: よろしいでしょうか。では、もうウォーミングアップは十分過ぎるぐらい済んでいると思ひますので。テーマ1、いきます。いい具合で立ち話感が



あっていいですね。ちょっと窮屈かもっていうところは全然遠慮なく移動してください。

それじゃあ、テーマ1いきます。私たちのPTA活動、なんとなくポジティブな話。いきなり暗い話いくと、あんまりいいことないので。こんなことやって面白かったよとか、そんな話の共有をおおよそ15分ぐらいをめどにしていこうかなと思いますので。じゃあ、お願いします。スタートです。

〈テーマ1 発表中〉

炭谷：どうですか、勉強になる話、たくさんありましたか。結構、いろんなところでほんとに素晴らしい取り組みをされてるかなと思うので。

あと、どこは言わないですけど「オンデマンド、うち、やってます。ぜひ〇〇市のホームページ見てください」って言っていただきました。やっぱりやってるとこはやってますよね。そういうところあると思いますんで。ぜひ、積極的に情報共有していただければと思います。

〈テーマ1 発表中〉

炭谷：いいですね。誰もやめようとしなくなってきたっていう。大体、どこの研修行っても、後半、大体そうなんでいいんですけど。この辺で、ちゃんと次を待とうと思っていただいている方がどうしても申し訳なくて。後ろの方はもう自由な感じになってきます。学校もそんな感じですよ。後ろの方の席が大体自由になってくるっていうね。

〈テーマ1 発表中〉

炭谷：15分もしゃべると、ちょっと皆さんしゃべる疲れるかなと思ったりして。ちょっと間を開ける感じなんですけど。そんな時間要らない？ はい。要らないそうです。

困り事、相談、こういう人がいるんだけどとか、どういうふうに対応したらいいだろうみたいなことをぜひ共有していただいたらと思います。私も会長してる時に「絶対入らなきゃいけないんですか」って、ちょっと鼻の穴膨らませて言われたことあるんですね。その時の話とかを、いろんなところでさせてもらうんですけど、そういう事例とかを、ぜひ、皆さんで共有していただいて…。

ありがとうございます。聞いているよアピール、すごい。いや、そういう顔していただいている方、結構いて。皆さん、ほんとに優しい。さすがやっぱりPTA頑張ってる方、優しい。俺、すごい愛されている感出てきちゃいましたね。すいません。ありがとうございます。

じゃあ、そんな感じで、テーマ2ということで、これも15分ぐらい取りたいと思います。その後に、フロアの皆さんと情報共有したいと思いますので、ぜひ充実した、あと15分ぐらい、皆さん、お話ししていただければと思います。じゃあ、テーマ2入ってください。お願いします。

〈テーマ2 発表中〉

炭谷：次は、テーマ3ということで、あと約20分ぐらい時間がございますので、フロア全体で、情報共有をぜひしたいなと思います。今、たくさんのお話が出たと思うんですが、グループで話した中から、共有したいことであったりとか、みんなにも聞いてみたいと、相談してみたいということもあろうかと思います。もしくは、グループで出したわけじゃないけど「今、うちの学校、こういうことちょっと困ってるんだけど、どう思う？」とか。こういうことやったらうまくいったから共有したいとか、そういうのもあります。それから、それ以外に、質問、情報共有等々、ご意見等々、シェアしていただければと思います。

〈テーマ3 発表中〉

炭谷：ここからは、僕の話は聞いていただかなくてもいいんですが、フロアの方の話はそうはいかないので。皆さん、話したいこともあるかと思えますけど、ちょっと終わらしましょう。

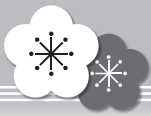
そしたら、ランナーの方が今、陣取っていただいています。そしたら、挙手制でいきます。学校名とお名前を言っていただいた後にご発言いただければと思います。どなたでも結構ですので、挙手いただいたら近くのランナーの方が行きます。

あの上かな、早速挙がったの。お願いします。

女性A：すいません。千葉県立千葉南高等学校から来ました〇〇と申します。よろしくをお願いします。

炭谷：よろしくをお願いします。

女性A：多分、ほぼ全学校が持ってるらっしゃる悩



みかと思うんですけども、本部役員もそうですし、普通のクラス理事さん的な役員さんの決め方で、ずばりこんないい方法があるよというのがあれば、ぜひ持ち帰りたいんですけども。

炭谷：どうでしょう。うち、こうやって決めてる。はい、お願いします。

男性A：宮城県工業高等学校のPTA会長をしとります〇〇と申します。決め方という言い方が正確かどうか、私、分からないんですけども。今年の1年生に対して「役員さん、お願いします」と言った時に、PTAの紹介のVTRを作りました。ただ、これ、難しいって思われる方もいらっしゃると思うんですけども、今、意外とそんなに映像の編集って難しくございません。ちょっとパソコン触れる方だったらできると思います。その上で、PTAの役員を二つに分けて、各クラスでご説明を差し上げました。やはり一番のハードルって、何をやってるか分からない。先ほどのお話でしたけども。そういうところだと思いますので、その辺の疑問を解いてあげるっていうのが、多分、一番なのかなと思っております。その前の年は、なかなか決まらなくて、長引いたクラスもあったそうなんですけど、手前みそではありますが、今回それをやったらあつという間に役員が決まりましたと、先生方からも大変ご好評でしたので。難しいなと思われる方もいらっしゃると思うんですが、中に、多分そういう方もいらっしゃると思いますので。編集ソフトもタダ、BGMもタダ、なんだったらナレーションも合成音声でタダっていう時代でございますので、もし、ご興味あれば、YouTubeとかで作り方、分かりますんで、ぜひ、挑戦してみるのもいいかなと思います。

炭谷：素晴らしい。もうプロですかって感じですね。もう。いかがでしょうか。

女性A：ありがとうございます。やっぱり最初の努力は必要だってことですね。

炭谷：まっ、まさか、努力なしでと思っておられたんですか。

女性A：Googleフォームっていうのを小耳に挟んだので、それもありがたかなと思って。VTRまでちょっと考えが及びませんでした。もう少し教えていただけたら。

炭谷：だそうです。はい。

女性B：神奈川県横浜の新羽高校から来ました。私自身は、実は6年間高校PTAをやっております、今年最後なんですけど。上下の子どもたちが、同じ

学校に入りましたので、同じ学校ですってやってるんですけど。私、その6年間の中で、PTAの紹介冊子を作りました。VTRとかそんな技術はないので。アナログに写真を撮ったりして、最初作ったのは1枚だったんですけど、3枚組みぐらいのやつを作りまして、それを必ず皆さんに、入学の、合格者の所に入れておきます。で、ここ2、3年始めましたのが、それ以外に、入学手続きの時にアンケートを皆さん取ったりとかすると思うんですけど、その受け取りの時の現場に、私と本部とか行きまして、一人ずつもらった時に「最低限、PTAにご理解とご協力をください」ってお話だけを、まず皆さんに聞いていただきます。その中で、ちょっとでも反応がいい人には「PTAどうですか」なんて言って、勧誘をさせていただいて。

炭谷：やっぱり、それ。

女性B：はい。ここ2年で、じゃんけんとかくじ引きはなしにしました。少ない委員会はあります。でもその中で、そういう委員会に関しては、ゆくゆくは、委員会合同するなりやれる人がやれることをやればいいことなんだということで、PTAの方向性として、人数が少なくなったら少ないなりのことをやる、多ければ多いなりのことをやるという形で方向転換をしまして、今、2年間、最低限の人数をそろえてやれるように、くじ引きなしでやれるようになっていきます。

会長の努力は大変かもしれないんですけど、全員にお話しするっていうところでは。そういうのがハードルさえなければ、とても皆さんに最低限、もちろん、入りたくないっていう方もいらっしゃるんですけど、でも、大体の人が会費さえ払ってくれば、皆さんにやってることですよっていうお話をして、やらなくても、会費だけでもご理解とご協力くださいっていう話をする、大体いいんですけど、やはり数人は、それも嫌だという話の方もいらっしゃる、そこら辺はもうはっきり分かるので、その方のお名前を頂いて、PTA会費はその方からは取らないという形で。でも、こういうことはしますよってことだけは、おしゃべりさせていただくという形でやらせていただいているので、ぜひ、少しでもご参考になればと思います。

炭谷：ありがとうございます。もう一方、せっかくなのでお願いします。

男性B：よろしいですか。私、徳島県の城北高校の〇〇と申します。私の学校は、私が会長になってか



ら5年目で、副会長含めると6年。その中で、6回役員の選出をしてるんですけど、一番長かったのが1時間ぐらいですね。6人から7人、役員決めるんですけど、入学式の時に書類を先生の方から渡してもらいます、一年生に。その書類には、これまでのPTAの役員経験を書いてくださいということだけで大きな枠を付けて渡します。で、書かなくても、出さなくてもいいと。任意で書いてもらう用紙を渡して、返ってきたものを担任の先生に整理してもらって、リストを作ってもらいます。

ここから私の考えなんですけど、書いてくれるっていうことは、やってもいいんじゃないのって思ってる人たちなんだろうということで、お願いの電話をするだけで終わってます。何人かの役員で手分けして電話して、ほぼみんな一発で「いいですよ」と言ってくれてるので非常に楽です。だから、先生の方にちょっと仕事を振って、自分たちは楽をさせてもらってます。それで支障なく、ここ5、6年ずっと決まってるので。早いときだと、15分ぐらいで決まってるので、参考にしていただけたらと思います。

炭谷：ありがとうございます。じゃあ、さっき、一番後ろの。行けますか。

男性C：先生、今日は講演も含めまして、大変貴重なお時間をありがとうございました。

炭谷：とんでもございません。ありがとうございます。

男性C：一つだけ、質問させてください。新潟の新津高校から来ました〇〇といいます。先生のお話の中で、提案の中で、本会員、賛助会員、準会員みたいなお話があって、お金を払う人、払いたくない人、仕事ができる、仕事もできない、お金も払いたくないというようなお話あったんですけども、そんな中で、公平感といいますか、不公平感といいますか、そんなのが出てこないのかなんて思って聞いてたんですけども、その辺はどうでしょうか。

炭谷：公平感、だって、全部公平ってないので。負担は、その決め方じゃなくても多分不公平感ってあるけど、皆さん、不公平だと思ってます？PTAやってんの。私、こんなやらされてたまらんわみたいな。茨城まで来てみたいな。思ってないと思うですよ、多分。強制とかってなると、不公平感とかいう話になってくるので。僕はそんなに気にしない方がいいのかなと思っていてという提案の中身になります。ごめんなさい。お答えになってる

か分からないんですけど。

やりたくないことやらされる、不公平だっていう流れがあると思うんですね。その流れを生み出さないようにするっていうことがすごく大事なのと、あと、保護者をお客さまにしてしまわないってこと、すごい大事だと思うんです。さっきもちょっと出てたんですけど。「任意です」って言うの「任意なんでしょ、私やりたくないんだから」と言って、どんだん高校に対してお客さんになっていってしまうんですね。で、お客さんになると、なんで私は客なのにそんなことしなきゃいけないだっというマインドにどんだんになっていくように私には思えるんですね。なので、皆さん、同じ船に乗っている、この教育をつくっているメンバーの一員なんだということをお前提にした方がいいだろうな。だけど今、僕が提案をしますが、教育委員会が率先して「任意ですから」って、ものすごい言っているところも多分あると思います。それをすると、どんだんお客さんになっていくので、そういうふうになると、不公平感の話になっていくというロジックが、僕は出来上がってると思うので。そこをそういうふうにしなことが大切かなとは思ってます。ただ、そういうふうにならない場合もあるだろうということではあります。ごめんなさい。お答えになってないかもしれないですが。

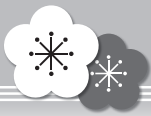
男性C：はい。ありがとうございました。

炭谷：はい。ありがとうございます。次、ちょっとこちらにお願いしたいと思います。

男性D：福島県いわき市のいわき湯本高校から来ました〇〇といいます。今日は講演ありがとうございます。先生のお話の中で、サークル活動っていうお話があったんですけど、質問とかではなくて、先生のご意見聞きたいなと思って。

うちの高校、役員とか、委員を決めるときに、委員が三つあるんですけども。この委員は何名欲しいです、この委員は何名欲しいですっていうのを入学式の前のオリエンテーションで1年生の保護者の方に話しするんですけど。先生の話聞いてて、サークルなら最初に委員は何名とかじゃなくて、5月になっても、6月になっても、後から「あっ、楽しそうだから入ってこれるな」っていうことにしたいのかなと思って。その辺、先生のご意見聞けたらなと思って。以上です。

炭谷：おっしゃる通りだと思います。それで、そういうのを見ていただいて、入ってこれるようにす



るっていうのは、すごい大事かなと思って。で、私がやってた時も、あるお母さんの提案で、学校の草抜きをやるっていう話になったんですね。これ、強制すると負担感の話になるじゃないですか。やりたい人だけ、2時間で終わりますって言って、1時間で終わったんです。そうするとお得感あるでしょ、2時間って、最初からするつもりないんですよ、2時間なんて。2時間してもいいわと思う人が来てくれて、1時間で終わったらうれしいので。その時に、僕ら本部の人が楽しそうに、若干手を抜きながらですけど、草も抜くっていう感じでした。っていうふうにしていったら、後から、その時には入らなかったですけど、結局、翌年、それを見て楽しそうだし、あのぐらいだったらやれるかもと思って、結構入ってきていただいて。さっきの話じゃないですけど、僕らんとこはお願い電話も、そういう何もせずに、ほほいけたっていう感じだったので。

おっしゃっていただいた通り、そういうの見てもらう。で、いつでも入ってきてくださいみたいな。本部役員いつでもなれますみたいなのは、制度上、別に全然できると思いますし、僕はめっちゃありがたい、今、お聞きして思いました。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

もう少しいけるかなと思いますが、いかがでしょうか。

男性E：広島県の安芸南高校のPTA会長〇〇と申します。本日はありがとうございました。

炭谷：こちらこそありがとうございました。

男性E：先ほどのサークル的な感じでというお話があったと思うんですけども、私も各役員さんに対して、クラスが今、15クラスあるんですけども、16個目のクラスとしてやっていきたいと思いますというところでお話をして。やりたいことがあれば、どんどん言ってきてもらって、失敗しても、仕事じゃないんだからいいんじゃないっていう形で、私の主張をさせてもらってます。失敗を恐れずに取り組んでもらって、積極的に取り組んで、魅力あるPTAをつくっていただければ。コロナで縮小縮小という動きになったとは思いますが、今後も縮小していかなければならないのもあるとは思いますが、私としては、逆に拡大をしていきたいという思いでお話をしているというところで。参考になるかどうか分かんないですけど。

炭谷：ありがとうございます。マインドが結構大事だと思うんです、今おっしゃっていただいたよう

な。失敗してもいいやんみたいな。まあやってみようやっていうマインドって、すごい大事かなっていう気がするし、仕事じゃないんだっていうので、私も賛成です。選択があるっていうのが大事なんかなっていう気がするんです。選択肢があって選択できるっていう。で、それを邪魔されないってことは結構大事かなと思うので。拡大も、拡大したいという人と、そこまではっていう人もいるかもしれないので、そこを合議をしていくっていうことが大事なのかなっていう気がしました、今お聞きして。ありがとうございます。もうぼちぼち最後ぐらいかもしれないんですけど、お願いします。

男性F：すみません。先生にはないんですけど、宮崎県日向市の日向工業で、PTAが分からなくて、今年、子どもが3年生だから、PTA会長なったんですけど。皆さんに質問したいんですけど、去年までうちの学校のPTAが誰もいない状態で、運営自体も成り立ってないから、今年、いけいけどんどんで来て、みんなに笑顔で楽しいことやろうって、結構みんな今年集まって、分からない中やってるんですけど、人数が少ない中での問題かもしれないんですけど、やりたいことを今、どんどん、子どもたちのためにやっていってるんですけど、バザーをしたりとか、いろんな活動を。そういう中、さっきから言ってる会費の件ですよ。会費に当たって、みんな協力してくれて、お金を払ってもらってます。もう少ないから、会費自体を上げないといけない状態になって、1,000円、2,000円上げてでも「子どものためなら」って言って、いきなり行って「すみません、お金の話ですけど」って言って、1,000円、2,000円上げてもらって、みんな協力的にはしてくれたんですけど、現実的に、今日グループ討議した中で、うちの学校は事務を、雇用をPTAで雇ってるんですけど、今日聞いたら、学校側がそうやってやってないところもあるっていうのを聞いたもんです。全国的にPTAが事務を雇っているのかどうかを知りたくて質問しました。

炭谷：ありがとうございます。じゃあ、皆さんに質問です。PTAが事務を雇用しているという学校、どのぐらいありますか。おお、すげえ。想像以上にある。驚きました。ありがとうございます。4分の1か3分の1ぐらいかありそうですかね。そら、ざわめきますよね。びっくりしました。ないだろと思ったんですけど、結構ありますね。ご参考になりましたでしょうか。



男性F：はい。安心しました。安心っていうか、それが当たり前なんですね。

炭谷：いや、当たり前という人数ではなかったかもしれないですけど。一定割合いるっていう感じだと思います。ありがとうございます。じゃあ、すみません。時間も最終なので、最後に。

女性C：神奈川総合高校のPTA会長をしています〇〇です。サークル活動について、一つだけ。神奈川総合高校パートナーズで調べていただくと、うちの学校で、PTAの皆さんがやっているサークル活動がたくさん出てきます。ホームページもそういった保護者が作ってくれてますので、神奈川総合高校パートナーズ、ぜひ、見てください。以上です。

炭谷：以上、神奈川総合高校からの宣伝でした。いやいや、大事ですよ。めっちゃめっちゃ大事です。パートナーズっていうやつ、サイトですか。分かりました。神奈川総合高校。帰りの電車で調べます。ありがとうございました。

じゃあ、予定の時間になりましたので、ほんとに皆さんのご協力のおかげで楽しい時間になったなと思っております。皆さんにとっても、そういう時間だったらうれしいです。それでは、これで終わりにしたいと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。



第5分科会 前半(講演)

学校と地域とでつくるこれからの学校 ーコミュニティ・スクールとはー

講師 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏

〈講演要約〉

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介を賜りました、文部科学省の中にございます、国立教育政策研究所という、文部科学省が教育政策を作る上で必要になってくるデータ、それから先進事例、それから国際比較とかっていったようなそういうデータの集める部局で、私は社会教育の研究官をしています。社会教育ってのは学校教育以外の、また家庭教育以外の領域を今のところ定義している領域なのですけれども、今日のテーマも、学校と地域をつなぐっていったときに、学校から地域とどうつなぐかっていう視点もあると思うんですが、私がお話しするのは、地域の側から学校というものをどうつないでいくのか、しかも大事な子どもたちのために今何ができるのかっていうのをずっと考えていますし、皆さんとも今日この場でグループトークも含めながら考えていきたいと思って用意をしてみました。ということで、スライドを使いながらお話をさせていただこうと思います。

まずお話し始める前に、皆さんに聞いてみたいんですけれども、皆さんのお子さんの学校は、コミュニティ・スクール、学校運営協議会制度が導入されていますよって？ ありがとうございます。半分ぐらいですね。驚きですね。

実はコミュニティ・スクールというのは、全ての公立学校には導入することが努力義務化されている制度になります。そうした学校を運営する制度をいち早く、学校運営に対して地域の方々や保護者の皆さん、それから子どもたち自身の意見というのを反映させていく、それを反映させながら学校運営していく仕組みのことをコミュニティ・スクールって言っているんですけれども、これがいち早く導入された県と、それから全く進んでいないという県と、とても両極端です。特に高等学校の場合は100%入っているところから、全く入って

いませんよっていうところまで、すごく幅が広いんです。なので、皆さんのように、半分ぐらいコミュニティ・スクールが入っているっていうような状況はものすごい珍しいです。私も全国いろんなところでお話しさせていただきませんが、これだけコミュニティ・スクール導入されている高校の皆さんと、関係者の皆さんと、お話しさせていただくのは初めてなのでとても楽しみにしています。

それでは、コミュニティ・スクールってなんですかという方もいらっしゃると思いますので、少し中身のお話をしていこうと思います。学校運営協議会制度という制度です。これ法律の用語になります。学校運営協議会制度。これは法律に基づいて、学校の運営に対して、保護者や地域の方たちの意見をお聞きするための協議会を設置した学校のことをコミュニティ・スクールというふうに呼んでいます。皆さん、コミュニティ・スクールという言葉を知ったり、皆さん自身もコミュニティ・スクールの中で、PTAの関係者の皆さんだと参画されておられたり、校長や教職員として、コミュニティ・スクールに関わっている方もたくさんいると思うので、そのイメージを聞いてみたいと思います。

皆さんお隣の方をちょっと見てください。にこやかにこんにちはと言ってください。皆さんがコミュニティ・スクールという言葉を知ったり、コミュニティ・スクールとして実際に参加していて、コミュニティ・スクールってどんなものなのかと聞かれたときに、どんなものかっていうのを説明していただければと思います。1分半ほど時間取りますのでお隣の方と、私はこう思うよ、うちの学校はこういうふうにコミュニティ・スクールって使っているよって言って説明をしてみてください。今日は配信もあるんですよ。あそこで映っているんですかね。会場の皆さんを中心にお話をしていますので、すいません、オンラインの方、こうやってお隣の方



とお話ししてくださいって時間が多くなるかもしれないんですがご了承ください。ごめんなさい。

それでは、皆さんそれぞれいろんなことを思われたと思うので、マイクランナーさん、ちょっとお好きな方、お一人、お二人にどんな意見が出たか聞いてもらってもいいです？

男性A：意見ですか。

志々田：はい、コミュニティ・スクールって聞いたら、こんなもんだよって言って説明して、どんなことが意見が出ました？

男性A：うちの学校としたら、企業さんとか、あと学校の校長先生で、育友会と同窓会とか、その辺の方々が構成されているんですけど、そこで自分とこの学校はこういうふうにしていったらいいん違うやろかっていうような意見をいろんな方面からしていただいて、それをまとめて学校運営やっていけるように話し合っています。

志々田：ものすごく正しい定義を言ってくださいました。ありがとうございます。大正解です。もうお一方そちらで。ドキドキしますね。お願いします。拍手でもってお迎えください。

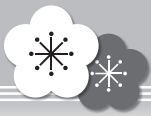
男性B：神奈川県立横浜南陵高校のPTAの会長をやらせてもらっています〇〇と申します。私の学校では学校運営協議会がありまして、主に近隣の町内会の会長さん、あとはちょうどうちの学校、お隣に養護学校がありまして、そちらの校長と、あとは周囲の公立高校の校長先生とが協議会に入って運営しているような状態です。主な内容としては、実際に学校でどう過ごしているのかとか、そういったのを話し合ったりとかをしているような状態です。自分も今年会長になったばかりなので、具体的な内容はこれからということなのですが、申し訳ないです、よろしくお願いします。

志々田：ありがとうございます。わりと、誰が参加してきて、それは学校の運営を考えていく上で必要な、例えば近隣の学校と連携しながら、それから企業が入っているとおっしゃっていましたが、今、高校では社会に開かれた教育課程、地域社会とともに子どもたちの学ぶ活動ってものをどう魅力化していくのかっていうチャレンジが始まっています。そうした中で専門性を持っていたり、最新であったり、それから多様性を持っていたりとする、地域のさまざまな企業や団体と一緒に授業を考えていく、それから学校の在り方を考えていく、こういう場としてコミュニティ・スクールというものが導入されてき

ているということが、お二方の学校の様子を聞いてもよく分かってくるかなと思います。

一般にコミュニティ・スクールという言葉を見ると、コミュニティっていう言葉は人によって全然イメージするものが違うんです。例えば社会福祉協議会とか社会福祉の人たちから言うと、ボランティア活動のことだと。経済的な産業とかに関わっている人たちからすると、地産地消とか地元の産業の振興とかっていうことにコミュニティっていう言葉をイメージするというふうに、実はコミュニティ・スクールというこのカタカナ用語自体、みんなが同じものをイメージできるかというあまりそうではない状況にあったりします。一番多いのは、地域の方たちが学校に対して何かボランティアをしてくれる。特に小中学校の場合だと、例えば登下校の見守りとか、花壇の整備とか、図書館の整理とか、こうした子どもたちの生活を支えるようなことが思いつきやすいんですけど、そうすると高校になると別に登下校はそう見守らなくても皆さんのお子さんたちは大丈夫ですよ。花壇もそうないですよ、高校の場合は。それから図書館も図書委員さんしっかりしていますからあんまり地域から支援をもらわない。つまり高校のコミュニティ・スクールっていったときに、誰とつながったらいいのかな、何を支援してもらったらいいのかなって考えると、小中学校ほどはコミュニティ・スクールの必要性を感じにくいってことをよく言われます。

それからもう一つ、ふるさと学習みたいなコミュニティ、地域を愛する気持ちを育てていくっていったときに、やっぱり小学生や中学生は地域の沼であったり、神社だとか農産物だとかを調べて、地域のことをよく知る学習っていうことだけれども、高校生になると、農業高校の子たちであったとしても地域のナスを調べているわけではなくて、より良いナスだったり、産業として競争率を高めていくための新しい農法みたいなものになっていくので、なかなか地域の人たちもふるさとのことを高校生に教えるといったときに具体的なものが見つかりにくい。なので、今、大きい2大コミュニティ・スクールのイメージですが、地域から何かボランティアに来てもらって学校とか子どもたちのお世話をしてもらおうというイメージと、地域のことを子どもたちに教えて具体的に学んでもらう。この二つにおいて、いまいち高校のコミュニティ・スクールは、特に工業科とか商業科とか農業科とかっていった専門学科であ



れば、フィールドがあるのでそういうところでつながりやすいんですが、こと普通科においてはなかなかコミュニティ・スクールに対して取っ掛かりが難しいってことを言われます。

なので、今日、半分のところが学校で入っておられて、どんな議論をしているのかって聞いたときに、授業に関わっていることもあれば、卒業生とか地域の代表として学校に対して、学校評議員と変わらないように学校の運営がちゃんといってるかどうかということをチェックしてくれるような、そういう機能として果たしているってぐらいが一番多いんですが、もう1個深掘りしていただいて、今、高校教育っていうのは変わろうとしています。あとからたくさん、全国的な統計を見ていただきながら考えを深めていただければと思っていますが、今、高校の教育が2回目の大きな変革期を迎えようとしています。なぜならば、子どもの人口がこの先大きく減ることが分かっているから。

それから、さまざまなかたちで私立学校に対してのさまざまな助成が始まったことによってあまり公立学校と私立学校の違いが見えなくなって、経済的な側面で見えなくなってきているっていうこともあったりして、それぞれの都道府県立学校の魅力化、それから、なぜその学校が公費でそこに設置されているか、こういったことが大きく議論がされるフレーズにきているかというふうに思います。

皆さんは、自分のお子さんが3年間通っている高校教育を見ていると、そんなに大きいスパンで見ることはないかなと思います。5年、10年、15年っていうスパンで見ると、この先、高校教育は大きく変わっていかねばならないところにきています。皆さんの、高校を設置しているというのは、もちろん保護者として自分の子どもに関わっているというふうにも思っておられると思いますが、ぜひ皆さんが住むまちを元気にしたり、皆さんの住むまちをこの先、持続可能のある発展に導くためにはとても大事な人材を高校教育というのは引き受けて育てているわけですので、少し大きな視点で高校教育というものを見ていただければな、考えていただければな、そして今、高校生を持っている保護者としてできることっていうのを考えていただきたいなと思って用意してきました。

学校運営協議会の役割というのは、よく三つって言われています。一つは、校長先生が立てられた学校の運営の基本方針っていうものを承認しますよ

と。つまり、1年間こうやって学校運営しますよって校長先生が説明したものに対して、うん、いいよって言って説明を聞いて承認をしてやっていこうと。これが一つ目です。二つ目。二つ目は、学校の運営に対してこうしたほうがいいんじゃないとか、こんなことできるんじゃないって、さまざまな意見やアドバイスを言うことができる。これは正式な場で言うことができる。これ二つ目です。三つ目は、教職員の任用です。あの先生はいらんとか、この先生は飛ばしてくれとか、こういう話はしないんですよ。ですが、うちの学校ではこういう特色ある教育活動をやっているから、こういう専門の先生がほしいとか、それから、私、小学校の学校運営協議会に関わっていたことがあったので、私の学校だと、小学校だと女性の先生がとて多いいんです。8割ぐらい女性の先生で、防犯上ちょっと怖いっていう場面があって、男性の先生を派遣してもらえないかみたいな、こういうより良い教育活動や、より良い学校運営をしていくために必要な人材をほしいですよというふうに個別に言うことができると。

これを三つ、法定3権限と言って、よく学校運営協議会の基本的機能というふうに説明をしています。間違いではありませんが、高校の教育を考えているときには、学校の運営や必要な地域社会からの支援について協議を行い、その結果を関係者に積極的に情報提供して、その情報を積極的に情報提供し、学校家庭地域の連携協力を活性化させる、と言われていています。それってPTAのことじゃないかと思いますが、もちろんPTAもそこに入っていただくとても重要な組織の一つになります。

もう少しこの部分を詳しくお話しをすると、学校、家庭、地域の連携協力っていうのは実は法律です。教育基本法の第13条という法律の中にこの言葉が入っています。何かというと、学校、家庭及び地域住民、その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする、というふうに説明をされています。これは平成18年に教育基本法が改正されたときに、とても大きな改変として取り上げられたものです。何かというと、この教育基本法の改正の前まではこんな感じです。学校の先生に任せとけばなんとかなるんじゃないかな。親とか地域が口出さず、先生に任せておけばいい子が育つやねん。私、時々、広島弁でしゃべります。流暢な広島弁ですのでご堪能いただければなというふうに思い



ます。

実は私、広島出身じゃないんです。愛知の出身なんですけど、18からずっと広島にいたら、三河弁っていう言葉を引き抜いて広島弁を入れたんですよ。そしたら、引っこ抜けないぐらい広島弁が定着してしまって。話が逸れましたね、ごめんなさい。先生に任せとりゃええと。地域のことは何もええや、学校にも任せとけば何とかなる、いい子育てじゃ、って言うていたんですよ。かつてはそういう時代もあったらうというふうに思います。先生方にお任せしておけば教育の専門家なのだから、そういうふうをお願いしていたら何とかなる時代もあったんですけど、このご時世、先生方に全部をお任せしてということは到底無理な話だということも分かってきて、この平成18年の時点で、学校は学校の責任がありますよね、家庭には家庭の教育的役割がありますよね、責任がありますよね、地域にだってあるはずなんです。地域というのは、そもそも子どもたちを育てていく上で、大人にしていく上では、長い人間の歴史の中ではすごく重要な位置を占めていました。例えば祭りであるとか、それから青年団や消防団といったような自治活動、こういうところに地域の方たちがたくさん子どもたちが関わっていくことによって一人前の大人に仕立てていたわけですよ。

こういう機能がだんだん落ちてきて、本当に地域が子どもを教えなくていいのかっていったときに、どうでしょう、皆さんどう思います？ 地域の教育的役割ってあると思いますか？ さっき話したお隣さんともう一度地域の教育力に何が期待できると思うかお話してください。

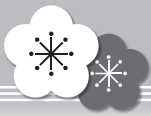
やっぱり、いらんわね、っていうことはないですよ。やはり大事なのです。特にこれは青年期発達論、15、16ぐらい、思春期以降の子どもたちの発達にとって何が必要かっていったときにナナメノカンケイという言葉がよく使われます。カタカナでナナメノカンケイなんですけど、縦の関係っていうのは親と子、先生と子どもとかいうふうにして非常に強固で強い結びつきがあるんだけど、ある意味で切っても切り離せない状況なので、子どもたちにとっては面倒くさかったり、暑苦しかったり、私もご多分に漏れずちょっとグレた思春期を過ごしたので、そういう意味では反抗をする、反発をする、居心地は決して良くないっていう関係。だけど、一番守ってくれて、一番大切にしてくれる人た

ちだっっていうのは分かっている。こういうのを縦の関係。すごい心地がいいとなると、それはそれで昔でいう第二次成長期みたいな部分の心配をしていた時代もあります。今ちょっと思春期っていうのがなくなりつつあるっていうふうにも言われているので、こういう定義が正しいかどうかは分かりませんが、年上の人、それからある義務を背負っている人です。第一義的責任を持っている人たちと子どもの関係っていうのは決してフラットな関係にはならない。じゃあ横の関係は何かっていうとお友達です。

でも、お友達の関係っていうのは心地がいいけれども、ある意味で、選んでいたり、選ばれていたりする関係なんですよ。友達だよ、親友だよって、最近の子よく言いますよね。私たち親友なのかって言われると、ほほうと思いますけど、それって何かっていうと、私はあの子に選ばれている、私もあの子を選んでるっていう関係なんです。だから、よく言う、あまりいい事例ではありませんが、自分が意地悪をされたり、仲間外れにされているなんていうことを私の親友には伝えられないって言うんです。それぐらい今の子どもたちはとても大事に横の関係を作っています。気軽であり、フラットではあるけれども。

でも子どもたちにとって、何でも言える、何でも分かち合えるわけじゃない、ってときに、ナナメノカンケイっていうものが現れます。これは、ちょっと年上とか、親でもない、先生でもない、近所のお兄さん、お姉さん、それから、カツオくんにとってのマスオ兄さんのように、ちょっと年の離れた、親族ではあるんだけど、おじさん、お婆さんの関係。皆さんが若者の頃です。ちょっと思い出してみてください。あの青春の平成1桁ぐらいのときに、皆さんにとって青春だった頃は。私も平成1桁ぐらいでしたけれど、その頃に、憧れる、素敵だなんて思った人、ちょっと思い浮かべてみてください。大体、若者ですよ。親とか先生と違って人もいたかもしれないけど、自分よりは年が上の場合が多いですよ。それで、そんなに勉強しろとか、部活頑張れとか、そういうことを言わない、ちょっとナナメノカンケイの大人。こういう人たちとのつながりっていうのが青年期のときにとっても大事だと言われています。

特に人は求められることによって大人になるっていう言葉があるのですけれども、あてにされる、頼りにされるっていうことが、何よりも子どもを大人



に成長させていく、っていうこともよく言われることですので、そういう意味ではちょっと年上のお兄さん、お姉さんを真似したい。親とはちょっと違う別の地域のほっとできる相手っていうものが、社会の中に入っていく上ではとても大事だというふうに言われています。こうした地域の教育力っていうのは、思いのほか子どもを大人にしていくときには大事だったと言われています。

こういうのをキャリア教育といって、今、学校教育で一生懸命教えようとはしていますが、なかなか地域のようなダイナミックな人間関係や、さまざまな偶発的な出会いっていうのをどうしても学校の中では結びにくい。地域の中で子どもたちを育てるっていうことの意味、子どもたちが、地域の中で活躍することの意味というのは、今こそ大きいなと思っています。学校とおうちの往復、部活とおうちの往復、塾とおうちの往復、この三つのルートしか子どもたちはなかなか今、外とつながっていくことができない。ましてや、もし不登校というようなかたちで学校という選択肢を選ばなくなったとすると、もうおうちの中にいるしかなくなってきているっていうのが、今の不登校の問題としてとてもクローズアップされています。もっと地域に子どもたちが出ていき、もっといろんな地域の大人と出会って学ぶことが必要なんじゃないかと。そういうことの体制を作っていく上で、平成18年に、この学校、家庭、地域の連携協力というものを法律の中で制定をしました。学校、教職員だけ多様な教育ニーズに応えることの限界点ってものがもう見えています。ナナメノカンケイで成長を支えられることができる、異世代の交流の機会というのがとても求められています。

私、17年前まで大学の教員やっていたんです。そのときに一番思ったのは、18歳で入ってくる子たちってまだ子どもなのです。ルールも、マナーも、いろんなことも、ちょっと弱いんですよ。だけど22歳になって大学卒業しているときには胸を張って出ていくわけです、みんな。この子たちをどうやって大人にしたのかなとずっと気になっていて、卒業する学生によく話を聞くことにしていました。そうすると、あなたを変えたものは何って。全国統計ではありません。あくまでも志々田調べですけども。一番多かった答えって何だと思えます？ 仲良しのお隣さん見てください。当てっこしてみてください。じゃあせっかくなのでランナーさんに聞いて

ていただきますよね。お一人、すいません、ご協力ください。

女性A: 岐阜県蒲生農林から来ました、〇〇です。話し合ったんですけれど、アルバイトとかで、いろんな世代の方もそうだし、お金も稼いだりとかして、そういうので変わっていったんじゃないかなっていうことになりました。

志々田: ありがとうございます。正解が出ました。そうです。アルバイトです。

私はこの子に何もしてやれなかったんだと敗北感を味わいました。私、一生懸命授業やって、教員免許を取らせようと思って必死になって勉強してもらったし、いろんなこと話したんですが、彼らを大人にしたのは社会の大人なんですよ。私じゃない。私とずっと18歳から22歳まで一緒にいたら、ずっと18歳のまま甘えていたんじゃないかなって思うんですね。だから彼らを大人にするのは、お金をもらうかもらわないか雇用関係にあるかないかは置いておいて、やっぱりちょっと年上であったり、親とか先生とというつながり方ではない別の種類の大人との出会いが、彼らをしっかりと一人前の大人にしてくれるんだなあというふうにすごく思いました。というふうにして、ナナメノカンケイで成長を支えられるっていうことですね。これ、仕事は確かに上司と部下かもしれませんが、バイトリーダーとか、そういういろいろなバイト仲間とだったり、先輩だったり、皆さんもそうなんじゃないかな、仕事の中で育て学んだことって大きいのかなというふうに思います。

それから、これが何より大きいんですが、子どもの成長を支える大人の横のネットワークが少なくなってきている。今、皆さんここに座っておられる方たちは、PTAという枠組みで来てくださっているんで、この横のつながりを誰よりも持っておられる方たちなんだろうと思いますが、皆さんの周りの方を見ていただくと、決してPTA活動に積極的じゃない方もたくさんいるんじゃないかなと思います。PTAという組織自体、さまざまなかたちで議論がなされるのは皆さんもよく分かっている、春先になると役員をどう決めるかとか、公平性、公平感がないとかいろんな言い方をされています。けれども、昔はそんなことなかったわけですよ。そうすると、無責任な人は、最近の大人はね、最近の親はね、なんていう言い方をするんですけど、これ、真っ向から間違っているのだからここで訂正をしておき



たいというふうに思います。

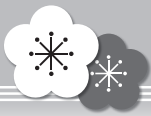
私 1975 年生まれなんです。第一次ベビーブーマーの子どもなんです。なので、地域にうじゃうじゃ子どもがいた時代です。皆さん、1980 年代ぐらいのときの子どもの数と、今、令和 6 年の子どもの数、統計上いろいろ比較が難しいんですが、ざっくり言うと、増えちゃいませんよね、子どもの数は。何パーセントか減っているわけです。さあ、何分の 1 になっていると思います？ 3 分の 1 って聞こえますね。3 分の 1 じゃないんです。半分です。子ども数が減ったっていうのは私たちなんとなくわかるわけです、子どもたち見ていれば。学校の統合の問題が出てきたりして、1 学級の数が少ないなって、あそこの学校なくなったよ、みたいな話を聞いたりします。でもここだけではないのです。子どもの数が半分に減ったってことは、ほぼ親の数も半分に減っています。親となる選択をしなかった、できなかったいろんな領域がありますが、そういう方たちの数が増えているので、今の少子化っていうのはどんどん進んでいるわけですね。

それから、児童生徒数に対して教職員っていうのは配置がなされます。子どもの数が半分になったからといって教員の数も半分にはなっていません。なっていませんが、先生の数っていうのは確実に減っています。つまり第一義的に子どもの成長に責任を負うとされる保護者の数が半分に、そして第二義的ではないにしろ、専門職として、仕事として子どもたちに正式に関わってくれる大人という教員の数も確実に減っている状況があります。その中で、今まで通りに、子育て、子ども会の活動、PTA の活動、それからさまざまな子育てのネットワークや子育てサークル、こういうものを維持していくこと自体がもうマンパワー的に難しくなっているんです。だから、皆さんが PTA の中で、なかなか仲間が集まらないとか、いろいろな人が参加してくれたらいいのに、って思われると思うんです。かつても、専業主婦と呼ばれている人たちが多かったってこともあるんですが、それ以上に今問題になっているのは、子どもたちを取り巻く大人の数、それから大人同士の横のつながりというのが難しくなっている。

私が子どもの頃は 2 軒に 1 軒ぐらい子どもがいたんです。うちとお隣さんにはどっちかには子どもがいる状況だったんです。さあ、皆さんの地域、思い浮かべてください。何軒に 1 軒子どもがいます？

仲良しのお隣の人に聞いてみてください。何軒になっているのでしょうか。全然地域によって違うんですよ。100 人に 1 人のところもあるかもしれませんが、全国全体に均すと 5 軒に 1 軒。5 分の 1 の家庭です。そうすると、2 軒に 1 軒うちに子どもがいたら、あそこのお兄ちゃんねとか、日常的な会話の中で、あそこの校長先生、今年変わるらしいよとか、あそこの先生、あっちに転勤になったんだよとか、学校の話もそうですし、運動会の話だとか、今度文化祭があるよねとか、遠足に何持っていったらいいとか、野外合宿があるって言うけど何持たせたらいい、みたいなことをお話ししたわけです。それが 5 軒に 1 軒になると、今度ね、みたいな話ができなくなるわけです。子どものこと、子育てのことっていうのを話す機会がとても少なくなっています。また、職場の中でも、子どもを持っている同僚の数は昔ほどいないわけです。そうすると、子どものこと、子育てのこと、地域のこと、こういうことをお話しするチャンスがどんどん減ってきていて、実はここに書いてある、子どもの成長を支える横のつながりのネットワークっていうものを昔は意図せずに結べていたのです。そんなに意識しなくてもいっばいできたわけです、子育て仲間が。これが今、難しくなっている。だから、ことさら、学校が呼びかけたり、地域で呼びかけたり、それこそ社会教育といったような領域で、公民館だとか、そういう地域づくりの活動や自治活動の中で、徹底的に子どもを中心に地域を作っていきましょう、子どもを大事にしましょう、子育てについて地域ぐるみで頑張りましょう、ってことを宣伝しないと全然伝わらない、全然仲間も見つからない。だから皆さんにとっては、いくら言っても響かない、いくら言ってもお仲間が見つからないなんていう悲しい経験をされることも、実はそれは皆さんの仲間が悪いわけじゃなくて、皆さんの地域に関心がないわけじゃなくて、社会全体が私たちが子どもの頃と随分と様相が変わってきているという状況なのですね。なので、時代に伴う教育環境の変化ということをすごく感じざるを得ないし、それに対応しなくちゃいけない。

今の学校教育っていうのは、私たちが子どものときパンパンだった時代を想定して学校もできています。数もできていますし、それから学校の先生の仕事とか仕組みとかというのもの、大体 1970 年から 80 年ぐらいのところで大きく止まっています。という状況なんです。だから時々先生の働き方改革



の話をする、なんで先生を楽させにゃいかんのじゃ、と。先生が休み取りたいっていうこと、昔の先生はそんなこと言わなかった、みたいなことを、朝から晩までって、そういう先生たちもいました。いましたが、どう考えてもマンパワーが限られてきている。1人の先生に背負ってもらう仕事の量、学校が小さくなったからといって、仕事の種類が減るわけじゃないんです。100人の学校は給食を食べさせてあげられますが、20人の学校には給食を配給しませんって言うんだったら仕事は少なくなりますよ。けど、どんな小さい学校であろうと学校の機能っていうのはワンセットであるわけだから、やめるわけにいかないわけです。

そうすると、先生方の働き方っていうのはとても苦しい状況になってきている。しかも、学校週5日制が始まって、学校の部活動というものはいつまでも、本当は学校週5日制を始めたとき、平成の多分2桁に入る前ぐらいだったと思うのですが、完全学校週5日制って、井上先生いくつでしたっけ？平成何年でしたっけ？12年ぐらいですかね？もうちょっとあとですかね？頼りにしたんですが助けていただけませんでした。ちょっと知り合いを見つけたんで意地悪をしたんです。そのときには、土曜日の部活もやめる予定だったんです。だって、学校週5日なのだから。それが、いろんな事情の中で、もちろん、地域社会の中で子どもたちのスポーツ活動や文化活動をどう支えられるのかっていう、こうした仕組み自体がそろっていない中で学校が手放すってことは難しいです。平成18年になった教育基本法第13条に書かれているように、5日間は学校です。けど、それ以外のところは学校じゃなく、地域や社会、家庭に教育的な役割をもっと発揮してもらいましょうって、こういうビジョンの中で学校週5日制っていうのは始まったわけです。

ですが、まだ整備が進んでいない、この令和の時代になっても。今、言われているように、先生方の働き方改革と、実は部活動の地域移行というものが、ある意味セットで始まっています。これも先生を楽にさせていくというよりは、学校の部活動は、子どもたちにとって学校生活をより良くしていくために必要なこと。生きがいや、さまざまなチャンスを子どもたちが手に入れる。だけど、地域や、地域の中でも、バトミントンをやったり、バスケットボールやったり、吹奏楽やったり、いろいろな地域の大人と、魅力的な大人たちと出会って子どもたち

は成長することも必要ですよ。そういうために土曜日や日曜日が見える仕組みがあれば、地域移行っていうのはもう少しスムーズに進んでいくだろうと。やっぱり実際に部活の地域移行を踏まえて、さまざまなかたちで総合大型のスポーツクラブを振興していたり、地域で吹奏楽の楽団を作ったりなんていうことをやっている地域がもう見え始めていますので、地域の教育力が子どもたちの教育的な環境整備にはとても関わってくる。学校に任せておけばええんよ、先生がやってくれるんよ、安いしっていう話にはならないってことですね。

それから、社会に開かれた教育課程ですね。子どもたちが学んでいくときに、私たちが子どもの頃は、なんでこんな勉強せにゃいけんの、って言ったときに、皆さんの親御さんは何て言いました。こんな三角形の角度なんかどこで使うん、って思いませんでした？何このコサインとかって、って思いませんでした？思いましたよね？アボガドロ数、何それ、みたいな、ありましたよね？何でこんなこと勉強せにゃいけんのだって言ったときに、皆さんのお父様やお母様は何て言いました。皆さんの先生は何ていいましたか。隣の人に聞いてみてください。ありがとうございます。皆さん、懐かしそうにニコニコを話されますね。ええけん、そんなこと言っとらんで勉強しんさいや、って言われる。

いつか役に立つ、そんなこと考える前にやれて。今は分からんかもしれないけどいつか役に立つからって騙されていたでしょ。最近、三角形の定理、三角形の内角の和は180度であるなんてことを使いました？メスシリンダーとか最近見ました？カスタネット叩いています？リズムを意識してないでしょ？実は学習するのは別にすぐに使うためにやっているわけでは、教科教育ってのは特にそういうわけではないのですが、昔はいつか役に立つって言ったら、ああそうかって思えたんです。

でも、今のこれだけ情報がたくさんあって、例えば自分、中学生が自分と同級生の子がパリに行って金メダル取っているんですよ。自分と同じ水泳を習っている子がパリで、どうやったらこうやってこの子は取れるんだろう、どんな練習してんだろう、どんなもの食べてんだろう、どんな道具使ってるんだろう、って全部調べられるんです。私たちの子どもの頃は、ははあって言って終わりですよ。すげえね、すげえすげえ、って言って終わったんです。今



は、まるであのスマホの窓の向こう側から手を出せるぐらい近いところに、彼らにとって何が活用できるのか、何が必要なのか、それはどんなふうになっているのか、っていうのが調べて見れる、しかもメッセージまで届いちゃう、こういう時代なんです。無理でしょ、いつか役に立つって言って誤魔化すのは。学んだことが使えるかどうかは早めにチャレンジさせて使ってもらわないと。確かにいけるね、確かに使えるね、面白いね、役に立つね、やっとならそこで学びが完結するんです。社会に開かれた教育課程っていう言葉が、今、学習指導要領上キャッチフレーズとして使われていますが、一つは、この社会に開かれた教育課程の一つの面の社会に開かれてるっていうのは、そこで学んだことが地域社会の中で確実に役に立つんだっていうことと結びつけて考えてくださいと。

地域社会の営みと、子どもたちの学習成果っていうのをきちんと結びつけて、全部が全部結びつきませんよ、どう考えたってメスシリンダーはいりません、日常生活には。ですが、子どもたちには、物を測っていくっていうことの、こうやって測ると、こんな道具があるとこんな便利なんだっていうことも、やっぱりワンセットで、学校の理科室の中できれいに50ml測れても意味がないんです。大好きなお母さんのためにホットケーキを焼いてあげたくって、そのホットケーキの牛乳の量を測るときに、理科の時間で習ったメスシリンダーの測り方っていうのが、おお、役に立つよね。まっすぐ横から見るとですよ、上から見ても下から見ても駄目ですよ、ってありましたよね。役に立つ。おいしいケーキができた。ちゃんと測らないとおいしいホットケーキできないんです。

こうやって子どもたちの学んでいる成果と、それから日常の営みっていうことをなるべく引っ付けて。これは高校へ行けば行くほどです。とても重要になってきます。彼らは、労働に従事する一歩手前の若者たちです。彼らが高校で学んでいることは大学に入るための学びじゃないんです。彼らが一生、社会の中で生きていくときに必要なものを学んでいるんだっていう実感を伝えていかないといけない。急には無理です。メスシリンダーをずっとやっていたわけですから急には無理です。だけど、少しずつ、少しずつ、探究の時間であったり、さまざまな学習の教科、横断的な学習をすることによって、子どもたちにそうした力をつけていこうと、これが

社会に開かれた教育課程の一つの意図です。

成果と社会の営みを結びつける。もう一つは地域社会の魅力ですね。それは、最新であったり、専門性が高かったり、興味深かったり、おしゃれだったり、っていうような魅力的なもの、そこにしかないもの、その学校にしか提供できない資源を使って子どもたちに魅力を伝えていく。社会、地域社会の中のさまざまな企業や専門機関、大学等とつながって子どもたちに良い教育を提供していこう、これが二つ目の社会に開かれた教育課程。社会に開いて作っていこうっていう二つの意味があります。それから、ICT、これもそうです。

そうした子どもたちの、ウェルビーイングとか居場所づくりとかっていったの、今、子ども家庭庁を中心に話が始まっているのは皆さんニュース等で存じかなと思います。子どものウェルビーイング、例えば子どもたちにつけさせたい力はもちろん学力もあるんですが、人と人とのつながりも大事だというふうに言われています。つながり格差と呼ばれているように、実は子どもたちの格差の中には経済格差、経済力のある家庭とない家庭では随分学習の場面でさまざまな差があるというのはよく言われますよね。だけどもっと大きいのは、家庭のつながりの格差だというふうに言われています。皆さんのおうちのお子さんたちは、地域社会とかさまざまな大人の中で、たくさん社会的につながりの中で成長している。だけれども、子育て、孤独の孤を書いて子育てというように、なかなかつながっていけなかったりとか、働くことで、生活することで精一杯の家庭の場合だと横のつながりが持っていないっていう家庭もたくさんあるかなと思います。

ちょっと想像してみてください。皆さんのおうちの近くで、28歳の若者が帰ってきたと。あそこの息子さん、東京の大学行っていたらいいんだけど、就職もしたらいいんだけど帰ってきとるんよね、何かあったんかね、っていう話になったときに、その家庭自体が社会的つながり、こういうのソーシャルキャピタルっていうんですが、社会的つながりが高いと、あそこのお兄ちゃん、サッカーやったりたよね高校まで、あの高校行っていい成績だったし、優しくて、そういえば祭りのときとかもよう手伝ってくれてかわいいお兄ちゃんだったよね、って言って、戻ってきちゃったの、何かあったんかね、って言って、会社が悪いんだよきっと、とかって言って、じゃあうちのお父さんに言って就職先探してもらお



うかね、とか、消防団誘ってみようかね、とか、ふらふらしとんだったら今度これ手伝ってくれんかって声かけてみようかね、善くも悪くも社会的つながりの高い家庭のお子さんだとほっといてくれないんです、周りが。なんだかんだ言いながら優しくしてくれている手を差し伸べてくれて、なんだかんだよく分からないうちに村の役場の受付に座ってたりすることになるわけです、そのお兄ちゃん。だけど、社会的つながりのない家庭のお子さんだと、あそこのお兄ちゃん帰ってきたらしいよ、って言われたら、いた、そんな子、って、何年生、とか言って、知らない、あそこのお母さんともあんまりしゃべったことないもんね、ふーん大変だね、終了、誰も声をかけてくれない、誰も何かのチャンスを運んでくれない。たとえおせっかいだったとしても。

こういうふうにして、子どもたちが社会の中で成功する、特にレジリエンス、もう一度仕切り直すときに、絶対に地域社会の横のつながりとか、温かさとか、おせっかいって、いるんですよ。皆さんもそうじゃないですか。ちょっとグレかけたときに誰かに怒ってもらってないです？ いろんな人たちが皆さんの生活や皆さんのことを支えてくださったと思うのです。この良質な大人との付き合い方、大人ってというのは信頼できる相手だと。何か困ったときにいつも頼っているとそれは子どもだけけれども、いざっていうときにこの人に相談したらいいんじゃないかと。なんとかなるんじゃないか。社会はそんなに鬼ばかりじゃないんだってということが心の中でしっかり分かっている子と、いつも誰かに見てもらえなくて、いつも仲間外れされて、いつも一人ぼっちだった子は、今やり直そうと思っても次の一歩が踏み出せない。地域社会に、誰に相談したらいいのかが分からないっていうことってあると思うんです。これ、子どものウェルビーイングのときに、ものすごい今言われているつながりなのです。

良質な大人と若い頃に信頼があったり、さまざまな期待をかけてもらってしっかりと鍛えてもらっていることがあるかどうか。社会の大人は決して怖くないんだ。そして自分が何かやったときに、何かできるんだっていう小さな経験を積んでおくこと。これは学校の中でもできますが、学校ってというのはフラットな関係がその前提にあるのでなかなか、みんなと一緒にやったからうまくできたんです、とは答えるけれど、俺がやったんだ、俺が頑張ったんだ、っていうここにはつながりにくいんです。今な

んか特に謙虚だから、友達と一緒に、って言って、かわいい言い方をしてくれますが、それってというのは一方で、友達がいない中で1人で生きていくっていったことを、なかなかうまく大人との関係を結びつきにくいってことも言われています。

私たちは学校に子どもたちを引っ張ってきて、学校と地域、学校と家庭の間を行き来させていくことによって、実は子どもたちが、強くなったり、社会の中で生きていったりするために必要な、社会のつながり、信頼できる大人との良質な体験、っていうものをちょっとずつ、ちょっとずつ削りながら今日きてしまっている。だから格差ってというのは広がるんです。より良い家庭はもっとさまざまなつながりを持ってきます。これは学力のように技術では伸びなくて、いっぱい愛してあげて、いっぱい体験をさせて、いっぱい知り合わせてあげないとなかなか伸びない。そうになっていったときに、学校教育というのはある意味で便利なのです。全ての子が通ってくるわけではないですが、多くの子が1回は手に入れるチャンスを持っている。なので、社会に開かれた教育課程の中で、魅力的な大人を学校とつないで、その人たちの、生き様や背中を見せることによって、子どもたちがこの先どうやって変化の激しい社会の中で生きていくのかっていうことを考える大きなきっかけを作っていくことはとても大事です。こんなの教科書を読んだって分かりゃしません。誰かの体験記を読んだって自分ができるようにはなったりしません。

こういうのがウェルビーイング、子どもたちの幸福というふうにも言われています。そうしたものを作っていくときに、地域と学校はつながっていきましょよね、とか、学校を一つのチームとしてみんなで力を合わせていきましょ、とか、その仕組みとしてPTAももっとご活躍いただきましょ、とか、今、学校と地域をつなぐ要としてPTAが期待されているのもそうしたかたちで、もっともっとPTAの役割というのは求められています。

そこでもう一度確認をしたいのは、私たち大人です。これは保護者もそうですし、地域の方たちもそうです。それから教職員、先生方も同じです。これからの時代を生きていく私たち大人が、学校に任せとけばいい、先生だけでやればいい、学校だけでやっとならうほうが楽じゃないか、ってこういうこと、楽なんですよ。学校だけで言うと、保護者の一部たちとやれば楽なんですよ。よくこれもお聞きしてみま



しょうか。協力って言うでしょう、皆さん。協力しましょうね、の協力と、共に働くっていう字を書いて共働って書いていますね。協力しましょうっていうのと共働しましょうって言われたときに、意味はどう違うと思います？ お隣さんに、協力と共働、どう違うか聞いてみてください。

これ、正しい定義があるわけじゃないです。広辞苑を引いても何も出てきません。っていうのは、共働っていうこと自体、言葉自体が外国からやってきたものです。パートナーシップとか、コラボレーションとか、コーポレイティブだとかっていうようないろんな概念を使って、政策の言葉として作り上げたものなので答えはありません。

でも志々田調べですが、ざっくり説明すると、協力っていうのは、私よく言うのは、仲良しさん同士が協力をするんですって言って。要するに役割とか、目的とか、価値とか、っていうのは分かっている、共通している間、仲良しさん同士の間では力を合わせる上ではうまく進むわけです。方向性も決まっていますし、例えばクラスマッチで勝とうねっていうのは、スポーツは勝つのがいいんだと。それからクラスで1位になったほうがいいんだっていう価値観が一致しているので、力を合わせるだけいいんです。

共働は、仲良しさん同士じゃない、学校と家庭と地域もだから仲良しさん同士じゃないんですよ。当たり前です。先生には先生のやりたい教育があり、家庭には親御さんのそれぞれの思いがあり、地域には地域に勝手に次世代育成っていうものがあるわけです。いいんですそれで。違っていいんです。ただ共働っていうのは、こういう価値や役割や立場が違う人たちが、それでもその役割や立場や目的を超えてでも何とかしなきゃいけないっていう課題があったときに、一緒に力を合わせて頑張ろう。だから目標確認が絶対いるんです。共働という言葉を使って目標確認しないとんでバラバラ大変なことになります。だから、学校と地域で連携共働しようっていったときには、学校運営協議会でやっぱり目標って確認しなきゃいけないんです。皆さんの学校で一体何を、どういう子どもを育てたいのかってことを、学校はこう考えています。保護者の代表としてはこんなことを考えています。

地域としてはこんなことを期待しています。違ったものを持ち寄って、どれか一つに決める必要ないのです。ただお互いがどういう思いで子どもを育て

ているのか。そしてそこから寄り添える、もしくは一緒に共通する目標を達成できるものを見つけ出して、それを厳選して一緒にやらないとものすごい大変なのです。仲良しさん同士なら楽なんです。共働はつらいんです。簡単じゃないんです。1個1個の確認が大事。そう考えていくと、やっぱり私たちはお互いのことを知らないとか、先生ってどんな仕事なのだろう、今の親御さんって何を不安に思っておられるんだろう、地域はこんな過疎化してる中でまだ何を期待してるんだろう、こういうことを考えていかないといけないわけですね。

でも話し合うとみんな、1人の子どものために一生懸命頑張りましたよっていう言葉はあるけど、何をどう頑張るのかってことの確認が取れない。そうすると校長先生が悩むわけです。こっちでうまいこと言って、こっちでもうまいこと言って、どうしようこつながらないって校長先生が苦労する。じゃなく、違っていいのです。違っていいのは何で違うのかを考えましょう、知りましょう。そりゃしょうがないよねって思ってもらいましょう。こうしたことによって相互の理解や信頼ってものが生まれるわけです。

学校のこと知らないから、あれやってほしい、これやってほしい、こんなことできないのか、こんなこともできないのか、ってなっていくわけです。学校を毎日見ているら分かります。精一杯です学校は。PTAの皆さんは、学校がどれぐらい頑張っておられるのか、先生方がどれだけ子どもたちのために何をやってくださっているのかよく見ているので、そんなにいろんなことは要求できないし、自分勝手に言うならば自分が腰を上げて一緒に何かやろうって思ってください、今日もここに来てくださってるはずなんです。こういう理解をじゃあどこでどういうふうに仕掛けていくのかってとき、今までは心ある親御さんが何人かいたので、絶対数が多いから、一部からそういう人が集まってきてなんとか維持できたんです。先ほど申し上げたように、絶対数が減っている今、何とかかき集めなくちゃいけない。そのためには正式な学校を運営する協議体が必要になり、仕組みが必要になり、先生方の理解、教職員の理解や保護者の理解を集めていくこういう機会っていうのが必要になってきているわけです。大人の意識改革と相互理解と信頼構築のために、より良い学校のあり方について多様な関係者と協議する場として、コミュニティ・スクール、学校運営協



議会制度ってものを導入していく。これは決して義務教育段階だけでなく高校にとってもとても重要なのです。

高校の抱える課題いくつかありますので、休憩の前に全てご紹介をしておこうと思います。これはよく文科省の本当に行政官たちが行政説明するときに使うものですが、公立学校の学校数というのが減っていくことは皆さんご存じだろうと思います。子どもの数が減っていきます。ここから5年後ぐらいにまたガクンと減る状況にあります。そうやっていったときに、それでも日本の学校の教育、日本の教育の中でいくと、公立学校が多い状況にあるってことが分かってくるかなと。私学はあまり数が上がってきてはいません。ある意味で子どもの人口の上下ってというのは公立学校が吸収してきているってことも言えるかなというふうに思います。それから、これ、赤色が濃ければ濃いほど高校を持っている自治体が少ない地域のことを指しています。北海道、真っ赤ですが、これは80%以上の市町村で高校を持っていないということになります。皆さんの県はどうですかね？ 私の愛する広島は一応50%未満ですね。白い空白にはなっていますけれども、これ私いつも思うんです、島根、頑張っているなって。黄緑、薄いでしょ。工夫してるんです。島根県は各自治体に高校を残そうと思ってもう10年ぐらい前から必死にさまざまな教育改革してここまでつなげてきています。成果が出ているってことが一目瞭然なんです。高校教育改革っていうのは、いち早く進んでいるところは成果が出始めています。少なくともこうしたように高校が全くない自治体っていうものが、これもっともっと増えていく状況にこの先あるってことが分かるかなというふうに思います。

不登校の問題っていうのはずっと言われていることです。高等学校の不登校率も、これ令和4年のデータですが、コロナ禍の中で増えてきていることは確かです。学校側も来いって、昔は先生が玄関まで呼びに来ていましたよね。絶対今そんなことしませんよね。子どもへの対応も変わってきていますが、それでも不登校の割合は増えてきています。全国で、小・中・高合わせて30万人って言われています。全部の子どもたちがご機嫌に学校に来てくれないんです。これはやはり教育を考えていく人間としてはとてもつらいことの一つかな、課題の一つだと思っています。

それから、高校はさまざまな改革を20年ぐらい前に一変しています。そのときにいろんなことをしていますが、例えば定時制、これは昔からある制度ですが、定時制の学校って減っているのが分かります？ 年々、減っているのです。しかも昔のように働いているから、お昼も働いてるから夜勉強するんですよって子どもは減っています。全日制の学校に通うのが難しい、しんどい、いろいろなかたちで苦しいっていう子どもが定時制に通ってきている。それからあと外国籍であったりとか、さまざまなかたちでゆっくりと個別に指導してもらえらる定時制の学校を求めている子どもたちもいますが、でも全体的にはザーッと減っている状況が分かります。その一方でこっち見てください。これ通信制です。最近よく聞くN校とかですね。これはバーチャルの世界での学校ですし、それからさまざまな私立の学校、もちろん公立にも通信制はありますけれども、そうした学び方、毎日同じ時間に同じ学校に行っていくという通い方をするのではなくて、自分が求めている単位を自分のペースで取っていくという学びを実現するための一つのツールが通信制高校です。増えているんです。

不登校の数はどんどん増えていっていますけれども、中途退学、高校をやめる子どもの数っていうのは年々減っています。変だと思いませんか？ 不登校は増えているのに中途退学率は減っているのです。なぜかっていうと、全日制の学校から定時制や通信制という、自分の学び方を尊重してくれるそういう学校へ転学する。転学するとこれは中途退学ではないので中途退学率にはならないのです。

こういうふうにして、さまざまな選択肢が必要だと言っている子どもたちが増えている状況が、そして実際に選ぶようになってきているというのが分かります。だから学校も今までは普通科とか商業科とか工業科とかってなっていたのが、総合学科と言っているんなものを取りあえず学ばせてくれる、いろんな選択肢を選択科目として子どもたちに選ばせてくれる学校の数が、どんどん増えていっていることが分かるかと思います。それから単位制の高校ですね。これは単位を自分、通信課程かどうかは置いておいて単位を自分で取っていく。通信制は学校に通うことなく、もちろんスクーリングはあるんですが通う方の違いです。単位制というのは卒業の仕方ですね。3年で卒業するとか4年に卒業するとか、こういうことを自分で選択して学び方を決めていく。



こういう学校もとても増えていっていることが分かっています。個別最適な学びの追求というふうに言い始めています。つまり全日制で3年間で卒業するってこのスタイル、これが当たり前ではないし、子どもたちはいろいろな選択肢を今求め始めてきています。そうすると今の皆さんの学校でいろんな問題がありますね。不登校の問題もあると思いますし、子どもたちが途中でドロップアウトしたりとか、進学上の悩みを言っていたり進路を変更したりとかっていったときに、実は単位制や総合制の学校になったら、じゃあこっちやってみるとか、ここに転学してみるってこういうことができるわけで、実はこういうニーズが増えているのにもかかわらず、単位制の学校もそれから通信制の学校もそれほど多くはない。でもこの先子どもたちの動向を考えると、こういう学校への切り替えや、こういう学校のサービスってものをなるべく取り入れた全日制的のあり方や、さまざまな学校の運営のあり方っていうのは、今後検討されていくべきフレーズにきているんだろうというふうに思います。新しい制度をどう考えるのかってことは一つ課題かなというふうにも思います。

またもう一つ、子どもたちは、じゃあ高校をどう選んでいるのか。皆さんのお子さんが今通っておられる学校を何で選んだかご存じですか。一番多いのは自宅から通いやすいから。二つ目、学校の雰囲気が良かったから。三つ目、合格できそうだったから。いやいやいや、やりたいことのためにやれるものがある学校に行きたいって思ってきてほしいんです。実際にこういう学びがしたいからこの学校へ行きたいって言った子どものほうが学力もいいんですね。そりゃそうですよね。やっぱり高校を進路で選ぶ、高校を進路選択するとき、近いからとか、合格できそうだからって、悪い理由じゃないですよ、それでもいいんです、親としてもありがたいです。ですが、それ以外に、こういうことを学びたいから、こんな活動をしたいから、こういうところをゴールに持ちたいから、僕は、私はこの学校に行きたいなって言ってくると親としても嬉しいですよ。応援しがいがありますよね。子どもも学びがいがあるわけです。こういう進路選択にどうやって近づけていくのかっていうのも、やはり高校の学びの提供の仕方であったり、魅力化だったりっていうふうなことが言えるかなと思います。どこ行っても大体普通科なら一緒でしょ、じゃあいいじゃん、あそ

こでって話になってしまっっては、今から高校、15歳から18歳までというぐんぐん伸びる時期に、ここでいいかっていう選択肢をさせない、もしくはそれをさせないために支えてあげられるような学校運営ってきつとあるというふうに思います。これは高校1年生相当の学年において、家や塾で学習をしないって答えた、皆さんのお子さんたち、おうちで勉強していますか。学校ではしていると思いますが、家で何分ぐらい勉強しているのでしょうか。中1、中2、中3より高1が赤いところ多いでしょ。これしないって答えるんですよ。ゼロ時間。家では勉強しませんって言い切っているんです。学校の宿題もあろうにやらない。学びたいと思ってくれるのが一番ですが、やっぱり魅力っていうものを考えていかなくちゃいけない。昔ながらの高校の教育では、もう子どもたちの学びを引っ張っていくことができない状況にはあるのかなというふうなことを思います。

というふうにして、皆さんには、こうした子どもたちの、ああしたい、こんなことしてみたい、こんなふうなことやったら面白いんじゃないか、自分はこういうこと向いているんじゃないか、こういうことを15歳から18歳までの子どもたちにワクワクドキドキしながら考えてほしいですよ、教職員や保護者としては。そのためには、今お勧めされている一つのやり方が共働的学びっていうやり方です。さっき言った共働ですよ。立場が違う、役割が違う、価値が違う人たちが、それでもなお一緒に役割を超えて一緒に課題を解決しようと、こういうプロジェクトベースの学びっていうものが今求められています。



第5分科会 後半(グループトーク)

おそらく今日集まってきてくださっている方たちで、学校運営協議会の委員とか学校運営協議会が設置されている学校だと、もっと何をやらたらいいんだろうとか、どんな話をしたらいいのかと思っておられるのかなど。私も、実はふるさとの同級生から連絡があって“私さ学校運営協議会委員になったんだよね”って言って電話がかかってきたんですよ。中学校の同級生ですよ。“ああそうなの”って言ったら、“なんか名前見たんだけどさ”って言われたんですよ、バレたと思って。で、何やらたらいいのかわからないと。おおそれはいいサンプルだからもっと話を聞かしてくれって言って、“何がわからない？”って聞いたら“何かね学校関係者評価とかいって学校のグラフ見せられるんよね”って言って。まあ皆さんもやりますよね、2月とか3月。“あれさ、グラフ見てもさ別にいいって感じなんだよね”って。“なんか意見言ってくれとか言われてもさわかんないんだよね”って言って、“あんまり聞かないでほしい”って言うんですよ。やっぱりそれぐらい、急に言われても、一体何から始めたらいいのか、何を言ったらいいのか、もしくはそれを判断するためにはどんなことが必要なのかみたいな、こういうことがないまま、始めますって言って、はい町内会長ですね、はいPTA会長ですね、はいお願いします、みたいな形で集まったりすると…でも気持ちは持っているから、もっとよくしたい、もっといろんな人と話をしたい。そう思っていただけしているのかなと思うので、そのきっかけになるような取り組みを少し、後半でやっていこうと思っています。

それですね今子供たちも協働を学ぶこと、立場や役割を超えて学ぶこと、協働的な学びってものが求められてきていて、今私たち大人にも同じことが求められているだろうなっていうふうに思います。まずはアイスブレイク代わりに、あまり難しいこと考えずピュアな気持ちになって考えてみましょう。アイスブレイクですからね、心と体、体はほぐしません、心をほぐしてみてください。

はい、うららかな日曜日の朝を思い浮かべてみてください。皆さんのうちで寝ていました、起きました。はい。今日どこにも仕事にも出かけません。一日中暇です。で、朝玄関を開けました。そしたら

1.3メートル。これぐらいですね、1.3メートルぐらいの蛍光緑のブヨブヨしたやつ、ブヨブヨ。ゴールデンレトリバーのサイズですよ、1.3メートル。わかりませんか、大型犬ぐらいのサイズです。が、家の玄関の前にありました。さあ皆さんならどうしますか？

ここでお約束は、無視をするのはダメ。半分ぐらい、時々いるんですよ、あのなかったことにするって言って。玄関を閉じるって、終了って人もいるんですが、それはダメです。面白くないですね。1.3メートルの見たこともない、聞いたこともない、全然知らない緑色のブヨブヨがいました。さあ皆さんならどうするでしょうか。ちょっとですね、対応策自分で考えてみてください。2分ほど時間取りますので、自分なら、1個だけじゃないと思うんですよ、いくつか方法があると思うのでちょっと考えてみてください。

はい2分です。それでは、皆さん、各仲間だよと確認しあった4人から6人で座っておられると思います。もうご存じの方も座っておられるのかもしれませんが、こういう時はですね、自己紹介タイム、普段しゃべらないことをしゃべっていただくかなというふうに思います。まあお名前とご所属ですね、なんで今日ここにきたかと、それからそうですね、皆さんが、ここの景色を見てもらいたいと、皆さんの心の中にある絶景、あるでしょ1つや2つ。ここからのこれは最高だよっていうやつですね。まあ私から言うと、広島ですね、瀬戸内の夕焼けはものすごくきれいなんですよ。しまなみ海道っていいですね、島と島をつなぐ橋があるんですが、そこから見る紫色と赤色ですね、夕日はもう絶景です。これをですね広島県のみんなはですね、日本のエーゲ海って言うんですよ。エーゲ海に例えなくてもいいと思うんですけどね、エーゲ海って言うんですよ。いやエーゲ海が、あのヨーロッパの瀬戸内？になってもらえばいいかなと、それぐらいきれいなので是非広島にお越しの際は夕日のしまなみ海道を渡っていただければと思います。そんな感じで、絶景をプラスして自己紹介をしてください11人30秒にしますので、私今から計りますので、皆さんちょっと立っていただけますか？立って、お互いに近づいて、いいですか、全員が



しゃべり終わったら座ってください。いい？ そうするとわかるのでね、終わっているか終わっていないか。用意スタート！

はい、ありがとうございます。それではですね、今度こそ1.3メートルのブヨブヨ、どうするか対策です。各班ですね、考えてみてください。いい答えが見つかったら、あと発表していただこうかなと思いますので、1.3メートルのブヨブヨ問題をですね、今から話し合っていただけたらと思います。といってもこれアイスブレイクですので、自分はこう思うっていうのをお互いにシェアしてみてください。よろしいでしょうか、はい、じゃお願いします。

はい、ありがとうございます。それではお座りください。それではですね、今ちょっとここだけ聞いてみたんですが、マイクすいません。まず手始めにここから聞いてみようかと思います。どうしますか？っていうですね、ベストアンサー、はいお願いします。

男性A：はい、こんにちは。鹿児島県PTA連合会の会長を務めております〇〇と申します。いろいろ意見が出たんですが、棒でつつくとか、まず悲鳴を上げるのが、いちばん多かったんですけど、自分なんかの班ではですね、結構これ面白いねって出たのがあのGoogleのカメラ機能を使って検索しました。そしたらですね、いろいろ出てきたんですけど、いちばん多いのが、スライムボスっていうのが出てきたんで、まあそういう答えでした。以上です。

志々田：はい、ありがとうございます。きっと高校生とかに聞いたらたら、そうなるんだろうなって、初めてです。画像検索をかけるっていうですね、さすがお若いPTA会長さんですね。

はい、うちいいの出た！って所ありませんか？ こう発表いただける所。すごい笑ってるんで、めっなんか楽しいのがあったらお願いします。

女性A：愛知県武豊高等学校PTA会長〇〇です。大笑いしているのは、たぶん私が言ったことがすごくウケてしまったので。まず私でしたら、棒でつつきます。害がなければいかに遊ぼうかと考えます。で、害がないと思ったら、まずご近所さんに“ちょっとちょっとうち来て！ 今なんかすごい蛍光緑の面白そうなものが落ちているから見に来ない？”って言って散々周り呼びつけて自慢します。それでも処理に困った場合は、役場に電話をするか、町内会の会長さんに“ねえどうしたらいい？”つ

て聞くかっていうような形にするかと思います。

志々田：ありがとうございます。武豊なんですよ。私豊橋なんですよ。ふるさとの。

まずは呼んでみると。ご近所さん呼んでみたり、またつついてみて、安全じゃなかったら自分一人で体を張って守るんですかね？ 安全が前提でしたよね。でもいろんな方に聞いてみるっていうですね。面白かったです。

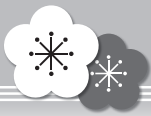
もうひとつぐらい聞いてみましょうか。うちはこんなの出たって。はい、お願いします。

男性B：山口県から来ました。山口県公立高等学校PTA連合会顧問の〇〇です。よろしくお願いたします。まあだいたい一緒だったんですけど、私あの現役でやり投げをしておりますので、玄関にやりがありますので、今お2人は棒でつつくってあったんですけど、とりあえずあのやりで刺す。刺して固さをみる、固ければそのまま、柔らかかったら、まあ刺してみる、まあブシャーってきたらどうしようかなっていうのは、あるんですけど、あとは最初のと一緒にネットにあげてみんなの意見を聞いてみるっていうことです。以上です。

志々田：はい、ありがとうございます。やりは初めてですね。やっぱりいろんな所でやってみるものですね。それからそのあとSNSにあげて、こう…どうですかっていったみんなに聞いてみるっていうのも、今時かなっていうふうに思います。

これ別に答えがあるわけではないんですけども、まあまずつついてみると。つついてパンで破裂して、くさいの出てきたらイヤですよ、だからやっぱり触らないほうがいいかなっていう。

昔ある町でこのアイスブレイクやったら、おじいちゃまがですね、最初に、講演の最初にお話ししたんですよ。そしたら最後の最後の質問ありませんか？って時に手挙げて“先生やっぱりね警察に電話したほうがいい”って言われて、ごめんなさいっていう…。なので安全か安全じゃなかったことは大事ですが、安全な場合には、まあ安全じゃなくってもおそらくですが、まあネットを見るか、人を呼ぶかというようなことですよ、っていうふうにして、私たちは日常の中での問題とか、よくわからないものに出会った時に、それがあんまり深刻じゃなくて命にかかわりそうじゃなかった場合には、だいたいどうやって解決しているかっていうと、近所の人を呼ぶと。まあまず玄関開けていたら、後ろに振り向いて、お父さん！とかお母さん！とかって言い



ますよね。で家族の中で何じゃこれは？と見ると。で答えが見つからない。そうすると今度は隣の家ピンポンしに行きますよね。で隣の人が…まあまずその隣の人の所にピンポン行けるかどうかというのも大事ですよね。でピンポンをして、うちの前にこんなんがあるんですけどって言ったら“それはお宅の問題ですから知りません”みたいなことを言われる近所の人とは暮らしてはいたくないですよ。何何何何何！何これ！”みたいな言ってくれるお隣さんと一緒に暮らしたてたいですよ。でその人と話して、わからんと。でその次は、じゃああそこのご主人は消防署に勤めているって言っていたから聞いてみようとか、あそこの裏のアパートのお兄ちゃんなんか大学で生物学やっているとかが聞いたら聞いてみようとか。と言って自分のあらん限りのツテを使って、いろんな人の話を言って。で、いよいよってなった時に、もう危ないとかなんかせんといかんってなった時に、警察なり役場なり…まあ役場も困ると思いますけど。あのいっぺん自治体の職員さんばかりのいる所でこのアイスブレイクやったら“絶対自治体に電話かかってくるですよ市役所に”って言っていましたけど。みんなかけちゃうみたいですけど。まあそこで初めて専門家っていうところになるのかなって。これが通常のプロセスなんです。私たちが社会を作っていく上で、身近な人に聞く、で人を増やす。で、それでだんだん輪を広げて行って、最後の最後に専門家とか警察とかっていうところに電話をかけるのが普通なんですけど、この順番がここ何十年の中で、自分がわからないと即警察、即学校、即消防署、即区役所みたいなですね、こういうふうになってきて、隣の人に聞いてみるとか他の人に聞いてみるとかっていうことの聞く価値みたいなものが、あんまり認識されていない。

で、もちろん SNS も含めたインターネットの先にも人がいるわけです。あれ勝手に…AI が作っているものもありますが、多くの場合は人があげているものなわけで、誰かとつながるってことが、私たちにとってとても大事なことです。つまり、専門家が言っていること、もちろん命にかかわることとか安全にかかわることは、これ、あのおじいちゃんに言われてから必ず言うようにしているんですが、命とか安全にかかわることは別ですよ。ですが私たちが例えば子育てをするとか、ちょっと仲間はずれに…なんかいじめみたいなもので、人間と人間のコミュニケーション不足があるとか、何かこ

うやろうとしたけど頓挫しそうになっているものがあるとかってこういう時には、誰か責任者出てこいっていうんじゃないかって、とりあえず関係者、利害関係者ステークホルダーって言いますが、関係しそうな人に声をかけて、来てもらって、一緒に考えるってこういうことをやってきたわけです。こことでも大事で思い起こさなくてはいけないところだろうというふうに思っています。

誰かの…協働の学びですね、それからこれは学校運営協議会もそうです。私たちが地域社会の中で、何か大事なことを考えたり、一緒に何か考えていきたいと思った時に、誰か一人の判断よりも、多様な立場の関係者が共に意見を出し合って話し合った判断のほうが、より適切だと。

子供の学力の問題は、専門家に聞くよりは、お母さん仲間同士でどうやって家で家庭学習してる？とか、横のつながりで情報交換したほうが真似やすいし、参考にもなるし、その地域やその学校のよさもわかっているわけだから、身近な人に聞くほうが価値があるんです。だけど私たちは、専門家、専門分化してくる中で、この100年ぐらいの間に、何か大事なことにプロ、専門家、その人たちに任せて、何とかしてもらおうと。あわよくば私は何もなくて、つなぐだけでいいんだというようなことをしてしまいがち。これがあらゆることの、今子供たちに当事者意識を持ってとか、社会の構成員としてとかっていう言い方をしますが、そんな難しい言葉を使わなくても、私も何らかの関係性がすべての社会的事象にはあるんだという実感をつなげていく。

そのためには、私たち大人も、何か学校の中で起きている問題、例えばスマートフォン。今高校生って7時間ぐらい使う子供が結構な割合いるんですね。3割とか4割とかいるんですね。先日統計見てびっくりしましたけど、7時間も何やることあるんだろうと思いましたけど、まあ大人な見方で…彼らには彼らの世界があるので否定するわけではないですが、どうしたらいいんだろうってことを、ざっくばらんに関係者同士が話し合うと。

そこで結論出なくてもしょうがないんですよ。子育てに結論なんか出ないし、教育にこれやったら絶対に成果が出るなんていうものはないんです。短期的にはありますよ。体罰です。叩けばいいんです。叩いて言うことかすことは簡単です。だけれど、そんなこと絶対あとからのことを考えたら、ありえ



ないわけでしょ。特効薬なんてないはずです。だからやはりみんなが一緒に考えていくっていう基本的スタンスが協働的学びの大原則。もう少し言うと、私の持っている経験は、他の人にも役に立つかもしれないっていうこの前提も大事だと思います。

皆さんが持っている子育てをしてきた経験、それからPTAで活動してきた経験は私の経験だし、私にとっては意味があるとお考えになっておられると思いますが、それから先生方もですね、いろいろな親御さんと保護者の皆さんとお会いしてやってきたことの経験というのは、自分にとって意味があると思っておられるかもしれませんが、同じように子供を育てている人たちや、同じ学校に通っている人たちにとっても、とても大事な財産であると。学習の資源と私たちの分野では言うのですけど、お互いの学び合いの機会というのが、おそらく子育ての問題とか、教育の問題、子供のしつけの問題も含めて、しつけと言って今いけないのかもしれませんが、生活習慣の問題とかってことを含めて、いちばん有効な手段であることをもう一度思い起こさなければいけないかなと思っています。ですから学校運営協議会の中で話し合うことも、そんな特別なことでなくていいんです。何か大層なことと、スクール・ビジョンみたいなものを、よくわからないと言いながら、黙って聞いて、うーんはいつて言ってしまうしないで、わからないことはわからないと。“校長先生わからないですよ、自主性ってどういうことですか？”って言って。聞かれたら困りますけど、そういうふうにはですね、対話をするのが大事なのだろうということです。これは「三人寄れば文殊の知恵」ってね？古くから言っていることわざですし、最近でいうと、SDGs。このお日様マークみたいなものがありますが、あれほとんど注目されてませんが、最後17番目の目標っていうのが、パートナーシップで取り組もうと言われていています。

このパートナーシップというのは、すべての関係者に当事者に集まってもらおうということです。そうやって、ものを決断していこうと。どんなに国際規模であっても、その当事者をしっかり集めてすべての人たちの意見を聞いた上で決断をしていこうということが、スタンダードな運営の仕方だと言われています。それからこのパートナーシップはさっき言った協働という言葉の元になっている原語のひとつでもあります。

それから、特別支援学校の先生方はご存じかもし

れませんが、「私たちのことを私たち抜きで決めないで」というふうなスローガンがあります。これは国連の障害者の権利条約を批准する時に、キーワードになった言葉です。つまり障害当事者の人たちの話を聞かずに障害者の人たちの何らかのことを1つでも決めてはいけないということです。最近「こどもまんなか」といってこども家庭庁が言っているのも、子供たちの意見をきちんと聞きましょうと。学校運営においても、たとえば高等学校であっても、子供たちがどう本当に思っているのか、どう自分たちの学校の魅力を考えているのか、本当に近いだけだから来たのか、もしくは来てから変わったかもしれないというその子供たちの意見をしっかりと意味がある形で聞くことは、とても大事だろうと思います。学校運営協議会の中によく、生徒会の代表だけではなくて、学校運営協議会のメンバーと子供たちの対話の時間を設けたりとかしながら、学校のことについて率直な意見を聞くことも、とても学校運営協議会の中では大事なことです。つまり、学校運営協議会を考える時に、会議室に行って座って、校長先生が出してくれたその活動報告書みたいなものを読んで、説明をしてもらって、1人2人、まあしょうがないからといって手を挙げてもらって、1個か2個ぐらいご質問いただいて、貴重なご意見ありがとうございましたと言ってシャンシャンと終わる会議をどんなに続けていっても、課題は解決しないわけですね。どんなに小さな課題でもいいから、自分たちにとって当事者の声を聞く、まずは子供の声を聞く、まずはそこで働いておられる先生方の声を聞く、こういうこともとても大事な学校運営協議会や学校運営を考えていく上では、大事な機会ではないかと思っています。

ある方に聞いたのですが、ある小学校の学校運営協議会の中で、先生方にも入ってもらって、1学期の振り返りをする会を15分だけ設けたという話を聞きました。その中で先生方全員に自己紹介してもらったんだそうです。新任で来たばかりの先生知らないの、学校運営協議会のみならず先生と。その先生がですね、僕は4ヶ月前に息子が生まれましたと。けどまだこの4ヶ月間一度も自分の子供をお風呂に入れられてないんです。子供が起きている時間に自分が帰ることができていないんです。そんな働きづめの新米パパの〇〇です、って自己紹介をしたんだそうです。そしたら地域のみんなのほうがドン引きしちゃって。4ヶ月なんてかわいい盛り



子供をお風呂に入れられない今時のパパなんているの？という話ですよ。いかんこれはあっていて、その学校運営協議会では、〇〇先生が子供をお風呂に入れられる、週に2回は必ずお風呂が入れられるような勤務体制をどう構築するかみたいなですね、そういう働き方改革の話をし始めたら、ものすごい真剣になるんですって。やっぱり知らない先生の平均勤務時間なんて、どっちでもよくなっちゃうんですよ、当事者意識がない。だけど目の前でその先生に家族や子供がいて、私たちと同じだけ大切なんだっていうことがわかっている人たちと話しをする。その人たちと一緒に自分の子供の教育を考えていくってことは、とても大事なことなんだろうと思うのです。この大前提がない中で、グランドビジョンだの10年後の姿だの、学校の統合問題についてとか話したって、やはり空転するもしくは声の大きい人の話が勝ってしまう。こういうことは、よくないだろうと思います。「私たちのことを私たち抜きで決めないで」というのは、障害者の方たちだけの話ではなくて、私たち全員にとって大事なことだろうと思います。

それから、専門性の過信の話は散々しましたが、ある意味で依存をしているのだろうと思います。先生に任せとったら、安全に連れてってくれるだろう。日本の先生は優秀ですから大丈夫ですが、それで本当にいいのかは今私たちが考えなければならぬところにきているのではと思います。このようにして、その人たちと協働をすることができるための関係って大事だと思うんです。

皆さん今一度お話しをしてもらいたんですが、じゃあ皆さんの学校で、学校運営協議会がある所は学校運営協議会を活用しながら、ない所は評議員制度を持っていたりされるとお思いますので、そういう中で、今言ったようにお互いを当事者意識として同じ子供を育て合う大人としてコミュニケーションを取っていくためにはどんなことができるか、どんなことやったら楽しいか、もしくはうちの学校ではこんな工夫をしていますよでもいいと思いますので、皆さんで意見交換をしてみてください。

はい、ありがとうございます。それではご提案いただける班ありませんか？急に静かになっちゃダメそこ。じゃあもうしょうがない。同級生に頼りたくないですね、大学院の同級生なんです。

男性C：すみません、岡山県立井原高校から来ました、PTA 係の教諭〇〇と申します。先生とはほん

と同級生でびっくり。ここへ来るバスの中でそれ見て、ウオーっと思ったんですが…。

志々田：もっと前から見ろ！

男性C：は、はい。いや教頭代理で急遽行けって言われて。昨日も授業午後までやって、新幹線飛び乗って。

うちの学校でもそうだって話ししてちょっと共有受けたんですけど、働き方改革っていうので、杓子定規に教員の勤務時間は5時までってなって。PTAの保護者が集まるっていうたら、6時か7時スタートなんですね。そういうところでなんかキューッと線が引かれちゃって、お互いの持っているリソースをね、混ぜ合わせるための余裕みたいなものが本当に少なくなってきたな。だから例えば係として、今日6時から会議なんです。9時までやるんですって言うたら、じゃあ勤務の振り替えどうする？みたいなこと言われて。仕組みとして大事なのだけど、それを回すためにまた事務仕事も増えたりで、なんかそういうふうに社会が、仕組みシステムの中で硬直化しているっていうところが、人間関係のつながりを阻害しているのかななんていうことを思いました。

志々田：ありがとうございます。19の時から一緒なんですよ。ひとつも変わってないね。マイペースないい先生です。

まあ働き方改革、おっしゃるとおりです。時間をいかにつまむのかということはどうしても考えがち。それも大事な原則ではあるんだけど、そのつまんだ時間をより有効に使えるとか、より…私が行ってた学校運営協議会だと、土曜日、午前中授業があった日は、土曜日の午後に保護者の方に集ってもらって、活動することをよくやっていました。というふうにして、みんながみんな来られるかどうか、夜じゃないと来れない方もいるかもしれませんが、時間のことと、それをうまくアレンジするというようなことが、大事だっていうことが言いたかったんよね？

口火を切ってもらいました。他の所で、何かいい意見出たところありませんか？

男性D：千葉県の茂原高校という所の校長をしています、〇〇と申します。協働できるための環境条件というところと言うと、茂原は千葉県の外房にあって、人口が減少しつつある所なので、私赴任した時にこの地域にいる子供たちを、最終的に地域に戻したいという思いで、何とか地域の人たちと連携



できないかなというところで、地元の商工会議所をお願いに行き、その話をしたんです。地域の宝である地域の子供たちを、地域で育てませんかってお願いに行ったら、二つ返事でやりましょうと。今非常にうまく連携ができていて、子供たちの主体性をみんなで育てるようなシステムができていますので、まずは本当に同じ方向を向くのが非常に大切だというのを実感しています。

志々田：地元の商工会、それから青年会議所でしたか JC と呼ばれている団体ですね、とか商店街であるとか、割と子供たちのことを言うと聞いてくれるんですよ。なので、PTA の中にそういう関係者がいると急につながったりするのですが、それがないと、トントンとノックをすることができない。私あまり人見知りしないので、トントンやって、断られても損はしないんだから、もうどこの扉も叩いてみたらいいんじゃないかというふうによく言います。学校としては、何とか断れないようにグググっていきこうと思うんですが、そうされるとやはり引き受けるほうも、難しくなっていくって、何の責任がみたいになっていくので、気軽にいろいろなところトントンと一日中することも大事なのかなと。その中で熱い方は見つかるってことですよね。見つけに行けば見つかるんだって、とても勇気の出るご発表ありがとうございます。

もうひと方聞いてみようかな。

女性 B：神奈川県から来ました海洋科学高校という水産高校の PTA になります。私が地元で、吹奏楽団に子供と一緒に入って、その吹奏楽団がコロナで人数が減ってしまって、定演ができなくなるという危機もあって、あとは学校の…娘が吹奏楽部に入ってたんですけど、部員が 5 人しかいないから、定期演奏会ができないという話しをして、お金がないから文化会館とかも借りられない。そんな中で、担任の先生と私と話しをして、うちの団に高校生を出演させませんか？と話をしたら、高校生が出たいと言ってくれたので、普段の部活は普段の部活でやってもらって、他の時は、クリスマスと定期演奏会に彼らが一緒に来て、地域の吹奏楽団で演奏会をしているというのはやっています。

志々田：はいありがとうございます。とても具体的で、部活動の地域移行のところでも参考になる話ですね。

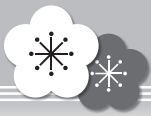
こうしてですね、いろいろな皆さんの PTA のお仲間の中で、お話を聞ける相手というのはたくさん

いらっしゃるんだろうと思うし、いろいろな活動をしてもらえるんだろうと思うんですね、そこ学校運営協議会をつないだり、その方が、いやそんな学校で言われたら困るわというのを応援して、一緒にやろうよと言ってあげられたりだとかっていうようなサポートをするのも、とても PTA の役員の方たちにとっては、活動もうまく進みやすいですし、それから多くの人たちの仲間と協力を取り付けていく時にも大事なことなのかなと。是非ね気軽に言って、断られてもしょうがない。声かけるのも諦めてしまうのはないほうがいいのかなということをお話をお話を聞いていました。

こういうふうにして、協働的な環境とか、子供たちにとって必要な様々な協力をいかに地域の中に取り付けていくことができるのかということが、令和の日本型学校教育の中で高校教育改革が今進んでいます。

先ほど統計で見てもらったように、例えば、単体制の学校であつたりだとか、全日制でももう少しフレキシブルにいろいろな形の学び方を取り入れてみたり、それから特別な支援を必要とする子供たちに対して、手厚いニーズに応えられるような学校作りとか、全国で様々な形で高校教育がこれまで以上の役割をうまく担うためにはどのような制度、どのような仕組み、どのような役割が必要なのかが議論をされ始めてきてます。是非皆さんの学校が、うちは普通科で何十年も続いてきたから関係ないわ！ではなくって、皆さんの学校にいる子供たちにとっても、必要な改革であつたり、もしくは取り入れていかなくてもいけない活動があるかと思います。これ文部科学省が出しているホームページに載っている高校教育改革というスライドです。要約すると、大きく言って 4 つです。

1 点目。高校教育は多様な入学機会や進路希望、学習経験などを持っている子供が在籍している現状を踏まえて教育活動は極めて重要です。いろいろなニーズを持っている子供たちがいます。その子供たちを無視する形では、もう高校教育を引っ張っていくことはできない。例えば、学力を高めるんだ！と。東京大学へ何人入れるんだ！と。まあこういうやり方ですね、昔ながらのやり方というのは、だんだん通じなくなってきた。例えば今年、東北大学が AO 入試で 3 割の入学者を受け入れることを発表しています。それは何かというと、多様な人材が欲しいからであって、いわゆる共通テストでいっている



能力以上のその子供たちの持っている経験、高校までに何をできてきて…特にあの大学は被災地を抱えている地域にあるので、この町を変えるイノベーターを育てたいということで、広い入試制度を取るっていうことを公表しています。これは国立大学でもおよそ2割はAO入試で入れていくということが大枠の方針として決まっています。もちろん認知能力を高めてですね、今までの共通テストもいろいろな形で変わってきているので、なにか一方的なですね、昔ながらの入試が悪いなんていうことを言うつもりは毛頭ありませんが、広い門戸を、広いニーズに応えようとするのが、これからの教育機関には求められているので、高校の入試のあり方も大きく変わっていく時代が来ているということです。

2点目。高校生の学校生活への満足度や学習意欲は、中学校段階に比べて低下しています。皆さんのお子さんはいかがでしょう？ 低下していませんか？ 高校生の学習意欲を喚起するためのものへと転換していくと、もっと学びたいもっとこういうことがしたいから大学へ行きたいという気持ちを育てていってあげないと、大学行かないと困るからね、お給料少なくなるからね、仕事も見つからないよみたいなですね。後ろ向きな理由だと学びたくないですよ。それってやはりそんなに簡単なことではないので、やはり魅力的な大人と出会い、魅力的な地域の活動や取り組みというものに参加してみることが…たぶん地域の音楽団で演奏できるなんて、すごい楽しいでしょうね。いろいろな人が聴きにきてくれるわけでもんね。そういうことってとても大事かと思えます。

3番目です。大学入学や就職等の出口のみを目標とすることなく、他分野に関する理解、新たなことを学び、挑戦する意欲を育むための学びも不可欠です。教科横断的な学習ですが、いわゆる教科の学習に加えて、社会に開かれた教育課程の所でお話をしましたが、その学びが何に役に立つのか、どう役に立つのか、学んだらすぐ使う。使ってみて、偉いね立派だねすごいね、こんなことできるんだって褒めてもらう。褒めてもらったならまた俺はよくできるんだって帰ってきて、また学んでもらうって、この学びの循環をいかに円滑に進めていくか。高校生も褒めたらすごいうれしそうな顔します。高校生になったらそんな喜ばないと思うかもしれませんが。ものすごい喜びます。はにかみながらですね。愛おしいなといつも思うところですが。

4つめです。産業構造、社会システムの激変。少子化の進行や社会経済のあり方を踏まえた高校教育のあり方。これは教育委員会に問われています。人口が減っていく状況の中で、高等学校をどれだけ残していくか。そして特色をつけていかなければいけないし、多様なニーズに応えていかなければならないとしたら、これからの皆さんの今のままの高校のスタイルがずっと続くかどうかという、別なんだろうと思います。必ず議論になると思います。その時に、いやいやうちの高校は伝統があってとか、いやいや潰れるなら、よその学校にしてくださいよみたいな、そのような世知辛いことを言っているのではなく、少ない子供たちを少ない支援の中で、いかに活用し…いかに育てていくかっていうことを前向きに話し合う時に、保護者、特に頭の固くないですね、しがらみのない親としての純粋な意見というのは、すごく地域にとって学校にとって励みになる、支えになると思えますので、是非当事者としてですね、ここで学ばせる子供たちのことを考えながら議論に…そうすると不登校の問題を話し合うことも、遅刻者が多いとお話をするのも、キャリア教育行ってきたんだけど、いまひとつ成果が低いとかいう話、意識が変わらないとかそういうことも、実はもしかしたら、学び全体であったり、学校の運営だったり、先生方の指導の仕方であったり、もしかしたら制服の問題だったり、LGBTQへの対応の問題だったりとかと、子供たちはものすごく広く今自分が発揮できる学習環境を考えていると思えますので、そんなことを想定しながら、文部科学省も課程や学科の制度の見直しを図っています。普通科学科を普通科グローバルであったり、学際領域だとかというふうにして、新しい普通科を作ろうという動きもしていますし、先ほど言いましたように単位制の学校であったりというものも増やしていく、選択肢として、設置するのが都道府県が公立学校の場合は多いので、市町村…市もありますけれど、そういうふうにして制度の自由、学び方の自由度を高めるといふことに、これから大きく軸足が変わっていくだろうと思います。今ある決まりを守らせるのではなく、学びたくなる学びの制度を作っていこうという議論が始まっています。

学びたくなる学びとは一体何なのでしょう。私たち高校の時に、学びたくなる学びさせてもらってたのでしょうか？ 実は私たち自身経験がないのかもしれない。そうしたら子供たちと一緒に学ぶという



のもいい機会になるのかな。そうすると、まあファシリテーターだったりコーディネーターとして、子供たちの学びに寄り添うというのも、ひとつの人生の楽しみ方なのかなと思ったりします。

それともう一つは、学校家庭地域の協働を作っていく。これは制度として整えていく時に、コミュニティ・スクールという学校運営協議会制度というのは、必ず必要になってくるだろうと思います。正式な学校教育委員会が設置している会議体、そこでは保護者と地域住民の意見を聞かねばならない。そして校長はそこを踏まえた中で、マネージメントしましょうというふうに制度として確立をされています。もちろん学校にとって負担が高まるということも言われていますが、これは先ほど申し上げたように時間をつまむこと、勤務時間外を潰していくことが本当に教育をよくしていくことなのかどうか、これはバランスですよ。決して私、先生はいつまでも働いていると思っているわけではないですが、働き方等よく考えていかななくてはいけないフェーズに来てるんだろうなというふうに思っています。

学校運営協議会、もしくは保護者会とかありますよね、保護者会の時に校長先生がお話しになって、ちょっと子供たちの発表とかなんか見ってもらって、それで帰ってもらったりとかしてませんか？ もしくは、専門家の先生呼んできてピシッと話をしても帰ってもらっていません？ 是非ですね、熟議。保護者同士でもですね実は面倒くさいなと思ながらも、話したいなって…話し始めたら面白くなるはずなので、そういう話し合いの機会をちょっと考えてみました。

まずは1つめです。これ皆さんに是非、学校に帰ってやっていただきたいので、短縮バージョンでお話をします。これから時代を生き抜く若者に、育てたい力とか、できてほしい力、こういうことを1人3つ以上、これは先生でも地域のおじいちゃんたちでもおばあちゃんたちでも、保護者としてでも何でもいいけど、うちの子でもでもいいですよ。うちの子はオリンピックに出すんだと言うならそれでもいいですが、そういうふうにして、なるべくたくさん書いてもらいます。なぜそのようなことを考えたのかここが大事なんです。例えば、この間私自分が行ってる学校運営協議会の保護者の方に、何が一番子育てで心配ですか？と聞いたんです。そうしたら、そのお母さんが言うには、うちの子が、ブラックバイトに巻き込まれないか、不安でしょうがない

と。うちの子は純粋でいい子だけどね、だまされやすいのよ、だからだまされない力を育てたいみたいことをおっしゃっていて、時代が変わるとそうなるんだなと思いつつも、じゃあだまされないとはどういうことなんだろう。それは誰ともつながらないということなのだろうか？

こういうふうにして、自分はこういう力がいいと思うな、なぜならばこうですよって、このワンセットで話してもらおう。それなるべくたくさん話す時間があるといいなと思いますが、それではですね、今からグループで5分ほど時間を取りますので、私はこういう力が子供たちに大事だな、つけさせたいと思いますよ。なぜならば、こうこうこういう理由なんですっていうことをワンセットにしてお話してください。

盛り上がりますよね。やはり一人一人子供を見て人には、それぞれ思いがあるのだろうと思うんです。で、それを少人数で、ここ大事です。みんなの前で発表するのは無理なので、少人数で話してもらおうという、このきっかけってとても大事だと思います。全体でワークショップやる時には、こう話してもらったあと次に優先順位をつけて選んでもらう。そういう時に声の大きい人が勝たないように、例えば優先順位が高い、今やらなければいけないことなのか、自己可能性これ大事ですよ、簡単にできそう、これならできそうだと選ぶのか、それともちょっと難しいけれど是非挑戦したいんだという、チャレンジブルなものを選ぶのか、こういう指標を先にお渡しして、ランキングでこう…その中で優先順位つけてみませんか。必ずやれとか来年やるとかっていう話ではなく、というのは活動を増やすことはあまり意味がない…意味がないというか、大変なんです。労力も伴いますので、活動を増やすよりは、スクラップアンドビルドにしていけないといけないので、でもやりたいとか、どう考えているのかということをもとめていくためには、こういう絞り込みの作業というものもとても有効かなと思います。

そして、その次の段階が実は大事なのです。ここを出した、育てたい力、できるようになってほしいこと3選のそれぞれについて、保護者として、もしくはPTAの役員や教職員として、もしくは地域の住民として、あなたができること。こういうの大事だ、ああいうの大事だ、こういうことさせたいと言っても、はい、それ先生やってください、それ学



校でやることですよと言ったら意味がないわけです。あなたがこれぐらいならできるとはしないか、あなただったら、こういう人紹介できるかもしれない、というふうにして、自分なら何ができるかというところを、小さくてもいいので、一步言葉にするという作業をしていただくことが大事かなあというふうに思っています。例えばふるさとを大事にすることを言った時に、じゃあ何？って言った時に、ここが出てこないといけないし、ここが出てくるというのは、やはりそれぞれの人たちの経験とかこれまでの特技だとか、それから例えば会社を持っている方であれば、企業としての社会貢献として、いろいろな文脈で考えてもらえると思うのですね。大事なものは、夢を語ってもらった後に、その後、あなたなら今何ができるのかということ聞いてみる。それは絶対やるのよと強制をすることではなくて、考えてもらう。その100個のアイデアから1個実現すればいいですよ、十分。

そういうふうにして、それをなるべくたくさん保護者と話し合えるような機会を是非見つけて、みんなで熟議して、円になってですね、体育館みたいな所にですね、こういうのやっている学校結構あります。毎年えらく盛り上がっていますので、そんなチャンスがあればいいななんてことを思っています。

皆さん胸に手を当てて、皆さんが居心地のいい場所、自分の居場所、何個ありますか？ 居心地がいいな、ここにずっといたいな、こういう人たちの仲間、ここに来るといつも楽しいなと思う場所です。数えてみてください。何個ありますか？ 実はこれ子供たちに聞いた、11歳から15歳の子供たちに、あなたの居場所はいくつありますか？ ということ、今あなたは、今の自分が好きですか？ 今の生活が充実していますか？ 自分の将来について明るい希望を持っていますか？ うまくわからないことでも意欲的に取り組もうとしていますか？ これ全国学力・学習状況調査の中に入っている項目もあるのですが、こういう調査をしています。

そうすると、居場所6つある！と言う子は、72%とか78%、88%とか…ものすごい…6つあると言う子は自分の居場所があると答える子は、たくさん居場所があると答えれば答えるほど、自分に対しての自己肯定感や自信や未来への展望というものを、高く持っていることがわっています。

さあ皆さんの居場所、何個でした？ 3つだと、

4割ぐらいしか今の自分のこと好きじゃないんですよ。6つあると72%です。私6軒ぐらいだったら行きつけの居酒屋はあるんですけど、そこを居場所と言っていいかどうかはちょっとわかりませんが、皆さんもですね、1つでも多くの子供たちの居場所を学校の中だけではなく、家庭の中だけではなく、地域の中にも作っていきけるようなそんな出会いを、子供たちのために作っていただければなというふうなことを切に願って、これで私のお話とワークショップ終わらせていただこうと思います。3分だけ質問にお答えする時間が残っていますので、どなたかいらっしゃいませんか？

男性E：新潟市磐梯高校のPTA会長をやっている〇〇といます。今日先生からいろいろなキーワードをいただき、ありがとうございました。さっき話にあった学校運営協議会で、地域と先生方の働き方改革で悩んでいるところがあります。あと私たちの学校では、学校が地域の方と連携して、英語を使って町歩きをしています。そういう時に地域教育コーディネーターという人がいて、そういった中間的な役割の人がいるのですけれども、県の…私たちのほうは新潟市立なので、市立でそういったコーディネーター使えるんですけども、県にそういったコーディネーターがいないので、そういった学校とこの運営協議会というところが非常に大事なところだと思っていて、こういったところの運営協議会が、いかに地域に必要なかというところをもうちょっと国としてもPRしていただきたいと思って、質問とお願いとさせていただきます。

志々田：地域教育とか地域魅力化のコーディネーターですね、地域と学校の魅力化のコーディネーターが少しずつ育ってきています。これは先ほど見ていただいた高校教育の魅力化のプログラムの中で、今普通科の中に地域学科、地域のことやグローバルな話をですね…学ぶ学科を作るとかといった特色のある地域の資源を使った学校作りということ、モデル事業としている所には、予算がついてコーディネーターを配置することができるようになっていきます。たぶん新潟市は独自でやっておられるんだろうと思います。で、それはやはりその高校の魅力化を果たすために、必要だというふうな予算を上げて配置されているのではないかなと。新潟市なら何人か素敵なコーディネーターが思い浮かぶので、きっとすぐ活躍して下さっているのではないかなというふうに思います。こうした今働いてく



ださっている方たちの効果とかがってことを検証中ですので、それがある程度理解していただけるようになると、もっと予算がつくだろうと思っているので、今発展の途上だということはあるかなと思っています。是非魅力的なものを発信していただくと、私たちにとっても…実践が伴っていないとですね、絵に描いた餅だと言われてしまいますので、是非ご協力いただければと思っています。

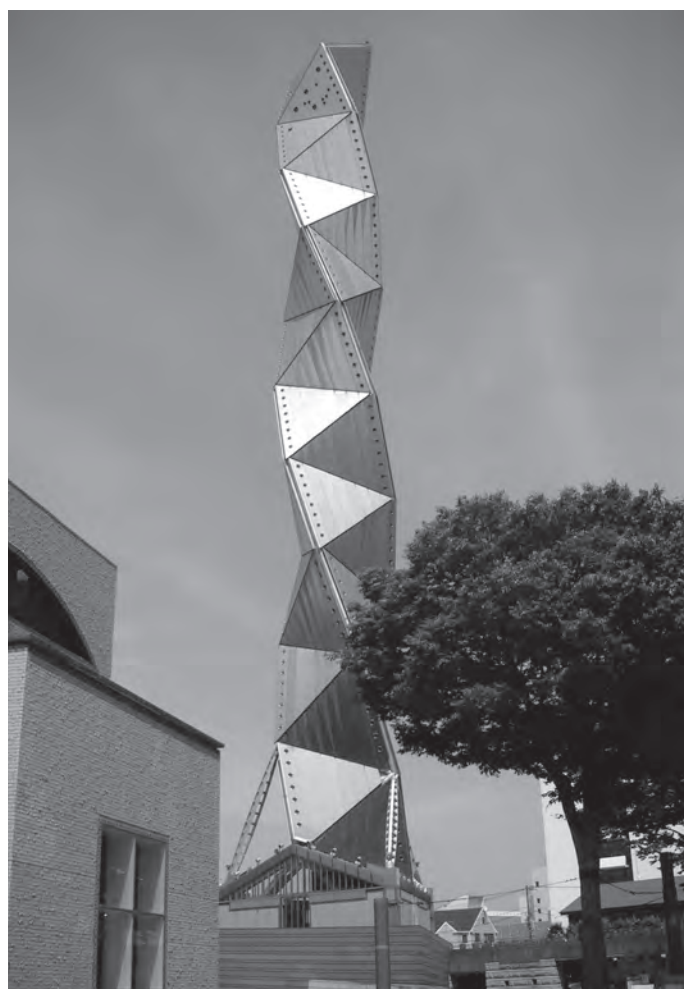
もうひとつは、その要になるのが学校運営協議会だと。おそらく校長先生がやりたいと思っても、担任の…担当の先生がやりたいと思っても、それは一教員として、教育委員会にやはり言うことができる範囲に限られているわけですね。ですが学校運営協議会の機能、最初のほうに説明をしましたが、学校運営について教育委員会に意見を言うことができる。絶対言うことを聞いてくれるかどうかはわかりませんが、毎年毎年言うのは、すごく大事なプロセスだろうと思います。3回言ってダメだったら5回言う。5回言ってダメだったら10回ぐらい言えばなんとかなるんじゃないですかねというように、これは校長先生の見方や学校がやりたいことを地域が後押しするという仕組みでもあるので、是非学校運営協議会で、こんなプロセスでこんな話し合いをして、こんな必要性があるから是非お願いします、これは全国どこにでも言えることだと思いますが、きっと教育委員会に言っていただくと、少しですね、考え方や予算や、それから人の配置を考えてくれることになるかと。いかにそれぞれの学校が自分たちの中で魅力的になろうとし、そのために議論を重ねているってことがわかった時に、無視する教育行政はないと思いますし、文科省としても予算を取っていかうと思っていますので、是非一緒に高校教育の魅力化について、考えていただければと思います。

最後に、ここにメールアドレスが小さく書いてあります。今ご質問お受けできなかった方もいらっしゃいますので、何かありましたら、写真撮って帰ってください。だいたい1週間ぐらいですね、お返事できるように、いつも必ずです講演をした後は、ご質問やご意見くださいと、フィードバックをくださいとお願いをしています。皆さんのモヤモヤや、皆さんがもっとここを知りたいと言ってくださることが、次の私の研究や仕事の種になりますので、Win-Winです。Win-Winになるために、是非メールいただければと思います。ごめんなさい、

超過しましたが、これで終わらせていただこうと思います。ご協力いただきまして本当にありがとうございました。

第73回 全国高等学校PTA連合会大会 茨城大会

閉会式(8月23日(金))



水戸芸術館シンボルタワー

「歴史の町で変革を!!」
～新たな時代が目に入らぬか～



大会会長挨拶

一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会
会長

田名部 智之

2 日間にわたる大会にご出席いただきましてありがとうございました。昨日の第 1 分科会から第 5 分科会、そして夜の懇親会、また本日の開会式、その後の二所ノ関親方の講演と続きいよいよフィナーレを迎えました。

来賓としてご出席頂いたあべ文部科学副大臣とお話をした際、我々の熱気を感じ取りましたというお言葉を頂戴しました。PTA 不要論や我々の運営について心配であるということ、熱を込めてお話させていただきましたがそれを感じ取っていただき、また、皆さんの熱気を感じ取っていただきまして、文部科学副大臣より「PTA に対して何らかのインセンティブを与えていき、国も動いていかなければならない」、「是非 PTA からも声をあげて国へ届けてください」とおっしゃっていただきました。この皆さんの思い、単位 PTA の皆さんの思いをしっかりと国へ届ける役目もこの全国高 P 連の仕事だと思っております。今回学ばせていただいたことを、各単位 PTA そして県の PTA に持ち帰っていただき、新たな活動に活かしていただきたいと思います。これから残り半年にわたり一生懸命に PTA 活動をされると必ず成功すると思います。先程の親方の言葉を借りると、勝つ、と思います。勝ってガッツポーズするなよということが秘訣だそうですので、皆さんも勝って兜の緒を締めよではないですが、勝っていちいち喜ばず、ガッツポーズせず、学校のため生徒達のために我々の時間と労力、お金を使っていけたらいいと思います。茨城大会も閉会を迎え寂しくなりますが、次の開催地にバトンを渡し、私達は新たな気持ちで一生懸命 PTA 活動に力を入れていくタイミングだと思えます。

この 2 日間大変お疲れ様でした。



次期開催地挨拶

第74回全国高等学校PTA連合会大会
2025 三重大会実行委員長

小野 喜照

皆さま、こんにちは！ 私は三重の国PTA 統領こと、三重大会実行委員長の小野喜照です。どうぞよろしくお願いいたします。

全国大会を三重県で開催することを初めて知ったのが、平成29年度静岡大会、1日目の電車で、前事務局長にお会いした時のことでした。下の子が高2の時の開催となるのがわかり、『どうせなら、ど真ん中で大会を支えよう』と思い、平成30年から高P連との長い付き合いが始まり、今日にいたっています。

来年の全国高P連大会「三重大会」は8月21日木曜日・22日金曜日の2日間、三重県津市で開催をいたします。テーマは、**出合いはじまる常若のくに** ～「集い、想い、継ぐ」三つの重なる明日への力～ です。

会場の日硝ハイウェイアリーナとメッセウイングNHWは建物としてはほぼ一体であり、今回は全体会・分科会とも事実上一か所での開催となります。分科会は4会場となり、「子育て、親育て」「学校・教育」「進路・キャリア」そして「PTA活動」の4つの領域で開催予定です。

三重県の交通インフラですが、津駅までJRを利用の場合、交通系ICカードは使用できない状況です。鉄道の場合「ひのとり」のある近鉄のご利用が便利です。また、津駅もあまり大きくなく、会場へのシャトルバスは全力で三重交通バスが運行いたしますが、かなりの待ち時間が出るのが予想されます。バス乗り場の混雑を緩和するため、会場に県内の学校が開発した商品や、三重県の物産品の販売コーナー、キッチンカー、飲食・休憩スペースを設置します。時間をずらして会場にお越しいただきお楽しみください。また、津駅への集中を少しでも改善すべく、今回津駅を経由しない、アクセスプランを用意いたします。飛行機ご利用の場合は中部国際空港・県営名古屋空港から、そして東は名古屋駅、西は京都駅から会場へ直行バスを準備しますので、ご利用ください。

三重県は自然に恵まれ、アミューズメント施設も多くあります。美し国、三重として、松阪牛や伊勢海老に代表される美食の宝庫でもあります。そして、言わずと知れた伊勢神宮がございます。ちょうど2025年5月から次回の式年遷宮の祭典が始まります。始まりの年にぜひお越しください。「一生に一度はお伊勢参り」、と言われる。この全国高P連大会も一生に一度の方も多くおみえになると思います。参加してよかった、と実感していただけるようしっかり準備しお迎えいたします。

今PTAは大きく変動する社会の中で、時代の変化と共に大きな曲がり角に立っているとも言われます。不要論などと言われることもありますが、私たちはPTAが子どもたちの育ちや学びに貢献してきたこと、これからも学校や地域と連携して、必ずや役割を果たしていくという自負があります。そのためにも全国の皆さま、来年は、三重で、集い、想い、未来へ継いでいきましょう。

それでは「来年は三重でお会いしましょう！（三重県スタッフ全員で唱和）」



閉会の挨拶

第73回全国高等学校PTA連合会大会
2024茨城大会実行委員長

板倉 哲男

会員の皆様、2日間お疲れ様でした。只今、大会旗は茨城県から三重県へと引き継がれました。

今大会で、新たな灯りを見出すことは出来たでしょうか。ここに来られた皆さんは、全国のPTAのトップリーダーの方々ですから、今大会を通じて、何かしらの灯り、つまり新たなPTAの源を見出すことが出来たのではないのでしょうか。そして、歴史の町で変革を実現できたのではと思います。

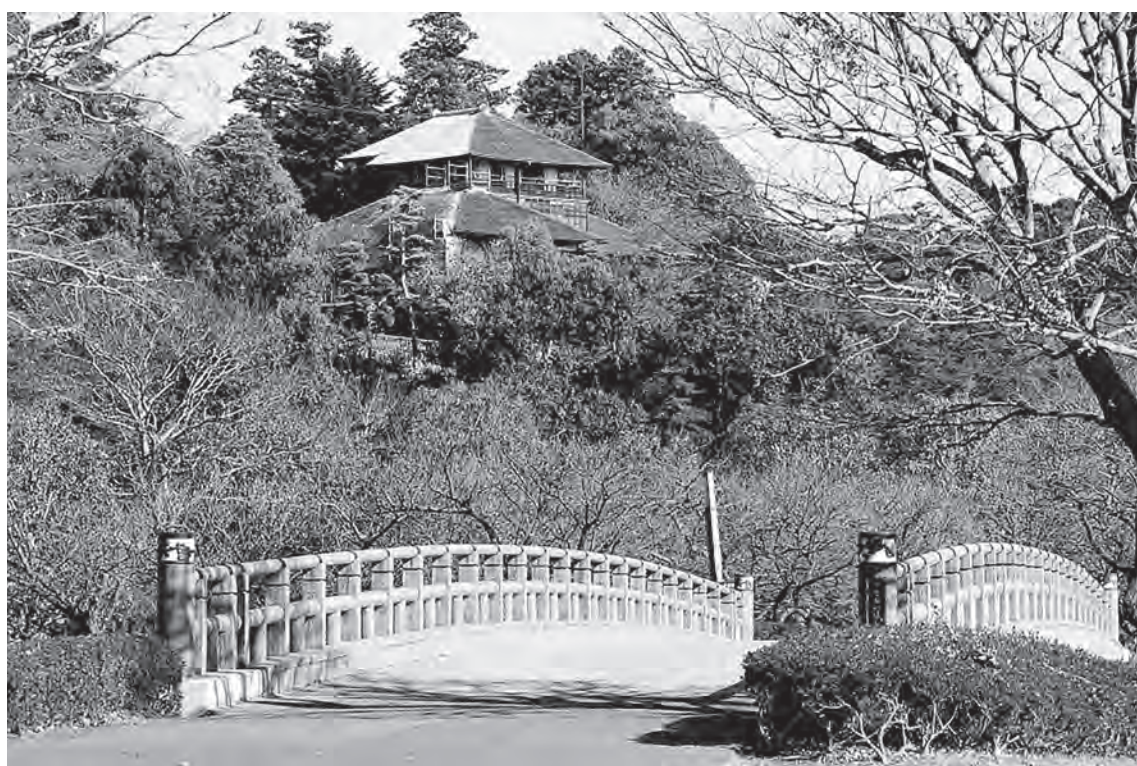
1年前、宮城大会で同じように、次期開催県実行委員長挨拶で緊張のあまり、過呼吸状態になり、全身の震えが止まらず、まともな挨拶が出来ず、悔しい思いを致しました。その時、会場から湧き上がった応援の声、「水戸黄門、がんばれ。」との声、ほんとうに力を頂き、全国のPTAの絆を改めて感じた瞬間でもありました。今でも目に焼き付いております。今年ハリベンジの年と自分でも言い聞かせ迎えた茨城大会でしたが、やはり緊張と不安との闘いでした。しかしながら、責務を全う出来、達成感と感激とで胸がいっぱいです。

今大会に於いて、至らない点や、ご不便をお掛けしたかと存じますが、深くお詫び申し上げます。

結びに、2日間ありがとうございました。来年、三重大会の成功を祈願すると共に、また皆様と三重県でお会い出来ます事を心より楽しみにしております。

第73回 全国高等学校PTA連合会大会 茨城大会

資料



偕楽園好文亭

「歴史の町で変革を!!」
～新たな時代が目に入らぬか～



参加申込数

地区	都道府県	第1分科会		第2分科会		第3分科会		第4分科会		第5分科会		分科会合計		オンライン申込		全体会（振り分け）					
		都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別
北海道・東北	北海道	63	225	40	154	107	241	25	87	12	32	247	739	3	29	182	557	65	186	247	743
	青森県	27		20		36		10		4		97		5		52		46		98	
	岩手県	55		49		27		11		4		146		5		95		54		149	
	秋田県	12		8		7		5		0		32		2		32		0		32	
	宮城県	34		13		39		10		9		105		6		105		0		105	
	山形県	6		15		12		10		3		46		5		25		21		46	
	福島県	28		9		13		16		0		66		3		66		0		66	
関東	茨城県	36	340	6	216	19	322	13	240	17	90	91	1,208	12	90	92	980	2	242	94	1,222
	栃木県	26		9		11		21		17		84		18		27		59		86	
	群馬県	85		87		67		33		4		276		8		207		69		276	
	埼玉県	85		36		123		85		21		350		15		351		0		351	
	千葉県	68		43		84		39		23		257		18		167		92		259	
	神奈川県	13		19		10		19		5		66		10		46		20		66	
	山梨県	19		0		3		9		3		34		7		34		0		34	
	東京都	8		16		5		21		0		50		2		56		0		56	
北信越	新潟県	22	188	4	120	9	59	6	42	9	19	50	428	3	11	38	304	12	124	50	428
	富山県	31		30		9		15		1		86		3		67		19		86	
	石川県	80		42		9		18		8		157		3		124		33		157	
	福井県	33		33		23		2		1		92		1		52		40		92	
	長野県	22		11		9		1		0		43		1		23		20		43	
東海	岐阜県	68	336	60	329	41	291	19	112	4	39	192	1,107	8	37	144	896	48	211	192	1,107
	静岡県	100		71		41		41		9		262		8		214		48		262	
	愛知県	93		139		172		34		23		461		17		346		115		461	
	三重県	75		59		37		18		3		192		4		192		0		192	
近畿	大阪府	11	107	10	65	21	148	9	55	0	13	51	388	8	57	51	227	0	169	51	396
	京都府	18		18		37		9		2		84		19		47		37		84	
	滋賀県	35		13		21		23		1		93		10		37		56		93	
	奈良県	18		4		19		0		0		41		4		43		0		43	
	和歌山県	17		14		28		10		9		78		1		32		46		78	
	兵庫県	8		6		22		4		1		41		15		17		30		47	
中国・四国	鳥取県	22	163	13	98	5	95	12	67	6	47	58	470	1	18	58	447	1	25	59	472
	島根県	19		15		5		2		5		46		2		30		16		46	
	山口県	15		23		20		3		2		63		2		63		0		63	
	広島県	22		6		23		27		11		89		1		89		0		89	
	岡山県	40		19		17		8		7		91		3		92		0		92	
	徳島県	3		6		7		5		8		29		2		29		0		29	
	香川県	26		10		8		6		6		56		4		56		0		56	
	愛媛県	3		0		1		1		0		5		3		5		0		5	
	高知県	13		6		9		3		2		33		0		25		8		33	
九州	福岡県	99	380	63	213	82	287	29	160	7	74	280	1,114	5	17	186	985	97	135	283	1,120
	佐賀県	47		21		48		11		14		141		1		143		0		143	
	長崎県	28		28		44		4		5		109		2		72		37		109	
	熊本県	50		21		37		16		7		131		4		131		0		131	
	大分県	36		20		11		30		3		100		3		99		1		100	
	宮崎県	43		27		13		16		0		99		0		99		0		99	
	鹿児島県	23		4		17		13		5		62		1		63		0		63	
	沖縄県	54		29		35		41		33		192		1		192		0		192	
合計		1,739		1,195		1,443		763		314		5,454		259		4,396		1,092		5,488	



地区	都道府県名	第1分科会		第2分科会		第3分科会		第4分科会		第5分科会		分科会合計		全体会					
		都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	都道府県別	地区別	第1会場	地区別	第2会場	地区別	計	地区別
北海道・東北	北海道	61		44		105		27		10		247		149		48		197	
	青森県	27		18		34		10		3		92		54		32		86	
	岩手県	53		45		26		11		4		139		85		41		126	
	秋田県	10	226	7	146	7	230	5	85	0	25	29	712	22	451	4	151	26	602
	宮城県	48		10		33		7		7		105		81		7		88	
	山形県	6		14		13		10		1		44		13		17		30	
	福島県	21		8		12		15		0		56		47		2		49	
関東	茨城県	27		6		16		10		16		75		49		7		56	
	栃木県	25		8		9		16		14		72		14		22		36	
	群馬県	74		73		57		22		3		229		146		54		200	
	埼玉県	81	305	33	194	118	290	81	219	19	83	332	1,091	298	765	1	165	299	930
	千葉県	64		41		73		40		23		241		140		70		210	
	神奈川県	10		17		9		19		5		60		41		11		52	
	山梨県	16		0		3		10		3		32		27		0		27	
	東京都	8		16		5		21		0		50		50		0		50	
北信越	新潟県	21		4		9		6		8		48		35		9		44	
	富山県	29	172	28	109	9	60	15	42	1	18	82	401	44	240	13	78	57	318
	石川県	73		41		10		18		8		150		95		24		119	
	福井県	28		27		23		2		1		81		37		25		62	
	長野県	21		9		9		1		0		40		29		7		36	
東海	岐阜県	50		18		39		15		4		126		81		44		125	
	静岡県	96	304	69	280	41	270	41	102	9	38	256	994	187	733	25	151	212	884
	愛知県	85		136		156		28		22		427		291		82		373	
	三重県	73		57		34		18		3		185		174		0		174	
近畿	大阪府	7		10		18		7		0		42		44		0		44	
	京都府	16		18		36		9		1		80		46		33		79	
	滋賀県	27	82	13	64	20	139	21	51	1	12	82	348	35	222	36	119	71	341
	奈良県	17		4		19		0		0		40		39		0		39	
	和歌山県	8		14		24		10		9		65		35		30		65	
	兵庫県	7		5		22		4		1		39		23		20		43	
	中国・四国	鳥取県	21		8		3		11		4		47		50		3		53
島根県	16		17		7		2		4		46		29		15		44		
山口県	11		24		20		3		2		60		57		1		58		
広島県	23	151	6	94	23	92	24	63	8	41	84	441	80	398	0	27	80	425	
岡山県	39		18		16		8		7		88		75		0		75		
徳島県	3		6		5		5		8		27		28		0		28		
香川県	22		10		8		6		6		52		52		1		53		
愛媛県	3		0		1		1		0		5		5		0		5		
高知県	13		5		9		3		2		32		22		7		29		
九州	福岡県	85		16		83		22		6		212		135		84		219	
	佐賀県	44	346	19	158	46	288	10	140	14	73	133	1,005	141	843	0	119	141	962
	長崎県	26		28		45		4		5		108		65		24		89	
	熊本県	47		20		36		14		7		124		114		0		114	
	大分県	34		20		13		24		3		94		65		6		71	
	宮崎県	32		24		13		14		0		83		86		3		89	
	鹿児島県	22		4		17		13		5		61		56		0		56	
	沖縄県	56		27		35		39		33		190		181		2		183	
合計		1,586		1,045		1,369		702		290		4,992		3,652		810		4,462	
														全体会ライブ視聴者数				925人	
アーカイブ視聴数		381		※注1 372		347		355		278		1,733				※注2 739			

※注1：第2分科会、9月3日から9月9日（司馬理英子氏の講演有り）の視聴回数 323回を含む。

※注2：全体会、8月31日から9月3日（記念講演あり）の視聴回数 619回を含む。



編集後記

第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会にご来県くださいました会員の皆様、また、オンラインでご参加くださいました皆様、本当にありがとうございました。

茨城大会へ向けての準備は、平成30年に当時の県連役員並びに前事務局長に関東地区高P連の方々を交え、話し合いが持たれたと聞いております。翌31年には、5,000人を収容できるいわゆる「箱物」が茨城県にはないことを理由に、参加人数を制限するなど大会のコンパクト化を考えましたが、参加希望者の研修の機会を奪うことになりかねないという理由から、従前どおりの開催で進めていくこととなりました。

その後、収容人員5,000人を超える会場が完成し、全体会会場の問題はクリアできたのですが、分科会会場の確保に悩むこととなりました。移動の煩わしさを考えれば、なるべくある地域にまとまって確保するのが望ましいのですが、それに適う会場もなく、3市をまたぐ分科会場となってしまったことに申し訳ないと思っております。また、水戸市は旧城下町で、狭い台地の町でして、駐車場についても十分なスペースがとれず、ご迷惑をおかけいたしました。加えて水戸市は人口27万人という小都市で、飲食店もそれほど多くなく、昼食の場所にはご不便をおかけしたと思います。

追い打ちをかけるように、全国的な地震や豪雨等の災害で、大会直前まで本当に開催できるのか不安でした。そのせいか、参加申込数も予想していた数に満たず、再案内の文書を出させていただきました。都道府県市の事務局及び単Pの皆様にはご面倒をおかけしましたが、お陰をもちまして何とか予定数を確保できました。

初日は、石川県から引き継いだ「新時代」をキーワードに、講演、フリートーク、グループトーク形式の5つの分科会を用意しました。中にはトークが活発すぎて終了時間を越えた分科会もあったと聞いております。全体会記念講演では、今注目の大関大の里の師匠である二所ノ関親方をお呼びしましたが、終了後に良い講演だった、タイムリーな講師であったと言われ、喜んでいただけたと思っております。

最後になりましたが、大会を通してご指導を賜りました全国高等学校PTA連合会事務局の皆様、都道府県市の事務局及び単Pの皆様には改めて感謝申し上げます。そして、今大会にご多用中にもかかわらずご支援、ご尽力をいただいた県内PTAの皆様、本当に有難うございました。併せて次年度開催の三重大会の成功を祈念し、筆をおきます。

令和6年12月吉日

第73回全国高等学校PTA連合会大会

茨城大会実行委員会事務局長 金澤 秀美

〈主催〉

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 2-1 奥田ビル 301号
TEL 03-5835-5711 / FAX 03-5835-5757

〈主管〉

茨城県高等学校PTA連合会

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-5-38 茨城県三の丸庁舎 3階
TEL 029-221-1448 / FAX 029-231-1660

印刷・製本 佐藤印刷株式会社

